

14.5

14.5-817



1200501218734

17

×  
複  
写



始



# 會社四季報

昭和十四年第二輯

145  
817

14 3 27

東洋經濟新報社編

有價證券現物賣買  
大株一般、國債取引員

# 武田證券株式會社

大阪市東區北濱一丁目  
大阪東郵便局私書函第九十號  
電話北濱(23) 34567  
代表五四三一(10)  
市外專用本町(24) 2526272829  
125

編社報新濟經洋東  
**報季四社會**  
 輯二第年四拾和昭

合組資投・融金・式株・債社公  
**式株券證カ口カ比本藤**  
 目丁五濱北區東市阪大 店本

店支  
 屋古名・島福・濱横・京東  
 山岡・戸神・都京・澤金  
 岡福・司門・島廣  
 天奉



目種業營

會計の検査	財産に關する遺言執行	貸付並保証	不動産信託	有價證券信託	金錢信託
-------	------------	-------	-------	--------	------

**託信同共**

**東京支店**

麹町區内幸町一丁目七番地  
 電話銀座(57)三四八六番  
 振替口座東京八四六六三番

**大阪本店**

東區今橋三丁目一番地  
 電話北濱(23)代表三四〇一番  
 振替口座大阪七九九〇〇番







## 式株と界財

「インフレ氣構へ」昨暮以來殊に都會を中心としてインフレ氣分が顯著に窺れるやうになつた。歳末から年始にかけて、デパートの賣行旺盛、劇場の大入、乗物の満員は歐洲大戰當時の活況に匹敵乃至はそれ以上であつたと言はれてゐるが、この街頭景氣は今日も續いてゐる。この景況は何を物語るか。一つは漢口、廣東陷落を契機として従來の戰時的緊張にゆるみを生じた爲めであらう。同じやうな氣分は南京陷落後にも暫らく現れたことがある。併し根本原因はなんと言つても潜在的インフレの顯現にあると言はねばならぬ。即ち軍需工業その他の繁榮産業に従事する大衆の購買力が街頭景氣の推進力となつて出て來たのである。

「物價續騰」これを物價の側から見ると、昨夏以來下落を續けてゐたのが、十一月頃から再び反騰に轉じて來た。我社の物價指數に依ると二月末は一九三・四となり、昨年十月末の一八六・三に比し三〇八の騰貴を示してゐる。而してその内容を見ると、昨年上半期までの昂騰は

主として金屬類が中心であつたが、最近の反騰は織物類や穀類が目立つてゐる。つまり大衆に直接の關係ある消費品の騰貴が顯著である。併しこれ等は主として公定物價に基く報告が多く、實際はこれに現れたる以上の相場によつて取引されてゐるものが少くない筈である。その事は暗相場の横行せることによつて明かである。従つて表面的には金屬類相場は比較的騰貴率が鈍くとも、實際はモット高いものであらう。而してこれ等最近の物價は、一方には購買力の増加に基くと共に、他方物資の不足にその根底を持つてゐる。これが昨年の重要商品高が物それ自體はまだ比較的豊富にあつたが、統制強化によつて更に高くなるだらうと言ふ先高見越による相場であつたのと、そこに性質を異にする。つまり最近の物價高は悪性インフレの性質を潜在的に持つてゐるところに注意を要する。そこで八田商相も議會に於て聲明せる如く、價格統制の再強化の意向を強めるに至つた所以であり、また大増税を主眼とする税制改革を必要する譯である。

「政治不安の緩和」更に最近見逃し得ない現象は政治不

安の緩和である。それは平沼内閣に對する認識是正である。最初、平沼内閣が出現するや、一般が不安視し、爲めに株價も更に下落を深めた。ところが實際を見ると、平沼内閣は必ずしもファツシヨ強化を目的としてゐない。寧ろ従來の官僚獨善を是正し、總親和を政策のモットーとしてゐるが如く、民間との協力に努めてゐる。また軍部に於ても米内海相か議會に於て、行過ぎた統制はしないことを明言する等、財界に對し安心を與ふるところがあつた。そうなると前述した潜在的インフレが物を言つて來る。尤も大衆の購買力がそのまゝ株式の大衆買となつて現れたとは今日のところ考へられない。併し從來全く凍結してゐた小型株が最近ポツ／＼動いて來てをり、また賣出株も現れるやうになつたところを見ると、矢張り大衆買の一端が現れてゐることは看取される。更に投資力の大きい保險會社や地方銀行の遊資が株式に向ひつつあることも見逃せない。

「利廻訂正運動」併し乍ら、かやうな環境になつても、若し株價が高過ぎてゐたら反騰の餘地もないが、事實は

餘りに下げ過ぎてゐた。成程統制強化によつて事業界も纖維工業は勿論軍需工業も業績としては頭を打たれるものが出るやうになつた。また假令儲かつても配當制限によつて一割以上は新規の増配は不可能となつた。それに株式課税の壓迫を受け二重にも三重にも株界は叩かれた。併し乍ら、それ等の悪材料を考慮に容れても、算盤の採れる有利な株はガラに出來た。それ程株價が下り過ぎてゐたのが、インフレの刺戟や政治不安の緩和を契機として、その訂正高が起きて來たのである。一月以來大分戻しては來たが、それでも最近の位地はまだ危險信號を揚げる程危險な昂騰は示してゐない。物色買でよいと思ふ。併し乍ら、政治不安の緩和も何時再び悪化するかも知れない。またインフレ抑制のため大増税も必至であり、統制の強化も免かれない。従つて株式投資も若干の危険率を常に計算に入れて投資することを忘れてはならない。また資金に餘裕を持つて堅實なる實物本位の投資でなくてはならぬ。それだけの長期抗戰的用意をして投資する必要がある。





# ラサ工業株式會社

(本社) 大阪市西成区高見町一ノ六四 (電土佐場三三三)  
 (支店) 東京市京橋區京橋一ノ二(代田證券ビル)(電京九二〇)

【第二回拂込】新株第二回拂込十二圓半、總額六百二十五萬圓を四月一日に徴収する。第一回拂込は昨年十一月一日に取つたのだから、半年足らずの間に再び拂込徴収となつた譯で、事業擴張のテムボが依然早いことが窺はれる。同時に従來の擴張が大第に収益圏に入つて來た証左だ。

【今來期の増益】即ち當三ヶ月の利益は約三百八十萬圓に上る見込で利益率は二割五分餘に相當する。九月締切の來期利益も最低約五百萬圓に達しやうから、第二回拂込があつても利益率は二割六分餘に達する。拂込は何等重荷とならず一割二分配當が据置ける。

【擴張は續く】右の増益は田老鑛山の増産が進み、田川炭礦の新収益が加はるからである。又、建設中の宮古製鍊所が來る五月一日愈々火入れされ、大榮金山、慶良鑛山も収益期に入つた。尤が當社の擴張は今後まだ續く。現在計畫中の擴張は田老鑛山と田川炭礦の増産複優化を中心とするもので、これに約二千萬圓の資金を要する見込である。

【再増資含み】借入の餘裕は勿論相當あるが、結局第三回拂込を今秋十月頃、最終拂込を來春四月頃徴収する段取となり、續いて再増資が期待される。が、それでも尙一割二分配當持續か。

【設立】	大正二年五月
【決算期】	三月、九月
【事業】	過錳酸、硫酸、苛性苛性、合成硫酸、炭酸、硝化炭、硝酸
【資本金】	公稱 600,000 拂込 221,000 新 (113,000) 000,000 000,000 000,000
【株主名】	新 (113) 000,000,000,000,000,000
【重役】	社長 小野 義夫 常務 小島甚太郎、横田小石、石崎 三 取締役 山田復之助、新田直太郎、藤岡清太郎
【大株主】	小野 義夫 13.0%、小島 甚太郎 10.0%、横田 小石 10.0%、石崎 三 10.0%、藤岡 清太郎 10.0%、新田 直太郎 10.0%
【年産能力】	硫酸 20,000 噸、過錳酸 10,000 噸、合成硫酸 10,000 噸、炭酸 10,000 噸、硝化炭 10,000 噸
【生産高】	昭和十一年上 硫酸 20,000 噸、過錳酸 10,000 噸、合成硫酸 10,000 噸、炭酸 10,000 噸、硝化炭 10,000 噸 昭和十一年下 硫酸 20,000 噸、過錳酸 10,000 噸、合成硫酸 10,000 噸、炭酸 10,000 噸、硝化炭 10,000 噸 昭和十二年上 硫酸 20,000 噸、過錳酸 10,000 噸、合成硫酸 10,000 噸、炭酸 10,000 噸、硝化炭 10,000 噸 昭和十二年下 硫酸 20,000 噸、過錳酸 10,000 噸、合成硫酸 10,000 噸、炭酸 10,000 噸、硝化炭 10,000 噸
【資本異動】	十一年十月三十日三萬圓増資第一期 200,000、第二期三萬圓増資第二期 200,000、第三期三萬圓増資第三期 200,000、第四次三萬圓増資第四次 200,000、第五次三萬圓増資第五次 200,000、第六次三萬圓増資第六次 200,000、第七次三萬圓増資第七次 200,000

【資産負債】	十二年 九十二、九十三、九十四、九十五年
株主資本	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
積立金	5,000,000 5,000,000 5,000,000 5,000,000
外部負債	5,000,000 5,000,000 5,000,000 5,000,000
使用総資本	14,000,000 14,000,000 14,000,000 14,000,000
流動資産	8,000,000 8,000,000 8,000,000 8,000,000
固定資産	6,000,000 6,000,000 6,000,000 6,000,000
現金預金	5,000,000 5,000,000 5,000,000 5,000,000
【收支勘定】	十二年 十三年 十三年上 十三年下
収入	100,000 100,000 100,000 100,000
支出	80,000 80,000 80,000 80,000
【業績】	十二年上 100,000、十二年下 100,000、十三年上 100,000、十三年下 100,000
【株價】	高値 100、安値 80、新(買物) 100、安値 80
【時價】	高値 100、安値 80、新(買物) 100、安値 80
【名義書換】	十、新券交付、三十、新券交付

# 昭和鑛業株式會社

(本社) 東京市京橋區京橋一ノ七 (電京橋三三三)

【株價不牙】當社は創立後歴史淺きに拘らず急激な躍進を示してゐる。併し何と云つてもまだ擴張過渡期であり、それに銅配給統制で民需向の配給數量の削減、賣値の統制があつたため昨下下期は予定の成績を挙げ得なかつた。それに後述の如く倍額増資のため資本負担が一層加重されるので、現行一割配當に對する不安が生じ、かてて西筋の操作が手傳つて、當社株價は一向に牙えない。

【収益力加はる】併し事態は好轉しつつある。銅民需抑制の打撃も當社の伸銅工場が昨年十月、指定工場となつたため一旦政府へ提供した銅も再び當社工場の原料に割當てられて來るので打撃は餘程緩和される。即ち大阪工場伸銅部は軍需品工場である日本火工に賃貸し、賃貸料月三十萬圓を受取る事となり既に期初十月から實行してゐる。これは半期百八十八萬圓の不動の利益となる。更に當社が進めてゐる自家鑛山の増産設備、亞鉛精鍊設備も近く完成の予定で、こゝ一、二期の間に急激な収益の増大が期待される。

【一割配當持續】右の擴張資金に充てるため去る一月倍額増資し、二月一日第一回拂込七百五十萬圓を徴収した。このため今期平均拂込資本は三千百七十五萬圓に増す。併し利益は三百二、三十萬圓を見込めるから利益率は二割二分となる。一割配當は維持出来る。

【設立】	昭和九年一月
【決算期】	三月、九月
【事業】	鑛業、鑛業原料及製品の賣買、運送業、飲食業
【資本金】	公稱 600,000 拂込 221,000 新 (113,000) 000,000 000,000
【株主名】	新 (113) 000,000,000,000,000
【重役】	社長 森 龍、取締役 石原新三郎、森 龍、岩崎 清七、常務 半田 賢、岩崎 清七、岩崎 清七、岩崎 清七、取 岩田 清、監査 岩崎 亮、岩崎 亮、安西 直一、濱野 佐一郎、千葉 三郎、三崎 太郎
【大株主】	日本電氣工業 200,000、岩瀬 亮 50,000、森 龍 40,000、岩崎 清七 40,000、森 龍 30,000、岩崎 清七 30,000、山一證券 20,000、森 龍 20,000、岩崎 清七 20,000
【事業規模】	工場所在地 東京市京橋區、大阪府堺市、名古屋明礬工場、製炭製鍊所、草津磯原工場、尼ヶ崎工場、竹原電線工場、旭工場、日比谷製鍊所
【事業成績】	十二年上 十三年上 十三年下 十三年下
【資本異動】	十二年七月三十日三萬圓増資第一期 200,000、第二期三萬圓増資第二期 200,000、第三期三萬圓増資第三期 200,000、第四次三萬圓増資第四次 200,000、第五次三萬圓増資第五次 200,000、第六次三萬圓増資第六次 200,000、第七次三萬圓増資第七次 200,000

【資産負債】	十二年 九十二、九十三、九十四、九十五年
株主資本	4,000,000 4,000,000 4,000,000 4,000,000
積立金	5,000,000 5,000,000 5,000,000 5,000,000
外部負債	5,000,000 5,000,000 5,000,000 5,000,000
使用総資本	14,000,000 14,000,000 14,000,000 14,000,000
流動資産	8,000,000 8,000,000 8,000,000 8,000,000
固定資産	6,000,000 6,000,000 6,000,000 6,000,000
現金預金	5,000,000 5,000,000 5,000,000 5,000,000
【收支勘定】	十二年 十三年 十三年上 十三年下
収入	100,000 100,000 100,000 100,000
支出	80,000 80,000 80,000 80,000
【業績】	十二年上 100,000、十二年下 100,000、十三年上 100,000、十三年下 100,000
【株價】	高値 100、安値 80、新(買物) 100、安値 80
【時價】	高値 100、安値 80、新(買物) 100、安値 80
【名義書換】	十、新券交付、三十、新券交付

### 日曹礦業株式會社

(本社) 東京市神戶區大手町二ノ八(電九ノ内二五―五)

**【増産計畫進捗】** 當社の事業は採炭を主とするが、時局柄各礦區とも一齊に増産設備を施しつゝある。先づ樺太の惠須取炭礦は現在年産二十万噸であるが來年迄には五十万噸に増産する。北海道天鹽炭礦も積出線、稚内港積入設備を建設中で、これが三月末に完成すれば出炭能力は現在の三十万噸から六十万噸に倍増する。更に二年後には百万噸出炭の計畫である。この他福島縣赤井炭礦も現在貨車不足で思ふ様な出炭が出来ぬが、今年中には三十万噸、一年後には百万噸になる予定である。更に小田炭礦は現在月産二万噸、年二十万噸を出炭してゐる。採炭の他、仁田原の金山は現在、一日處理二百噸だが、選礦機械増設中でやがて千噸處理の計畫。兵庫縣大屋のニッケル礦石も選礦所機械増設は三月末完成の予定である。

**【上期成績豫想】** 當社は創立後僅か二年足らずの歳月を経たばかりで、未だ本格的な稼行をやつて居らず、未働資産の負担が大き。殊に昨年度下期の決算は拂込資本の急膨張で利益率は一割七分五厘に過ぎず、一割二分配當は窮乏であつた。併し、今上期は炭價の値上りと、出炭量の増加とで三百万圓以上の利益が見込まれる。三百万圓として二割四分の利益率となる。一割二分配當は据置となる模様だ。來期後は各礦區も愈々稼行期に入るから、現行配當は安泰だ。

### 石原産業海運株式會社

(本社) 神戸市神戶區海岸通二ノ三〇(電三官三三二―一)  
(出張所) 東京市豊町區丸ノ内二ノ二二中一三號館

**【擴充の中心】** 當社の事業は、海運、内外地鑛山の開發、機械・化學關係の製作工業に亘るが、現在並に將來の擴張の重點は鑛山部門にある。と云つても、馬來、比律賓方面の鐵鑛、ホーキサイト、滿甸鑛、錫鑛等の開發は、資金關係で計畫通りには進捗し相も無い。結局、内地鑛山の開發だ。

**【内地鑛山開發】** 内地では紀州三和鑛山(金、銅)、神山金山、旭金山、久宗鑛山(硫化銅)が其の對象だが、このうち三和には日産千噸の擴産設備を工事中である。これは最初年内に完成する豫定だつたが、途中から計畫を全く新たにしたため、大部遅れる。或ひは六月頃になるのではないかと思ふ。四日市の銅精鑛所、硫酸工場(年産八万噸)は今年一杯には完成しよう。

**【拂込・増資】** これだけ完成するのにざつと二千万圓は要るが、尙ほこの外に、樺太の炭鑛、神戸電機(増資斷行)松尾自動車の整備擴充に着手して居る。今年中に未拂込を徴収して再増資となるのではないか。

**【一割配當安泰】** 今期は未働資産が相當多いから、さう大きな業績の向上は期待出来ない。一割配當は無論据置くとしても餘裕はあまりあるまい。然し、下期以降から漸次榮になる。

<b>【設立】</b>	昭和十二年三月																																																																																															
<b>【決算期】</b>	三月、九月																																																																																															
<b>【事業】</b>	石炭、金、銀、銅、亞鉛、鉛、ニッケル等の採掘製練																																																																																															
<b>【資本金】</b>	公稱 10,000,000 實 10,000,000																																																																																															
<b>【株主数】</b>	133名(13年下) 141名(14年上)																																																																																															
<b>【重役】</b>	社長 中野友権、副社長 遠山元一、常務 川村信二、監査 神尾友修、取締役 小長各太郎、竹中 茂乙、辰澤 治、竹本吉左衛門、安川 隆治、相模 増田、津田 義一、鈴木 實彦																																																																																															
<b>【大株主】</b>	日本曹達 101,100 妙高企業 8,800 横田 春吉 10,500 中野 友権 9,000 川島屋商店 10,500 第一 兵 10,000 佐藤 行雄 10,000 山三株式会社 10,000																																																																																															
<b>【事業規模】</b>	赤井石炭鑛區(石炭) 惠須取炭鑛區(石炭) 小田炭鑛(石炭) 仁田原鑛業所(金、大屋鑛業所(ニッケル) 日原鑛業所(金、銀、鉛、亞鉛) 水産鑛業所(金、銀、銅)																																																																																															
<b>【關係会社】</b>	北海道天鹽鑛區(石炭) 採掘準備中 日本曹達																																																																																															
<b>【資本異動】</b>	十三年四月第一回三割五分拂込徴収 十三年七月三割五分拂込徴収																																																																																															
<b>【資産負債】</b>	<table border="1"> <tr><td>株主資本</td><td>三,000,000</td><td>九十二年</td><td>三,000,000</td><td>九十二年</td></tr> <tr><td>積立金</td><td>7,000,000</td><td>三,000,000</td><td>3,000,000</td><td>3,000,000</td></tr> <tr><td>社外負債</td><td>100,000</td><td>100,000</td><td>100,000</td><td>100,000</td></tr> <tr><td>借入金</td><td>300,000</td><td>300,000</td><td>300,000</td><td>300,000</td></tr> <tr><td>支拂手形</td><td>300,000</td><td>300,000</td><td>300,000</td><td>300,000</td></tr> <tr><td>使用總資本</td><td>10,000,000</td><td>10,000,000</td><td>10,000,000</td><td>10,000,000</td></tr> <tr><td>固定資産</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>投資勘定</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>流動資産</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td></tr> <tr><td>現金預金</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td></tr> <tr><td>【收支勘定】</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>収入</td><td>7,000,000</td><td>7,000,000</td><td>7,000,000</td><td>7,000,000</td></tr> <tr><td>支出</td><td>5,000,000</td><td>5,000,000</td><td>5,000,000</td><td>5,000,000</td></tr> <tr><td>固定資産の増減</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>消却年率</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>【業績】</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>十二年下</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>十三年下</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>十四年上</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> </table>	株主資本	三,000,000	九十二年	三,000,000	九十二年	積立金	7,000,000	三,000,000	3,000,000	3,000,000	社外負債	100,000	100,000	100,000	100,000	借入金	300,000	300,000	300,000	300,000	支拂手形	300,000	300,000	300,000	300,000	使用總資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	投資勘定	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	流動資産	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000	現金預金	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000	【收支勘定】					収入	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000	支出	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	固定資産の増減	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	消却年率	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	【業績】					十二年下	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	十三年下	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	十四年上	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
株主資本	三,000,000	九十二年	三,000,000	九十二年																																																																																												
積立金	7,000,000	三,000,000	3,000,000	3,000,000																																																																																												
社外負債	100,000	100,000	100,000	100,000																																																																																												
借入金	300,000	300,000	300,000	300,000																																																																																												
支拂手形	300,000	300,000	300,000	300,000																																																																																												
使用總資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000																																																																																												
固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
投資勘定	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
流動資産	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000																																																																																												
現金預金	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000																																																																																												
【收支勘定】																																																																																																
収入	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000																																																																																												
支出	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000																																																																																												
固定資産の増減	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
消却年率	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
【業績】																																																																																																
十二年下	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
十三年下	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
十四年上	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
<b>【時價】</b>	元九 九十二年 三月 九十二年 三月																																																																																															
<b>【名義書換】</b>	十 新券交付 二十																																																																																															

<b>【設立】</b>	大正九年九月																																																																																															
<b>【決算期】</b>	三月、九月																																																																																															
<b>【事業】</b>	鑛山並精鍊業、海運並倉庫業																																																																																															
<b>【資本金】</b>	公稱 10,000,000 實 10,000,000																																																																																															
<b>【株主数】</b>	10,000名(13年下) 10,000名(14年上)																																																																																															
<b>【重役】</b>	社長 石原廣一郎、取締役 高田健三郎、常務 山下留吉、監査 森田 聖、田村 久吉、櫻山 恭夫、川上豊太郎																																																																																															
<b>【株主数】</b>	133名(13年下) 141名(14年上)																																																																																															
<b>【大株主】</b>	石原廣一郎 101,100 石原廣一郎 101,100 石原三郎 10,500 高田健三郎 10,500 山下留吉 10,500 石原一毅 10,500 東都商事 10,500 石原合名 10,500																																																																																															
<b>【事業規模】</b>	(十三年下期) 賣却高 10,000,000 産出高 8,000,000 買入金 300,000 金銀鑛(金) 8,000,000 金銀鑛(銀) 8,000,000 金銀鑛(銅) 8,000,000 金銀鑛(亞鉛) 8,000,000 金銀鑛(鉛) 8,000,000 其他礦區 8,000,000																																																																																															
<b>【事業成積】</b>	所有船舶 七隻 十三年上 十三年下 船隻収入(半額) 1,000,000 船隻収入(全額) 1,000,000 倉庫、南洋海運、馬來半島石原産業 比律賓石原産業、日本電工、昭和鑛業																																																																																															
<b>【資本異動】</b>	十三年十一月一千万圓増資 第一回一割五分拂込徴収																																																																																															
<b>【資産負債】</b>	<table border="1"> <tr><td>株主資本</td><td>三,000,000</td><td>九十二年</td><td>三,000,000</td><td>九十二年</td></tr> <tr><td>積立金</td><td>7,000,000</td><td>7,000,000</td><td>7,000,000</td><td>7,000,000</td></tr> <tr><td>社外負債</td><td>100,000</td><td>100,000</td><td>100,000</td><td>100,000</td></tr> <tr><td>借入金</td><td>300,000</td><td>300,000</td><td>300,000</td><td>300,000</td></tr> <tr><td>支拂手形</td><td>300,000</td><td>300,000</td><td>300,000</td><td>300,000</td></tr> <tr><td>使用總資本</td><td>10,000,000</td><td>10,000,000</td><td>10,000,000</td><td>10,000,000</td></tr> <tr><td>固定資産</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>投資勘定</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>流動資産</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td></tr> <tr><td>現金預金</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td><td>8,000,000</td></tr> <tr><td>【收支勘定】</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>収入</td><td>7,000,000</td><td>7,000,000</td><td>7,000,000</td><td>7,000,000</td></tr> <tr><td>支出</td><td>5,000,000</td><td>5,000,000</td><td>5,000,000</td><td>5,000,000</td></tr> <tr><td>固定資産の増減</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>消却年率</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>【業績】</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>十二年下</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>十三年下</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> <tr><td>十四年上</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td><td>1,000,000</td></tr> </table>	株主資本	三,000,000	九十二年	三,000,000	九十二年	積立金	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000	社外負債	100,000	100,000	100,000	100,000	借入金	300,000	300,000	300,000	300,000	支拂手形	300,000	300,000	300,000	300,000	使用總資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	投資勘定	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	流動資産	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000	現金預金	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000	【收支勘定】					収入	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000	支出	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	固定資産の増減	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	消却年率	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	【業績】					十二年下	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	十三年下	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	十四年上	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
株主資本	三,000,000	九十二年	三,000,000	九十二年																																																																																												
積立金	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000																																																																																												
社外負債	100,000	100,000	100,000	100,000																																																																																												
借入金	300,000	300,000	300,000	300,000																																																																																												
支拂手形	300,000	300,000	300,000	300,000																																																																																												
使用總資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000																																																																																												
固定資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
投資勘定	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
流動資産	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000																																																																																												
現金預金	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000																																																																																												
【收支勘定】																																																																																																
収入	7,000,000	7,000,000	7,000,000	7,000,000																																																																																												
支出	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000																																																																																												
固定資産の増減	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
消却年率	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
【業績】																																																																																																
十二年下	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
十三年下	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
十四年上	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000																																																																																												
<b>【時價】</b>	元九 九十二年 三月 九十二年 三月																																																																																															
<b>【名義書換】</b>	十 新券交付 二十																																																																																															

帝國産金興業株式會社

(本 社) 東京市京橋區銀座八ノ一 (電報掛六六六)

【擴張完成】目下建設中の大仁金山の青化製錬所(日産處理二百題)は近く運轉開始し、北の王第二期擴張の青化製錬所(日産處理五百題)、フローテーション(日産處理二百題)も四月頃運轉開始の豫定である。右により當社の鑛石處理能力は大仁一日三百二十題、北の王一日一千二百四十題、合計一千五百六十題となる。

【今期業績】當社の決算期は三月と九月を一月と七月に變更したので、今期は昨年九月末より来る七月末の十ヶ月決算となるが、四月より擴張設備の運轉開始で産金額が増すので、産金額は四百十五萬圓見當となり経費を引いて約二百六、七十萬圓の利益が見込める。この他水銀の利益を加算すると今期利益は約三百二十、三十萬圓、二割五分内外の利益率に當る。配當に不安なく、發展が期待される。

【設立】 昭和九年一月

【資本金】 公稱 100,000 拂込 100,000

【株 数】 新(100) 100,000

【重 役】 社長 石川 博資 取締役 穴水 熊雄 常務 遠藤 莊太郎 前川 道平 三宅 當時 監査 猪股 淇清 北澤 武男 中野 剛正

【業 績】 利息率 配當率 利益率  
 十一年下 三・三 二・五 三・五  
 十二年下 三・三 二・五 三・五  
 十三年上 三・三 二・五 三・五  
 十三年下 三・三 二・五 三・五  
 十四年上 三・三 二・五 三・五  
 十四年下 三・三 二・五 三・五

【時價】 新 三・三  
 【時價】 新 三・三  
 【時價】 新 三・三

朝鮮ドレツチ鑛業株式會社

(本 社) 東京市麹町區有樂町一丁目會館 (電九九五九)

【業績低下】去る十一月期の利益金は十三萬七千圓で、前期に比し二萬二千圓を減少した。北鮮の水害にたゞられた結果だ。従つて利益率も一割九分六厘と三分程低下した。一割二分配當にはそれだけ餘裕を無くしたわけである。来る五月期は勿論増益する。殊に金増産割當を受けて富鑛地帯を掘ることになるから今後の利益は次第に増加する。

【東朝鮮と合併増資】併し、砂金だけでは最早發展性が薄くなつて来たので、山金に進出する爲東朝鮮鑛業を設立したが、同社の事業も愈々本格化して一割二分配當をする様になつた。そこで今回これと對等合併し、更に五百萬圓を増資して新規金山の買収開發に乗り出すことになつた。合併期は来る七月十日の豫定。

【設立】 昭和九年七月

【資本金】 公稱 100,000 拂込 100,000

【株 数】 新(100) 100,000

【重 役】 社長 岩崎 清七 取締役 松本 眞平 常務 田島 常三 伊藤 吉之助 監査 川崎 友之介 井野 謙次 富澤 清明 倉知 謙吉

【業 績】 利息率 配當率 利益率  
 十二年下 一・九 一・〇 一・〇  
 十三年上 一・九 一・〇 一・〇  
 十三年下 一・九 一・〇 一・〇  
 十四年上 一・九 一・〇 一・〇  
 十四年下 一・九 一・〇 一・〇

【時價】 新 一・九  
 【時價】 新 一・九  
 【時價】 新 一・九

順安砂金株式會社

(本 社) 朝鮮平安南道平康郡順安 (事務所) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル (電九九二一六)

【一月期増益】去る一月期の利益金は六十二萬三千圓で、前期に比し七萬五千圓を増加した。併し期初八月一日に増資第一回拂込を百萬圓徴収したので、利益率は低下した。即ち前期の二割八分六厘から二割五分となつた。が、配當は依然一割二分据置。

【山金へ着手】右百萬圓の拂込金は揮春砂金の開發に充てたのだがそれが張鼓峰事件等で順調に進まなかつたが、今夏には完成する。尙ほ砂金の方は既に五隻の採金船を持つてゐるので、今後は山金の開發に進むことになり、龍鳳鑛の採鑛に着手した。事業に興味を加へるものである。

【設立】 昭和七年九月

【資本金】 公稱 100,000 拂込 100,000

【株 数】 新(100) 100,000

【重 役】 社長 浅野 健一郎 取締役 富永 静雄 常務 藤堂 大蔵 監査 浅野 良三 平木 康治 清水 幸一郎 取締役 前川 益以

【業 績】 利息率 配當率 利益率  
 十一年下 三・三 二・五 三・五  
 十二年下 三・三 二・五 三・五  
 十三年上 三・三 二・五 三・五  
 十三年下 三・三 二・五 三・五  
 十四年上 三・三 二・五 三・五  
 十四年下 三・三 二・五 三・五

【時價】 新 三・三  
 【時價】 新 三・三  
 【時價】 新 三・三

東邦金屬製錬株式會社

(本 社) 東京市麹町區丸ノ内二ノ八昭和ビル (電九九之内五七七)

【建設準備】花蓮港工場は漸く着手の運びとなつた。工場敷地の十萬二千坪は既に買収済で近く(三月始現在)地均しに着手し工場建設を進める事になる。豫定計畫では来る八月には工事の一部を完成操業の見込であるが、結局のところ十月頃とならう。第一期工事は建坪一萬五千坪で鑛材の配給に心配はなく機械も既に組立てを初めたと云ふから最早や此れ以上に遅延することはなからう。

【現在の精錬】東アフリカから輸入するニツケル原鑛は昨秋以來日光の古河精錬所に於て精錬を續けてゐるが、電解設備を持たないために製品純度は九六乃至九七%で民需向には間に合ふが特殊方面の急需は充たせない。それにつけても電力の豊富なる花蓮港工場の竣工を急がねばならぬ。營業開始は再來期からだ。

【設立】 昭和十三年七月

【資本金】 公稱 100,000 拂込 100,000

【株 数】 新(100) 100,000

【重 役】 社長 赤司 初太郎 取締役 和田 盛一 監査 東馬 三郎 中川 末吉 後宮 政太郎 白石 元治郎 常務 安部 政太郎 山田 愛一郎 監査 山成 喬六 鈴木 三郎助 梅野 清太 梅野 清太 林 甚太郎 香田 五郎

【業 績】 利息率 配當率 利益率  
 十三年上 三・三 二・五 三・五  
 十三年下 三・三 二・五 三・五  
 十四年上 三・三 二・五 三・五  
 十四年下 三・三 二・五 三・五

【時價】 新 三・三  
 【時價】 新 三・三  
 【時價】 新 三・三



### 東邦炭礦株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内二丁目一八番和ビル内(電丸ノ内三、六九)

【業績低下】 昨年十一月期は著しく業績が低下した。下表に見る通り、利益率で約六分の低下だが、依然配當は一割を据置いた。資材勞力の不足で増産が意の如く進まなかつた上に、昨年九月から炭價が強制的に引下げられたからだ。新進膨脹會社だけにこれらの打撃は、同業會社より早く且つ顯著に現れる。

【減配はやらぬ】 今期も増産用資材の手當難は依然續いてをるし、値下げの影響も、賣買契約更改期の到來から全面化して来る。従つて出炭が予定通り進捗しないと、成績の一層低下は免れない。こゝに當社に對する減配説の起る所以があるのだが、經營當局者は目下銳意増産に努めてゐるし、赤司社長も現行一割を堅持する肚の模様だから、實際問題として減配はやるまい。

【然し内容充實が第一】 然し當社は曩に觸れた通り新進膨脹會社であり、菱瀨、北炭などと異つて石炭一本の會社である。従つて値下げの打撃を他に分散することが不可能である。更に内容の側から云つても、昨年下期末の趣當り起業費は尚ほ十二圓と、同業優秀會社の十圓以下に比し相當割高についてゐる。この觀點からする限り、變動性に富む石炭會社の態度としては、出来るだけ償却に意を向けなければならないことは云ふまでもない。

### 磐城炭礦株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内一ノ六ノ一(電丸ノ内八、八一三)  
(礦業所) 福島縣石城郡内郷村

【一割安全】 昨年下期は利益金は殖えたが他方繰込資本も増加した爲め上期より利益率は僅かながら低下した。とは言へ三割二厘に當るから一割配當も決して窮屈とは言はれない。ところが今期には一割配當も踏襲出来ないのではないかと言ふ不安が一時傳へられた。爲めに八十圓以上もしてゐた株價が一時六十圓臺を割ると言ふ暴落を演じた。併し實際は一割配當に不安はないのみか、一層業績は向上を示しつつある。

【出炭増加】 成績が低下するだらうと豫想された一つの原因は、炭價の抑制に加ふるに出炭も思ふやうに殖えないのではないかと考へられたからである。事實一時は出征兵の増加等によつて坑夫は不足し、機械設備も間に合ひかねると言ふ状態にあつた。そこで當社は農閑季利用の季節坑夫の獲得に努めると共に、當社の製鋼所を設備使用機械供給を計つた。その効果が現れて期初以來出炭も案外増加を示して來てゐる。當社の強味は所有礦區の豊富なことであるから、坑夫と設備さへあれば出炭に事はかゝぬ。炭價抑制の壓迫もこの増産によつて補ひ、更に増産を來す見込みで、今期當り三割二、三分の利益率は確保されるであらう。一割配當を持續し残りは償却に充當するから、資産内容も段々堅實化される譯だ。

【設立】 大正八年十月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 石炭採掘販賣

【資本金】 公稱 10,000,000 拂込 10,000,000

【株主数】 新 100 旧 100 200

#### 【重役】

社長	赤司初太郎	取締役	望月車四郎
			太田 清藏
取締役	岡村左右松		足立 盛夫
	加島安治郎		後宮信太郎
	中東光五郎		金澤冬三郎
	徳水 康康		

#### 【株主数】

大日本製糖	4,000	内外商會	2,000
日本生命	3,000	帝國生命	2,000
赤司初太郎	1,000	大島喜代治	1,000
錦源紡績	2,000	福壽生命	1,000

【資本異動】 七年四月借額増資第一回  
三圓五圓拂込、新東邦、大谷炭礦を合  
併、高岡増資、九月三圓五圓拂込、  
十一月三月三圓五圓 拂込、  
十一月借額増資第一回三圓五圓拂込

【設立】 明治二十六年十二月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 石炭採掘販賣

【資本金】 公稱 7,000,000 拂込 7,000,000

【株主数】 新 100 旧 100 200

#### 【重役】

社長	淺野總一郎	取締役	淺野 良三
			小坂 梅吉
取締役	前川 益以		齊藤 順三
	岡部 正樹		河合 得男
	倉田龜之助		遠山 元一
	白石元治郎		
	飯谷 芳郎		

【株主数】 七年前 七年前  
總數(名) 七年前 七年前

【大株主】  
淺野商店 2,000 安田銀行 1,000  
川島屋商店 2,000 丸之内商事 1,000  
會田龜之助 1,000 新興證券 1,000  
富岡徹兵 9,000 遠山借成 8,000

【事業規模】 十一年上 十一年上  
採掘礦區 一六 二二 二二 二二  
採掘區(千石) 二七五 二七五 二七五 二七五  
未掘礦區(千石) 四七六 四七六 四七六 四七六  
同面積(千石) 四七六 四七六 四七六 四七六  
礦夫數(人) 一五〇 一五〇 一五〇 一五〇  
採炭高(千石) 四三三 四三三 四三三 四三三  
販賣高(千石) 四三三 四三三 四三三 四三三  
自家消費(千石) 六 六 六 六

【資本異動】 十三年五月三圓五圓拂込、  
十二年五月三圓五圓拂込、  
十二年七月三圓五圓(最終)拂込、  
十二年一月借額増資第一回三圓五圓拂込

【資產負債】 十一年 十一年

株主資本 10,000,000 10,000,000

積立金 10,000,000 10,000,000

外部負債 2,000,000 2,000,000

借入金 2,000,000 2,000,000

支拂手形 2,000,000 2,000,000

使用總資本 12,000,000 12,000,000

固定資産 10,000,000 10,000,000

投資助産 2,000,000 2,000,000

流動資産 2,000,000 2,000,000

現金預金 2,000,000 2,000,000

【收支動向】 十一年上 十一年上  
收入 10,000,000 10,000,000  
支出 8,000,000 8,000,000  
利益 2,000,000 2,000,000

#### 【業績】

十一年上	2,000,000
十一年下	2,000,000
十二年上	2,000,000
十二年下	2,000,000
十三年上	2,000,000
十三年下	2,000,000
十四年上	2,000,000
十四年下	2,000,000

#### 【資產負債】 十一年 十一年

株主資本 10,000,000 10,000,000

積立金 10,000,000 10,000,000

外部負債 2,000,000 2,000,000

借入金 2,000,000 2,000,000

支拂手形 2,000,000 2,000,000

使用總資本 12,000,000 12,000,000

固定資産 10,000,000 10,000,000

投資助産 2,000,000 2,000,000

流動資産 2,000,000 2,000,000

現金預金 2,000,000 2,000,000

【收支動向】 十一年上 十一年上  
收入 10,000,000 10,000,000  
支出 8,000,000 8,000,000  
利益 2,000,000 2,000,000

#### 【業績】

十一年上	2,000,000
十一年下	2,000,000
十二年上	2,000,000
十二年下	2,000,000
十三年上	2,000,000
十三年下	2,000,000
十四年上	2,000,000
十四年下	2,000,000

【株價】(東京) 高値 安値 高値 新 安値

十二上 12.5 10.0 11.0 10.0

十二下 13.0 10.0 12.0 10.0

十三上 14.0 10.0 13.0 10.0

十三下 15.0 10.0 14.0 10.0

十四上 16.0 10.0 15.0 10.0

十四下 17.0 10.0 16.0 10.0

【豫想配當】 十四年五月初一割

【時價】 舊六六 【利額】 七分七厘

【名義書換】 五 發 【新券交付】 五十發

### 入山採炭株式會社

(本社) 東京市京橋區銀座三ノ四大倉別館内 (電京橋 五二一三)  
(坑務所) 福島縣石城郡湯本町

【増資實現】當社の増資は同業會社に比し後れてゐたが、愈々二倍半増の千五百万圓の資本とすることとなり、その第一回拂込は六月一日と決定してゐる。この増資に伴つて事業規模も擴大される。その意味で定款も變更して、従來は石炭の採掘販賣だけを營業目的としてゐたのを、更に同種又は他種礦業に投資することの出来るやう一項を設けた。

【投資擴大】實は當社の礦區は常勢に限られてをり、これだけなら大した増産力もないので、強て増資の必要もなかつたのである。そこで當社も常勢地方のみに閉ぢこもらず、國策の線に沿つて積極的に事業を行ふこととしたのである。その第一歩は一昨年夏以來、山口縣の大演炭礦に投資したが、更に福岡縣西戸崎炭礦へも最近關係を持つこととなつた。兩炭礦とも大倉礦業との共同投資であるが實際の經營は當社が當つてゐる。更に内地のみならず北支にも進出計畫があり、既にその準備は着々進められてゐる。増資もこれ等擴張費に充當する爲めである。

【配當措置】前期は炭價の抑制や水害による減産等て利益は減つたが、それでも三割六分の利益率を示した。今期は前期に比し優つても劣ることはないから一割二分の配當は充分据置ける。

### 太平洋炭礦株式會社

(本社) 東京市日本橋區室町三井三號館内 (電日本橋五)

【増配の理由】當社は昨年十一月期に一分増の九分配當を行つた。弱小炭礦會社が昨年夏以來の石炭統制で、減配の悲運に見舞はれてゐる折柄、當社の増配は假令一分にせよ充分注目すべきだ。増配の理由は、物資、勞力の不足に拘らず増産が予定通り進捗し、他方當社の賣炭は三井物産を通して従來同業他社に比し安値の取引を多くやつてゐたので、値下げの打撃を殆ど受けなかつたからだ。

【起業費は尙ほ高い】即ち十一月期の出炭は四十萬噸と、對前期四萬噸を増加し、ために賣上代に於て前期に比し七十萬圓の増加、利益金に於て二十三萬九千圓の増益であつた。拂込資本九百九十九萬圓に對する利益率は二割強に當るから、九分配當は寧ろ餘裕含みと云へる。本來ならば當て問題化した二分増の一割配當もやつてやれぬではなかつたが、炭界前途不味と親會社三井礦山の意圖を反映して、一分増配にとゞめたいらしい。實際問題としても、當社の應當り起業費は十一圓五十錢とまだ相當割高だから、今のうち内容充實に努めて置いた方が安全である。

【九分配當安泰】積出港たる鋼路港を結ぶベルトコンベアー設備は、三月末に一部完成、六月頃から全運轉となる模様だ。之が出来ると特産の百萬噸増産が可能となる。現行配當繼續に不安はない。

〔設立〕 明治二十九年二月  
〔決算期〕 五月、十一月

【事業】 石炭採掘販賣、煉炭製造販賣  
【資本金】 拂込済 六,000,000  
【株数】 (500)

【重役】 社長 島岡亮太郎 取締役 高山 藏六  
事務 渡邊寛一郎 監査 大貫 經次  
取締役 門野重九郎 本宿 家全  
大崎 新吉

【株主数】 十一年下 十一年上 十二年下  
總數(名) 八三三 八三三 八〇二

【大株主】 大倉 組 三〇,三〇〇 河端 政吉 六,三〇〇  
富國 鐵兵 三,〇〇〇 藤澤商店 二,〇〇〇  
南 保夫 一,八〇〇 渡邊寛一郎 一,〇〇〇  
松下三九馬 一,〇〇〇 有隣生命 一,〇〇〇

【事業規模】 十二年下 十一年上 十二年下  
採掘礦區 九、〇〇〇 〇 〇  
全面積(千坪) 九、〇〇〇 九、〇〇〇 九、〇〇〇  
試掘礦區 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇  
全面積(千坪) 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇  
所屬礦區 福島縣石城郡湯本町  
【事業成績】 十一年上 十二年上 十二年下  
出炭(千噸) 二六九七 三三七九 三三〇七  
販賣(千噸) 二六九七 三三七九 三三〇七  
内自家用( ) 一三九 一〇五 一三九  
貯炭(千噸) 一〇〇 一〇〇 一〇〇

Table with financial data for 入山採炭株式會社. Columns include: 資産負債 (資本金, 積立金, 外部負債, 使用總資本, 固定資産, 流動資産, 現金預金), 收支勘定 (收入, 支出, 消却年率, 固定資産), 株主資本 (十一年上, 十一年下, 十二年上, 十二年下), 利息, 配當金, 時價, 名義書換, 新券交付.

〔設立〕 大正九年四月  
〔決算期〕 五月、十一月

【事業】 石炭採掘販賣、土地經營、其他附帶事業  
【資本金】 公稱 二,〇〇〇,〇〇〇  
【株数】 拂込 九,〇〇〇,〇〇〇  
【重役】 會長 片山眞五郎 監査 清水 源作  
取締役 松方 正輔 岡本 達三  
大東 藤吉 相談 牧田 三郎  
顧問 三郎

【株主数】 十一年下 十一年上 十二年下  
總數(名) 四三三 四三三 四三三

【大株主】 三井礦山 一〇〇,〇〇〇 西 廣 二,〇〇〇  
日本礦産 二〇〇,〇〇〇 木村商事 一,七〇〇  
里田さし 二〇〇,〇〇〇 木村カナル 一,〇〇〇  
伊豆銀行 一,〇〇〇 生島 福 一,〇〇〇  
三井英一 一,〇〇〇 石井駒次郎 一,〇〇〇

【事業規模】 十二年下 十一年上 十二年下  
採掘礦區 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇  
全面積(千坪) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇  
試掘礦區 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇  
全面積(千坪) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇  
所屬礦區 北海道釧路市郊外  
【事業成績】 十一年上 十二年上 十二年下  
採炭(千噸) 三三〇七 三三〇七 三三〇七  
販賣(千噸) 三三〇七 三三〇七 三三〇七  
【投資會社】 鋼路港鐵道  
【資本異動】 十二年九月第三回七圓五拂込  
徴收

Table with financial data for 太平洋炭礦株式會社. Columns include: 資産負債 (株主資本, 積立金, 外部負債, 使用總資本, 固定資産, 流動資産, 現金預金), 收支勘定 (收入, 支出, 消却年率, 固定資産), 株主資本 (十一年上, 十一年下, 十二年上, 十二年下), 利息, 配當金, 時價, 名義書換, 新券交付.

### 九州炭礦汽船株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内三番本館(電九三〇)

【益々良好】當社は依然優秀な成績を續けてゐる。昨年同期は九百八十一萬圓の利益(償却控除後)をあげ三割一分の利益率を示してゐる。一割二分の配當は益々餘裕を生じ、資産内容は更に美化し、全く日本随一と言つても過言ではない。今期は需要期に當つてをり、抗夫の不足も極力補ひ、操業の改善を行ふ等コスト高に對し善處してゐるので、利益は更に増加するであらう。

【膨張性を缺く】唯いつも言ふやうに當社には大増産計畫もないのが魅力に乏しい點である。安全の上ない會社だが膨張性がないので、拂込徴收の期待も持てない。もし期待を持つなら同系の三菱鐵業との合併であるが、これも久しい間棚ざらしとなつてゐる。併し資産株としては最も恰好な株であることに變りはない。

【設立】 明治四十年十一月

【資本金】 公稱 10,000  
拂込 六,300  
新(三三) 3,700

【株數】 100,000  
新(三三) 100,000

【重役】  
社長 小村千太郎 取締役 木下英夫  
常務 池田龜三郎 監査 藤原英  
取替 村上伸雄 鈴木春之助  
杉浦久三郎

【業績】 利益率 配當率 利益倍率  
十二年度 17.7% 2.3% 11.7  
十三年上 12.8% 2.3% 6.3  
十三年下 12.8% 2.3% 6.3

【株價】(高) 安値 新株 株價  
十三年 11.0 10.0 1.10  
十四年 11.0 10.0 1.10

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0  
【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

### 茅沼炭礦株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内二九七(電九之內五七)

【四分派配】昨年十一月期は物資、勞力の補給難と炭價値下の狹擊に遭つて著しい減益を來した。前期に比し利益金に於て八萬一千圓減(約三割減)の二十萬圓、利益率に於て一割減の二割に轉落し、配當は四分減の八分となつた。この期の出炭高は正確には知り得ないが、恐らく七萬餘足らずであつたらしい。初めの予想は九萬餘乃至十萬餘であつたから、ざつと三萬餘の出炭減だ。而もコスト高と賣値の引下げによつて應當り利益も六、七十錢見當狭められて來たのだから、大中減配は止むを得ぬ結果と見られる。

【今期】現稼行礦區は第一斜坑と寶徳坑だが、目下第二斜坑の開鑿中である。第二斜坑から出炭を見るやうになれば業績も見直されるが、今期は降雪期でもあるので難しい。八分維持がせいゝだ。

【設立】 昭和五年四月

【資本金】 公稱 1,000  
拂込 1,000

【株數】 100,000  
新(五〇) 100,000

【重役】  
社長 赤司初太郎 取締役 吉川兵次郎  
常務 茂木東次郎 監査 寶徳定吉  
取替 佐藤興平 國府寺鼎三  
萩原長吉 入倉繁太郎

【業績】 利益率 配當率 利益倍率  
十二年度 22.2% 2.3% 11.0  
十三年上 21.5% 2.3% 11.0  
十三年下 21.5% 2.3% 11.0

【株價】(高) 安値 新株 株價  
十三年 11.0 10.0 1.10  
十四年 11.0 10.0 1.10

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0  
【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

### 北樺太鑛業株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内九ビル内(電丸ノ内六三)

【解決を待つ】日ソの利權問題は日魯漁業問題の悪化が示してゐるやうに益々紛糾を深めてゐる。當社に對する壓迫も依然續いてをり、稼行も中止したまゝである。尤も邦人従業員の查證問題や、事業準備品の配給問題は部分的に解決のついた點もあるが、併し勿論事業再開の域にまだ至つてゐない。當社では紛糾が解決すれば何時でも稼行が出来るやうな準備はしてゐるが、その解決の時期はまだ何時とも判らない。併し勿論我國が利權を放棄する譯はないから、その解決のつくまで頑強な外ない。或は漁業問題が曲なりにも片がつくと、今年通り稼行が出来るやうになるかも知れぬが、併しそれでも損失だけは免れない。こゝ一、二年は配當の復活は困難である。併し稼行再開となれば株價だけは若干戻すであらう。

【設立】 大正十五年八月

【資本金】 公稱 10,000  
拂込 10,000

【株數】 100,000  
新(五〇) 100,000

【重役】  
會長 三井 米松 取締役 村山鹿之介  
常務 西原 民平 監査 松本健太郎  
取替 橋本圭三郎 矢島 富造  
河手 捨二 藤岡 淨吉

【業績】 利益率 配當率 利益倍率  
十二年度 17.7% 2.3% 11.7  
十三年上 12.8% 2.3% 6.3  
十三年下 12.8% 2.3% 6.3

【株價】(高) 安値 新株 株價  
十三年 11.0 10.0 1.10  
十四年 11.0 10.0 1.10

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0  
【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

### 九州採炭株式會社

(本社) 福岡縣鞍手郡木野淵町(營業所) 福岡市片土居町十五ビル内(電事ア九)

【小型新進會社】當社は昨年十一月一日總額六十二萬五千圓の拂込を徴收したので、現在は公稱五百萬圓、拂込三百七十五萬圓となつた。まだ小型石炭會社の域を出ないと新進會社であるために、一般には餘り知られてゐないやうである。

【内容と配當力】當社の稼行礦區は筑豊炭田の新手坑、岩崎坑、土井坑である。新手坑は年産十四、五萬圓、岩崎坑は年産八萬圓、土井坑は年産四萬圓見當だが、岩崎及び土井坑は現在委任經營に移されてゐる。越當り利益は三坑を通して平均三圓七十錢になるから、悪い方ではないが、概して薄層炭であるのが缺點だ。ひと頃大中減配説が飛んだが、當局者は目下機械化増産に努めてをり、今期利益率も二割見當が豫想されるので、一割配當は續けられよう。

【設立】 昭和十年四月

【資本金】 公稱 1,000  
拂込 1,000

【株數】 100,000  
新(五〇) 100,000

【重役】  
社長 藤井 伊藤 取締役 佐藤 勇  
常務 今里 廣記 監査 藤見 弘  
取替 野見山藤二 監査 徳倉 亮流  
犬丸 甚吾

【業績】 利益率 配當率 利益倍率  
十二年度 22.2% 2.3% 11.0  
十三年上 21.5% 2.3% 11.0  
十三年下 21.5% 2.3% 11.0

【株價】(高) 安値 新株 株價  
十三年 11.0 10.0 1.10  
十四年 11.0 10.0 1.10

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0  
【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0

【時價】(高) 安値  
十一月 11.0 10.0



### 日本石油株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内三ノ四(電九ノ内三〇一九)

【増資接近】當社は昨年十一月一日に最終拂込を徴収して八千万圓全額拂込済となつてゐる。従て當社の當面する問題は増資の問題である。増資の具體的計劃はまだ何等發表されてはゐないが、現在の客觀情勢は當社の増資を遠からず不可避ならしむるものと思はれる。政府は産油増加を強く要求して試験奨励を積極化してゐる。又、航空機用高級ガソリンの増産に大意である。ガソリン以外の機械油其他に於ても従來輸入に俟つてゐた高級油の自給が國防上絕對に必要とされるので、燃料國策の第二段としてこの増産が計劃されてゐる。そしてこれの實現には先づ當社の活動が主體となるべきは云ふまでもなく、こゝに當社の増資は必至であり、時期も近づいてゐる。程度は倍額であらう。

【業績は今後も順調】消費費正を受ける揮發油と重油の一般販賣の増加は見込めぬが、規正の強化は一段落した模様だから此上の減少はあるまい。一方軍需々要の増加は更に續き、機械油、輕油其他の民需品の賣行は激増してゐる。それに今後高級油の販賣が加はるとしたら、たとへ油價に値上りがないとしても、今後の業績は益々順調と見られる。稀に見る優秀な内容の力と相俟つて、八分配當の持續には、増資後と雖も相當の餘裕を殘し得るであらう。

### 北樺太石油株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内三ノ四有樂館内(電九ノ内一八六〇)

【對ソ關係依然惡し】カタンダリの陸上油送管敷設が許可され、また最近に従業員拉致の如き極端な事件も起らず、幾分明るい氣分も見えるが、漁業問題にも見られる如く、對ソ關係は依然惡く、ソ聯の訪過の手は容易に緩むとは見えない。従つて、試験計畫も殆ど進捗しない。

【政府の保護加はる】併し、當社の國策的重要性は時局の進展と共に益々強く、政府の保護は一層加重される。試験助成金の他に、採掘全體に對する助成も行はれる模様だ。更に對ソ關係の緊迫化から半官半民の特殊會社に編成替へが提唱されてゐるが、この實現も時期の問題と見られる。ソ聯の壓迫は當面薄らぐとも見えぬが、同時に政府の保護が強まるから、この意味からは當社の前途は極端な悲觀を要せぬ。こゝ一、二期が當膽の時期で、その後には何等かの曙光を見るものと思はれる。

【今年度の成績】来る三月末で締切る十三年度成績は、ソ聯の壓迫で労働人員が不足したが採油成績は前年に比し決して悪くはなかつた。併しソ聯よりの購入油がなかつたため、搬出高は前年度より減少し、従つて原油収入も五、六十万圓減少する。利益も四、五十万圓の減少とならう。併し、業績から見ても現行四分配當は据置ける。

【設立】	明治二十一年五月
【決算期】	三月、九月
【事業】	石油其他礦物採掘精製販賣
【資本金】	株式 1,000,000
【株主数】	1,000
【役員】	社長 橋本圭三郎
【専務】	中野 鐵平 取締役 鷗見左吉雄
	水田 政吉 取締役 渡邊 謙吉
	川久保修吉 取締役 山本 留次
	山口誠太郎 取締役 大橋新太郎
	西脇清三郎 取締役 相澤 隆
【株主数】	十一年下 十一年上 十一年下
【大株主】	山口誠太郎 西脇合名 西脇清三郎
	新津恒吉 安田保壽社 中野 鐵平
	中野興業 帝國生命 飯塚和信
	飯塚和信 東洋火災 大株代 東株代
【事業規模】	十一年下 十一年上 十一年下
	製油設備 3,000,000 石油設備 3,000,000
	石油設備 3,000,000 石油設備 3,000,000
【北樺太】	北樺太石油、滿洲石油
【投資会社】	北樺太石油、滿洲石油
【資本異動】	十一年七月開業拂込徴収、十一年一月二回拂込徴収、十月二回(最終)拂込徴収

【資産負債】	九二牌 九三牌 九四牌
株主資本	100,000 110,000 120,000
積立金	10,000 10,000 10,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
社債	10,000 10,000 10,000
流動資産	10,000 10,000 10,000
固定資産	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
【收支動向】	十一年度 十一年度 十一年度
収入	10,000 10,000 10,000
支出	10,000 10,000 10,000
【時價】	144年三月期 八分
【名義書換】	144年三月期 八分

【設立】	大正十五年六月
【決算期】	三月(年一回)
【事業】	原油採掘及輸入販賣
【資本金】	株式 10,000
【株主数】	100
【役員】	社長 左近司政三
【専務】	小泉 武三 取締役 倉知 鐵吉
	松村松太郎 取締役 津川才四郎
	伊藤文吉 取締役 津下紋太郎
	橋本圭三郎 取締役 富田 隆吉
	河手 捨三郎 取締役 藤岡 隆吉
【株主数】	十一年下 十一年上 十一年下
【大株主】	日本石油 日本煉業 三井物産
	富田 隆吉 三井物産 三井物産
	三井物産 三井物産 三井物産
	三井物産 三井物産 三井物産
	三井物産 三井物産 三井物産
【事業規模】	北樺太石油、滿洲石油
【投資会社】	北樺太石油、滿洲石油
【資本異動】	十一年一月、十一月及十一年九月各二回拂込徴収

【資産負債】	三二牌 三三牌 三三牌
株主資本	10,000 10,000 10,000
積立金	10,000 10,000 10,000
外部負債	10,000 10,000 10,000
社債	10,000 10,000 10,000
流動資産	10,000 10,000 10,000
固定資産	10,000 10,000 10,000
現金預金	10,000 10,000 10,000
【收支動向】	十一年度 十一年度 十一年度
収入	10,000 10,000 10,000
支出	10,000 10,000 10,000
【時價】	144年三月期 四分
【名義書換】	144年三月期 四分

〔石油 礦業〕

### 旭石油株式會社

〔本社〕 東京市豊町丸ノ内海上ビル新館(電九之内二〇二九)  
〔支社〕 大阪市西區土佐堀通大同ビル(電土佐堀三五五)

〔懸々増資〕 申請中だつた増資が二月二十四日に許可された。五百萬圓を一千万圓に倍額にする。二月末現在の株主に一対一で割當て、第一回拂込一株十二圓半、總額百二十五萬圓を四月一日に徴收。  
〔擴張と業績〕 従來からの採油、試掘の擴張を進めるほか、秋田縣下の小製油所三、四工場を買収して、原油で買つてゐたものを機械油にして賣る。彦島製油所のバイブスチル其他の新設備は既に完成し、鶴見のグリニス工場も活動する。今後は原油が製品化し、高級油の増産が進むのだから、利益は一段と増加する筋合だ。  
〔一割配當安泰〕 差當りこの五ヶ月の利益は少くも七十萬圓には達するから二割六分の利益率だ。今後の増益は増資の負擔に充分耐え、一割配當の持續には何の問題もなす。

【設立】	大正十年二月
【資本金】	公稱 五,000,000 拂込 五,000,000
【株数】	舊(五〇〇) 五,000 新(五〇〇) 五,000
【重役】	社長 長崎 英造 常務 幸松 文太 取締役 小口 均一 取締役 岡本 弘 生地 弘 生地 正行 小林 中 監査 長久伊勢吉
【業績】	十二年下 利益 三三三 配當 一〇〇 十三年上 利益 三〇〇 配當 一〇〇 十三年下 利益 二八〇 配當 一〇〇
【株價】	舊株 高値 安値 新株 高値 安値 十三年 八五〇 六〇〇 十四年 八五〇 六〇〇
【豫想配當】	十四年五月份 一割 【時價】 六七五 【利通】 七分四厘

### 丸善石油株式會社

〔本社〕 神戸市兵庫區北仲町二八(電兵庫〇二天)  
〔事務所〕 東京市豊町丸ノ内三三三(電丸之内三五六)  
〔支社〕 大阪市北區會館前上四丁目六八(電北三六八)

〔擴張計畫〕 當社は海軍燃料廠から特許技術を受け、和歌山縣下津港に新工場を建設中だが、機械製油工場は去る十月に一部完成し、近々全操業の運びとなりそうだ。揮發油の精製工場は豫定より遅れてゐるが、之も四、五月迄には一部運轉が可能とならう。  
〔増資期待〕 右の工場完成には大約四百五十萬圓の資金が要る。その爲め増資新株に對して矢張り拂込をとり、未拂込はあと六十二萬五千圓を残すのみとなつた。當局者は最終拂込徴收の上倍額増資を断行したいと云つてゐる。  
〔前途〕 下津工場も今年下期には全操業が期待されるから、その曉には収益力は向上しよう。先行き拂込資本は膨脹する筋合にあるが、九分配當は持續可能とみてよす。

【設立】	昭和八年十一月
【資本金】	公稱 五,000,000 拂込 五,000,000
【株数】	舊(五〇〇) 五,000 新(五〇〇) 五,000
【重役】	社長 松村 善藏 常務 上野 忍弘 取締役 石野友一郎 小林 信司 取締役 松村信治郎 取締役 新津 恒吉 常務 清水 正藏 桑山 茂作 監査 岡 八
【業績】	十二年下 利益 五、一七〇 配當 〇、〇〇〇 十三年上 利益 三、三〇〇 配當 〇、〇〇〇 十三年下 利益 三、〇〇〇 配當 〇、〇〇〇
【株價】	舊株 高値 安値 新株 高値 安値 十二年下 八五〇 六〇〇 十三年上 八五〇 六〇〇 十三年下 八五〇 六〇〇
【豫想配當】	十四年四月份 八分 【時價】 新六二五 【利通】 四分九厘

### 早山石油株式會社

〔本社〕 東京市豊町丸ノ内二ノ一六(電丸之内三二一五)  
〔支社〕 大阪市北區濱通堂島ビル

〔昨年同期増益〕 昨年十二月末締切の前期は、揮發油及重油の民需向消費制限のため業績は幾分低下するものと思はれたが、軍需の増加と燈油、機械油、アスファルトの販賣増加と値上りにより、完全にカバーされ、利益は上期より八萬六千圓の増加となつた。平均拂込資本が殖えたが、利益率は二期九分二厘となり、九分配當は依然餘裕裡に据置いた。

〔拂込期迫る〕 第二期擴張計畫のF・N・C式分解蒸留装置は四月から試運轉開始、バリゾル式脱蠟精製装置は今年末完成の豫定である。これ等の擴張資金は興銀よりの借入金と拂込金によるが、来る七月初第二回拂込四分の一、總額百五十萬圓を徴收する。更に第三期擴張に進むから、次々に拂込徴收の妙味がある。

【設立】	昭和十年五月
【資本金】	公稱 二〇,000,000 拂込 二〇,000,000
【株数】	舊(二〇〇) 二〇,000 新(二〇〇) 二〇,000
【重役】	社長 早山 三郎 専務 千葉 三郎 取締役 上塚 司 常務 早山 三郎 取締役 石崎 石三 取締役 松江 春次 石崎 石三 伊藤 英夫 監査 森田 幸藏 森田 幸藏 小泉 幸藏
【業績】	十二年下 利益 二、〇〇〇 配當 〇、〇〇〇 十三年上 利益 二、〇〇〇 配當 〇、〇〇〇 十三年下 利益 二、〇〇〇 配當 〇、〇〇〇
【株價】	舊株 高値 安値 新株 高値 安値 十三年 七〇〇 五〇〇 十四年 七〇〇 五〇〇
【豫想配當】	十四年六月份 九分 【時價】 新六二五 【利通】 七分八厘

〔石油 礦業〕

### 朝鮮石油株式會社

〔本社〕 京城府黄金町一ノ一八〇(電本朝六二七)

〔倍額増資〕 製油所其他擴張の必要から、一千万圓の資本を二千万圓に増資した。新株は、昨年八月末の株主に一対一で割當て、十一月一日に第一回拂込一株十二圓半、二百五十萬圓を徴收した。  
〔擴張〕 需要の増加に應ずべく元山製油所の設備を擴張し、高級機械油生産の爲めの改良を施しつゝある。又、鮮内の主要漁港及び都市に油槽所を新設し、タンク車、小型タンク船を建造して配給部網の合理化を圖る計畫だ。資金は四、五百萬圓を要する見込だから、第一回拂込だけでは足りぬ。第二回拂込が急がれよう。

〔安固な配當〕 税金引當控除の利益率にしても昨年同期は二期二分であつた。今後の増益は相當のものらしいから當社の八分配當は頗る安固な配當である。低配としての興味も多大。

【設立】	昭和十年六月
【資本金】	公稱 二〇,000,000 拂込 二〇,000,000
【株数】	舊(二〇〇) 二〇,000 新(二〇〇) 二〇,000
【重役】	社長 橋本 三郎 専務 木村 義雄 取締役 朴興 植 常務 關水 武 取締役 佐方 文夫 取締役 野口 進 大塚 俊雄 小倉 武之助 大塚 太計 杉野 多市 監査 山口 誠太郎 福島 英朝 監査 大島 英吉 金 奉 津
【業績】	十二年下 利益 三、〇〇〇 配當 〇、〇〇〇 十三年上 利益 三、〇〇〇 配當 〇、〇〇〇 十三年下 利益 三、〇〇〇 配當 〇、〇〇〇
【株價】	舊株 高値 安値 新株 高値 安値 十三年 八五〇 六〇〇 十四年 八五〇 六〇〇
【豫想配當】	十四年四月份 八分 【時價】 新六二五 【利通】 四分九厘



【業績概要】

### 日本鋼管株式會社

(本社) 神奈川県川崎市渡田字若尾新田(電川崎 五五〇)  
(出張所) 東京市麹町區丸の内一ノ二大川田中ビル(電丸ノ内五七一六)

【前期業績】 昨年下期は第三高爐が期を通じて稼行し、第二製鋼工場が運轉を開始したが、粘結性コークス炭の入手困難となり、出銑率は低下したので、生産高は増加せず利益も餘り確をなかつた。計上利益金は一千三百三十萬圓であつたが、五月及び九月の拂込が負擔となり利益率は四割一分へ低下した。償却率は一〇%四へと微減した。製銑益はコスト高により段々幅が狭くなつて行くが、鋼材も統制による品種別減産に支配され、有利な採算を期し得ない結果となつたのである。

【當分同じ】 かういふ傾向はこゝ當分續く。減産率も依然据置きであるし、その上に年初から建値の引下げが實施される。他方屑鐵も公定價格が決定されたが、公定價格では入手出来ぬ現状では、採算の悪化は云ふまでもない。目下建設中の第四高爐の完成は來年半ば過ぎになるから業績に寄與するのはまだである。従つてこゝ當分業績の低下は避けられぬ。

【拂込】 業績の向上は望めないが、擴張に伴れ拂込はとらねばならぬ。恐らく五、六月頃に第一新及び第二新に七圓半の拂込を徴収しよう。今期は擴張部分が稼働しても採算は悪くなるから前期と同程度の成績を豫想される。

### 株式 神戶製鋼所

(本社) 神戸市兵庫區區濱町一丁目三(電神合三三三〇)  
(出張所) 東京市麹町區丸の内一ノ二臺灣銀行ビル内(電丸ノ内五七一六)

【擴充進む】 當社は本來の時局會社である。今事業勃發後に於て慌て、新設されたとか、或ひは事業内容の方向轉換を行つた様な、所謂駆け出しではない。従つてそれだけに時局柄擴充に迫まれて居ることは勿論だ。擴充は全面的なものである。既存各工場の擴張は云ふに及ばず、更に新工場の建設を含んで居る。なかでも本社東海岸工場の擴張と長府工場の新設とは擴充の中心をなすものだ。東海岸工場は主として軍需品の増産を目指すものだ。その規模は詳かにし得ないけれども、尨大な計畫である點は覆へない。長府工場は輕合金製品を目的とするもので、山口縣長府町の廣大な敷地に建設中だ。建設工事は順調に進捗して居り、既に機械も一部据付を完了した。近々操業開始の豫定だ。が、敷地は尙ほ充分の餘裕を残して居るから引續き第二、第三段の計畫が進められよう。

【拂込期待】 これ等の擴充資金として去る一月十四日増資新株の第一回拂込總額一千二百二十五萬圓を徴収したが、これだけでは足りない筈だから今期中には更に第二回拂込の機運が熟すると思ふ。

【増配か】 業績は無論良好、今期一分の増配さへ期待される。尙ほ當社は大日本鹽業、太陽曹達と共にアルミニウム及びマグネシウムの製造會社を設立する計畫を進めて居る。

【業績概要】

【設立】 明治四十五年六月  
【決算期】 五月、十一月

【資本金】 公稱100,000,000 拂込73,300,000  
【株数】 新(50,000) 舊(23,300)

【重役】 社長 白石元治郎  
常務 松本 長久 取締役 大橋 進一  
香田 五郎 樋谷 正經  
田中榮一郎 監査 西野憲之助  
田中榮八郎 川崎 芳雄

【株主】 十三年下 十三年上  
【大株主】 八、三三三 〇、六六六

【生産高】 十三年上 十三年下 十三年上  
鋼管及鋼材 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇  
鋼材 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇

【投資會社】 昭和鋼業、日本瓦斯管其他  
【資本異動】 十三年四月三鋼管を新設十二月合併、十三年五月各新株前拂込徴収十月各新株前拂込徴収

株主資本	100,000,000
積立金	10,000,000
外部負債	10,000,000
社債	10,000,000
借入金	10,000,000
流動資産	10,000,000
現金預金	10,000,000
固定資産	10,000,000
使用總資本	10,000,000
投資總額	10,000,000
流動負債	10,000,000
現金預金	10,000,000
固定負債	10,000,000
社債	10,000,000
借入金	10,000,000
外部負債	10,000,000
積立金	10,000,000
株主資本	100,000,000

【設立】 明治四十四年九月  
【決算期】 六月、十二月

【資本金】 公稱100,000,000 拂込73,300,000  
【株数】 新(50,000) 舊(23,300)

【重役】 社長 田中五郎門 取締役 和田 信房  
常務 森本 準一 川上 義弘  
後田 長平 南 久壽象  
取締役 土屋 行藏 監査 佐々木 義彦  
小田島 修三 佐々木 義彦

【株主】 十三年上 十三年下  
【大株主】 四、三三三 〇、六六六

【生産高】 十三年上 十三年下 十三年上  
鋼管及鋼材 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇  
鋼材 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇

【投資會社】 昭和鋼業、日本瓦斯管其他  
【資本異動】 十三年四月三鋼管を新設十二月合併、十三年五月各新株前拂込徴収十月各新株前拂込徴収

株主資本	100,000,000
積立金	10,000,000
外部負債	10,000,000
社債	10,000,000
借入金	10,000,000
流動資産	10,000,000
現金預金	10,000,000
固定資産	10,000,000
使用總資本	10,000,000
投資總額	10,000,000
流動負債	10,000,000
現金預金	10,000,000
固定負債	10,000,000
社債	10,000,000
借入金	10,000,000
外部負債	10,000,000
積立金	10,000,000
株主資本	100,000,000

【資産負債】 十二牌 廿二牌 廿三牌

株主資本	100,000,000	100,000,000	100,000,000
積立金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
外部負債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
社債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
借入金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
流動資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
現金預金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
使用總資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000
投資總額	10,000,000	10,000,000	10,000,000
流動負債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
現金預金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定負債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
社債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
借入金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
外部負債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
積立金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
株主資本	100,000,000	100,000,000	100,000,000

【時價】 新六九

【利息】 六分六厘  
【名義書換】 五 錢【新券交附】 三十 錢

【資産負債】 十二牌 廿二牌 廿三牌

株主資本	100,000,000	100,000,000	100,000,000
積立金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
外部負債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
社債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
借入金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
流動資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
現金預金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
使用總資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000
投資總額	10,000,000	10,000,000	10,000,000
流動負債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
現金預金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
固定負債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
社債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
借入金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
外部負債	10,000,000	10,000,000	10,000,000
積立金	10,000,000	10,000,000	10,000,000
株主資本	100,000,000	100,000,000	100,000,000

【時價】 新六九

【利息】 七 分  
【名義書換】 十 錢【新券交附】 五十 錢

【編者事案】

### 鶴見製鐵造船株式會社

(本社) 東京市鶴見區九ノ内一ノ六海上ビル(電九ノ内三三三)  
(支社) 横濱市鶴見區末廣町二ノ一(電神奈川二三一三)

【前期減益】去る十二月締切の昨年同期は相當の減益を示した。上期の利益金七百四十八萬八千圓に對し下期は六百七十萬七千圓で、利益率は一割二分三厘を急低下し、三割二分一厘となつた。償却金を四百萬圓から二百五十萬圓に引下げるの止むなきに至つた。賣上高は増加したが、支出の増加は更に著しく右の減益となつたのである。併し一部建設費を經費で賄へた點もある模様だ。要するに建設過渡期に相當した上、コスト高に禍されたのである。

【擴張は遅延】建設中の第五製鐵工場は建物完成したが、機械の搬入据付が遅れ、四月にならぬと操業しない。第五製鐵が動くと同時に第一製鐵工場を休轉して修理する。従つて生産高の増加は望めない。五千馬力の造機工場も新設中だ。四萬馬力のシールドパー工場の建設、船渠部擴張、第二製鐵工場建設等に未働資産が多く、何れも今期中は操業に至らない。建設の遅延は業績を壓迫するのである。

【拂込時期】従つて拂込はとらずに借入金で一時的資金を賄つて来たが、これを社債に振替へる爲に四分三厘の社債七百五十萬圓を近く發行する。併し擴張進捗と共に新大に資金を必要とするから結局拂込徴収に出ねばならぬ。來期に入れば、建設部分も一部運轉を開始するから七、八月頃が拂込時期とならう。

### 小倉製鋼株式會社

(本社) 福岡縣小倉市許斐町一番地(電二三三三)  
(事務所) 東京市鶴見區九ノ内海上ビル(電九ノ内二二二)

【前期低下】前期は線材、丸鋼の減産の結果、賣上は百四十萬圓許り減少したが、採算のよい中間鋼に一部轉換したので利益金は十一萬圓を増加した。併し昨年九月一舉に一株二十五圓の拂込を徴収したので、これが負擔となり利益率は八分八厘を低下し三割二分三厘となつた。一時は減産の打撃が過大視され悲觀説が弘まつたが、大したこともなく一割二分配當は安固であつた。

【熔鑪爐完成】かねて建設中の第一熔鑪爐は昨年中に完成し、乾燥を終つたので、三月中に火入れ式を行ふこととなつた。これが能力一杯操業すれば年産十二萬噸の純鐵が自給出来る。併し、現状ではとてもこれ迄には行かぬ。公稱能力の半分に達すればよい方であらう。純鐵自給により屑鐵の使用量が減少すれば、それだけ有利となる。製鉄利益は越十圓程度と見られるから大したものではないが、原料自給は強味である。

【今期豫想】減産は依然据置きだし、中間鋼も統制される。更に鋼材建値の引下げもあり、採算は悪くなる。一方第二熔鑪爐建設の爲に拂込を徴収せねばならぬので、利益率は今後稍々低下しよう。尙最近朝鮮へ進出し機械製作業を営む模様である。第二熔鑪爐完成と朝鮮進出後は業績の向上が期待される。

【編者事案】

【設立】	大正五年四月	【資本金】	公稱 10,000,000	【株主数】	1,115
【役員】	社長 浅野 良三 専務 鈴木 敬太郎 常務 小松 隆雄 正木 壽郎 村上 正助 浅野 一郎 浅野 一郎	取締役 浅野 八郎 金子 喜代太 清宮 鐵三 藤田 謙三 藤田 大藏 藤田 義夫 浅野 義夫 浅野 太郎	監査 藤田 謙三 藤田 大藏 藤田 義夫 浅野 太郎	【事業】	造船、製鋼、製造修理、其他諸般の工業、鉄鋼、鋼材及船舶の製造並に營業
【決算期】	六月、十二月	【株主】	浅野 同族 1,115 安田銀行 50,000 丸之内商事 18,000 安田生命 100,000 日本生命 100,000 日本倉庫 100,000 戸澤芳樹 50,000 戸内清 50,000	【業績】	製造工場 30,000 製鋼工場 30,000 製鋼工場 30,000 製鋼工場 30,000 造船工場 30,000 造船工場 30,000 造船工場 30,000 造船工場 30,000 造船工場 30,000 造船工場 30,000
【資産負債】	十二期 六十二 十一期 六十二 十期 六十二	【負債】	借入金 10,000,000 流動負債 10,000,000 固定負債 10,000,000	【時價】	新交附 五十五 新交附 五十五

【設立】	大正七年十二月	【資本金】	公稱 10,000,000	【株主数】	1,115
【役員】	社長 浅野 一郎 専務 鈴木 敬太郎 常務 小松 隆雄 正木 壽郎 村上 正助 浅野 一郎 浅野 一郎	取締役 浅野 八郎 金子 喜代太 清宮 鐵三 藤田 謙三 藤田 大藏 藤田 義夫 浅野 太郎	監査 藤田 謙三 藤田 大藏 藤田 義夫 浅野 太郎	【事業】	製鋼、鋼材、角材、平鋼
【決算期】	五月、十一月	【株主】	浅野 同族 1,115 安田銀行 50,000 丸之内商事 18,000 安田生命 100,000 日本生命 100,000 日本倉庫 100,000 戸澤芳樹 50,000 戸内清 50,000	【業績】	製鋼工場 30,000 製鋼工場 30,000 製鋼工場 30,000 製鋼工場 30,000 製鋼工場 30,000 製鋼工場 30,000 製鋼工場 30,000 製鋼工場 30,000
【資産負債】	十二期 六十二 十一期 六十二 十期 六十二	【負債】	借入金 10,000,000 流動負債 10,000,000 固定負債 10,000,000	【時價】	新交附 五十五 新交附 五十五

【鐵鋼事業】

### 株式會社 中山製鋼所

(本社) 大阪市大正區船町三(電機川谷三一人)  
(支社) 東京市豊町區大手町日清生命ビル

【新事業に進出】 當社は豫ねてより南海化學工業を合併すべく準備中であつたが、去る一月十六日兩社各々臨時株主總會を開き合併契約締結の承認を求めた。合併實行期は来る四月一日となつてゐる。王務省から未だ正式の認可は下りてないが、既に諒解済みのことゝて近々認可されることにならう。南海化學を合併することによつて當社は多年懸案の化學工業に進出することゝなつた。

【熔鑪完成】 日産五百吨の熔鑪は豫定より遅れたが三月末頃には火入れを行ふ段取りとなつてゐる。熔鑪が稼行期に入ると多量の粗製ベンゾールを産出するが、之は頗る重要な工業原料である。ベンゾールの他にも水素、硫酸等の副産物も出る。當社には之を處理する技術がなかつた。そこで多年ベンゾールの精製に經驗を持つ南海化學を合併して、その設備と技術を獲得することになつたのである。

【前途】 熔鑪が稼き出すと原料關係に惠れる所が多であるから採算は見直して来る。即ち屑鐵の使用割合を相當に減らすことが出来るからである。それに前記の副産物の利益が相當に期待出来るから、今期以後の當社はかなり樂になる見込みである。一割二分配當は當分不動と斷じてよからう。

【設立】	大正十三年
【決算期】	三月、九月
【事業】	鐵鑄、鋼鑄、鋼材、薄鐵板、鋼力板、特殊鋼、鉛鋼、洋釘等の製造販賣
【資本金】	公稱 1,000,000 株 100,000株
【株主数】	新(1,000) 舊(1,000) 200,000株
【重役】	社長 中山 悅治 取締役 池尾 芳藏 常務 片桐 仲二 監査 中山 半藏 取締役 中山 登 林 市藏 武 文彦 小野 義夫 一松 政二
【株主数】	十一年下 十一年上 十一年下 總數 1,170 1,170 1,170
【事業規模】	年産能力(千噸) 鋼塊 300 船尾能力 300 鋼材 800 條鋼 100 薄鐵板 50 中鋼 300 薄鋼 50 試力板 50 線材加工設備 50 電氣設備 50
【事業成績】	十一年下 十一年上 十一年下 販賣益(千圓) 1,170 1,170 1,170 販賣費(千圓) 400 400 400 販賣益(千圓) 770 770 770
【資本異動】	十一年八月三回増資(金) 1,000,000 十一年八月三回増資(金) 1,000,000 十一年八月三回増資(金) 1,000,000 十一年八月三回増資(金) 1,000,000 十一年八月三回増資(金) 1,000,000 十一年八月三回増資(金) 1,000,000

【資産負債】	十二年 十三年 十三年
株主資本	9,200 9,200 9,200
積立金	1,000 1,000 1,000
外部負債	6,800 6,800 6,800
借入金	6,800 6,800 6,800
使用總資本	10,200 10,200 10,200
流動資産	10,200 10,200 10,200
現金預金	10,200 10,200 10,200
【收支勘定】	十二年下 十一年上 十一年下
収入	10,200 10,200 10,200
支出	10,200 10,200 10,200
【業績】	十二年下 十一年上 十一年下
利益	10,200 10,200 10,200
【時價】	新 100 舊 100
【名義書換】	十 十 十

【鐵鋼事業】

### 大同製鋼株式會社

(本社) 名古屋市港區開町一〇(電 南六五三)

【増益著し】 昨年六月倍額増資を行つて各工場の全面的擴張に乗り出し、其の擴張分の稼働によつて利益も急増しつゝある。昨年九月份は前輯にも報じた通り三月份に比して約五、六十萬圓の増益だ。今期は去る十二月一日新株一株につき十二圓五十錢宛、總額三百二十五萬圓を徴収して熱田工場擴張資金に主として注ぎ込んだ。これが運轉するまではそれだけ拂込資本の壓迫は避けられない筋合だが、既に擴張した部分が運轉して居るから今三月份の収入は一、千七、八百萬圓を豫想され、利益金は銷却控除後と雖も尚ほ百二十萬圓前後を豫想される。前期より二十萬圓近くの増益に當る譯だ。

【配當据置】 本年三月份の利益を右の如く百二十萬圓と押へ、今期配當所要額は十二月一日の拂込徴収により、九分配當繼續の爲には五十四萬七千圓を充當すればよい。現行配當は除裕裡に据置ける。

【拂込接近】 特殊鋼界の重鎮をなす當社は機械素材供給者として時局に即應して大增産を果すべき立場にある。築地工場、熱田工場の擴張は竣工に近いが、星崎工場、東京工場は更に擴張を要求され、之に相當の資金を注ぎ込まねばならない。子會社の拂込をも考慮すれば運轉資金の増大と相俟つて夏頃にはどうしても拂込徴収と云ふことにならう。

【設立】	大正十年十一月
【決算期】	三月、九月
【事業】	鐵鑄、鋼鑄、特殊鋼、合金鐵、製造並一般金屬
【資本金】	公稱 1,000,000 株 100,000株
【株主数】	新(1,000) 舊(1,000) 200,000株
【重役】	社長 川崎 敬三 取締役 小野 秀一 常務 川崎 敬三 監査 坂下 忠雄 取締役 野長 恒男 監査 水松 利龍 取崎 直武 相談 山田 十郎 島田 忠次 福澤 駒吉 志水 謙民 安東 昌彦
【株主数】	十二年下 十一年上 十一年下 總數 1,170 1,170 1,170
【大株主】	東地興業 3,333 木會川電力 1,667 東邦電力 1,000 山一證券 833 仁壽生命 750 大同電力 667 大正生命 500 住友生命 500 【事業規模】 年産能力(千噸) 鋼塊 300 鋼材 800 條鋼 100 薄鐵板 50 中鋼 300 薄鋼 50 試力板 50 線材加工設備 50 電氣設備 50
【事業成績】	十二年下 十一年上 十一年下 販賣益(千圓) 1,170 1,170 1,170 販賣費(千圓) 400 400 400 販賣益(千圓) 770 770 770
【資本異動】	十二年八月三回増資(金) 1,000,000 十二年八月三回増資(金) 1,000,000 十二年八月三回増資(金) 1,000,000 十二年八月三回増資(金) 1,000,000

【資産負債】	十二年 十三年 十三年
株主資本	9,200 9,200 9,200
積立金	1,000 1,000 1,000
外部負債	6,800 6,800 6,800
借入金	6,800 6,800 6,800
使用總資本	10,200 10,200 10,200
流動資産	10,200 10,200 10,200
現金預金	10,200 10,200 10,200
【收支勘定】	十二年下 十一年上 十一年下
収入	10,200 10,200 10,200
支出	10,200 10,200 10,200
【業績】	十二年下 十一年上 十一年下
利益	10,200 10,200 10,200
【時價】	新 100 舊 100
【名義書換】	十 十 十

### 日本特殊鋼管株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内南榮館内(丸ノ内三三)

【砂鐵製鍊成功】 大湊新工場は愈々操業を開始した。我國最初のオール砂鐵の製鍊に成功したのである。舊臘十九日の初出鉄以來作業も略順調で、今期からその収益を見込み得る事となつた。十二月、二月、三月と、各能力百五十趣の回轉爐三基は續いて運轉を始める。一般から冒険と見られてゐた本事業も、かくして戦時下の我が鐵鋼界に寄與する譯で、會社當局の努力を多とせざるまい。

【當分の方針】 最初は製鋼工場をも設備する決定たつたが、該工場建設を暫く延ばし、當分鉄鐵のまゝで市販する方針である。當社の鉄鐵は所謂低磷鉄で磷の含量〇・〇一〇一〇・〇〇七と言はれる。首ふ迄もなく低磷鉄は特殊鋼の原料となり、砲身其他の軍需品として目下頗る引合が多い。當社の出鉄目標は年十萬趣の豫想だが、今期は操業の關係で一萬五千趣位にとゞまる模様である。

【採算・収益】 それでも最低趣百圓内外の差益が得られる見込だから、一萬五千趣を全部市販するとすれば、百五十萬圓一渺なく押へても百廿萬圓の利益を擧げ得るは確事でない。

【増配可能】 右の外に從來の工場からあがる鋼管益が六十萬圓程度ある。昨年十一月の拂込で拂込資本は殖へたが、二割五分以上の利益率となる。認可如何が問題だが、今期一、二分増配は可能だ。

### 株式會社 尼崎製鋼所

(本社) 兵庫縣武庫郡大庄村中濱新田五六(電報局 三六六一)

【拂込徴收】 當社は客臘一日を期し新一株に付き十二圓半宛、總額百十二萬五千圓の拂込を徴收した。三趣電氣爐及び瓦斯發生爐の建設に前拂ひされた資金を穴埋めするためだ。

【減配か】 原料割當制に伴ひ、丸鋼、型鋼、鍛鋼等に減産を實施して居る關係上、業績の向上は無難見込薄だが、前記電氣爐の稼働もあることだから、今期も昨年同期程度の収益は充分擧げ得ると思ふ。とすれば拂込徴收後の平均拂込資本に對し、尙ほ五割餘の利益率を得られるから、現行二割の配當は裕々維持出来る。然し總動員法第十一條に基く配當制限問題が喧しい折柄だから、實際問題として當社も多少の減配を考慮して居るかに見受けられる。その程度は必ずしも豫断を許さぬが、先づ五分程度ではないかと思ふ。前記の通り當社は去る十二月拂込を徴收したから、假令これ位減配したところで、株主には別段迷惑とはならぬ。元來、當社の資産内容は頗る充實して居り、たとへ業績がこれ以上向上を示さなくとも、いま俄かに減配の必要を認めない。それを敢へてするのは二割配當が餘り目立ち過ぎるからだ。

【合併問題】 尼鋼、尼鐵、大阪製鐵の合併問題は一時喧傳されたが、目下の状態では、まだ具體化してゐない模様である。

【設立】	昭和七年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	鋼管、鋼塊、製鐵並に之に必要なる事業
【資本金】	公稱10,000,000 拂込12,500,000
【株数】	新(株)100,000
【重役】	社長 橋本圭三郎 取締役 梅津 七藏 中島 統一 川島 芳樹 常務 昭田平太郎 監査 戸澤 清 近藤 貞一 取締 山本四郎 石坂 泰三 山本 一郎 石坂 泰三
【株主数】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十三年末
【大株主】	中島 統一 第一生命 三〇〇,〇〇〇 日本證券 三〇〇,〇〇〇 東海 要道 三〇〇,〇〇〇 安川雄之助 三〇〇,〇〇〇 林 莊治 三〇〇,〇〇〇 平岡 三郎 八〇〇,〇〇〇 望月軍四郎 六〇〇,〇〇〇 近藤 貞一 一〇〇,〇〇〇 藤山愛一郎 三〇〇,〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 東京市南砂町、埼玉縣戸田村、川口、青森縣大湊 年産能力 鋼管 〇〇,〇〇〇 鋼塊 〇〇,〇〇〇 擴張計畫 鋼管 〇〇,〇〇〇 砂鐵製鍊工場青森縣大湊附近 (昭和十三年中完成)
【事業成績】	十一年上 十一年下 十三年上 製品売上高 三二二,〇〇〇 三三三,〇〇〇 製造原価(二) 一八三,〇〇〇 一八九,〇〇〇
【資本異動】	昭和十一年三月、十三年三月、各三圓半拂込徴收十二月十五萬圓増資十三年二月及十月各三圓五拂込徴收

【資産負債】	十二年 十三年 十三年末
株主資本	三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇 三〇,〇〇〇
積立金	六,〇〇〇 六,〇〇〇 六,〇〇〇
外部負債	六,〇〇〇 六,〇〇〇 六,〇〇〇
借入金	六,〇〇〇 六,〇〇〇 六,〇〇〇
支拂手形	一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
使用總資本	二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇 二〇,〇〇〇
流動資産	八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇
現金預金	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【收支勘定】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十三年末
収入	三三三,〇〇〇 三三三,〇〇〇 三三三,〇〇〇
支出	一八九,〇〇〇 一八九,〇〇〇 一八九,〇〇〇
利益	一四四,〇〇〇 一四四,〇〇〇 一四四,〇〇〇
【株主名簿】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十三年末
株主名簿	〇 〇 〇 〇 〇
【時價】	新 三六・五 舊 三六・五
【名義書換】	十 銭【新券交附】三十 銭

【設立】	昭和七年四月
【決算期】	三月、九月
【事業】	鉄鋼、鋼材の製造賣買
【資本金】	公稱 七,〇〇〇,〇〇〇 拂込 七,〇〇〇,〇〇〇
【株数】	新(株)100,000
【重役】	社長 井上長大夫 取締役 久保田 四郎 常務 淺野 義夫 末 兼 要 取締 井上三郎 平岡 富治 井上 光次 監査 島田 太郎 千葉金三郎 多田 基太郎 千原 三郎 十一年上 十一年下 十三年上 十三年下 十三年末
【株主数】	十一年上 十一年下 十三年上 十三年下 十三年末
【大株主】	八幡製鐵 一六九,〇〇〇 小倉製鐵 一六九,〇〇〇 井上 光次 一〇〇,〇〇〇 小倉 善三 一〇〇,〇〇〇 井上長大夫 一〇〇,〇〇〇 井上好三郎 七〇,〇〇〇 井上 清 一〇〇,〇〇〇 島田 太郎 一〇〇,〇〇〇 井村 商會 三六〇,〇〇〇 丸丸商店 三〇〇,〇〇〇
【事業規模】	製造品 山形鋼、角鋼、鋼管、特殊鋼 工場所在地 兵庫縣大庄村中濱新田 擴張計畫 既設工場擴張 平磯 一基 電動機 〇〇基 鋼管製造工場新設 電動機 〇〇基
【資本異動】	十三年四月廿五萬圓増資第一回 二圓半拂込徴收、五月三三圓、六月元圓 拂込徴收(金額)

【資産負債】	十二年 十三年 十三年末
株主資本	六,〇〇〇 六,〇〇〇 六,〇〇〇
積立金	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
社外負債	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
支拂手形	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
使用總資本	八,〇〇〇 八,〇〇〇 八,〇〇〇
流動資産	三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇
現金預金	一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇
【收支勘定】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十三年末
収入	三三三,〇〇〇 三三三,〇〇〇 三三三,〇〇〇
支出	一八九,〇〇〇 一八九,〇〇〇 一八九,〇〇〇
利益	一四四,〇〇〇 一四四,〇〇〇 一四四,〇〇〇
【株主名簿】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十三年末
株主名簿	〇 〇 〇 〇 〇
【時價】	新 三六・五 舊 三六・五
【名義書換】	廿 銭【新券交附】一圓

【鐵鋼事業】

### 徳山鐵板株式會社

(本社) 大阪市東區高麗橋四丁目三五第一ビル(電北濱 一六二)

【下期減益】當社は歴延一本の會社である。熔鑄爐—平爐—歴延と云ふ一貫作業を行つてゐない。此の點は唯一の弱點と云ひ得よう。材料難の壓迫が甚だしいからである。此の關係で業績も稍や悪化傾向を示して居る。昨下期は七十八萬六千圓の利益を計上したが、對上期二萬一千圓の減益だ。利益率も亦二割九分九厘と二分四厘方の低下だ。尤も一割二分の配當は依然餘裕含みである。

【工場建設】昨年十月の増資を機會に、電氣製鋼工場の建設を進めつゝある。設備は五電氣爐二基及び中型歴延設備で、ハイカーボンの板もの及び帶鐵を製造する。年産能力三千噸で近々竣工の豫定【一割配當が妥當】今上期も限產の壓迫が積り居るから、収益の向上は見込薄と云はざるを得ない。一方、増資の結果、平均拂込資本が増嵩して居る。自然利益率は低下を來す道理であるが、周知の通り、當社の資産内容は頗る弾力性に富んで居るから、假令業績が振はぬとしても、含みを吐き出すと云ふ方法がある。それに、次期以降には電氣製鋼工場の操業に期待が出来る。かれこれ考慮すれば現配當は充分維持出来る筋合だが、材料難に基く限產の影響は當面解消しさうもないから、それに備へる意味で此の際一割配當に引下げるのが妥當だと考へる。

【設立】	昭和三年二月
【決算期】	四月、十月
【事業】	薄鐵板、中鐵板、帶鐵製造
【資本金】	公稱一八〇〇〇 拂込一六六〇〇
【株數】	新(五〇〇) 150,000 舊(一六六) 166,000
【重役】	社長 岩井雄二郎 取締役 村上喜三 専務 友田一太 監査 岩井豊治 取締役 平野亮平 水井繁 下田伊三郎
【株主數】	十三年上 十三年下 總數(名) 一、三三三 一、三三三
【大株主】	岩井商店 川合純一 10,000 山口合資 川合秀野 10,000 大同生命 反馬悦藏 10,000 川部 順一 九千九百九十九 長島クミ 友田一太 九千九百九十九
【事業規模】	工場所在地 徳山工場山口縣大津村(徳山) 生産能力(年産) 薄鐵板 20,000噸 中鐵板 20,000噸 帶鐵 20,000噸
【資本異動】	十二年四月三圓(最終) 拂込徴收十三年十月三圓(最終) 同三圓拂込徴收

【資産負債】	十三年 十三年 十三年
株主資本	1,333,000 1,333,000 1,333,000
積立金	1,333,000 1,333,000 1,333,000
外部負債	1,333,000 1,333,000 1,333,000
支拂手形	1,333,000 1,333,000 1,333,000
使用總資本	1,333,000 1,333,000 1,333,000
固定資産	1,333,000 1,333,000 1,333,000
流動資産	1,333,000 1,333,000 1,333,000
現金預金	1,333,000 1,333,000 1,333,000
【收支】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
収入	1,333,000 1,333,000 1,333,000 1,333,000
支出	1,333,000 1,333,000 1,333,000 1,333,000
【利益】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
高値 安値 高値 安値	1,333,000 1,333,000 1,333,000 1,333,000
【時價】	新五八 七十七厘
【名義書換】	十 七十四厘
【新券交付】	三十 七十四厘

【鐵鋼事業】

### 大阪製鉄株式會社

(本社) 兵衛縣武庫郡大庄村中濱新田(電尼崎六)  
(支社) 大阪市此花區北安治川通一ノ(電土佐堀 五六一七)

【減配断行】昨年十月決算で二分減の一割八分に改めたが、之で當社の配當は安定したと云はれない。今期更に二、三分の減配を断行し、結局一割五分見當に落ち着くこととなるだらう。

【業績順調】當社の減配は業績如何によるものでなく、政策的なものであると云つてよい。試みに昨下期の成績をみると利益金百五十七千圓で前期に比し二万二千圓の減益に止るから、二割配當を据置く氣なら据置けたのである。即ち成績は大體順調を辿つてゐると云つてよい。にも拘らず二分減配し、更に今期二、三分方の減配方針に出たのは、一つには高配遠慮と、もう一つは前途に備へる爲である。

【前途觀】今期の尖項から中型歴延設備が稼行するから全體の生産高は前期より可成り増産となる見込みだ。薄鐵板は限產率の適用關係で猶ほ減産を免れないが、それでも今期は前期より三割見當の増産となるだらう。採算は引續き良好の見込みである。去る十二月一日より鋼材の値下げが行はれたので、中厚鐵板の原料層鐵は適當り約五圓の値下りとなつた。製品の方はまだ値下げとならぬから今期は相當の増益となるだらう。一割五分配當は餘裕裡に撥行出来る。尙ほ尼鋼、尼鐵との合併の噂があるがその眞疑は判らな。

【設立】	大正九年五月
【決算期】	四月、十月
【事業】	各種鐵板製造販賣
【資本金】	公稱一〇〇,000 拂込一〇〇,000
【株數】	新(100,000) 100,000 舊(100,000) 100,000
【重役】	社長 北島安太郎 取締役 風 英吉 取締役 井上長太夫 監査 千葉金三郎 風間武三郎 森下彌三郎 總務(名) 三井上 十三年上 總務(名) 三井上 十三年下
【大株主】	三井 商事 40,000 北島安太郎 30,000 英吉 20,000 井上長太夫 20,000 堀川 菊藏 20,000 鶴岡 正純 10,000 森下彌三郎 10,000 千葉金三郎 10,000
【事業規模】	生産能力(年産) 薄鐵板 20,000噸 厚・中鐵板 20,000噸 鋳鋼力 10,000噸
【事業成績】	七年上 十三年上 十三年下 同金額(千圓) 1,885 2,127 2,127 同金額(千圓) 1,885 2,127 2,127 同金額(千圓) 1,885 2,127 2,127 同金額(千圓) 1,885 2,127 2,127 同金額(千圓) 1,885 2,127 2,127 同金額(千圓) 1,885 2,127 2,127 同金額(千圓) 1,885 2,127 2,127 同金額(千圓) 1,885 2,127 2,127
【資本異動】	十年五月百五十萬圓増資 年十一月第三回三圓五拂込徴收 十二年六月第二回三圓五拂込徴收 十三年十月三圓増資 増資第一回元圓拂込徴收

【資産負債】	十二年 十二年 十二年
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
積立金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支】	十二年上 十二年下 十二年上 十二年下
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【利益】	十二年上 十二年下 十二年上 十二年下
高値 安値 高値 安値	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時價】	新五八 七十七厘
【名義書換】	十 七十四厘
【新券交付】	三十 七十四厘



### 東洋鋼板株式會社

(本社) 大阪市北區宗是町一丁目大阪ビル(電土佐堀五、二七)

【日鐵と提携】客臘、日鐵では當社の新高株式七万五千株(舊二万五千株、新五千株)を買収、同時に中井、古井、阿部、越山の四氏を當社の經營陣に参加せしめた。かくて當社は日鐵の傘下に入ったわけである。

【東洋機械】當社の製機部を分離獨立せしめた新會社東洋機械は既に去る一月十日創立總會を済ました。東洋機械は資本金一千五百万圓、内三百七十五万圓拂込だ。總株数は三十万株、此の内十四万九千三百株を東洋鋼板で持つて居る。六呎旋盤の專門製作を目標とする有望事業で、目下建設工事を急いで居る。此の資金調達のため七、八月頃第二回拂込が徴收せられよう。決算期は四月、十月で初配當は一割の手定であったが、配當制限の実施で六分以上は覺束ない。が、期を追ふて引き上げられる可能性はある。

【不安なし】懸つて、東洋鋼板の業績は如何。昨年同期計上利益は九十三万七千圓、利益率一割八分七厘で、對前期四万三千圓を増加したが、利益率は九厘方の低下となつた。利益率の低下は平均拂込資本急増の結果だ。が、一割配當は格に維持して居る。今期は新鋭コールド・ミルが期を通じて寄與するから相當の増益を見る筈だ。現配當は充分維持出来る。

【設立】	昭和九年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	鋼板及加工品、機械器具の製作
【資本金】	公稱 11,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	新 300,000 旧 100,000
【重・役員】	社長 小野 耕一 取締役 松岡 潤吉 小野 高橋連之助 平野 友明 常務 中山 克巳 監査 岸本青左衛門 有川 隆一 木村幸次郎 川崎 清三郎 木村幸次郎 山口 幸三郎 間島 幸三郎
【大株主】	東洋鋼板 2,700 田附政治部 1,200 漢口富三郎 1,100 小野 耕一 1,000 高橋連之助 800 藤本正太郎 700 日本生命 700 松岡 潤吉 600 進藤 敏彦 500
【事業規模】	工場所在地 山口縣都鄙郡下松町
【事業成績】	事業成績 13年下 2,800 13年上 3,700 14年下 5,800 14年上 7,200
【設備費】	設備費 (A) 2,300 2,700 (B) 1,000
【關係会社】	東洋製鐵と姉妹會社
【資本変動】	11年三月千五百萬圓に三倍増資、第一回三圓拂込徴收、13年二月三圓五拂込徴收

【資產負債】	十二月 廿三牌 廿三牌
株主資本	12,200
積立金	3,200
社外負債	2,800
借入金	3,800
支拂手形	3,000
使用總資本	19,000
流動資産	10,000
現金預金	6,000
【收支確定】	13年下 2,800 13年上 3,700 14年下 5,800 14年上 7,200
【收支確定】	13年下 2,800 13年上 3,700 14年下 5,800 14年上 7,200
【消却年率】	13年下 0.8 13年上 0.8 14年下 0.8 14年上 0.8
【利息】	13年下 0.8 13年上 0.8 14年下 0.8 14年上 0.8
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5

### 株式 吾孀製鋼所

(本社) 東京市向島區吾孀町東四ノ九三(電豊田三三三)

【業績急低下】昨年同期の利益金は五十五万七千圓に過ぎなかつた。上期の百十七萬四千圓に比し著しい減少で、約半減してゐる。利益率も一割八分強に急低下したので、一割配當も餘裕なくなつた。尤も利益金は銷却後のものだから實際の利益はこれより多いが、窮屈化したことに變りはない。減益の原因は鋼材減産により線材、薄板の賣上が減少したことだ。上期に比し四百萬圓の賣上減であつた。その上、屑鐵が急騰し、採算は悪化したのである。

【低下事情續く】右の事情は益當分繼續する。銑鐵、屑鐵等の製鋼原料は依然不足だから不要鋼材の減産は緩和されない。これに加へて、三月積から鋼材建値の引下げの影響をうける。今期は更に減益が豫想されるが、配當に影響する程のことはいはない。

【設立】	昭和八年八月
【資本金】	公稱 11,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	新 300,000 旧 100,000
【重・役員】	社長 油田 尚郎 取締役 池島 三省 常務 高橋 正雄 監査 木下 茂 藤井 壽八 徳武 徳太郎
【大株主】	13年下 5,000 13年上 6,000 14年下 7,000 14年上 8,000
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5

### 株式 宮製鋼所

(本社) 東京市東區東砂町六ノ四(電本所三三三)

【特殊鋼進出】平和向製品より軍需向製品に移行しつつあること前報に報じた如くであるが、自動車用特殊鋼の生産に乗り出したため十越電氣爐二基の建設は豫定より著しく遅れ四月下旬完成する見込が立つた。建設費として八十萬圓を要する。また鐵工品製作にも進出する。既に機械は大牛準備されてゐるので近々操業開始の運びとなる筈である。其の外、中型壓延工場も引續き擴充される。

【拂込接近】右の擴張設備に約三百萬圓を要する。昨年夏増資新株第一回拂込總額七十五萬圓を徴收して一部に充當したが、尚ほ甚だしく不足である。新事業計畫の具體化に伴ひ資金を十分に賙はねばならぬ。来る五月頃第二回拂込一株十二圓半宛が徴收されるのであろう。拂込資本は膨脹するが配當にまで響くことはない。

【設立】	昭和十年十月
【資本金】	公稱 2,000,000 拂込 1,000,000
【株数】	新 100,000 旧 0
【重・役員】	社長 高橋 俊秀 取締役 鈴木 敏吉 常務 渡野 長松 監査 高橋 秀吉 取締役 千田 武彦 千葉 三郎
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5
【時價】	13年下 1.8 13年上 2.5 14年下 3.5 14年上 4.5

【業績概要】

### 東海鋼業株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内一ノ二電丸ノ内六也  
(出張所) 大阪市西區江之子島西町

【前期夏好】 昨年下期は減産の影響をうけて製品賣上高は百八十万圓を減少したが、支出もこれに應じて減つたので利益金は六十四万二千圓を挙げ得た。上期に比し三万九千圓の減益に過ぎず、利益率は五割七分強を示し、一割配當は餘裕裡に措置された。資産償却も三年強といふ短期で、申分のない決算であつた。

【今期以後】 當社は厚板、中板、山形、中丸を製造してゐるが、山形を除き減産率は小さいので、他社に比し恵まれてゐる。原料の鋼塊、シートバー等は日鐵より供給されるが、一月積より越五圓の引下げをうけ、他方製品は十圓の引下げとなる。差引五圓の減益となる勘定だ。單純壓延會社はいふ場合に甚だ不利だ。併し、半期四十萬圓の利益は充分挙げ得るから配當には心配ない。

【設立】 大正五年十二月

【資本金】 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000

【株數】 (株) 10,000

【重役】 社長 田中榮八郎 取締役 伊藤九萬一  
常務 大橋不二雄 監査 長谷川太郎吉  
取締役 白石元治郎 大西良輔  
岡崎久太郎 岡崎 博  
鈴木 拙藏

【業績】 利益率 配當 利益償却  
十二年下 四三・三 一〇〇 七・一  
十三年上 六一・〇 一〇〇 七・八  
十三年下 六一・七 一〇〇 七・七  
十三年上 六一・七 一〇〇 七・七

【株價】 (實價) 高値 安値  
十三年 五三・〇 四〇・〇  
十三年 五三・〇 四〇・〇

【豫想配當】 十四年五五期 一割  
【時價】 五三・五 【利息】 七分一厘

### 特殊製鋼株式會社

(本社) 東京市蒲田區南六郷二丁目(電蒲田三三〇)

【二分減配】 昨年十一月期に二分減配の一割三分配當へ引下げた。十一條問題により軍需會社の高率配當は遠慮を餘儀なくされるに至つたからだ。拂込増加に拘らず利益率は八割四分五厘を示したのである。減配は全く政策的性質のものであつたことが肯ける。

【三倍増資】 懸案の増資は断行された。五百萬圓の資本金を三倍増資し、一千五百萬圓となし、第一回拂込十二圓半、總額二百五十萬圓は去る三月一日徴收された。増資金は川崎市大野河原鹽濱の新工場建設に充當される。同工場は蒲田工場の二倍以上の規模を有し、その完成は來年に及ぶ筈だ。拂込は急速に徴收され、更に擴張が續けられる豫定だ。従つて再増資も速くあるまい。今期は拂込負擔の増嵩で若干利益率は低下するが、業績は依然優秀を續け得る。

【設立】 昭和四年六月

【資本金】 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000

【株數】 (株) 10,000

【重役】 社長 石原米太郎 取締役 藤原九南門  
常務 鈴木和志理 監査 松島喜市郎  
取締役 渡邊 政人 山下 英治

【業績】 利益率 配當 利益償却  
十二年下 四三・三 一〇〇 七・一  
十三年上 六一・〇 一〇〇 七・八  
十三年下 六一・七 一〇〇 七・七  
十三年上 六一・七 一〇〇 七・七

【株價】 (實價) 高値 安値  
十三年 五三・〇 四〇・〇  
十三年 五三・〇 四〇・〇

【豫想配當】 十四年五五期 一割三分  
【時價】 五三・五 【利息】 四分八厘

【業績概要】

### 日本高周波重工業株式會社

(本社) 京府長谷川町一〇二  
(支社) 東京市麹町區内幸町東五丁目

【下期成績】 昨年十一月末締切の下期成績は利益金九十二万五千餘圓と上期に比し三十五萬圓の増益に當る。利益率は三割七分と之亦一割四方の向上を示してゐる。然るに配當は二分減の一割に改めた。言ふまでもなく時局柄自顧したのである。業績の飛躍的向上は城津工場が本格的に稼働した上、特殊鋼拂込の折柄高値段で有利に販賣し得たからである。

【將來に注目】 親會社利原鐵山をバックとするだけに原料に事缺かぬ。富山の工場も愈々三月始め一切の設備が整つた。既に姉妹會社漢江水力は設立され、當社は此處に電力を仰いで特殊鋼の一大増産計畫を樹て、中部朝鮮に新設工場を建設する。一億圓増資が約束されてをり將來の發展を注目される。近く株式が公開される筈だ。

【設立】 昭和十一年一月

【資本金】 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000

【株數】 (株) 10,000

【重役】 社長 有賀 光登 取締役 小林 秀雄  
常務 高橋 省三 常監 立川 平  
常務 木村 和木 松宮 清  
安井 清

【業績】 利益率 配當 利益償却  
十二年下 四三・三 一〇〇 七・一  
十三年上 六一・〇 一〇〇 七・八  
十三年下 六一・七 一〇〇 七・七  
十三年上 六一・七 一〇〇 七・七

【株價】 (實價) 高値 安値  
十三年 五三・〇 四〇・〇  
十三年 五三・〇 四〇・〇

【豫想配當】 十四年五五期 一割  
【時價】 五三・五 【利息】 七分一厘

### 日本砂鐵工業株式會社

(本社) 兵庫縣加古郡高砂町字向島(電高砂七三〇)  
(出張所) 東京市麹町區丸の内九丁目(電丸の内五三〇)

【業績夏好】 前途を不安視された當社も事業が愈々本格的となつて來たので、不安は略々解消されつゝある。殊に最近の成績をみると事業の基礎が固つた如く思はれる。昨年下期の成績をみると利益金は百七十五萬九千圓で利益率は五割二分だ。之を其の前期と比較すると利益金は九十三萬三千圓の増加であり、利益率は二割二分の向上となつてゐる。一割配當は問題なく、頗る餘裕を加へたことが知られるだらう。

【拂込・増資】 新工場の建設費には大約二千萬圓を要するので、一部を借入金で賄ふとしても、拂込、増資は結局不可避と断じてよい。未拂込金徴收の上最少二千萬圓程度の増資断行となるだらう。その時期は早ければ今年中運くも、明年春には實現するだらう。

【設立】 昭和九年十二月

【資本金】 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000

【株數】 (株) 10,000

【重役】 社長 石崎長八郎 取締役 嶋谷 勇  
常務 上野建二郎 常監 若林 秀雄  
取締役 細字 榮 松尾 謙  
佐々木 義彦 監査 嶋谷 武夫

【業績】 利益率 配當 利益償却  
十二年下 四三・三 一〇〇 七・一  
十三年上 六一・〇 一〇〇 七・八  
十三年下 六一・七 一〇〇 七・七  
十三年上 六一・七 一〇〇 七・七

【株價】 (實價) 高値 安値  
十三年 五三・〇 四〇・〇  
十三年 五三・〇 四〇・〇

【豫想配當】 十四年五五期 一割  
【時價】 五三・五 【利息】 七分一厘

### 日本亞鉛製鍊株式會社

(本社) 東京市神田區鍛冶町一ノ二太平ビル内(電神田三三一九)

【別會社設立】國產原鑛石を以てする亞鉛製鍊を目的として、資本金一千万圓の日本亞鉛株式會社を創設する。第一回拂込二百五十萬圓を三月三十日に徵收するが、創立總會開催は四月二十二日頃となる模様である。工場は秋田縣下に物色中であるが、買電關係で他所に變更されるかも知れぬ。當初は精鑛の販賣で利益を擧げることとなるが、製鍊所完成の曉は年産七千噸の亞鉛製鍊を行ふ段取りだ。

【業績夏行】昨年十一月期締切の下期決算では利益金三十萬五千餘圓で、對上期五萬二千圓の増益に當る。然し拂込資本の膨脹で利益率は三割六分と上期に比し僅少年ら低下した。それにしても一割配當は餘裕綽々である。目下焙燒設備を施しつゝあり、完成すれば國產原鑛石より製鍊の一貫作業が具現される。配當に不安ない。

【設立】昭和十二年二月	【資本金】公稱 五、〇〇〇、〇〇〇	【業績】
【株主】	【重役】	【業績】
會長 安宅武 取締役 小川和一	社長 安宅武 監査 坂井他家喜	十二年下 一、〇〇〇、〇〇〇
常務 野口國樹 竹田儀一	取締役 川合秀一 相談 櫻井兵五郎	十三年上 一、〇〇〇、〇〇〇
大工原友一		十三年下 一、〇〇〇、〇〇〇
		十四年上 一、〇〇〇、〇〇〇
		十四年下 一、〇〇〇、〇〇〇
		【時價】三三〇
		【利息】
		八分五厘

### 日本亞鉛鑄鋼業株式會社

(本社) 兵庫縣武庫郡大庄村中濱新田字南西ノ切(電福島四六二)

【増資含み】工場隣接地に八千餘坪の敷地を買収、此處に輕軌條製造工場を建設することとなつた。此の建設資金は約五百萬圓。これを賄ふため遠からず最終拂込を徵收の上、倍額程度の増資に進む筋合にある。鑄山用として、また北支、滿洲の開發資財として、輕軌條の需要は愈々旺盛を加へつゝあるから、工場完成の曉は必ずや業績に寄與するであらう。尙ほ工場完成後定期は明年四月頃である。

【配當安泰】昨下期計上利益は九十五萬二千圓、利益率五割八分六厘、一割二分配當を據置いた。今期は新規建設の平爐が稼動した一方、電氣爐(二機)も亦運轉して居るから、業績は寧ろ向上が期待される。とすれば現行一割二分の配當は裕に維持可能だ。擴張機運にある注目すべき會社であらう。

【設立】大正七年三月	【資本金】公稱 五、〇〇〇、〇〇〇	【業績】
【株主】	【重役】	【業績】
社長 田中徳松 取締役 小森富作	常務 井坂彦治 監査 乾福之助	十二年下 一、〇〇〇、〇〇〇
取締役 福田三郎 東代清次郎		十三年上 一、〇〇〇、〇〇〇
		十三年下 一、〇〇〇、〇〇〇
		十四年上 一、〇〇〇、〇〇〇
		十四年下 一、〇〇〇、〇〇〇
		【時價】高五
		【利息】
		七分

### 住友金屬工業株式會社

(本社) 大阪市此花區島屋町三七(電土佐堀五五一)

【最終拂込】四月一日新一株に付十二圓半宛、總額千二百五十萬圓の最終拂込を徵收、これで當社は一億圓全額拂込済の大會社となつた。次は順序として増資である。

【擴充に邁進】當社は我國金屬工業界の重鎮であり、従つてまた典型的な時局會社である。事業の擴充に大童の状況にあるのも蓋し當然と云ひ得よう。一昨年十二圓の増資を機會に設備の大擴張を進めて來たが、これは今後も引續き強行される。擴張は伸鋼、製鋼、鋼管、及びプロペラの各部門に亘る全面的なもので、此の爲め最近廣大な敷地を買収した模様だ。

【倍額増資か】これ等の擴張資金として今後幾許を要するかは詳かにし得ない。然し、前記の最終拂込株金だけでは僅かに一部しか支辨し得ず、引續き資金の大需要に迫られることは明かだ。此の資金調達の意味から、結局は増資を斷行せねばならぬ筋合だ。その額は先づ倍額程度の見込である。

【向上期待】昨下期計上純益は七百四十八萬一千圓、純益率一割九分九厘に當る。平均拂込資本が急増したにも拘らず、業績はその前期よりも向上を示した。九分配當は餘裕綽々だ。今期業績も依然向上が見込まれる。従つて現配當は勿論據置とみて間違ない。

【設立】大正十五年七月	【資本金】公稱 一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	【業績】
【株主】	【重役】	【業績】
會長 古田俊之助 取締役 杉浦 彌三	常務 春日 弘 監査 松田 健	十二年下 一、〇〇〇、〇〇〇
常務 木下 亮吉 監査 大平 賢作	取締役 久島 精一 國府 精一	十三年上 一、〇〇〇、〇〇〇
取締役 小倉 正恒 岡崎 林	山本 信夫 谷林徳太郎	十三年下 一、〇〇〇、〇〇〇
荒木 安夫 濱松 敏雄		十四年上 一、〇〇〇、〇〇〇
		十四年下 一、〇〇〇、〇〇〇
		【時價】高五
		【利息】
		七分

### 古河電氣工業株式會社

(本社) 東京市町田區九ノ内二ノ八(電丸ノ内四二六一)

【前期成績】昨下期の銷却控除後の利益は三百二十八萬四千圓と對上期九十九萬六千圓の減益を示した。然し乍ら上期に於ては新株式額面超過金が百四十一萬圓含まれてゐるから、實質上は三十九萬六千圓の増益を告げたことになる勘定だ。而して配當は時局柄特配を普通配に繰入れ一割としたが、銷却後の利益率二割二分三厘からみる限り餘裕タップリといへる。

【擴張續行】製作品は近時益々軍需關係品が多くなつてゐる。從つて設備擴張の手は仲々に弛められぬ。尼崎伸銅所はこれまでの敷地を住友金屬に賣却して新設工場に移り大阪伸銅所に合體して内容を整備充實することとなつた。保土ヶ谷の電池工場も此の程敷地を買足し、設備を擴張して増産に邁進する。日光精鋼所の航空機用ジュラルミン生産も愈々好調だ。これら問題の日本輕金屬が當社の目論見通りに完成されるならば、更に一段の飛躍が期待される譯だが、此の問題は果してどうなるか、今俄かに豫断は許されない。

【拂込と配當】投資會社は當面一路擴張を續行して居り、また日本輕金屬の事業進行につれても之等會社への投資金は莫大を額に上るであらう。社債一千七百萬圓、借入金等で支辨しても到底十分ではない。矢張り拂込が豫想されるが、現行配當は確固不動だ。

### 東亞金屬工業株式會社

(本社) 神戸市兵衛區濱町三ノ二〇三五(電查合美七)  
(營業所) 神戸市神戶區西町與銀ビル内(電三宮三、電一八)

【配當據置】昨年十二月末締切の決算は利益金六十五萬六千圓で對平均拂込資本利益率は二割四分弱だ。前期と殆んど變化なかつたので配當は一割二分を据置いた。

【人機分離】當社は昨年十月坂越人機工場を資本金八百萬圓の東亞纖維工業に概算四百六、七十萬圓で分譲した。此の分譲代金は一部を借金返済に當て残り擴張資金に充當することになつてゐる。擴張される部面は本社工場の工作機械部と土山工場の輕合金部である。借金は輕減され、擴張分が働き出せば當社の成績も今年上期から漸次向上されるものと期待される。

【問題の輕合金】當社の輕合金はR・Rの特許を買取したもので、その技術に對しては未だに疑問視されてゐるやうだ。之が當社の株價の伸長を壓迫してゐる唯一の原因だ。操業當初は或は技術的に多少ギコチない所があつたかも知れないが、現在は最早完全な製品を出してをり、既に軍部の指定工場となつてゐる。とすれば技術の點では疑ふ餘地はないと云つてよからう。問題は採算關係である。諸原料の昂騰乃至拂込を考慮すれば一概に樂觀は出來かねる。が然し既に指定工場となつてゐることだし、輕合金はいくらあつても足りない状態だから、大した心配は要らぬだらう。

【設立】明治二十九年六月

【決算期】四月、十月

【事業】伸銅、各種電線、電燈、電池  
輕合金鑄管、板、棒、特殊塗料

【資本金】公稱額五〇〇〇〇〇〇  
拂込額一六、〇〇〇〇〇〇

【株主名】新(三五〇)  
舊(一〇〇〇)

【重役】社長 杉本五十鈴  
取締役 河手 隆二 監査 平沼 亮三

【株主名】(大株主) 古河石炭株式會社  
三友株式會社

【事業規模】日光電氣精製所 九州電線製造所  
大阪伸銅所 電池製作所

【資本興助】十一年十二月三十一日  
十二年五月三十一日

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

【名義書換】十 十 十

【時價】(株) 高値 安値 新株  
十一年下 二〇〇〇 一〇〇〇

### 日本電気工業株式會社

(本社) 東京市京橋區寶町一ノ七味の番ビル内(電氣橋 二五二)

【事業の再建】電工は企業的に安定した。中心事業のアルミ部門が再建せられたからだ。不利な明礬石を捨て、有利なボーキサイトを原料とすることに轉換したことを意味するも而も昨秋以來の生産は月毎に上昇カーブを描き益々事業の安全感を深めたのである。これに加へて其他の企業部面も著しく好轉し、一割配當に安心の出来るものとなつた。

【昭和と合併す】この際突如として同系の昭和肥料と對等に合併することになつた。期日は来る六月一日で社名は昭和電氣工業と改められる。この合同は電工自體を潤す事顯著であつて、このため電工の將來性は舊態一新の強味を加へたものと見ても間違ひない。

【合併の効果】電工はアルミの大増産を企てゝある。現在能力の年産一萬一千超から四萬七千五百超に擴張する。この内二萬二千超の増産が許可された。昭和と合併すれば差し詰め増産に必要な電力が得られ昭和の不用とする電動機が利用され、また資金關係が潤澤となり同時に電工自體の不良資産が薄められる。森系の力は株式的にも飛躍的に強化される。一割配當に安定性を加ふる事勿論だ。

【拂込の豫收額々】拂込は頻々と徴收され遂には倍額増資とならう。電工分の未拂込一千萬圓は来る五月一日に徴收される。

### 日滿アルミニウム株式會社

(本社) 東京市麹町區内幸町二ノ一大阪ビル二號館内(電氣橋五二〇一)

【擴張と倍増資】日滿アルミと東北振興アルミとは異身同體の柄である。振興アルミは日滿の分身として創立され目下郡山に能力三千超の工場が建設中だ。これが完成し操業開始となるのは来る五月頃の豫定である。これは電解工場だけで原料アルミナは日滿の富山工場から供給すべく、これまた郡山工場に並行して擴張中だ。新しくして来る五月以後の日滿は能力一萬超設備を持つことになるが、更に引續き郡山工場に一貫設備を施し同時に七千超の擴張を行ふて年産一萬超の工場たらしめる。同時にまた新に地を下して三千超の別工場を建設すべく目論んでゐる。つまり、日滿、振興を合せての生産能力を一躍二萬超に増大する計畫だ。

【倍額増資決定】これに充當するため三月一日に臨時總會を開き資本金を倍増して四千萬圓とすることに決定した。この増資は現在未拂込の全額徴收後に行はれるか或は全額拂込前に行ふかは未定だが、若しも輕金屬事業法が六月末日迄に實施せらるゝ事になれば全額拂込を待たずに決行される。株式の割當は一対一だ。

【八分配當安定】増資後も八分配當の持續は安心である。輕銀時代を反映して業績は向上の一途を辿るであらう。業界に於ける特殊的存在として其の強味は國策的にも伸ばされる日があらう。

【名義書換】十

【設立】	大正十五年十月	【設立】	昭和八年十月
【決算期】	三月、九月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	アルミニウム、沃度、加里	【事業】	アルミニウム製錬業
【資本金】	公稱 50,000,000 拂込 11,000,000	【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株主数】	新 1,000 舊 1,000	【株主数】	新 1,000 舊 1,000
【役員】	社長 高田清三郎 専務 佐野清一 常務 近藤静一郎 取締役 高橋保、石原新三郎、若瀬亮、浦山助太郎、石毛竹治、米村貞雄、土屋計左右	【役員】	社長 古田忠徳 専務 林好文 常務 小畑三郎 取締役 多田精、岡宮清治
【大株主】	八六八 八六八	【大株主】	三二六 三二六
【事業規模】	高田清三郎、石原新三郎、若瀬亮、浦山助太郎、石毛竹治、米村貞雄、土屋計左右	【事業規模】	富山縣東岩瀬港 工場、鑛業工業、電解工場 主要製品 (理研乾式法) 祖アルミ 珪素鐵 精アルミ アルミ 製精アルミ 電極

【資産負債】	十二月	【資産負債】	十二月
株主資本	10,000,000	株主資本	10,000,000
借入金	1,000,000	借入金	1,000,000
流動資産	2,000,000	流動資産	2,000,000
固定資産	6,000,000	固定資産	6,000,000
現金預金	2,000,000	現金預金	2,000,000
支出入	1,000,000	支出入	1,000,000
消却年率	10%	消却年率	10%
【株主】	高田清三郎	【株主】	高田清三郎
【時價】	新 100	【時價】	新 100
【名義書換】	十	【名義書換】	十

【資産負債】	十二月	【資産負債】	十二月
株主資本	10,000,000	株主資本	10,000,000
借入金	1,000,000	借入金	1,000,000
流動資産	2,000,000	流動資産	2,000,000
固定資産	6,000,000	固定資産	6,000,000
現金預金	2,000,000	現金預金	2,000,000
支出入	1,000,000	支出入	1,000,000
消却年率	10%	消却年率	10%
【株主】	高田清三郎	【株主】	高田清三郎
【時價】	新 100	【時價】	新 100
【名義書換】	十	【名義書換】	十

### 日本アルミニウム株式会社

(本社) 東京市麹町區丸の内海上ビル新館内(電丸ノ内六五)

【拂込と擴張】アルミニウムの生産擴充計畫に對應して當社も亦頻りに増産計畫を進めてゐる。高雄工場は年産能力六千噸の處昨年十二月の擴張完成で年産八千噸となつた。引續きこれに四千噸を増して明年三月末迄に一萬二千噸工場に擴大される。同時に花蓮港工場に第一期能力四千噸の設備が施される。來年六月末が完成期である。即ち差當り八千噸の擴張計畫であるが、其の認可は三月六日の資金調整委員會で許可された。所要資金は第二回拂込一株十二圓半、合計五百萬圓の徵收で賄はれる。四月廿五日期限で徵收される。

【成績は上昇一路】アルミ生産に漸く練達期を迎へ、昨秋以後に數量的上昇傾向が認められ操業以來二ヶ年半にして本格的運営を見ることになつた。本年一月からは新に二千噸設備が動き出し、この爲三月締切りの成績は創業以來の記録を作るが、併し其の増設の効果は百パーセント業績に現はれてくるのは下期九月決算からだ。一年後の來年九月期からは四千噸能力が増し、又再來年三月期からは四千噸設備が操業開始となる。無論、拂込資本も逐時累加して行くが、期を逐ふての製造高増進は利益を累加して拂込増加を克服するものと思はれる。現在の八分配當は既に餘裕含みだが、之に止める限り前途は益々ユトリを加ふるだらう。

### 日本ニツケル株式会社

(本社) 東京市日本橋區吳橋三ノ七(電日本橋吳六一)

【一割持續可能】企業的に成功し安心の持てる會社となつた。主要製品はニツケル・クローム鋼とステンレス鋼と純ニツケルとであるが、利益は前二者から擧げられる。十三年下期の製鋼高は二者取り混ぜて一千五百噸見當だつた。これから四十四萬圓の利益が計上されたが四月締切の本年上半期は更に向上し愈々企業本格化の第一歩に踏出したことが立証されよう。豫想生産高は三千噸以上、これが齎らす利益は九十萬圓から百萬圓に達すると思はれる。この期の拂込資本は一月十五日の一株十圓合計二百萬圓の徵收で六百萬圓に増大するが利益年率は三割前後となるので一割配當の持續に問題ない。

【擴張設備進む】擴張計畫は着々と進んでゐる。豫定の大擴張が完成し操業の開始となるのは來る八月以後となるが、それまでに部分的に竣工して能力は次ぎ／＼に増加して行く。差し詰め製鋼部の新設乃至改造整備は三月中に完成して當社が念願とするインゴットから仕上げまでの一貫作業開始となり面目は一新する。コストは半減し利益は急向上を示すことにならう。かくして一割配當に一段のユトリは加はつてくる。

【企業的安全性】當社は同一資源から純ニツケルを作り同時に時局向の特殊鋼を送る。茲に企業的安全性を有つ事を認めねばならぬ。

#### 【資産負債】

株主資本	九十二年	三十二年	九十二年
積立金	10,000	10,000	10,000
外部負債	10,000	10,000	10,000
支拂手形	10,000	10,000	10,000
流動負債	10,000	10,000	10,000
固定資産	10,000	10,000	10,000
投資助産	10,000	10,000	10,000
流動資産	10,000	10,000	10,000
現金預金	10,000	10,000	10,000
【收支勘定】	十二年下	十三年上	十三年下
収入	10,000	10,000	10,000
支出	10,000	10,000	10,000
利益	10,000	10,000	10,000
【業績】	十二年下	十三年上	十三年下
売上	10,000	10,000	10,000
費用	10,000	10,000	10,000
利益	10,000	10,000	10,000
【時價】	新交元	【利通】	五分八厘
【名義書換】	十號	【新券交付】	五十號

#### 【資産負債】

株主資本	十二年	十三年	十二年
積立金	10,000	10,000	10,000
外部負債	10,000	10,000	10,000
支拂手形	10,000	10,000	10,000
流動負債	10,000	10,000	10,000
固定資産	10,000	10,000	10,000
投資助産	10,000	10,000	10,000
流動資産	10,000	10,000	10,000
現金預金	10,000	10,000	10,000
【收支勘定】	十二年下	十三年上	十三年下
収入	10,000	10,000	10,000
支出	10,000	10,000	10,000
利益	10,000	10,000	10,000
【業績】	十二年下	十三年上	十三年下
売上	10,000	10,000	10,000
費用	10,000	10,000	10,000
利益	10,000	10,000	10,000
【時價】	新交元	【利通】	五分八厘
【名義書換】	二十號	【新券交付】	五十號

### 日本ステンレス株式会社

(本社) 東京市東橋区京橋三ノ二(片倉館内) 電話東京三一一一七

【増配相次ぐ】成績は極めて順調である。そして今後ともまた順調であらうと思はれる。當社の製品ステンレス(不銹鋼)は既に平時用品として毎日に需要が擴大せられてゐるところ、事變以來鐵鋼、銅、砲金、アルミニウム等の代用品として利用せらるゝに至り需要は一段の増進を現はすやうになつた。これに對應して當社の生産能力は連續的に擴大されつゝある。このため投下資本は毎期累増の勢を示しつゝあるが、それにも増して利益は累増し株主配當は八分から九分に増され、更に本年三月份は引續き一分増の割配當とするに内定してゐる。恐らく創業以來の好成绩が示さるゝ事であらう。

【連續的擴張】昨年八月の三倍増資に依つて一段と積極的の増産計畫が進められてゐる。東邦電力、タイアップに依る第二ステンレスは姑く置いて當社の直江津工場は一万噸から二萬噸に擴大されたが續いて年内までに一万五千噸の増設が行はれ、更に年産四萬五千噸の新工場建設が目論まれてゐる。かくして昭和十六年三月までに年産八萬噸の大設備たらしめんとするのである。

【來期の業績】來期は年産二萬噸の設備がフルに運轉する。而も設備の完成でインゴットから壓延、加工への一貫作業實現となつて採算は好轉し業容は様變りとならう。

### 三菱重工業株式会社

(本社) 東京市麹町區丸の内二ノ四(電丸ノ内 三三一九)  
(支店) 東京市蒲田區中丸子町三三

【前期好調】昨年十二月締切の下期成績をみるに、銷却後の利益金は七百四十四萬八千餘圓で、對上期百八萬圓の増益に當る。利益率一割六分三厘に及ぶから七分配當は餘裕たっぷりな決算といへる。尚ほ銷却前の利益は一、千二百五十萬圓にも達した程で、一分程度の増配も可能な業態であつた。

【擴張強行】原・材料拂底の折ながら擴張設備は各工場一齊施行される。長崎、神戸の造船所は勿論、名古屋の航空機體、發動機も増産され、更に東京機器製作所では自動車製作を一時中止し、特殊兵器製作に編成替することとした。

【再増資必至】今後の擴張資金は莫大に上る。それに當社は現在社債三千萬圓と支拂手形七千萬圓を有する。去る三月一日第三回拂込新株一株十二圓半、總額一千五百萬圓を徴収した。これ丈では擴張資金を賄ふに著しく不足である。引續き最終拂込を徴収すべき筋合にあるは勿論、再増資も亦必至の情勢だ。

【配當安泰】軍需品製作を主とする關係から、また堅實決算を建前とする立場からも増配を自重してゐる。然し其の實現は兎も角として増配の可能性が殘されてゐるの否定出来ない。内容の優れた當社の現行七分配當は確固不動といへる。

<b>【設立】</b> 昭和九年四月	<b>【決算期】</b> 三月、九月	<b>【事業】</b> ステンレス塊、飯、棒、引板、管、鑄物製造販賣
<b>【資本金】</b> 公稱 100,000 拂込 100,000 株主 新 100,000 舊 0		
<b>【役員】</b>		
<b>【株主】</b>		
<b>【大株主】</b>		
<b>【設立】</b> 大正六年十月	<b>【決算期】</b> 六月、十二月	<b>【事業】</b> 船舶、艦艇、航空機、各種車輛、自動車、各種機械並鐵工品
<b>【資本金】</b> 公稱 100,000 拂込 100,000 株主 新 100,000 舊 0		
<b>【役員】</b>		
<b>【株主】</b>		
<b>【大株主】</b>		

<b>【資産負債】</b>	十二年 九月	十三年 三月	十三年 九月
<b>株主資本</b>	3,090,000	4,000,000	4,750,000
<b>社外負債</b>	1,010,000	7,900,000	5,130,000
<b>流動資産</b>	4,800,000	12,450,000	10,250,000
<b>固定資産</b>	4,670,000	5,900,000	5,300,000
<b>現金預金</b>	4,270,000	11,200,000	8,900,000
<b>流動負債</b>	1,710,000	1,600,000	1,600,000
<b>固定負債</b>	1,800,000	1,700,000	1,700,000
<b>繰上金</b>	20,000	550,000	650,000
<b>繰下金</b>	0	0	0
<b>繰上準備金</b>	0	0	0
<b>繰下準備金</b>	0	0	0
<b>繰上負債</b>	0	0	0
<b>繰下負債</b>	0	0	0
<b>繰上利益</b>	0	0	0
<b>繰下利益</b>	0	0	0
<b>繰上損失</b>	0	0	0
<b>繰下損失</b>	0	0	0
<b>繰上剰余金</b>	0	0	0
<b>繰下剰余金</b>	0	0	0
<b>繰上引当金</b>	0	0	0
<b>繰下引当金</b>	0	0	0
<b>繰上引当金</b>	0	0	0
<b>繰下引当金</b>	0	0	0
<b>繰上引当金</b>	0	0	0
<b>繰下引当金</b>	0	0	0

<b>【資産負債】</b>	十二年 九月	十三年 三月	十三年 九月
<b>株主資本</b>	2,000,000	2,000,000	2,000,000
<b>社外負債</b>	1,000,000	1,000,000	1,000,000
<b>流動資産</b>	3,000,000	3,000,000	3,000,000
<b>固定資産</b>	2,000,000	2,000,000	2,000,000
<b>現金預金</b>	2,000,000	2,000,000	2,000,000
<b>流動負債</b>	1,000,000	1,000,000	1,000,000
<b>固定負債</b>	1,000,000	1,000,000	1,000,000
<b>繰上金</b>	0	0	0
<b>繰下金</b>	0	0	0
<b>繰上準備金</b>	0	0	0
<b>繰下準備金</b>	0	0	0
<b>繰上負債</b>	0	0	0
<b>繰下負債</b>	0	0	0
<b>繰上利益</b>	0	0	0
<b>繰下利益</b>	0	0	0
<b>繰上損失</b>	0	0	0
<b>繰下損失</b>	0	0	0
<b>繰上剰余金</b>	0	0	0
<b>繰下剰余金</b>	0	0	0
<b>繰上引当金</b>	0	0	0
<b>繰下引当金</b>	0	0	0
<b>繰上引当金</b>	0	0	0
<b>繰下引当金</b>	0	0	0

### 株式川崎造船所

(本社) 神戸市東灘区川崎町二丁目 (電兵庫 天六、三六〇)

【子會社良好】當社の業績は最近ノツキリ良くなつて来たが、之は製鉄、造船部門が時局以來大飛躍を遂げてゐるからだ。当社自體の繁忙に次いで子會社の活況も見逃してはならない。川崎車輛、川崎汽船、川崎航空機、靜狩金山等何れも當社の直系會社である。子會社の繁忙は原料關係から直に當社に反映するし、更に配當金の増加をも齎らすこととなる。

【内容充實】毎期相當巨額の利益を擧げてゐるが、例の和議條件で普通株は二分、優先株は六分以上の増配が出来ないので當社は利益計上に多分の苦心を加へて来た。其のお蔭で内容は著しく充實した殊に和議條件による負債返済が予定以上に進捗してゐるので、この調子で行けば今後二、三年を出でないで完済されるかも知れない。その後の當社の成績は蓋し刮目に價するものがある。

【砂鐵に進出】多年研究中であつた砂鐵精鍊に最近確信を得たので、愈々本格的に乗り出すことになつた。熔鑪爐を持たない缺陷を之によつて幾分でも補ふと云ふのがその根本眼目である。計畫の具體的なことは判らぬが、砂鐵精鍊から更に特殊鋼界に進出することになるだらう。整理完了を待つて増資、増配は必至の筋合だから當社株は興味が多いと云つてよい。

### 浦賀船渠株式會社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル内 (電丸ノ内、八六一)

【拂込額で増資】昨年夏高岡兵器工場を分離、大日本兵器を創立したが、その後も當社の擴張は續けられてゐる。浦賀工場の船臺復舊及び附屬工場の整備充實を行ふ一方、新計畫の爲に諸般の準備を進めてゐる。右兩者の所要資金だけでも五百萬圓見當を要すると云ふから、相當大なる計畫であらう。それに大日本兵器の擴充が續けられてゐるから、これへの拂込資金も必要だ。従つて、拂込額で増資の筋合にあることは確かだ。尤も兩者とも時期も程度も不明だ。

【一割配當】昨年下半年末決算に於いて遂に一割配當が實現した。と言つても昨年上期の特配二分が引直されたのだからさう驚くには當らない。

【成績向上】勿論右の如く擴張中にも不拘一割の水増配當をつけたと云ふ裏面には成績の恆常的改善があつたからだ。昨年下半年利益は百七十八萬一千圓で、上期より六萬一千圓の増益だが、前年同期に比較すれば二十六萬五千圓を増してゐる。

【設立】明治三十年六月  
 【決算期】六月、十二月  
 【事業】船舶、艦艇兵器建造修理  
 【資本金】公稱一億、拂込一一、〇〇〇、〇〇〇  
 【株主數】新(一、〇〇〇、〇〇〇)

【重役】  
 社長 寺島健助 取締役 中川 幸  
 常務 山本幹之助 取締役 山下 幸吉  
 重光 敬 監査 山下 幸吉  
 甘泉 豐助 監査 山下 幸吉  
 取締役 尾立 盛天 相談 山下 幸吉  
 藤本 正三郎  
 (株主數) 一、一〇〇、〇〇〇  
 (大株主) 山下汽船 〇、〇〇〇、〇〇〇 第一相互 〇、〇〇〇、〇〇〇  
 山下株式 八、〇〇〇、〇〇〇 昭和興業 八、〇〇〇、〇〇〇  
 日華生命 八、〇〇〇、〇〇〇 康徳興業 八、〇〇〇、〇〇〇  
 木村 長吾 八、〇〇〇、〇〇〇 兵頭 忠市 八、〇〇〇、〇〇〇

【事業規模】造船最大建造能力(單位十噸)  
 第一號四、五、第六號六、〇、第三號一、〇、  
 第四號六、〇、第五號六、〇、第六號一、〇、  
 第七號一、〇、第八號一、〇、第九號一、〇、  
 第十號一、〇、第十一號一、〇、第十二號一、〇、  
 第十三號一、〇、第十四號一、〇、第十五號一、〇、

【事業成績】  
 竣工船舶(隻) 十上八 十下上 十上上 十上上  
 竣工船渠(隻) 九 九 九 九  
 入渠修理(隻) 九 九 九 九  
 總噸數(噸) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 工事收益(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 【資本異動】十年八月八百萬圓増資決定、  
 十二年第一回一、〇〇〇、〇〇〇、十二年十一月  
 十二回三回五拂込徴收

【資産負債】  
 株主資本 二十二年 二十二年 二十二年  
 積立金 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 外部負債 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 使用總資本 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇

【收支勘定】  
 現金預金 二十二年下 二十二年上 二十二年上  
 流動資産 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 固定資産 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 流動負債 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 固定負債 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 淨年率 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇

【業績】  
 二十二年下 二十二年上 二十二年上  
 二十二年下 二十二年上 二十二年上  
 二十二年下 二十二年上 二十二年上

【株主】  
 (株主數) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 (大株主) 山下汽船 〇、〇〇〇、〇〇〇 第一相互 〇、〇〇〇、〇〇〇  
 山下株式 八、〇〇〇、〇〇〇 昭和興業 八、〇〇〇、〇〇〇  
 日華生命 八、〇〇〇、〇〇〇 康徳興業 八、〇〇〇、〇〇〇  
 木村 長吾 八、〇〇〇、〇〇〇 兵頭 忠市 八、〇〇〇、〇〇〇

【時價】  
 前七三二 新六七二  
 【名義書換】十五錢【新券交付】三十五錢

【設立】明治二十九年十月  
 【決算期】五月、十一月  
 【事業】艦船建造修理、諸機械、鐵工品  
 【資本金】公稱一億、拂込一一、〇〇〇、〇〇〇  
 【株主數】新(一、〇〇〇、〇〇〇)

【重役】  
 社長 鑄谷 正輔 取締役 三輪小十郎  
 常務 川崎 芳則 監査 植村 寅  
 川崎 保貞 監査 寺田 善吉  
 川崎 守一 監査 坂田 幹太  
 松村 道博  
 岩倉 道博  
 取替 岩倉 道博 坂田 幹太  
 (株主數) 一、一〇〇、〇〇〇  
 (大株主) 十五銀行 〇、〇〇〇、〇〇〇 日本汽船 〇、〇〇〇、〇〇〇  
 大倉 義三 〇、〇〇〇、〇〇〇 川島屋商店 〇、〇〇〇、〇〇〇  
 第一義兵 〇、〇〇〇、〇〇〇 寺田 善吉 〇、〇〇〇、〇〇〇  
 日清生命 〇、〇〇〇、〇〇〇 岸和田紡績 〇、〇〇〇、〇〇〇  
 (事業規模) 船渠(六千噸) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 造船能力(十萬噸) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 年産能力(千噸) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 鋼鐵用平鋼(千噸) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 鋼製用平鋼(千噸) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 【事業成績】  
 竣工船舶(隻) 十上上 十下上 十上上  
 竣工船渠(隻) 九 九 九  
 入渠修理(隻) 九 九 九  
 總噸數(噸) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 工事收益(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 【資本異動】十年八月八百萬圓増資決定、  
 十二年第一回一、〇〇〇、〇〇〇、十二年十一月  
 十二回三回五拂込徴收

【資産負債】  
 株主資本 二十二年 二十二年 二十二年  
 積立金 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 外部負債 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 使用總資本 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇

【收支勘定】  
 現金預金 二十二年下 二十二年上 二十二年上  
 流動資産 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 固定資産 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 流動負債 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 固定負債 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 淨年率 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇

【業績】  
 二十二年下 二十二年上 二十二年上  
 二十二年下 二十二年上 二十二年上  
 二十二年下 二十二年上 二十二年上

【株主】  
 (株主數) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 (大株主) 十五銀行 〇、〇〇〇、〇〇〇 日本汽船 〇、〇〇〇、〇〇〇  
 大倉 義三 〇、〇〇〇、〇〇〇 川島屋商店 〇、〇〇〇、〇〇〇  
 第一義兵 〇、〇〇〇、〇〇〇 寺田 善吉 〇、〇〇〇、〇〇〇  
 日清生命 〇、〇〇〇、〇〇〇 岸和田紡績 〇、〇〇〇、〇〇〇  
 (事業規模) 船渠(六千噸) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 造船能力(十萬噸) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 年産能力(千噸) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 鋼鐵用平鋼(千噸) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 鋼製用平鋼(千噸) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 【事業成績】  
 竣工船舶(隻) 十上上 十下上 十上上  
 竣工船渠(隻) 九 九 九  
 入渠修理(隻) 九 九 九  
 總噸數(噸) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 工事收益(千圓) 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇 一、〇〇〇、〇〇〇  
 【資本異動】十年八月八百萬圓増資決定、  
 十二年第一回一、〇〇〇、〇〇〇、十二年十一月  
 十二回三回五拂込徴收

【時價】  
 前四三二 新三三二  
 【名義書換】十錢【新券交付】二十錢



### 株式 東京石川島造船所

(本社) 東京市京橋區島島五十四(電報三六八)  
(出張所) 大阪市北區中之島三井物産ビル内

【倍額増資決定】懸案の増資も豫定通り倍額と決定した。同業函館が資金調整局から半額に削減された後だったから若干の疑懼はあつたが、當社の擴張がヨリ時局的だったからだ。増資新株の割當は四月三十日現在の株主が五月二十日迄に申込んだ場合に限り、一對一の比率で割當てる。拂込額及びその期日は未だ決定してゐないが、悉く拂込額は一株十二圓半、期日は六月一日とならう。この資金は自社及び子會社の擴充に當てられ引續き拂込徴收の筈。

【一分増配】この増資に據り當てられ前期二分増配が豫想された。然し、調整局の認可が遅れたため増配は本期に持ち越された。本期となれば一舉二分とは行かぬ。今期一分、來期一分とならう。

【昨年下半年】前期成績は頗る向上した。工事収入に於て七分を増加した爲、利益金で二十九萬四千圓を増した。横濱磯子の航空發動機工場の一部、鑄物工場が全期運轉した外、月島に移轉した造船臺三臺中二臺が完成し期末迄に一臺を竣工した。また起重機工場も製作を開始したからである。

【今期成績】今期は更に成績の向上を見る筈である。尤も資本負擔が増加するから利益率としてはさして變るまい。然し増配後も不安のないこと云ふまでもない。

【設立】	明治二十二年一月
【決算期】	五月十一日
【事業】	小形艦船、タービン、艦船用主補機、發動機、起重機、自動車部品、各種機器
【資本金】	10,000,000
【株主数】	1,000
【重役】	社長 松村 菊男 専務 淺川 眞砂 取締役 笠原 達三 常務 村田 愷磨 監査 新井 源水 取締役 末常 共介 大橋 伸 橋本 辰吉 藤澤武之助 庄司 健吉 山田 泰作
【大株主】	日華生命 八〇〇〇 富國 鐵兵 三〇〇〇 日本製鐵所 四〇〇〇 馬場正治 三〇〇〇 鍋島直泰 三〇〇〇 常備銀行 三〇〇〇 山梨 謙藏 三〇〇〇 藤生 命 三〇〇〇
【事業規模】	造船臺 二臺(四千噸、六千噸用) 船渠 全長 職員 深
【事業成績】	一、二年下 一、五五 一、二年上 一、六五 一、二年下 一、六五 一、二年上 一、六五
【工事収入】	一、二年下 一、六五 一、二年上 一、六五
【支費】	一、二年下 一、六五 一、二年上 一、六五
【投資】	一、二年下 一、六五 一、二年上 一、六五
【資本負擔】	一、二年下 一、六五 一、二年上 一、六五
【名義書換】	五 十 十

【資産負債】	十二 廿二 廿三
株主資本	10,000,000
積立金	1,000,000
外部負債	1,000,000
社債	1,000,000
借入金	1,000,000
使用總資本	13,000,000
固定資産	10,000,000
流動資産	3,000,000
現金預金	1,000,000
【收支精算】	十二 廿二 廿三
収入	1,000,000
支出	1,000,000
【時價】	五 十 十
【名義書換】	五 十 十

### 函館船渠株式會社

(本社) 函館市神天町八八 (電三三〇)  
(出張所) 東京市豊町區丸ビル内(電九ノ内) 三三〇

【新株拂込徴收】當社は去る二月十五日新株二十五圓宛總額百萬圓を徴收した。第一回拂込で而も最終拂込である。と言ふのは昨年度の定時總會で二倍半増資を決定しながら、資金局の削減に會ひ半額増資となつた。その代り全額拂込徴收を許されたので、昨年十二月一日申込證據金として増資新株一株宛二十五圓を徴收したからだ。かくて當社は六百萬圓の全額拂込済となつた。

【資金の使途】この資金は自社の擴充及び子會社室蘭船渠の擴張、同じく高熱工業(資本金十二萬圓)への投資にあてられる。自社工場は部分的擴充に止め、既に新敷地の買収を行つた鑛山機械の製作工場建設は當分見合はせることにした。

【室蘭船渠増資】同社は資本金七十萬圓(全額拂込済、當社持株三分の二)の小型會社だったが、今回資本金三百萬圓への増資が許可される。浮船渠及び製鐵所關係資材製作設備充實の爲だ。

【再増資】右の狀勢だから自社及び子會社の擴張充實につれて、當社は總て再増資の筋合にある。尤もその時期は暫く後のことだ。  
【成績向上】昨年上半年二分増配したが、下期更に一分増配した。増資工作と成績が向上した爲だ。即ち利益金は五十三萬四千圓と前期より八萬六千圓の増加だ。今期も同様で現配當は据置き。

【設立】	明治二十九年十一月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	造船、船渠修理、橋梁、鐵骨等
【資本金】	10,000,000
【株主数】	1,000
【重役】	社長 大塚 謙 常務 和田三郎 取締役 小柳幸一郎 取締役 梅山 愛輔 川田 吉南 取締役 土井 上 平塚 常次郎 取締役 土井 上 土井 上
【大株主】	石井 鐵工所 三〇〇〇 安田 一 一〇〇〇 岡本 良藏 一〇〇〇 中山 俊彦 一〇〇〇 日下部 同族 一〇〇〇 富國 鐵兵 一〇〇〇 小梅 企業 九〇〇 相馬 合資 九〇〇
【造船】	能力 長(男) 幅(男)
【事業成績】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
【工事】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
【支費】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
【投資】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
【資本負擔】	十一年上 十一年下 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
【名義書換】	十 十 十

【資産負債】	十二 廿二 廿三
株主資本	10,000,000
積立金	1,000,000
外部負債	1,000,000
社債	1,000,000
借入金	1,000,000
使用總資本	13,000,000
固定資産	10,000,000
流動資産	3,000,000
現金預金	1,000,000
【收支精算】	十二 廿二 廿三
収入	1,000,000
支出	1,000,000
【時價】	五 十 十
【名義書換】	十 十 十

【造船事業】

# 川南工業株式會社

(本社) 大阪市中之島二ノ二五  
(支社) 長崎市梅ヶ崎町(電燈局)

【一割据置】去る一月末締切りの十三年下期成績は利益金百二十九万八千圓を挙げ、對平均拂込資本利益率は二割六分弱を示した。前期に比し利益金は二十八萬七千圓の増益であり、利益率は二分の向上に當る。配當は一割を据置いたから決算は余裕を加へた。

【業運安定】増資決行によつて財政行詰りを打開し、収益力は造船炭礦部の活躍で面目を一新した。當社に對する不安は漸次解消しつつある。曹達、硝子工場の不振も最近轉換策が考慮されてゐるから早晚有利に解決出来るものと期待される。借金過多も拂込徴収で一部返済され、近く手持資産の現金化によつて更に減少する筋合だから懸て訂正される時期が到来するに相違なからう。斯くて當社は各方面に互つて整備充實されることになつたので安心だ。

【設立】	昭和十一年九月
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	100,000株
【重役】	社長 川南 豐作 取締役 松本 茂 常務 田上 爲之助 井上 裕 高崎 建之助 上野 外次郎 廣口 富三郎 下野 信雄 川南 太八郎 鳥居 章義 川南 秀彦 監査 川原 金作 藤原 哲十郎 監査 松尾 孫八
【業績】	十二年下 利益金 2,500,000 配當率 25.0% 十三年上 利益金 3,200,000 配當率 32.0% 十三年下 利益金 2,800,000 配當率 28.0% 十四年上 利益金 2,500,000 配當率 25.0%
【株價】	高値 210.00 安値 180.00 新價 200.00
【時價】	新 190.00
【利息】	九分四厘

# 神戸棧橋株式會社

(本社) 神戸市神戶區東町二二二二

【増配】當社は昨年上期に五分から六分に増配し同下期には更に二分増の八分増配を断行した。時局に惠れて海運界が頗る好調を呈してゐるからである。

【好調續く】備船の更改で半期七、八万圓の増益が期待されるし、八月頃になるとタンカーが新航するから、之も相當の収益を擧げるだらう。又子會社も下期邊りに初配當を開始する機運にある。彼れ是れて下期になると最少十二、三万圓の増益が期待される。

【來期も増配期待】右の如き増益が認められるとすれば油槽船の償却を考慮しても一割程度の配當はさして困難ではない。とすれば上期は兎も角下期の二分増配は略々確定的と云つてよからう。時局に惠れて立直つた當社の前途は興味深いものがある。

【設立】	明治十七年十一月
【資本金】	公稱 8,000,000 拂込 8,000,000
【株数】	80,000株
【重役】	社長 南郷 三郎 取締役 島田 保一郎 常務 渡邊 實一 山邊 政太郎 中山 晋 監査 田中 市蔵 五代 龍作 監査 瀧川 伊之助
【業績】	十二年下 利益金 1,100,000 配當率 13.75% 十三年上 利益金 1,200,000 配當率 15.00% 十三年下 利益金 1,300,000 配當率 16.25% 十四年上 利益金 1,400,000 配當率 17.50%
【株價】	高値 170.00 安値 150.00 新價 160.00
【時價】	新 150.00
【利息】	四分六厘

【機械製作業】

# 株式日立製作所

(本社) 東京市豊町區九ノ内二ノ二(電九ノ内三九六)  
(營業所) 大阪市西區土佐堀通一ノ一大同ビル(電土佐堀三九七)

【瓦斯電を合併】来る五月三十日當社は瓦斯電工を合併する。條件は瓦斯電百株に對し日立九十株の割合だ。合併に際し日立の特株は銷却減資されるから結局資本金は二億四百五十萬圓となる筈だ。

【事業内容の變化】日立製作の事業内容は最近益々軍需工業的色彩が濃くなつてゐる。然るに純軍需工業會社の一偉彩たる瓦斯電工の事業を全部的に引繼ぐに至れば愈々色濃いものとなる筈だ。従來の電機事業は勿論縮少されぬ所か、却つて擴張されつつあるから當社こそ大綜合機械會社と呼ぶに相應しい存在といふことが出来る。

【發展性強大】綜合機械會社と稱しても如何なる製品と雖も一流品に屬さぬものはないといつて過言ではない。時局の要求するものは數量の増大は勿論であるが、寧ろ質的高級品に對して其の感が深い。何故ならば高級品はこれまで海外に依存することが多かつたが、現状は輸入が極度に抑制されてをり、之に代るべきものが要求されるからである。日立が今日、二億圓の大會社に躍進し更に二倍乃至三倍増資を計畫して尙ほ些かの不安を感じないのも其のためである。固定資産評價の著しく切下げられた日立の収益力は偉大だ。他の製作會社の眞似し得ない事業をドンドン遂行するであらう。當社の發展力に對し此の際再認識を要請したい。現行配當は不動である。

【設立】	大正九年二月
【決算期】	二月
【事業】	電氣機械器具、電機、自動車、機械、車輪、一般機械及金属材料
【資本金】	公稱 1,000,000,000 拂込 1,000,000,000
【株数】	10,000,000株
【重役】	社長 鮎川 義介 社長 小平 浪 常務 高尾 直三郎 常務 馬場 榮 夫 秋田 政一 取締役 六角 三郎 山下 興家 大河邊 建二 森島 貞一 横田 千 秋 大庭 彌平 他田 亮次 黒岡 利一 伊藤 文壽 監査 堀野 三郎 山田 敬亮 總務 藤原 三郎 監査 山田 敬亮 總務 藤原 三郎 監査 山田 敬亮
【大株主】	南洋重工業(八六) 富國製兵(六三) 第一相互(三三) 三菱商事(三三) 日本生命(三三) 帝國生命(三三) 共立企業(三三) 千代田生命(三三) 有、深川、戸畑、若松
【事業成績】	十二年上 利益金 1,200,000,000 配當率 12.0% 十三年上 利益金 1,300,000,000 配當率 13.0% 十三年下 利益金 1,400,000,000 配當率 14.0% 十四年上 利益金 1,500,000,000 配當率 15.0%
【株價】	高値 150.00 安値 130.00 新價 140.00
【時價】	新 130.00
【利息】	四分七厘

【機械製作業】

### 株式芝浦製作所

(本社) 東京市豊町區有樂町一ノ二〇三番ビル(電話座七二番)

【工作機部獨立】高級工作機械製造に乗り出したことは既に前報で報道したが、愈々之を獨立せしめ別會社を創設することとなつた。社名は芝浦工作機械で資本金は一千万圓、内拂込五百萬圓である。製品は軍需機械製作に必要な大型旋盤を主とするが、その他、中グリ盤、強力ブローチ盤、フライス盤等にも及ぶ豫定である。工機製作は小規模ながらも多年の経験を積んでをり、時局柄有望事業の一つで業績には見るべきものがあるやに豫想される。

【東京電氣合併】来る七月一日、當社は東京電氣を吸収合併する。合併後の資本金は八千七百萬圓、内拂込六千九百五十二萬一千八百七十五圓となる筈だ。これで當社は日立製作に次ぐ大機械會社となる。尤も合併實現後は適當な社名に改稱されることに内定してゐる。

【事業概況】民需品製作の機件は當然乍ら、鴨綠江の發電事業に關聯する變電機、發電機の大規模は引續き製作繁忙であり、三重工場的小型モーター製造も着々設備を完備し増産を進めてゐる。時局向製品の増産で業績は順調に推移してゐるといへる。

【配當】昨年同期は銷却前の利益率二期九分を示し、一割配當を据置いた。今期も餘裕裡に現行配當を踏襲出来るであらう。東京電氣合併後に於ては一、二分程度の増配も期待される。

【設立】明治三十七年七月

【決算期】四月、十月  
 【事業】發電機、變壓機、配電制御機、電氣機關車、電壓調整器、其他電氣機器  
 【資本金】公稱二〇〇〇〇〇〇 拂込一〇〇〇〇〇〇  
 【株主數】新(三三) 舊(〇) 總計三三

【重役】  
 會長 山口喜三郎 取締役 海津一男  
 常務 久保正吉 百田貞次 金子堅太郎  
 取締役 ナンゲイム 監査 國安卯一  
 田島繁二 相談 平田篤太郎  
 小林 康治 顧問 納富 繁一  
 株主數 十一年下 七十一 十一年上 七十一  
 總數(名) 三三

【大株主】  
 三井合名 一七六、七六六東京電氣 一四、〇〇〇  
 三井物産 一、九〇〇明治生命 一〇、〇〇〇  
 大正海上火災 一、〇〇〇三井生命 一〇、〇〇〇  
 日華生命 一、〇〇〇三井生命 一〇、〇〇〇  
 【事業成績】十一年上 十一年下 十二年上  
 受注 高千圓 一〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇  
 引渡 高千圓 一〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇 一〇〇、〇〇〇  
 工場所在地 横濱市鶴見區木廣町  
 【關係會社】米國G. & T. 特殊關係あり  
 資本系統は三井系  
 【投資會社】特殊合金工具、大井電氣、日本硝子電業社、鶴見臨港、東京石川島造船  
 【資本異動】十二年二月倍額増資、拂込一三圓五毫徴收七月三圓五毫徴收十三年一月第三回三圓五毫徴收

【設立】大正十年一月  
 【決算期】三月、九月  
 【事業】交流機、直流機、變流機、特殊機、管裝裝置、直結機、電機計機、電機氣關車  
 【資本金】舊(五〇) 新(五〇) 拂込五〇、〇〇〇  
 【株主數】新(五〇) 舊(〇) 總計五〇  
 【重役】會長 川井源八  
 常務 宮崎 駒吉 取締役 正木 良一  
 間 四郎 本間 龍吉  
 取締役 新波孝四郎 關澤 房豐  
 河手 捨二 監査 水原 伸雄  
 結田 一雄 武藤 松次  
 株主數 十一年下 五十二 十一年上 五十二  
 總數(名) 五十二  
 【大株主】  
 三菱電氣 一七、〇〇〇 第一生命 二、〇〇〇  
 東京電氣 一、〇〇〇 古河電工 一、〇〇〇  
 野村信託 一、〇〇〇 昭和生命 一、〇〇〇  
 【事業概況】工場所在地 神戸製作所 神戸市兵庫區和田崎町  
 長崎製作所 長崎市平戸小原町  
 名古屋製作所 名古屋市中区矢田町  
 【事業成績】十一年下 十一年上 十二年下  
 作業收入(千圓) 一六、六三三 一六、六三三 一六、六三三  
 作業原價(千圓) 一六、六三三 一六、六三三 一六、六三三  
 【資本異動】十二年一月三千萬圓に増資、第一回三圓五毫徴收、七年七月第三回三圓五毫徴收、十四年二月三圓五毫(最終)拂込徴收

【資産負債】

株主資本 三三、〇〇〇  
 積立金 一、〇〇〇  
 外部負債 一、〇〇〇  
 借入金 一、〇〇〇  
 使用總資本 三三、〇〇〇  
 固定資産 一八、〇〇〇  
 投資勘定 一五、〇〇〇  
 流動資産 一、〇〇〇  
 現金預金 一、〇〇〇  
 收支勘定 一、〇〇〇  
 支出入 一、〇〇〇  
 利益 一、〇〇〇

【業績】  
 十一年上 三三、〇〇〇  
 十一年下 三三、〇〇〇  
 十二年上 三三、〇〇〇  
 十二年下 三三、〇〇〇  
 十三年上 三三、〇〇〇  
 十三年下 三三、〇〇〇

【時價】新五〇 利配 五分二厘  
 【名義書換】十 新券交付 五十

【機械製作業】

### 三菱電機株式會社

(本社) 東京市豊町區丸之内二ノ四(電丸之内三三二)

【工作機進出】名古屋の工作機械製作工場は愈々製造事業法に基く許可會社と決定した。目下の所建設敷地は二千餘坪を擁するに過ぎないが、隣接地は十萬坪もあり今後は其の一部に増設し、積極的に増産を進める方針である。製品はターレットレース及び研磨盤を主とし専ら高級品を狙つてゐる。資金は大體四、五百萬圓を今年中に要する見込で全部の計畫を具體化するに一千萬圓近くを達する筈だ。

【結局増資】既に去る二月最終拂込一株十二圓半總額三百七十五萬圓を徴收し、全額拂込済となつてゐる。拂込金は諸事業の擴張に伴ふ流動資金に振向けられるが、時局柄神戸工場の変電機、配電盤、變壓器、長崎工場に於ける鑛山用諸機械の増産に迫られ、更に名古屋工場の小型モーターも設備擴張を施さねばならぬので、新規資金をも賄はねばならぬ。工作機製作に積極的に乗り出した現在、増資は必至の情勢となつた。結局倍額増資とならうが時期は早ければ今秋實現しよう。

【配當安泰】電扇機、エレベーター等の民需品は事實上製作不能状態に陥つたが、時局向製品の増産でもカバーされるから心配はない。元々配當は内輪であり、擴張分も漸次稼働し始めるので茲當分一割配當持續には問題あるまい。

【資本負債】

株主資本 三三、〇〇〇  
 積立金 一、〇〇〇  
 社外負債 一、〇〇〇  
 使用總資本 三三、〇〇〇  
 固定資産 一八、〇〇〇  
 投資勘定 一五、〇〇〇  
 流動資産 一、〇〇〇  
 現金預金 一、〇〇〇  
 收支勘定 一、〇〇〇  
 支出入 一、〇〇〇  
 利益 一、〇〇〇

【業績】  
 十一年上 三三、〇〇〇  
 十一年下 三三、〇〇〇  
 十二年上 三三、〇〇〇  
 十二年下 三三、〇〇〇  
 十三年上 三三、〇〇〇  
 十三年下 三三、〇〇〇

【時價】新五〇 利配 五分二厘  
 【名義書換】十 新券交付 五十





【機械製作業】

### 株式池貝鐵工所

(本社) 東京市町田區有楽町一ノ十一 東日會館 (電九ノ内五六一)

【事業繁忙】池貝鐵工の擴張は猶も強行されてゐる。否、時局が當社に息入れる暇も與へぬといふ方が適切かも知れぬ。殊に日本一を誇る工作機械部門の擴張だけでも生易しいものでなく、能力關係から、あたら満洲進出さへ控目にしてゐる位である。製作會社の多くが餘力を大陸に注ぐ際皮肉な現象であるが、事實は國內に於ける生産力擴充に當り純軍需工業會社化した當社にかけられた任務が重大となつてゐるからである。つまり餘力を生ずる隙さへない程繁忙に終始し、能ふ限りの擴張も尙ほ受注を消化しきれず、絶えず追はれてゐるのである。

【コンツエルの整備】池貝は漸次コンツエルらしい體制を整へつゝある。事實上の參謀本部をなすべき池貝本社は戰時下に於ける池貝各社の事業的聯繫と對外部關係の折衝に其の機能を發揮し大池貝の組織を益々鞏固ならしめてゐる。池貝鑄造所は既に收益期に入り、池貝自動車製造及び東京ラヂエーター製造も亦今期より其の事業は本格化した。池貝チャックは昨年十一月期の第一期決算に於て一割二分の高配をつけてゐる。池貝鐵工の一割配當は子會社の活躍期を迎へて益々ユトリを加へる。近くには池貝の朝鮮進出も實現するであらう。池貝鐵工の五倍増資は時期の問題に過ぎない。

【機械製作業】

### 株式大隈鐵工所

(本社) 名古屋市西區社町字日蓮二七 (電東八七)

【拂込徴收切迫】當社は現在四百萬圓の未拂込を残してゐる。擴張計畫を全部具體化するには今後七百五十萬圓程の資金が必要とされる。未拂込株金だけでは防ひきれぬこと明白である。借入金、社債による方法も考へられぬことはないが、結局株主資本に振替へることとなるから、假に一時借入金で賄つても拂込徴收から更に増資にまで進むものと思はれる。

【擴張概況】擴張は全面的に行はれる。萩野工場は二百萬圓、上飯田工場の三百萬圓、旭村新工場の二百五十萬圓が主なる擴張資金の振合だ。然し之等は差當つての計畫で、五大メーカーの一たる當社には更に一段の増産が促進される時が来よう。従来一流工作機械會社としては稍々質的に劣つた點もあつたが、最近に於ては技術の向上により、生産力擴充急務の現時局下に於て占める當社の役割も益々重要性を加へてゐるからだ。

【配當安泰】工作機一本立の當社の前途に無條件的な樂觀が許されるといふ譯にはいかぬが、遠い將來はいざ知らず、續行する擴張も尙ほ受注を消化しきれぬ現在、當分一割配當は揺がぬと考へてよい。現狀で推移する限り矢繼早に拂込を徴收しても未働資本が次々に稼働してくるから心配はない。

【設立】	大正二年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	各種工作機械、各種工具、内燃機関、高級印刷機械、活字鑄造機械、ダイセル自動車
【資本金】	100,000
【株主名】	池貝庄太郎 取締役 柏倉吉三郎 副社長 千葉恒太郎 早坂力 寺井 雄一 監査 池貝 杉二 池貝 秀雄 池貝 三郎 池貝 秀雄 坂田三一郎 池貝 庄太郎 日華生命 三〇〇
【大株主】	日本鐵兵 天宮 池貝同業 〇〇〇 池貝 秀雄 二九〇〇 千葉恒太郎 八三〇〇 池貝 庄太郎 〇〇〇 日華生命 二〇〇
【事業規模】	發動機工場……………東京芝罘本芝工作機械工場……………東京芝罘三田四國町、川崎市戸手町
【事業成績】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
【投資會社】	池貝鑄造所 池貝自動車製造 日本鐵金工業、滿洲機械工業
【資本異動】	十一年九月六百萬圓増資第一回 十三年五月、十三年三月三回三〇〇萬圓 九月三回 (最終) 拂込徴收

【資産負債】	十二年 十三年 十三年
株主資本	八六六 一〇〇〇 一〇〇〇
積立金	三二六 三二六 三二六
外部負債	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
使用總資本	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
固定資産	三三六 三三六 三三六
流動資産	六六四 六六四 六六四
現金預金	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【收支勘定】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
収入	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
支出	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
利益	〇 〇 〇 〇
【業績】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
売上	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
費用	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
利益	〇 〇 〇 〇
【時價】	八六六 【利息】 五分六厘
【名簿書換】	十 十 【新券交付】 五十錢

【設立】	大正七年七月
【決算期】	三月、九月
【事業】	金屬工作用兵器製造用諸機械 工具、機械、其他一般機械
【資本金】	100,000
【株主名】	大隈 榮一 取締役 渡邊 健郎 常務 村岡 嘉六 監査 岡谷 惣助 村岡 嘉六 監査 岡谷 惣助 前川芳之輔 岩間 昌生 徳川 義親 二〇〇〇
【大株主】	大隈 榮一 〇〇〇 愛知銀行 三〇〇 東海殖産 一〇〇 岡谷惣助會社 九〇 渡邊 健郎 〇〇 田邊 義治 〇〇 水野 統一 〇〇 寺島友三郎 〇〇 岡谷商店 〇〇 徳川 義親 二〇〇
【事業規模】	工場敷地三、〇二坪 工場建物一〇、七坪 備付機械……………一〇四萬五千元 萩野、布池、大曾根、小倉、
【事業成績】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下 十二年上 十二年下 十二年上 十二年下 十二年上 十二年下
【資本異動】	十二年二月二回五〇萬圓増資、八月三〇萬圓増資第一回二回五〇萬圓徴收、十二年三月三回五〇萬圓増資第一回二回五〇萬圓徴收

【資産負債】	十二年 十三年 十三年
株主資本	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
積立金	一〇〇 一〇〇 一〇〇
外部負債	一〇〇 一〇〇 一〇〇
使用總資本	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
固定資産	一〇〇 一〇〇 一〇〇
流動資産	九〇〇 九〇〇 九〇〇
現金預金	一〇〇 一〇〇 一〇〇
【收支勘定】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
収入	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
支出	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
利益	〇 〇 〇 〇
【業績】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
売上	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
費用	一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇 一〇〇〇
利益	〇 〇 〇 〇
【時價】	一〇〇〇 【利息】 二分七厘
【名簿書換】	十 十 【新券交付】 三十錢

東京自動車工業株式会社

(本社) 東京市品川區東品川五ノ六(電高輪表交)

【拂込徴収】四月一日一株二十圓總額五百二十萬圓の拂込を徴収す。借入金の一部返済に充當するが大部分は工場擴張に使はれる。擴張工事の最も大規模なものは東京府下日野町に建設する特殊自動車工場である。既に二十二万五千坪の敷地を買収し、地鎮祭も終り第一期計畫として二万五千坪に工場を設置する。大體本年末迄には完成する見込である。大森工場が此處に移轉擴張されるのだ。其の他鶴見工場、川崎工場の擴充も行はれる筈だ。
【發展力豊富】時局下軍用自動車の増産は急務中の急務に屬する。現狀は一般車を犠牲にするも尚ほ能力は十分ではない。現在一千萬圓以上の借金があり、日野製造所のみでも今後全部で二千萬圓を要する見込であるから、拂込徴収は勿論増資に進むものと考へられる。最小五千萬圓は動かさないであらう。萬一軍用車の生産が將來減ずることとなつても普通車に轉換されるから心配ない。我が自動車工業の發展は寧ろこれからといふ時代である。
【朝鮮進出】朝鮮殖産銀行のコンツエルン一翼を形成する國產自動車工業との合併が決定した。従來の國產自動車工業は當社の製造車販賣を營んでゐたが、之によつて當社は朝鮮に於ても製造工場を持つこととなり、懸案の朝鮮進出が果されられた。

【設立】昭和十二年四月  
【決算期】四月、十月  
【事業】自動車製造  
【資本金】公稱二〇〇,〇〇〇 拂込二七〇,〇〇〇  
【株数】新(三三三)〇三〇,〇〇〇  
【重役】社長 松方 五郎  
取締役 新井 源水 取替 三宮 吾郎  
石井 信太郎 三浦 清  
星子 勇 三ツ木 秀治  
大久保 正二 高橋 省三  
松水 合三 村上 正輔  
松村 菊男 監査 大澤 佳郎  
天谷 知影 安井 清  
【株主数】十三年下 十一年上 十一年下  
總數(名) 五七五 六四四 六八六  
【大時主】  
東京五洲電工 三〇〇,〇〇〇 日本高層建設 三〇〇,〇〇〇  
東京石川島 三〇〇,〇〇〇 合同土地 三〇〇,〇〇〇  
有 幸 會 三〇〇,〇〇〇 芝罘製糖所 二六〇,〇〇〇  
帝國生命 二六〇,〇〇〇 日本生命 八〇〇,〇〇〇  
【事業規模】工場所在地 一〇千坪  
大森工場 東京市品川 一〇千坪  
鶴見工場 横浜市鶴見 一〇千坪  
川崎工場 川崎市下野 一〇千坪  
年産能力(單位一台)  
鶴見工場 二,〇〇〇 大森工場 二,〇〇〇  
川崎工場 二,〇〇〇 (計) 六,〇〇〇  
【資本異動】十二年四月八日五洲電工自動車部合併(五洲電工、東京五洲電工、東京五洲電工、東京五洲電工) 十二万一千圓自動車工業を合併(千五百萬圓増資)

【資産負債】十二期 十三期  
株主資本 九,七二一 六,六四四  
積立金 一 一  
社外負債 二,八七五 三,〇三三  
借入金 一,三六一 一,三六一  
支拂手形 三,三三一 三,三三一  
使用總資本 三,三三一 三,三三一  
固定資産 六,〇〇〇 六,〇〇〇  
流動資産 一,六六四 一,六六四  
現金預金 一,〇〇〇 一,〇〇〇  
【收支動定】十一年下 十一年上 十一年下  
收入 三,三七一 三,三七一  
支出 三,三七一 三,三七一  
前却年率 一〇〇% 一〇〇%  
【業績】  
十一年上 欠損 未配  
十一年下 一〇〇,〇〇〇 〇〇,〇〇〇  
十三年 高値 安値 高値 新  
十三年下 一〇〇,〇〇〇 〇〇,〇〇〇  
十四年 高値 安値 高値 安値  
【豫想配當】十四年四月期 八分  
【時價】前高 四分一厘  
【名義書換】十錢 【新券交付】五十錢

日本車輛製造株式会社

(本社) 名古屋市熱田區熱田東町字梅ノ木三三(瑞穂三六一車)  
(支社) 東京市麹町區丸ノ内二ノ二九ビル内(電丸ノ内交)一三

【前期好調】昨年十一月締切の前期は記録的好収益を挙げた。即ち利益金二百五十三萬二千餘圓と、對上期四十八萬七千餘圓の増益を示し餘裕裡に一割配當を提議した。事業繁忙は前期末注文繰越高にも現はれ、六千四百萬圓と之亦記録的なものであつた。之は現在の製造能力に對し一ヶ年半に相當するから、今後の受注殺到を考へると事業繁忙は當分續けられる譯だ。
【五月期更に増益】前期の好況は右に示した如くであるが、今期は更に一段の増益を期待される。本社工場並に牛巻工場の新設分が共に稼働して來たからである。恐らく銷却前の利益は三百萬圓を超えるものと思ふ。勿論増配は望めないが内容は益々充實されて行くであらう。
【内容堅實】嘗ての苦境時代を忘れず、毎期七割乃至八割の社内保留を行つて内容の充實を圖り、擴張資金も自己資本で賄ふを建前として居るので借金は殆どない。資金の急需に對して手許資金で賄へぬ時には増資を断行しても利益率は低下しない。毎期の含みある決算が今日の堅實な内容を裏したものだ。
【拂込接近】仁川工場は未だ擴張費を要るし子會社への投資々金も要る。運轉資金も増さねばならぬので拂込徴収の筋合だ。

【設立】明治二十九年八月  
【決算期】五月、十一月  
【事業】各種車輛、自動車、鐵道用品その他機械製造、鑄造、鍛造、鍛製品製造、及非鐵合金鑄物の製造販賣  
【資本金】公稱二〇〇,〇〇〇 拂込二二〇,〇〇〇  
【株数】新(三三三)〇三〇,〇〇〇  
【重役】社長 三瓶 勇佐 取替 藤田 道善  
取締役 秋山 正八 監査 青柳 一太郎  
常務 岩倉 精三 龜山 健吉  
取替 三輪 喜兵衛 天野 文司  
【株主数】十三年下 十一年上 十一年下  
總數(名) 一,一三三 一,一三三 一,一三三  
【大時主】  
天野 春一 一,〇〇〇 後藤 幸三 一,〇〇〇  
住友生命 八〇〇,〇〇〇 日本生命 六〇〇,〇〇〇  
第一銀行 二〇〇,〇〇〇 明治生命 一〇〇,〇〇〇  
名古屋銀行 一〇〇,〇〇〇 第一生命 八〇〇,〇〇〇  
【年産能力】各種機關車 一,〇〇〇  
ガソリン客車 一,〇〇〇  
十五吨貨車 一,〇〇〇  
ボギー客車及貨車 一,〇〇〇  
工場地:名古屋、東京、仁川、鳴海  
【事業成績】十二年下 十一年上 十一年下  
製造高(百) 一,三三三 一,三三三 一,三三三  
製造益(百) 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇  
【投資會社】大連機械製作所、名古屋自動車製作所、同和自動車工業、滿洲車輛  
【資本異動】十二年二月一〇圓拂込徴収  
十三年五月新元圓拂込徴収七月二十萬圓に増資第一回三圓拂込徴収

【資産負債】十二年 十三年  
株主資本 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
積立金 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
社外負債 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
借入金 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
支拂手形 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
使用總資本 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
固定資産 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
流動資産 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
現金預金 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
【收支動定】十一年下 十一年上 十一年下  
收入 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
支出 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇  
前却年率 一〇〇% 一〇〇%  
【業績】  
十一年上 欠損 未配  
十一年下 一〇〇,〇〇〇 〇〇,〇〇〇  
十三年 高値 安値 高値 新  
十三年下 一〇〇,〇〇〇 〇〇,〇〇〇  
十四年 高値 安値 高値 安値  
【豫想配當】十四年四月期 八分  
【時價】前高 四分一厘  
【名義書換】十錢 【新券交付】五十錢

〔機械製作業〕

### 發動機製造株式會社

(本社) 大阪市西淀川區大仁東二丁目(電福島三三)一七  
(出張所) 東京市日本橋區本町二丁目七(電日本橋元金)

【分工場建設】大阪府豊能郡池田町に於ける分工場の建設は一時見合せてゐたが、昨年十一月それに着手した。敷地は約一萬三千坪である。工事は順調に進捗し、木造平屋建機械工場五棟は二月中に完成、機械の据付に着手した。木造平屋建プレス工場も三月末には竣工の豫定だ。鑄物工場は鐵筋鐵骨とするため、材料關係から着工が遅れてゐたが、近くその運びとならう。製品は時局關係のものだ。

【資金手當】此の分工場建設資金として約百五十萬圓を要する。これを賄ふため昨年十二月頃新株の第三回拂込を徴収する豫定だつたが、株式市場の人氣が思はしくないのでこれを見合はせ、共同信託よりの借入金に使つこととした。借入契約は二百五十萬圓だ。此の様に建設資金は既に手當済みだが、當局者はこれを成る可く株主に振り替へたい意圖に見受けられるから、本年末頃には第三回拂込の徴収が實現しよう。

【向上期待】鐵鋼、タイヤ等の制限から、自動三輪車の生産は半減せねばならぬ状況だが、車輛用品、ディーゼル機關、軍需品部門の活況に恵まれて居るから、業績は向上しよう。今上期売上高は五百五十萬圓見當の見込で利益割合を一割九分とすれば百萬圓の利益が得られる。利益率は三割六分見當となるから一割配當は餘裕綽々だ。

〔機械製作業〕

### 株式滿洲工廠

(本社) 滿洲國奉天大東邊門外(電奉天三三)  
(支店) 大阪市東區備後町第二野村ビル(電本町二五)

【子會社株公開】當社は滿洲鐵礦と滿洲機械の子會社を有するが、滿洲鐵礦は過般二十萬圓から五百萬圓へ大増資を断行し、増資新株は滿工株主に拂込額で割當てた。滿洲機械も二十萬圓大増資を申請中であり、之が認可となれば再び増資新株の大部分は滿工株主に割當てられることとならう。右の他に當社は北支に山東製鐵を設立する豫定であり、着々準備を進めてゐる。資本金八百萬圓で半額拂込となる模様だ。之も雖では公開されることにならう。

【擴張一段落】滿洲機械の大増資と山東製鐵の設立を以て當社の擴張策は一應打切ることになつてゐる。自社の擴張も目下進行中の車輛工場の擴張完了を以て一段落となる。今後は内容の整備と能率の向上と子會社との聯繫を巧妙にして極力經營の合理化を計ることに努力する方針である。

【業績良好】昨年下期は一分増配の一割配當を實現したが、之は成績が良好であつたからに他ならない。今後の見透しも、滿洲産業開發五ヶ年計畫の進行で、當社の仕事は益々繁忙を續けるものと期待される。車輛工場の擴張完成によつて業績は一段と向上する筋合にある。一割配當持續は問題なく、或は近く拂込徴収が問題となるかも知れなう。

【設立】	明治四十年三月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	自動三輪車、タイヤ、エンジン、車輛用機器
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 5,000,000
【株数】	新(200,000) 舊(200,000) 400,000
【重役】	社長 高洲清二 取締役 竹崎瑞夫 事務 竹下辰四郎 監査 藤原平兵衛 取締役 柴田貞一 吉田芳太郎 取締役 岡崎忠雄 中村爲三郎 取締役 平田保三 相談 中村爲三郎
【株主数】	十一年下 十三年上 十三年下 總數(名) 2,225 2,225 2,225
【大株主】	岡崎本店 3,300 三宮清十郎 3,300 中村爲三郎 3,300 田中豊輔 3,300 竹内善次郎 3,300 中村興兵衛 3,300 竹崎瑞夫 2,000 吉田芳太郎 2,000 森平兵衛 2,000 川崎信託 1,200
【事業規模】	年産能力 小型自動車 6,000 2,000 車輛用品 3,000 1,000 その他 1,000 1,000
【事業成績】	十三年下 十三年上 十三年下 売上高(千圓) 3,222 4,762 4,762 投資利益(日本エヤープレキ、日本金具)
【資本異動】	十一年九月借入増資、二二 圓五拂込徴収、十一年九月ダイヤ號自 動車合併益(圓)増資、十三年六月新株 100圓拂込徴収

【資産負債】	十一年 十三年 十三年
株主資本	6,000 6,000 6,000
外部負債	1,000 1,000 1,000
借入金	1,000 1,000 1,000
使用總資本	7,000 7,000 7,000
固定資産	3,000 3,000 3,000
流動資産	4,000 4,000 4,000
現金預金	1,000 1,000 1,000
【收支動向】	十三年下 十三年上 十三年下
収入	4,762 4,762 4,762
支出	3,222 3,222 3,222
利益	1,540 1,540 1,540
【株主配當】	十三年下 十三年上 十三年下
配當率	10% 10% 10%
配當額	1,000 1,000 1,000
【時價】	新 300 舊 300
【名義書換】	十 十 十

【設立】	昭和九年五月
【決算期】	四月、十月(決算期變更)
【事業】	車輛製造修理、鑄造、鍛造、鐵骨其他鐵工品、一般鑄造品
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 8,000,000
【株数】	新(100,000) 舊(100,000) 200,000
【重役】	社長 山本盛正 取締役 岡崎 吉士 事務 根本富士雄 監査 奥村鹿太郎 取締役 伊藤知雄 水内忠 淺野 榮一
【株主数】	十三年下 十三年上 十三年下 總數(名) 2,225 2,225 2,225
【大株主】	大阪屋商店 3,000 荒木 嘉一 2,900 根本富士雄 10,000 帝國生命 9,000 野村生命 6,000 奥村商店 5,000 日本生命 5,000 玉塚商店 5,000
【事業規模】	工場所在地...奉天市大東邊門外 (舊大東公司鐵工所繼承) 工場能力...製作修理年一千萬圓
【事業成績】	十三年下 十三年上 十三年下 受託高(千圓) 3,222 4,762 4,762 引渡高( ) 3,222 4,762 4,762 原價( ) 3,222 4,762 4,762
【投資會社】	阜新製作所 【資本異動】 十一年五月( )萬圓増資、十 月第一回( )圓五拂込徴収、十一年五月( ) 萬圓に増資五月第一回( )圓五拂込徴収

【資産負債】	十一年 十三年 十三年
株主資本	6,000 6,000 6,000
外部負債	1,000 1,000 1,000
借入金	1,000 1,000 1,000
使用總資本	7,000 7,000 7,000
固定資産	3,000 3,000 3,000
流動資産	4,000 4,000 4,000
現金預金	1,000 1,000 1,000
【收支動向】	十三年下 十三年上 十三年下
収入	4,762 4,762 4,762
支出	3,222 3,222 3,222
利益	1,540 1,540 1,540
【株主配當】	十三年下 十三年上 十三年下
配當率	10% 10% 10%
配當額	1,000 1,000 1,000
【時價】	新 300 舊 300
【名義書換】	十 十 十





## 大阪機工株式会社

(本社) 大阪市淀川区豊崎西通一ノ四(電北二〇〇一三)  
 (出張所) 東京市豊町区丸ノ内九ビル内(電丸ノ内五)

【社名変更】大阪機工とは舊稱大阪機械工作の新社名、客臘二十七日より改めたものである。

【建設中】豊中市に約五萬坪の土地を買収、去る十二月五日地鎮祭を舉行、分工場建設の計畫を進めてゐたが、附近に飛行場が設置されることとなり、工場敷地がこれに含まれる恐れあるため、目下建設を中断して情勢を觀察して居る。が、假令豊中分工場の建設が中止の止むなきに至らうとも、新に土地を物色して豫定計畫を進める方針だから、擴張は依然進行される譯だ。

【膨脹運】擴張内容は軍需品及び工作機械だ。後者は設備費數五百萬を目標とするもので、既に工作機械製造事業法に基く許可會社となつて居る。これ等の擴張資金としては少くとも二千萬圓は要しよう。此の中二百萬圓位は手許資金で賄へる筈だが、後は何等かの方法で調達せねばならぬ。建設の途上に於ては勿論借入金で支辨するだらう。然し結局は拂込・増資に迫られる筈だ。分工場の建設が何處に落ち着くかさへ未決定の折柄だから、時期は明確に豫想出來ぬが、何れにしろ今年中には第三回拂込徴収の運びとならう。

【配當不動】今期の平均拂込資本は前期に比し増嵩して居るが、収益も亦増大するから業績は向上を示さう。一割配當は餘裕種々だ。

## 株式 大阪機械製作所

(本社) 大阪市淀川区豊崎一ノ四(電北二〇〇一三)  
 (出張所) 東京市丸ノ内三ノ四有樂館内(電丸ノ内五)

【順調】十三年下期は百四十一萬七千圓の利益を計上、利益率二割五分三厘に當る。これをその前期と比較するに、利益金では十八萬三千圓の増加だが、利益率に於ては三分七厘の低下となる。利益率の低下したのは昨年五月増資第一回拂込を徴収した結果、平均拂込資本が急増したのと、一方、當期が擴張の過激期に當り未働資本が多かつた關係に基く。が、利益率は尙ほ二割五分餘を維持して居るのだから、一割二分配當の持續には問題がない。

【向上期待】今期からは個工場、尼崎工場、長岡工場、野田工場に於ける擴張設備が大體期を通じて運轉を行ふ筈にあるし、名古屋工場も亦着々工作機械に轉換を見つゝあるから、これにも期待がかかる。それやこれやで結局今期の業績は前期よりも可なり向上するものと考へられる。現配當も安泰と云ふべきだ。

【津上株處分】當社は昨年十一月その投資會社であつた津上製作所(現津上安宅製作)株式三萬五千二百株を安宅商會に賣却した。津上はゲージプロッタを本業とし、今後新に工作機械の製作に進まんとする有望會社だ。これを手放したのは當社の擴充資金調達のためであつた。尙ほ當社は過殺車輛部品の製作に乗り出すこととなり、その準備を整へつゝある模様だ。

【設立】 大正四年十月  
 【決算期】 五月、十一月  
 【事業】 紡機、工作機械、内燃機關、航空機部品、軍需品、量水器、冷凍機、電気機械、オイルメーター

【資本金】 公稱 一〇〇,〇〇〇  
 新(五〇) 一〇〇,〇〇〇  
 舊(五〇) 一〇〇,〇〇〇

【株主数】 七十五名  
 男 七十五名  
 女 〇名

【役員】  
 社長 原 清明  
 取締役 渡邊 節 藤田 龍平  
 木村 貞造 森井 俊三  
 土屋 勝丸

【株主数】 七十五名  
 男 七十五名  
 女 〇名

【大株主】  
 日之出興業(株) 〇九〇  
 太陽商事 〇〇〇  
 聯合名産 〇〇〇  
 木村 貞造 〇〇〇

【事業規模】  
 工場設備 兼管外各種精密工作機械  
 工場 錦物工場、台合工場、熱處理工場、分拆試験工場  
 工場所在地 本社工場 大阪市東淀川區豊崎西通、加島町  
 大阪西淀川區、加島町  
 百萬圓増資第一回三圓拂込徴収三月九月第二回三圓拂込徴収

【資産負債】

項目	十二年度	十三年度	十四年度
株主資本	八三、〇〇〇	八三、〇〇〇	八三、〇〇〇
借入金	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇
流動負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
流動資産	八三、〇〇〇	八三、〇〇〇	八三、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

【業績】

項目	十一年	十二年	十三年	十四年
売上	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
利益	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

【時價】 新六六〇  
 【名義書換】 十五錢

【設立】 大正九年二月  
 【決算期】 六月、十二月  
 【事業】 工作、紡機、鑄山機械及鑄造

【資本金】 公稱 一〇〇,〇〇〇  
 新(五〇) 一〇〇,〇〇〇  
 舊(五〇) 一〇〇,〇〇〇

【株主数】 七十五名  
 男 七十五名  
 女 〇名

【役員】  
 社長 山田多計治  
 取締役 山田 新次 藤田 龍平  
 坂井 新次 藤田 龍平  
 坂井 新次 藤田 龍平

【株主数】 七十五名  
 男 七十五名  
 女 〇名

【大株主】  
 山田多計治 〇九〇  
 東洋紡績 〇〇〇  
 本田朝太郎 〇〇〇  
 住友生命 〇〇〇

【事業規模】  
 工場設備 兼管外各種精密工作機械  
 工場 錦物工場、台合工場、熱處理工場、分拆試験工場  
 工場所在地 本社工場 大阪市東淀川區豊崎西通、加島町  
 大阪西淀川區、加島町  
 百萬圓増資第一回三圓拂込徴収三月九月第二回三圓拂込徴収

【資産負債】

項目	十二年度	十三年度	十四年度
株主資本	八三、〇〇〇	八三、〇〇〇	八三、〇〇〇
借入金	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇
流動負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
流動資産	八三、〇〇〇	八三、〇〇〇	八三、〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

【業績】

項目	十一年	十二年	十三年	十四年
売上	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
利益	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

【時價】 新六六〇  
 【名義書換】 十五錢

【機械製作業】

# 壽重工業株式會社

(本社) 大阪府北區長崎上二ノ四八共同ビル(電北西三)

**【下期派配】** 當社は昨年下期決算に於て逆に二分派配を断行し、一割配當に改めた。當期の成績をみると利益金百九万九千圓で對平均拂込資本利益率は一割八分、其の前期に比し利益金は二十一萬圓の増益に當るが、利益率は却つて一分方の低下となつた。之では一割二分派當は窮屈だから、減配は當然である。

**【熔鑄爐完成】** 大阪府下大津町に建設中であつた日産七十噸の熔鑄爐は昨十三年十二月十五日に完成し、直に火入れ式を舉行、同月二十日に處女銃の製出をみた。能力は頗る小さいが、これで高價な屑鐵の使用量が幾分でも制限出來るとなれば、それだけ今後の採算は良好となるだらうし、操業能率もよくなるだらう。尤も當社の熔鑄爐は副産物の利用設備が不充分だからコストは自然割高となるを免れまい。が鑛石を自給することは強味と云つてよい。何れにしる熔鑄爐の完成で當社の業績も今期邊りから漸次見直すのではないかと期待される。最早再派配はないだらう。

**【特殊鋼進出】** 京都の第一重工業と云ふ特殊鋼製造會社を對等合併した。當社は之を足場にして將來特殊鋼界に積極的に進出する予定である。之も將來に期待されるものとして今から注目して置く價値があるだらう。

# 大阪製鎖造機株式會社

(本社) 大阪市此花區春日町上五丁目二九(電土佐堀三五三一)

**【重役陣改選】** 前常務鎌谷實氏の社内職制改革に端を發して遂に重役間の暗闘を惹起し社内は大動搖を來して了つた。そこで當社の大株主たる寺田甚吉氏が出馬して二月十八日臨時總會を開き重役陣刷新の總改選を断行した所、前社長清水水氏を始め鎌谷、中村、夏秋、角田、水田の諸氏は内訌の責任をとつて辭職した。但し満口、前川兩氏は留任となつた。新重役は寺田氏が社長に山田氏が監査役にそれぞれ就任し茲に當社の重役陣は全く一新されたのである。

**【業績順調】** 今度の内紛で社員、職工にも多少影響を及ぼし、能率も一時は低下を餘儀なくされたが、それも一週間位のもので現在では既に舊に復してゐるから、今期の成績には大した影響はないだらう。齒切工場は前期にスツカリ整備されたので能率は頗る良好となつてゐるから、工作機械の繁忙と相俟つて今期は寧ろ前期より良好な成績を挙げるものと期待される。八分配當は何れにしても動かぬものと云つてよゝ。

**【子會社夏好】** 工作機械専門の平尾鐵工所は着々と擴張工事が進行してをり、此の調子で行けば當社に合併される時期は案外早く來るのではないかと思はれる。平尾鐵工合併後の當社は更に新勢力を加へることになる譯だ。

【機械製作業】

【設立】 昭和五年三月

【決算期】 四月、十月

【事業】 紡織機械、人絹機械、工業用機器、人絹製造、織物工場經營

【資本金】 10,000,000

【株数】 100,000

【役員】 會長 菊本直太郎 取締役 田村駒治郎、社長 常田健太郎 常監 深尾道徳、副社長 林原實 常務 常田吉次郎、常務 武文彦 監査 大家七兵衛、取締役 北田三郎 遠山元一、廣瀬大郎 寺田甚吉

【株主数】 二二二 三二上 二二下 三二上 三二下

【大株主】 仁壽生命堂八〇〇 川島屋商店三、〇〇〇、富國製兵三、〇〇〇 常田健太郎二、八〇〇、田村駒次郎二、〇〇〇 遠山 借成七、五〇〇、藤田繁雄三、〇〇〇 富士生命三、〇〇〇、三榮規模工場所在地及事業(京都九條、十條(機械)、京都梅小路(鑄造)和泉大津(鑄造、鑄造)、大阪烏飼(精密、製紙)、京都西陣、網野(機業))

【事業成績】 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下

【商品資金】 十三年上 十三年下

【投資會社】 三和絹織、三和商店、壽織工業其他

【資本異動】 十三年八月二五拂込後收、十一月壽製鋼所合併、十三年三月新株及第一二新各七圓五拂込後收十月末拂込金額後收

【資産負債】 十二月 十三月 十三月

株主資本 八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇

積立金 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇

外部負債 八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇

社債 〇 〇 〇

借入金等 〇 〇 〇

使用總資本 八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇

固定資産 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇

流動資産 五、〇〇〇 五、〇〇〇 五、〇〇〇

現金預金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【收支積定】 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下

收入 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

支出 〇 〇 〇 〇

固定清却 〇 〇 〇 〇

消却年率 〇 〇 〇 〇

【業績】 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下

高値 安値 高値 安値

十一年 〇 〇 〇 〇

十二年 〇 〇 〇 〇

十三年 〇 〇 〇 〇

十四年 〇 〇 〇 〇

【豫想配當】 十四年四月期 一割

【時價】 十 十 十 十

【名義書換】 十 十 十 十

【設立】 明治三十七年八月

【決算期】 六月、十二月

【事業】 鎖、鑄、鑄鋼、齒車、検査機、昇降機、其他化學、工作、船舶用製作、加工、修理、兵器同部品品、

【資本金】 公稱12,000,000 拂込12,000,000

【株数】 新(株) 120,000

【役員】 社長 清水健太郎、取締役 深尾道徳、取締役 角田 駒治、取締役 鎌谷 實、中村 幸、溝口 良吉 監査 水田由太郎

【株主数】 二二二 三二上 二二下 三二上 二二下

【大株主】 廣海三三三 中村 文子三、〇〇〇、川上同族二、〇〇〇 木村敦二二、〇〇〇、日本産業二、〇〇〇 山田 昌平一、〇〇〇、伊藤 秀雄一、〇〇〇 岸野 耕一、〇〇〇、

【事業規模】 工場所在地 大阪市春日町本工場、朝日橋分工場、溝口齒車工場、櫻澤市神奈川分工場

主要設備 オルセン型鑄鋼試驗機(200噸)一基、ハクント型 六吋鑄機高速旋盤(100噸)一基、年産能力(千噸) 一九 製鎖 一九

【事業成績】 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下

売上高(千圓) 九、〇〇〇 七、〇〇〇

事業益(千圓) 九〇〇 七〇〇

【資本異動】 十三年八月二五拂込後收、十三年三月(最終)〇圓五拂込後收、十三年三月(最終)〇圓五拂込後收、十三年三月(最終)〇圓五拂込後收、

【資産負債】 十二月 十二月 十二月

株主資本 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇

積立金 〇 〇 〇

外部負債 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇

借入金 〇 〇 〇

使用總資本 六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇

固定資産 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇

流動資産 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇

現金預金 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【收支積定】 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下

收入 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇

支出 〇 〇 〇 〇

固定清却 〇 〇 〇 〇

消却年率 〇 〇 〇 〇

【業績】 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下

高値 安値 高値 安値

十一年 〇 〇 〇 〇

十二年 〇 〇 〇 〇

十三年 〇 〇 〇 〇

十四年 〇 〇 〇 〇

【豫想配當】 十四年六月期 八分

【時價】 新五〇 利四 七分五厘

【名義書換】 十 十 十 十

### 理研重工業株式會社

(本社) 東京市麹町區有樂町常務生命ビル(電報掛 七二一七)  
(出張所) 大阪市北區宗是町一(大阪ビル内)

【躍進著し】昨年十月特選を合併し、社名を改めて以來、更に躍進せんとしてゐる。去る二月締切の業績は本稿執筆中明らかでないが、依然優良と期待される。新前橋工場は殆ど前期業績には寄與しなかつたが、王子、柏崎、柿崎三工場の既設、増設部分の稼働により賣上高は更に躍進した模様である。

【新工場建設】新前橋工場は大體完成し、今期初めから運轉を開始するが、更に又工場を建設する。航空機用リングの需要が一層旺盛なるので、既設工場のみで間に合はなくなり、某所に一工場を新設する。その外精密工作に必要な測定器の需要も多く、小倉陸軍工廠の注文に應ずる爲に小倉に測定器工場を新設する。以上二工場新設の外に王子の舊特種工場を擴張中であるし、建設資金は益々増大する一方である。

【近く拂込】去る十二月十日、第二回拂込十二圓半、總額五百萬圓を徴収したが、右のやうに資金が必要であるし、利益金の増加も著しいので、五、六月に第三回拂込を徴収しよう。餘り十二圓半に過ぎぬから、現在の情勢が續けば来年始めには再増資問題が擡頭することと思はれる。膨脹が餘りに急速過ぎるので、若干懸念が持たれてゐるが、事業の性質上その心配は考へられぬ。

### 理化學興業株式會社

(本社) 東京市麹町區有樂町一ノ二(電報掛 七三二)

【前期減益】去る十二月期の利益金は九十万五千圓に止まり、約三萬圓の減益を示した。期央に薬品部を分離獨立したので、利益は減少した上、コスト高により收支比率が少し悪化した結果である。その上増資拂込に壓迫され、利益率は一割六分七厘に低下した。宮内工場の建設が遅れ、前期には殆んど業績に寄與しなかつたので、豫想に反したのである。

【擴張進行】當社は理研コンツェルンの中心的持株會社として投資を續けねばならぬので、一割配當を持続するには投資の外に有利な事業を営む必要がある。従つて目下直營事業の擴張に力を入れてゐる。目下荒川第二工場(特殊軍需品)を建設中だが、更に礦山機關車、貨車の製造工場を設ける段取りとなつてゐる。宮内の旋盤工場も略々完成し、三種類の大型旋盤の製造に取りかゝつてゐる。荒川第一工場のボイラー、ブローワー、ストーカー、ヒーター等も工場用として盛んに需要されてゐる。

【今期向上】前期は過渡期とし以上の成績であつたが、今期は宮内工場の操業で増益とならう。チャックの委託販賣も増加の一方だし今期の業績は餘裕を取り戻すであらう。擴張と共に資金は益々必要だから今期末か、來期初に拂込徴収が實現されるものと思ふ。

【設立】	昭和九年三月
【決算期】	二月、八月
【事業】	ビストンリング、ビストン、ド リル、カッター、ゲージ類、マグネチック クチャック、其他工作機械
【資本金】	公稱 30,000,000 拂込 15,000,000
【株 數】	新(三三三) 100,000
【重 役】	會長 大河内正敏 取締役 市村 清 取締役 矢野 又吉 大塚 萬丈 中川 正左 監査 山田多計治 荒木 重義 西郷 佳夫 林邊賢一郎 岡野 正方
【株主數】	十三年上 十三年下 總數(名) 三三三
【大株主】	理化學興業(株) 理研研究所(株) 日本生命(株) 高津株式(株) 富國工業(株) 定陽 會社(株) 熊田 克郎 常陽銀行(株) 千代田生命(株) 野村生命(株)
【事業規模】	(陸海軍指定工場) 工場所在地 新潟縣柏崎町 柏崎工場 新潟縣柏崎町 柿崎工場 東京市王子區神谷町 東京工場 東京市王子區神谷町
【投資會社】	理化學興業、理研延延工業、 理研電機、理研紡織他十二社
【資本異動】	十二年七月一、二回五拂込徴 収、十月三回(最終)拂込徴収、十三年三 月三、四回(最終)拂込徴収、十三年三 十月理研特種工場を合併社名變更

【資産負債】	十二年 十三年 十三年
株主資本	八、七二〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
積立金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
投資資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支確定】	十二年上 十二年下 十三年上
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【業 績】	十二年上 十二年下 十三年上
売上	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
費用	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【株 價】(買物)株	十二年上 十二年下 十三年上
高値	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
安値	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【時價】	十二年上 十二年下 十三年上
新交 七分九厘	
【名義書換】	廿歳 【新券交付】五十歳

【設立】	昭和十二年十一月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	冷庫房設置 理化學器械、藥品類
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 11,000,000
【株 數】	新(三三三) 100,000
【重 役】	會長 大河内正敏 取締役 三井 米松 取締役 大橋新太郎 監査 大塚 萬丈 植村澄三郎 監査 森村吉左衛門 田中榮八郎 安田豊五郎 木村 徳壽 松本 浩治
【大株主】	住友左衛門 10,000,000 日本生命 10,000,000 三井合名 10,000,000 安田保壽社 10,000,000 三井銀行 10,000,000 理研重工業 10,000,000 常陽銀行 10,000,000 農工銀行 10,000,000
【事業規模】	工場所在地 東京本郷、足立、王子 新潟縣柏崎
【事業成績】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
營業益(千圓)	五、三〇〇 三、八〇〇 四、一〇〇 三、二〇〇
營業費(千圓)	一、二〇〇 一、五〇〇 一、三〇〇 一、四〇〇
【投資會社】	理研ビストンリング、理研 コンツェルン、日滿マダネシウム、理研 依光紙、理研特種鋼線、其他十七社
【資本異動】	十一年十月七〇〇萬圓増資 第一回一、二四五、七〇〇萬圓増資 第二回一、二四五、七〇〇萬圓増資 第三回一、二四五、七〇〇萬圓増資 第四回一、二四五、七〇〇萬圓増資 第五回一、二四五、七〇〇萬圓増資 第六回一、二四五、七〇〇萬圓増資 第七回一、二四五、七〇〇萬圓増資 第八回一、二四五、七〇〇萬圓増資 第九回一、二四五、七〇〇萬圓増資 第十回一、二四五、七〇〇萬圓増資 第十一回一、二四五、七〇〇萬圓増資 第十二回一、二四五、七〇〇萬圓増資

【資産負債】	十二年 十三年 十三年
株主資本	九、二〇〇 一〇、〇〇〇 一〇、〇〇〇
積立金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
外部負債	六、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
借入金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
投資資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【收支確定】	十二年上 十二年下 十三年上
收入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【業 績】	十二年上 十二年下 十三年上
売上	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
費用	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【株 價】(買物)株	十二年上 十二年下 十三年上
高値	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
安値	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
【時價】	十二年上 十二年下 十三年上
新交 七分九厘	
【名義書換】	十歳 【新券交付】五十歳

豊田式織機株式会社

(本社)名古屋市中区島崎町一(電話八〇三三)  
(営業所)名古屋市中区外新川町須ヶ口(電話五三三〇)

【子会社の躍進】昭和重工業の好調は別欄に示した如くである。北支活動の重要拠点として居る青島の豊田式織機の躍進も目撃しい。利生織機を引受けて最近まで紡織機械の修繕や水道関係器具の製作を主として營んで来た豊田式織機は敷地四千坪に餘す所なく工場を増設して經營に努力して来た。その結果青島所在の九紡績會社中七社までは既に運轉開始の運びとなり、残り二社も近く操業出来る見込が立つた。泊河の水源地工事、次いで満鐵の依頼に依る車輛製造、其他の需要としては鑛山用具から農器具と云ふ工合に修繕工場から一躍して機械製造工場にまで躍進したので。それだけに今後の活躍が期待される。上海の大隆織機との合辦經營は中支活動の足場として見逃し得ぬものだし、昭和人絹、日本光綿紡も順調な成績だから子會社群は何れも好調と云へる。

【今期の豫想】三月末に締切られる今期は時局柄原料材料の配給が見られず製造休止の巴むなきに至つた紡織機製造部門を豊田式織機繼續會社として分離し、事業内容を軍需工業へ轉換したため營業成績は工合よく好轉した。しかも補助を覺悟の昭和重工業は却つて當社へ貢獻して居るし、含蓄のある資産内容と相俟つて今期利益は百萬圓に上らう。八分配當措置に懸念がない譯と云へる。

株式 栗本鐵工所

(本社) 大阪市大正區新築屋町七七(電報川一六六〇一六)

【拂込徴収】當社は昨年十二月十日に新株第三回の拂込徴収を斷行した。徴収額は一株十二圓半宛總額六十二萬五千圓である。此の拂込は擴張費と運轉資金の一部に充てられた。

【擴充進行】宇治電と提携して低價銃の大増産を行ふこととなり、近く五百萬圓程度の別會社を設立する計畫である。更にもう一つ別會社を設立して撫順に鑛山用機械並に鑄物製造工場を設置することになつてゐる。この建設費は第一期分として百五十萬圓を豫定してゐる。その他に住吉工場に於ける電氣爐の増設と本社工場の製品多角化に着手してゐる。

【増資期待】以上の擴充資金として今年一杯に大約四百五十萬圓から五百萬圓を必要とするが、當社の手許にはそんな資金は全然ないのだ。未拂込を全部徴つても六十二萬五千圓しかないから無論足りない。結局第四回拂込徴収の上倍額程度の増資と云ふことになるだらう。が當局者は當分借入金で賄つて置き新規事業が収益期に入つてから増資を斷行するらしいから、當社の増資は早く今年下期、遅ければ明年上期となるだらう。が何れにしても増資は單に時期の問題と云つてよい。假に倍額増資となつても現行一割配當は動かぬものとみられる。

【設立】	明治四十年二月
【決算期】	三月、九月
【事業】	紡織機製造の製造販賣
【資本金】	公稱二〇、〇〇〇 拂込二九、三三三 新(三〇、〇〇〇) 一五〇,〇〇〇
【株主数】	新(三〇、〇〇〇) 一五〇,〇〇〇
【重役】	社長 兼松 照
専務	野崎 誠一 取締役 松岡 房吉
常務	益子 愛太郎 監査 益田 信世
取締役	川崎 肇 齊藤 雄二
戸上 實藏 菊池 辰雄	
【株主数】	十一年上 十一年下
【大株主】	三井物産三、三〇〇 谷口豐三三、〇〇〇
日本火災三、〇〇〇 山口玄合資三、〇〇〇	
兼松 照三、〇〇〇 近江商會三、〇〇〇	
岩田商三、〇〇〇 益田太郎三、〇〇〇	
【事業規模】	製造設備及能力(年産)
織機(人絹織機共).....10,000臺	
小幅織機.....10,000臺	
紡績機械(人絹人絹紡績共).....100,000圓	
準備機械.....100,000圓	
毛絲紡績機械.....100,000圓	
工場日本社、新川、大阪、青島	
【事業成績】	十一年上 十一年下
製作資金(千圓).....二、三三三 二、三三三	
販賣資金.....一、二二二 一、二二二	
【投資會社】	昭和人絹、昭和重工業、日本光綿紡績、
【資本異動】	十年十二月、十一年五月各一回五拂込徴収、六月倍額増資、十一月第一回拂込二二圓五徴収。
【資産負債】	九十二年 十三年 十一年
株主資本	三三、三三三 三三、三三三 三三、三三三
積立金	二、二二二 二、二二二 二、二二二
外部負債	一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
流動資産	四、四四四 四、四四四 四、四四四
固定資産	二、二二二 二、二二二 二、二二二
流動負債	一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
固定負債	一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
現金預金	一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
【收支動向】	十一年上 十一年下
収入	一、一〇〇 一、一〇〇
支出	一、一〇〇 一、一〇〇
【業績】	十一年上 十一年下
【時價】	新三〇 四分八厘
【名義書換】	十 三〇

【設立】	昭和九年五月
【決算期】	三月、九月
【事業】	鑄造、鑄物類、セメント製 造用、鑛山用、化學工業用諸機械
【資本金】	公稱五、〇〇〇 拂込五、〇〇〇
【株主数】	公稱五、〇〇〇 拂込五、〇〇〇
【重役】	社長 栗本 勇之助
専務	栗本 勇三 取締役 阿部 政太郎
常務	川谷 恒規 前島 孫太郎
吉本 源之助 足田 雄雄	
取締役	片岡 安 足田 雄雄
津田 勝五郎 村上 勇	
木村 敬二郎	
【株主数】	十一年上 十一年下
【大株主】	栗本勇之助三、〇〇〇 栗本勇三共計三、〇〇〇
木村敬二郎一、〇〇〇 津田勝五郎一、〇〇〇	
高倉作太郎一、〇〇〇 岸本商店一、〇〇〇	
片岡安一、〇〇〇 山本 藤助一、〇〇〇	
【事業規模】	直管.....三、〇〇〇圓
異型管.....三、〇〇〇圓	
鑄造製品.....三、〇〇〇圓	
鑄造製品.....三、〇〇〇圓	
【事業成績】	十一年上 十一年下
製品賣上(千圓).....五、一〇〇 五、一〇〇	
製造費(千圓).....三、三三三 三、三三三	
【資本異動】	年月創立、同月倍額増資、更に栗本足田鐵工所合併(高倉増資十三年七月新株一二圓五拂込徴収)
【資産負債】	九十二年 十三年 十一年
株主資本	三三、三三三 三三、三三三 三三、三三三
積立金	二、二二二 二、二二二 二、二二二
外部負債	一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
流動資産	四、四四四 四、四四四 四、四四四
固定資産	二、二二二 二、二二二 二、二二二
流動負債	一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
固定負債	一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
現金預金	一、一〇〇 一、一〇〇 一、一〇〇
【收支動向】	十一年上 十一年下
収入	一、一〇〇 一、一〇〇
支出	一、一〇〇 一、一〇〇
【業績】	十一年上 十一年下
【時價】	新三〇 七分五厘
【名義書換】	十 三〇

【機械製作業】

### 株式会社 田中機械製作所

(本社) 大阪市港區市岡濱通三丁目二〇番地(電西三)

【擴張】 昨年八月神奈川縣生麥工場の第一期計畫製品起重機及び輸送機を具體化し、引續き第二期擴張計畫を進めて居る。建坪は四百坪程度だがそれでも建設資金は約四十万圓を要する。昨年末には完成する予定であつたが、機械設備の到着が遅れた爲め今上期末にならねば完成しない。これが竣工すれば第一期計畫と合せて、當社の生産能力は従前の約五割を増すこととなる。

【拂込徴収】 右の擴張資金に充てる爲めと、併せて運轉資金を賄ふため、来る四月一日新株の第二回拂込を徴収する。拂込金額は一株につき十二圓半宛、總額百二十五萬圓だ。

【配當不効】 此の様に拂込資本が増嵩しても、現行一割二分の配當は搖がない。假りに拂込徴収後の利益を昨年同期並みの七十萬圓程度と押へても、利益率は尙ほ二割九分餘を保ち、現行配當には充分の餘裕を残す。而も、次期以降に於ては前期の擴張設備が稼働するからこれが業績に寄與する所は尠くあるまい。

【擴充發行】 擴張工事は今期中に一段落するが之で打切られるのではない。生麥工場は尙ほ五千坪の敷地を残してをり、原料手當の見透しがつけば更に設備の擴張を續ける模様だ。本社工場の改善にも迫られてゐるから結局年内には第三回拂込が徴収されよう。

### 株式会社 島津製作所

(本社) 京都市中京區河原町二條南入(電上六三) (支社) 京都市神田區美土代町二(電神田三三一九)

【擴張】 一昨年四月の増資を機會に事業の大擴充に乗り出したが、それは今日も續いて居る。目下工事中のものを挙げれば精機課第二工場、第二造兵課工場、電熱器工作課附屬工場、レントゲン工作課工場その他の多きに及ぶ。此の中擴張の中心をなすものは、精機課第二工場と第二造兵課工場だ。前者は來期初、後者は来る十月それぞれ完成の豫定、製品は何れも軍需品だ。尙ほその他の諸工事も年内には相次いで竣工、操業開始の見込である。

【拂込徴収】 これ等の擴張資金調達のため、来る五月一日新一株に付十二圓半宛、總額二百萬圓の第三回拂込を徴収することとなつたが、これは大部分擴張用前借金の返済に充當されよう。ところで右の擴張を遂行するには後三百萬圓を要する。それに當社はこれに引き續き精機課第三工場の建設を進める計畫だから、これにも約五百萬圓を要する。これ等の擴充資金を全部借入金に俟つと云ふことも出来ぬから、結局最終拂込を徴収の上、倍額程度の増資を行ふこととならう。最終拂込は年内に徴収される見込だ。

【向上期待】 今期売上高は千二百萬圓を期待される。利益割合一割三分と押へて利益は百五十六萬圓、利益率三割七分餘となる。業績は更に向上するわけだ。一割二分配當は安泰である。

【機械製作業】

【設立】 大正八年十二月  
【決算期】 三月、九月  
【事業】 製糖用、化学工業用諸機械、荷揚及輸送機、磨粉、鋸鋸類  
【資本金】 公稱一七、〇〇〇 拂込一三、〇〇〇  
【株数】 新(一三) 六、〇〇〇  
【重役】 社長 岸田東次郎 取締役 木下 茂  
専務 濱本 芳友 監査 江崎 貞忠  
常務 多々良吉吉 湯淺 九市  
取締役 北島 信夫  
【株主数】 十一年上 十三年下  
總數 三三  
【大株主】 鴻池信託石、四〇〇 日本生命六、〇〇〇  
三井物産九、〇〇〇 鴻池電機六、〇〇〇  
岸田東次郎五、〇〇〇 三菱電機五、〇〇〇  
住友生命三、〇〇〇 木下 茂三、〇〇〇

【事業規模】 工場敷地 五、五〇〇坪  
工場 二、一〇〇坪  
職工數 八〇人  
【事業成績】 十一年上 十三年上  
繰上受注高(千圓) 三、九〇〇 三、〇〇〇  
当期受注高(千圓) 三、〇〇〇 三、〇〇〇  
引渡高(千圓) 一、〇〇〇 一、〇〇〇  
受注残高(千圓) 二、〇〇〇 二、〇〇〇  
【資本異動】 十一年二月村上鐵工所を買収  
十一年四月七圓五、十一年三月拂込徴収  
十一年三月三圓拂込徴収十一年一月三圓  
圓増資第一回三圓拂込徴収

【資産負債】	十二年	十三年	十四年
株主資本	九、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
積立金	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
外部負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
使用總資本	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
流動資産	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
【收支勘定】	十二年上	十三年上	十四年上
収入	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
支出	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
固定消却	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
消却年率	一〇%	一〇%	一〇%
【時價】	新五〇〇	【利息】	七分八厘
【名義書換】	十錢	【新券交付】	三十錢

【設立】 大正六年九月  
【決算期】 五月、十一月  
【事業】 理化学機械、化学機械、電気機器、兵器  
【資本金】 公稱一三、〇〇〇 拂込一三、〇〇〇  
【株数】 新(一三) 一〇〇,〇〇〇  
【重役】 社長 島津 源吉 取締役 牛丸 福作  
常務 島津 源吉 監査 松浦 彌平  
島津 常三郎 稲畑 勝太郎  
島津 新一六、〇〇〇 日本生命六、〇〇〇  
津村 重紀五、〇〇〇 住友生命三、〇〇〇  
島津 敬三三、〇〇〇

【事業規模】 工場所在地 本社工場 京都市中京區三條通西大路  
マナケン工場 京都市山ノ内南町  
【投資會社】 日本電子工業、日本電氣計器工業電氣計器  
【資本異動】 十一年三月第一新三圓拂込(最終) 四月三〇萬圓増資第一回三圓拂込徴収 十三年四月第二回三圓拂込徴収

【資産負債】	十二年	十三年	十四年
株主資本	八、七〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
積立金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
社外負債	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
使用總資本	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇	一三、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
【收支勘定】	十二年上	十三年上	十四年上
収入	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
支出	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
固定消却	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
消却年率	一〇%	一〇%	一〇%
【時價】	新五〇〇	【利息】	七分六厘
【名義書換】	十錢	【新券交付】	五十錢

【機械製作業】

### 東京製網株式会社

(本社) 東京市日本橋區吳服橋三ノ五横町ビル内(電日本橋二五三一五)

【前期業績良好】 當社の内容、業績が良好なことは、下表に示す如く一目瞭然だ。製品はワイヤ・ロープ及マニラ・ロープ等の網類であるが、その性質は消耗品に近く、その用途は生産用具の一部を形成するものだ。重要資源産業—就中鑛山業の生産力擴充に伴つて、需要は頓に旺盛である。しかも、更に鐵鋼業、造船並に機械製作等の重工業方面からの需要も激増してゐる。一部は生産資材とし、一部は原料素材として、各方面から需要される。かくて、前期業績も下表に示す如く創業以來の良成績を挙げ、一割配當を握置いた。昨年九月一日の拂込徴収に基く資本負担増も少しも苦痛とはならない。利益の八割以上を内部に保留してゐる程だ。

【工場擴張進行】 右の拂込並に利益保留は、言ふまでもなく、凡て工場擴張資金に充當されてゐる。下表に示す如く、現在工場は川崎、兵庫、小倉の三工場だが、最も擴張の主力となつてゐるのは小倉工場である。もちろん、川崎工場とても擴張は續けられてゐるが、太鋼索製造の専門工場は小倉にあるからだ。

【前途觀】 かく生産設備が擴張されるが、原料素材の獲得は凡て配給統制の下にある。多少の窮屈は免れないが、一割配當に不安はない。増配はゆるされぬが増資の楽しみはある。

【設立】	明治二十年二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ワイヤロープ、マニラロープ、針金其他網類製造販賣
【資本金】	株式 10,000,000 資本金 10,000,000
【株主数】	株式 10,000 株主 10,000
【役員】	専務 赤松 範一 常務 戸村 理順 取締役 原 悦生 取締役 大倉 榮馬 監査 滋澤 信雄 藤田 野三郎 野口 弘毅 高柳 健太郎 野口 弘毅 株主 10,000 株主 10,000
【大株主】	日本銀行 1,000,000 第一生命 750,000 富國銀行 500,000 安田生命 300,000
【事業規模】	工場名 敷地面積 川崎工場 1,500坪 兵庫工場 1,500坪 小倉工場 1,500坪 工場別年産能力 鋼索類(單位) 10,000 川崎工場小倉工場 10,000 川崎工場兵庫工場 10,000
【投資会社】	東洋製網、藤島織機、玉村索道
【資本負担】	十三年九月三〇日(最終) 拂込徴収

【資産負債】	十二期	十三期	十四期
株主資本	17,500,000	17,500,000	17,500,000
積立金	7,700,000	7,700,000	7,700,000
外部負債	3,300,000	3,300,000	3,300,000
使用總資本	28,000,000	28,000,000	28,000,000
固定資産	8,000,000	8,000,000	8,000,000
流動資産	20,000,000	20,000,000	20,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
【收支動向】	十二期	十三期	十四期
収入	10,000,000	10,000,000	10,000,000
支出	8,000,000	8,000,000	8,000,000
【業績】	十二期	十三期	十四期
株主資本	17,500,000	17,500,000	17,500,000
積立金	7,700,000	7,700,000	7,700,000
外部負債	3,300,000	3,300,000	3,300,000
使用總資本	28,000,000	28,000,000	28,000,000
固定資産	8,000,000	8,000,000	8,000,000
流動資産	20,000,000	20,000,000	20,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
【時價】	八・五	八・五	八・五
【利息】	五分八厘	五分八厘	五分八厘
【新券交換】	五	五	五
【新券交付】	二十	二十	二十

### 東洋製罐株式会社

(本社) 大阪市此花區草間町三〇(電福島五五七)  
(東京工場) 東京市品川區品川四ノ七四六(電高輪天二一七)

【機械製作業】

【好成績】 昨年同期は百四十三萬四千圓の利益を計上した。利益率は二割五厘だ。その前期と比較するに利益金で十六萬六千圓を増し、利益率では五厘を向上した。増益理由は空罐統制見越の假需要もさることながら、軍需向の販賣が増大したことが大きい。尙ほ一割配當は充分の餘裕を残して居ること云ふまでもない。

【統制の重壓】 賦力に配給統制が實施されて居る一方、空罐にも亦配給統制が行はれつつある關係上、空罐の内需は極度に抑へられて居るが、軍需用のものが増加の趨勢にあるのと、輸出向の努力とで或る程度補ひがつく。それに代用品としての紙罐の需要増にも恵まれつつあるから、業績はさまで懸念を要しない。今上期も前期並の収益は充分稼ぎ得ると思ふ。とすれば現配當も當然持續し得る筋合ひだ。

【含みは大】 一方、當社の資産内容は相當の含みを持つて居る。此の點は固定資産の廻轉率を見るも略ぼ想像がつく。昨年同期末現在の固定資産は五百十六萬八千圓、同期の賣上高が二千二百二十二萬一千圓だから、廻轉率は八、六回である。廻轉率の高いのは賣行の好調にも因る。が、反面固定資産に含みがある點は見逃せない。これを要するに當社の前途は安泰である。

【設立】	大正六年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	力印刷、紙罐、紙筒、罐詰用機械製作
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株主数】	株主 10,000
【役員】	社長 小野 耕一 専務 高崎 謙之助 常務 野澤 鐵藏 取締役 野澤 鐵藏 高橋 季道 取締役 野澤 鐵藏 高橋 季道 取締役 野澤 鐵藏 高橋 季道 取締役 野澤 鐵藏 高橋 季道 取締役 野澤 鐵藏 高橋 季道
【大株主】	小林合名 1,000,000 第一生命 750,000 高崎謙之助 500,000 高崎謙之助 500,000
【事業規模】	工場別製罐機械及 日産能力 大阪(四列) 50萬罐 青森(一列) 10萬罐 清水(二列) 20萬罐 戸畑(三列) 30萬罐 高崎工場 10萬罐
【投資会社】	東洋製網、藤島織機、玉村索道
【資本負担】	十三年九月三〇日(最終) 拂込徴収

【資産負債】	十二期	十三期	十四期
株主資本	17,500,000	17,500,000	17,500,000
積立金	7,700,000	7,700,000	7,700,000
外部負債	3,300,000	3,300,000	3,300,000
使用總資本	28,000,000	28,000,000	28,000,000
固定資産	8,000,000	8,000,000	8,000,000
流動資産	20,000,000	20,000,000	20,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
【時價】	八・五	八・五	八・五
【利息】	五分八厘	五分八厘	五分八厘
【新券交換】	五	五	五
【新券交付】	二十	二十	二十





【機械製作業】

### 日本精工株式会社

(本社) 東京市品川區東大崎二ノ三六三(電 大崎二八)

【急膨脹を續く】昨年十月一日舊第一新株の未拂込全部を徴収したが、更に去る二月一日第二新株の第二回拂込を徴収した。かくて、資本金並に株数は下表に示す如く東株長期上場の資格を備へるに至つたので、近くその實現を見る筈だが、新株は更に五月一日に第三回の拂込徴収を期待せしめる。そして、間もなく最終拂込を追徴するが、年内には倍額増資の段取とならう。

【ベアリング工業の時局性】この急膨脹は當社の事業たるベアリング工業の時局性に基くこと言ふ迄もない。機械工業の部品工業として新業の確立はわが産業の重工業化過程に重要な地歩を占むるからである。當社は現在手許資金三、四百萬圓を有つてをるが、約千五百萬圓の所要資金には足りな。しかも、前報の如く川崎工場(電気爐設備)の建設に着手しつゝあるので、一時に多額の資金を要する。現在未拂込は僅かに三百五十萬圓を残り過ぎない。早晚増資に進む筋合だが、藤澤工場(現在スチール・ボール専門工場にローラ・ベアリングの専門工場を併置する豫定だ。

【一割配當は安泰】昨年下半年は下表に示す如く、餘裕裡に一割配當を据置いた。配當制限問題のある折柄、高率配當を望めないが、現行配當は安泰だ。

【設立】	大正五年十一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ボール及ローラ、ベアリング、スチールボール、諸機械部品
【資本金】	公稱 二、〇〇〇、〇〇〇 拂込 八、八〇〇、〇〇〇
【株数】	第一新(元)0 100,000
【重役】	社長 高橋 貞賢 取締役 安松 俊雄 常務 多胡 秀敏 監査 宮司 謙次 取締役 山口 武彦 監査 望月 乙彦 近藤 静郎 小井 勇三
【株主数】	十三年下 十三年上 十三年下 十三年上
【大株主】	高橋 貞賢 三〇 安田銀行 九、〇〇〇 安田生命 二、〇〇〇 大正生命 三、〇〇〇 高砂企業 三、〇〇〇 多胡 秀敏 三、〇〇〇 山武商會 二、〇〇〇 望月 乙彦 二、〇〇〇 近藤 静郎 二、〇〇〇 小林 裕次郎 二、〇〇〇
【事業規模】	東京 大崎 工場所在地 同 多摩川 神奈川縣藤澤
【資本異動】	九年三月百五十萬圓に増資十年三月第二日本精工を合併し資本金五百萬圓となり十二年十一月帝國精工を合併し資本金千二百萬圓となる。十三年七月新株二萬五拂込徴収十三年十月三回三萬五拂込徴収

【資産負債】	十一年 十三年 十三年
株主資本	11,111,111 11,111,111 11,111,111
積立金	4,111,111 4,111,111 4,111,111
外部負債	1,111,111 1,111,111 1,111,111
支拂手形	1,111,111 1,111,111 1,111,111
使用總資本	17,333,333 17,333,333 17,333,333
流動資産	10,000,000 10,000,000 10,000,000
流動負債	3,000,000 3,000,000 3,000,000
現金預金	7,000,000 7,000,000 7,000,000
【收支勘定】	十三年上 十三年下 十三年上
収入	10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	8,000,000 8,000,000 8,000,000
【株主配當】	十三年上 十三年下 十三年上
配當	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時價】	100 100 100
【名義書換】	十 十 十

【機械製作業】

### 東洋ベアリング製造株式会社

(本社) 大阪市南區末吉橋通新橋ビル内(電 船場 三三三)

【拂込徴収】去る二月一日、新一株に付二十五萬圓宛、總額三百三十七萬五千圓の拂込を徴収した。これで資本金一千万圓全額拂込済となつた。拂込徴収の理由は、新桑名工場の建設資金を賄ふためと、全額拂込済とした方が昭和ベアリング製造の合併に便利だからだ。

【合併問題】昭和ベアの合併に就ては客臘二十一日兩社株主總會開催の上議決を済ました。總動員法十一條の問題もあり今期決算の済むまで形勢を觀察する方針を採つて居る。が何れにしろ合併は時期の問題だ。昭和ベアの今期配當は始めの予定では東洋ベアと同率とする肚であつたが、配當制限問題のため、これは不可能となつた。當局者はせめて一割としたい意嚮だが果してどうか。

【満洲ベア】満洲ベアリングの五百萬圓増資も、目下行儀みの状態だ。これはまだ第一回拂込を徴収しただけだから、順序として未拂込を徴収した上、増資を行ふことに變更されるかも知れぬ。

【業績】二月期は桑名工場の擴張分が稼働したので、収益は増大した筈だ。拂込徴収の結果平均拂込資本は若干増嵩するが、利益率は殆ど低下しない。従つて現行配當は依然据置かれよう。然し昭和ベア合併後は配當制限の關係で若干の減配が予想される。尙ほ當社の新桑名工場建設は順調に進捗して居り、今年中に完成の予定だ。

【設立】	昭和九年三月
【決算期】	二月、八月
【事業】	ボール、ベアリング、ローラ
【資本金】	一、〇〇〇、〇〇〇 拂込済 一、〇〇〇、〇〇〇
【株主数】	十三年上 十三年下 十三年上
【大株主】	丹羽 昇吾 長谷川 貫一 寺田 甚吉 佐田 保一郎 西園 二吉 大森 吉五郎 森 高吉 早本 五兵衛
【事業規模】	桑名工場 三重縣桑名市内 阪神工場 兵庫県武庫郡真之村 武庫川工場 兵庫縣武庫郡真之村 (建設中)
【事業成績】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
【資本異動】	十三年六月千五萬圓に増資第一回三萬五拂込徴収、十三年四月三萬五拂込徴収

【資産負債】	十一年 十三年 十三年
株主資本	10,000,000 10,000,000 10,000,000
積立金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本	13,000,000 13,000,000 13,000,000
流動資産	10,000,000 10,000,000 10,000,000
流動負債	3,000,000 3,000,000 3,000,000
現金預金	7,000,000 7,000,000 7,000,000
【收支勘定】	十三年上 十三年下 十三年上
収入	10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	8,000,000 8,000,000 8,000,000
【株主配當】	十三年上 十三年下 十三年上
配當	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時價】	100 100 100
【名義書換】	十 十 十

〔機械製作業〕

### 不二越鋼材工業株式會社

(本社) 富山縣富山市石金二〇(電話三三〇)  
(事務所) 東京市京橋區銀座西三丁目菊正宗ビル(電話三三三)

【擴張發行】本社工場に於ける切削工具工場の擴張、精密機器工場の建設、及び東岩瀨の特種鋼工場の新設等の擴張充工事は昨年下期末までにそれぞれ第一期計畫を完了、目下全運轉を行つて居るが、これに引き續き本社並びに東岩瀨工場の第二期計畫を進めて居る。本社工場の擴張内容は切削工具、精密機器で、既に機械の据付も大部分完了した。東岩瀨は製鋼工場の第二期計畫だが、これは三月中には完成する筈だ。尙ほこれ等の擴張と並行して本社工場の隣接地にベアリング工場を建設中だ。これは今秋竣工の予定である。

【二倍半増資】これ等の擴張資金を調達するため、去る二月二十一日新一株に付十二圓半、總額二百二十五萬圓の最終拂込を徴収した。之で當社は一千万圓全額拂込済となつた譯だ。が、右の諸建設が完了するまでには逆もこれ位の資金では賄ひきれぬ。かくて當社は今回一舉二倍半の増新を行ふこととした。増資新株三十萬株の中、二十四萬株は十對十二の比率で現在株主に割り當て、残り六萬株は當社の工科學校、研究所、共濟會で分有する。拂込期日は未定だ。【向上期待】業績は當面向上の一途を辿らう。今期利益は尠くとも二百五、六十万圓、利益率は六割強を期待される。一割配當は餘裕綽々と云ひ得るわけだ。

【設立】	昭和三年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	金切鋼及切削工具、精密機械器具、工具、鋼球、軸承、航空機部品、内燃機機
【資本金】	10,000,000
【株主数】	10,000
【役員】	社長 井村 重吉 取締役 水井庄一郎、取崎 寺田 基吉、 富山小兵衛、坂東 繁一、眞木秀三郎、 岩田米次郎、支那人、高井 千尋、 豊田利三郎、伊藤忠兵衛、 金岡文左衛門、岡谷 惣助、 山田 昌作、伊藤忠兵衛
【株主名】	寺田 基吉、伊藤忠兵衛、 水井庄一郎、岩田米次郎、 山田 昌作、坂東 繁一、 眞木秀三郎、高井 千尋、 支那人、岡谷 惣助、 伊藤忠兵衛
【事業規模】	工場所在地 富山第一工場 精密機械工場 富山第二工場 及試験機と精密研削機 富山第三工場 鋼球及鋼球子、球軸承 東岩瀨工場 特殊鋼製鋼工場 藤井製作所、石川製作所 【投資會社】 藤井製作所、石川製作所 【資本異動】 昭和九年十二月第二エタニ ットパイプを合併し七五〇千圓増資十二 年十月五圓十三年七月七圓各拂込徴収

【資産負債】	十二期	十三期
株主資本	三、八〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇
積立金	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
社外負債	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
借入金	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
使用總資本	三、八〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇
流動資産	三、八〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
収入勘定	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
支出	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
固定前却	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
前却年率	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
【業績】	十二期	十三期
売上	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
費用	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
利益	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
【時價】	七・五	八・五
【名義書換】	十錢	十五錢
【新券交付】	五十錢	五十錢

〔機械製作業〕

### 日本エタニットパイプ株式會社

(本社) 東京市町區大手町日清ビル内(電九ノ内三六)

【前期成績】當社は十一年下期の無配から復配、増配を辿り一割配當へと、躍進的な業績向上を示して來たが、昨十一月末締切の前期業績も順調であつた。即ち利益金七十六萬圓、同利益率二割五分を収め餘裕裡に一割配當を据置いた。斯様な好調理由は、云ふ迄もなく主製品エタニット・パイプが環境好化に恵まれて、賣上激増を見つゝあるからである。尙、此處で一言して置きたいことは、申請中であつた當社新株が昨年十一月一日から長期上場株となつたことだ。【需要増大は續く】エタ・パイの需要は今後も増大するものと想像される。これが爲め當社の大宮、東京、四國の各工場は何れも擴張を急いで居るが、生産高は希望通り増加しない。エタ・パイの主要材料は洋灰と石綿であり、洋灰は問題ないとしても、石綿の供給が充分でない爲である。

【今後の見通し】そこで當社は石綿獲得に奔走して居る。而して、現在最も力を注いで居るのは朝鮮だが、滿洲及北支にも調査員を派遣して居る。かくて、石綿の手當に就いては、従来の第三國からの輸入依存を改めて、漸次内地朝鮮及び圓ブロック圏内に重きを置く方針だが、然しそれは尙漸く精についた程度で、實際は今後に俟たねばならぬ。それにしても當社の一割配當は安泰と見てよからう。

【設立】	昭和六年二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	エタニットパイプ及同附屬品
【資本金】	公稱一、〇〇〇,〇〇〇 拂込一、〇〇〇,〇〇〇
【株主数】	新(25・0) 10,000
【役員】	社長 藤原 宗吉 常務 高田 道信、取崎 林 卯之助、 大野 萬夫、坂下 孝治、 取崎 石黒七三郎、監査 松浦 孝治、 大西虎之介、小山倉之助
【株主名】	藤原 宗吉、大西虎之介、 高田 道信、坂下 孝治、 大野 萬夫、松浦 孝治、 取崎 石黒七三郎、 大井伊太郎、伊藤 精七、 大宮工場、月産能力 四國工場、 東京工場、 蒲田工場、 製造費(一) 一、〇〇〇,〇〇〇 製造費(二) 一、〇〇〇,〇〇〇 營業費(一) 一、〇〇〇,〇〇〇 營業費(二) 一、〇〇〇,〇〇〇
【投資會社】	エタニット證券
【資本異動】	昭和九年十二月第二エタニ ットパイプを合併し七五〇千圓増資十二 年十月五圓十三年七月七圓各拂込徴収

【資産負債】	十二期	十三期
株主資本	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
積立金	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
社外負債	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
借入金	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
支拂手形	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
収入勘定	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
支出	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
固定前却	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
前却年率	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
【業績】	十二期	十三期
売上	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
費用	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
利益	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇
【時價】	新三〇	新三〇
【名義書換】	十五錢	十五錢
【新券交付】	五十錢	五十錢

【機械製作業】

### 愛知時計電機株式会社

(本社) 名古屋市熱田区千手堂方二五(東南局二七)

【拂込】 昨年十二月一日第二回拂込百五十萬圓を徴収したことは前輯の本欄に於て報道した如くだ。然し百五十萬圓の資金では當社が擴く擴張計畫を十分遂行し得ないので、引續き第三回、第四回と矢繼早に拂込は徴収されよう。

【擴張と建設】 本社工場前二萬坪の敷地に約一萬坪の新工場を建設し、大いそのアトに部分品工場を擴張する。名古屋港四號地飛行場には格納庫を新設するし、更に愛知縣下伊保原に飛行場の新設と修理工場の設置を行ふ。之等の中には既に一部竣工した部分もあるが全部が完成するのはまだまだこれからだ。工事の進捗如何によつては六月頃に第三回拂込が徴収されるのではあるまいか。

【配當】 拂込負擔は加重されるが配當維持に問題はない。

【設立】 明治三十一年六月

【資本金】 公稱 二〇〇,〇〇〇 拂込 一九九,七五〇

【株 數】 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇  
 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇  
 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇  
 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇

【重 役】 社長 青木健太郎 取締役 鈴木地一郎  
 常務 増本敏三郎 柴田 秀生  
 取締役 岡谷 惣助 監査 渡邊 義郎  
 伊藤 大助 佐藤 野金之助

【業績】 利益率 配當率 利益總額  
 十二年上 五五・一七 〇・〇〇 〇・六  
 十二年下 五三・一七 〇・〇〇 〇・六  
 十三年上 七七・二六 〇・〇〇 〇・七  
 十三年下 七〇・二六 〇・〇〇 〇・六  
 十四年上 九〇・〇〇 〇・〇〇 〇・八  
 十四年下 八〇・〇〇 〇・〇〇 〇・七

【時價】 舊式 〇 新式 〇

【利息】 五分六厘 三分四厘

### 昭和重工工業株式会社

(本社) 名古屋市西區島崎町一

【擴張と拂込】 當社は飛行機部品及兵器製造の時局會社であつて擴張工事は早急實現を要する。新川の本社工場内の機械工場増設と並行して東京工場の建設にも着手して居るが、東京工場は中島飛行機と提携して主に飛行機部品製造に従事する。この他工作機製造計畫もあるのでは等の費用だけでも差當り百五十萬圓は要る。昨年十一月一日第二回拂込を徴収した許りだが来る五月一日には第三回拂込百二十五萬圓を徴収して擴張資金に充當する筈だ。

【配當據置可能】 今期は拂込資本の増加はあるが擴張分が稼働して来たから十二三萬圓の利益は計上出来そうだ。この分なら當社の配當準備金を親會社で積立て居るが、當社獨力でも六分配當據置は可能だ。將來擴張分が全運轉する時は興味は更に加はる。

【設立】 和年九年六月

【資本金】 公稱 八〇〇,〇〇〇 拂込 八〇〇,〇〇〇

【株 數】 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇  
 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇  
 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇

【重 役】 會長 兼松 照 取締役 宮本 作藏  
 專務 野崎 誠一 監査 益田 信世  
 取締役 益子愛太郎 齋藤 雄二  
 川崎 肇

【業績】 利益率 配當率 利益總額  
 十二年上 四〇・〇〇 〇・〇〇 〇・三  
 十二年下 四〇・〇〇 〇・〇〇 〇・三  
 十三年上 四〇・〇〇 〇・〇〇 〇・三  
 十三年下 四〇・〇〇 〇・〇〇 〇・三  
 十四年上 三〇・〇〇 〇・〇〇 〇・二  
 十四年下 三〇・〇〇 〇・〇〇 〇・二

【時價】 〇 〇

【利息】 五分六厘

### 岡本工業株式会社

(本社) 名古屋市昭和區東通七ノ一五  
(出張所) 東京市神田區末廣町一(電下谷野堂)

【新會社設立】 倍額増資の代案に六百五十萬圓の岡本航空機工業を新設し、株式十三萬株は三月一日現在の岡本工業の舊一株に一株半を、新一株に半株を割當てた。新會社の設立認可申請書には「近き將來親會社へ合併」の條件が附されて居るところから見ても他日兩社の合併は必ず實現する筋合のものだ。

【配當力】 親會社の現行一割配當據置は既設能力だけの運轉で充分配當を賄へる収益がある。従つて興味は新會社の配當如何だ。會社側には確たる意圖も未だないらしいが、倍額増資の代案だからたとへ合併までの過渡期でも無配にすることはあるまい。建設中の新會社に配當能力はないが、結局親會社が何等かの形式で補給し、五、六分の配當をつけるだらう。

【設立】 大正八年三月

【資本金】 公稱 六〇〇,〇〇〇 拂込 六〇〇,〇〇〇

【株 數】 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇  
 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇  
 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇

【重 役】 社長 岡本 松造 取締役 松崎 房吉  
 常務 岡本 徳松 監査 織田 了  
 取締役 大澤徳太郎 水野 兼吉  
 岡本直次郎

【業績】 利益率 配當率 利益總額  
 十二年上 五八・七六 〇・〇〇 〇・八  
 十二年下 五三・三三 〇・〇〇 〇・七  
 十三年上 五三・三三 〇・〇〇 〇・七  
 十三年下 五三・三三 〇・〇〇 〇・七  
 十四年上 五三・三三 〇・〇〇 〇・七  
 十四年下 五三・三三 〇・〇〇 〇・七

【時價】 舊式 〇 新式 〇

【利息】 七分七厘 五分二厘

【機械製作業】

### 川西航空機株式会社

(本社) 兵庫県武庫郡鳴尾村鳴尾字大東

【沿革】 當社の航空機製作に關する歴史は古い。創立は昭和三年だが、その産婦は大正七年設立の合資會社日本飛行機製作所に始まる。爾來幾多の苦難時代を閲して来たが、今日では押しも押されぬ有数の航空機製作會社となつて居る。

【株式公開】 従來その全株式を川西一家の手中に收められて来たが、昨年六月資本金五百萬圓を一千五百萬圓に増資すると共に、新株二十萬株の中二萬五千株を公開、同時に事業の大擴張に乗り出した。擴張内容は機體、發動機その他に互る全面的なものだ。従つて近く第二回拂込を徴収すべき筋合にある。業績は大體好調を辿りつゝあるから、たとひ、拂込資本が急膨脹しても、現行八分配當は充分維持出来る。

【設立】 昭和三年十一月

【資本金】 公稱 一,〇〇〇,〇〇〇 拂込 一,〇〇〇,〇〇〇

【株 數】 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇  
 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇  
 新(三〇) 〇〇〇,〇〇〇

【重 役】 專務 川西 龍三 取締役 岩田 製一  
 取締役 川西 清三 監査 井上 治郎  
 高尾 繁造 西岡 謙二  
 清水 朝郎 川西清兵衛  
 奥津慶一郎 顧問 枝原百合一

【業績】 利益率 配當率 利益總額  
 十二年上 八〇・〇〇 〇・〇〇 〇・八  
 十二年下 八〇・〇〇 〇・〇〇 〇・八  
 十三年上 八〇・〇〇 〇・〇〇 〇・八  
 十三年下 八〇・〇〇 〇・〇〇 〇・八  
 十四年上 八〇・〇〇 〇・〇〇 〇・八  
 十四年下 八〇・〇〇 〇・〇〇 〇・八

【時價】 〇 〇

【利息】 〇

【機械製作業】

### 株式 篠原機械製作所

(本社) 東京市豊町區丸の内ビル内(電九ノ内五三)

【前期派配】前期は千葉工場の一部操業により売上高は急増し、利益も七十四万三千圓に上つた。期初増資し、拂込資本は急増したが、利益率は四割五分強となり、大した低下とはならなかつた。千葉工場は建設中で、未働資産は多いのに拘らず、かゝる好成績を示し得たのである。併し配當は三分引下げ、一割二分へ減配した。工作機械製造事業法により種々特典をうける手前、高率配當を遠慮せざるを得なくなつたから、業績低下によるものではないことは勿論だ。

【増資補充】去る一月三百萬圓を増資し、昭和和工作機を買収し、越ヶ谷工場を賣却、千葉工場のみになつた。千葉工場は目下擴張進行中で、第二工場は近く操業する。今期の生産高は更に増加する。

【設立】	昭和九年十月	【業績】	利益率	配當率	利益額
【資本金】	公稱 10,000	十二年下	四・六	一・〇〇	六〇五
【株数】	新(五〇〇) 10,000	十三年上	三・三	一・〇〇	六〇五
【重役】	社長 篠原 義治 取締役 早川 由吉	下	三・三	一・〇〇	六〇五
	取締役 篠原 爲儀 監査 野中 龍吉	【株】	高値 安値	新	株
	小島 七藏 加藤 光	【時價】	高値 安値	高値 安値	株
	竹川 久仁	【時價】	新(五〇〇) 新(五〇〇)	【利通】	七分九厘

### 株式 大阪若山鐵工所

(本社) 大阪市西成區長橋通二ノ一二(電戎五〇一四)

【増資】過般百萬圓の未拂込を残したまゝ、四百萬圓を増資した。新株八萬株は昨年十一月末現在の株主に對し、舊一株に付二株、新一株に付一株を割り當て、第一回拂込一株十二圓半宛總額百萬圓を去る二月一日に徴收した。

【擴張強行】新株の拂込株金は信太山工場の第一期擴張に投下される。當社は昨秋工作機械製造事業法に基く許可會社となり、同時に前記擴張計畫に付き認可を得た。擴張内容はラヂアルボール盤で、来る十月末完成の豫定だ。此の擴張費は四百萬圓を要するから、第一回拂込金では四分の一しか賅へぬ。のみならずこれに引續き第二期擴張を強行する意嚮だから、第二回、三回の拂込は矢張り早く徴收されよう。業績は向上を期待されるが政策的に一割配當としよう。

【設立】	明治三十一年四月	【業績】	利益率	配當率	利益額
【資本金】	公稱 10,000 拂込 10,000	十二年下	三・〇	一・〇〇	六〇五
【株数】	新(五〇〇) 10,000	十三年上	三・〇	一・〇〇	六〇五
【重役】	社長 谷田俊二郎 取締役 谷田國太郎	下	三・〇	一・〇〇	六〇五
	常務 若山 龍三 取締役 山田 茂七	【株】	高値 安値	新	株
	取締役 渡邊 政夫 監査 山川 信一	【時價】	高値 安値	高値 安値	株
	高木 牛兵衛 監査 堀本 信一	【時價】	新(五〇〇) 新(五〇〇)	【利通】	七分七厘
	清水 正次 森松 貞次郎				

### 株式 明電舎

(本社) 東京市品川區東大崎二ノ二七六(電大崎三五一〇)

【事業好調】昨下期の諸銷却控除前利益金は九十七万五千圓で、對上期十六万六千圓の増益であつた。拂込資本の膨脹で利益率は二割六分と殆ど變らないが、一割配當は餘裕たっぷりであつた。

【擴張不慮】設備擴張は各工場に亘り全面的に行はれる。太崎の本社工場は今尚ほ増築中であり、羽田工場は回轉機、變壓器の増産に引續いて發動機、發電機工場を擴張する。品川工場の内燃機製作も漸く其の緒についたのみで擴充を今後に残してゐる。昨年十一月一日總額二百五十萬圓の最終拂込を徴收したが、十月期末に於ける借金だけで八百萬圓以上に及んでゐる。従つて資金は到底十分でなく、結局再度の倍額増資は必至である。但し増資後と雖も一割配當が拮据ことはないとみてよい。

【設立】	大正六年六月	【業績】	利益率	配當率	利益額
【資本金】	公稱 10,000 拂込 10,000	十二年下	一・七	一・〇〇	六〇五
【株数】	新(五〇〇) 10,000	十三年上	一・七	一・〇〇	六〇五
【重役】	社長 重宗 雄三 取締役 山田 利平	下	一・七	一・〇〇	六〇五
	取締役 横田寅次郎 監査 大野清三郎	【株】	高値 安値	新	株
	金子金次郎 阿部太九三	【時價】	高値 安値	高値 安値	株
	竹内壽太郎 石山 龍雄	【時價】	新(五〇〇) 新(五〇〇)	【利通】	六分五厘

### 大阪電氣株式會社

(本社) 大阪市住吉區北加賀屋町四(電櫻川五三〇一三)

【業績好轉】一時大整理を必要とした程行詰つた當社も時局に恵れて昔日の面目を一新した。配當も漸次増加され現在は一割一分を行つてゐる。業績の好轉は主製品たる電氣爐機械の賣行増加に依るものではなく、全く軍需品の下請が激増したことに基くものだ。時局景氣が續く限り好調を持續しよう。

【不況対策】當局者は現在の好況が一に軍需景氣にあることを認識し、目下反動対策として新製品の増産計畫を進めてゐる。パイットの製造と之が原料鋼たる超高速度鋼の自給がそれだ。之は仲々技術的に困難な事業だから、早急に物にならぬだらうが、實現後は期待される所が大きいものだ。此他熔接棒の増産やゲージ類の製造計畫も持つてゐるが、凡ては之からの仕事である。

【設立】	大正十五年二月	【業績】	利益率	配當率	利益額
【資本金】	公稱 10,000 拂込 10,000	十二年下	三・〇	一・〇〇	六〇五
【株数】	新(五〇〇) 10,000	十三年上	三・〇	一・〇〇	六〇五
【重役】	社長 後藤 幸三 取締役 守谷 正毅	下	三・〇	一・〇〇	六〇五
	取締役 大津 勇 木原菊太郎	【株】	高値 安値	新	株
	取締役 田邊 養一 早崎 又雄	【時價】	高値 安値	高値 安値	株
	立花新十郎 監査 藤田 治郎	【時價】	新(五〇〇) 新(五〇〇)	【利通】	八分一厘
	三井 英一 藤道 文藏				
	森松 貞次郎 松山 政太良				

【機械製作業】

〔機械製作業〕

### 株式 小糸製作所

(本社) 東京市品川區東品川四ノ二 (電高輪三〇九)

【事業順調】子會社真空鍍工研究所は新工場が完成し、機械の据付も終つたので去る二月廿五日より本格的操業開始を見るに至つた。別働隊ともみられる大陸交通器材(資本金三百萬圓四分の一拂込)も開水期を待つて工場建設に進む段取りである。前者は直接當社と關聯するが、後者も亦其の發展が當社の製作品に對する需要増となつて現はれるから間接的に有利となる。尙ほ當社自身の事業は順調に推移し、増産設備も全部完整されたので一段の増益となる筈だ。

【配當問題】昨年九月份は一分増の九分配當を斷行した。本年上期の成績も良好を期待され増配も不可能ではないが、何といつても當社は資産内容を改善するのが急務である。それを果たすまでにはあくまで隱忍自重して現行九分配當程度に止むべきだ。

【設立】	昭和十一年四月	【業續】	利益率	配當率	利益率
【資本金】	公稱 1,000,000	十二年下	三一・七	〇・八〇	五・〇六
【株數】	新(111,111)	十三年上	三三・〇	〇・八〇	五・〇六
【重役】	社長 小糸源六郎 取締役 池田 貞助 専務 山本 信吾 森 勝吉 常務 小糸榮一郎 監査 岩下 和策 加藤 廣一 小糸 廣	【株價】(高値)	高値	安値	高値
		【株價】(低値)	低値	安値	高値
		【時價】	新(111,111)	【利息】	八分三厘

### 日本光機工業株式會社

(本社) 横浜市鶴見區瀬田町一四二 (電鶴見三三)

【拂込追徴】昨年十月一日倍額半増資して現在資本金二百五十萬圓となつたが、去る二月一日新株につき第二回拂込を徴收、拂込資本は百七十五萬圓と膨脹した。周知の如く、滿洲事變勃發以來當社は生産設備を順次擴張し、受注増に處して来たが、支那事變になつてからは更に一段の工場設備擴張を必要としてゐる。その事業は一般の軍需工業とは稍々趣を異にするが、レンズを用ひた兵器類の需要は急激に増大してゐるからだ。かくて、四月一日第三回拂込追徴から六月には最終拂込となる筈にある。

【今期業績順調】昨年九月份利益率二割四分二厘で一割配當を繼續したが、今期も一割配當は安泰だ。事變前に較べて賣上高も三倍餘に達してゐるからだ。増資含みて株價は割安である。

【設立】	大正八年七月	【業續】	利益率	配當率	利益率
【資本金】	公稱 2,000,000	十二年下	二〇・三	一・〇〇	四・六六
【株數】	新(1,000,000)	十三年上	二〇・〇	一・〇〇	四・六六
【重役】	社長 岡 喜七郎 取締役 塚山 繁 専務 若月 國立 監査 柳下 健七 取締役 小島榮太郎 國崎 安保	【株價】(高値)	高値	安値	高値
		【株價】(低値)	低値	安値	高値
		【時價】	新(1,000,000)	【利息】	八分六厘

### 日新電機機械株式會社

(本社) 京都市右京區梅津高畝町二(電京都三九一四)  
(支社) 東京市麩町區丸之内海上ビル(電丸之内三三)

【背景】當社は確實な資本的バックを持つて居る。住友財團と提携して居る點がそれだ。當社の新舊株式四萬株の中三割餘が住友系で占められて居り、而も住友電線の常務別宮貞俊氏が當社の重役陣に參加して居る。かうしたバックを有する點は特筆すべき強味だ。

【擴充】當社は配電盤、特殊高壓器具その他の電機類、及び各種計器類、航空機用機器等時局向製品の製作を本業とする關係上、事業内容の擴充に迫られ、昨春の増資を機會にそれを進めて来た。東京工場の擴張は前期中に完成、本社工場は三月中に竣工の豫定だ。擴張資金は大體手當済みだが、新な擴張計畫を有するから、これに着手する様になれば、第三回拂込を徴收しよう。業績は向上を期待され、八分配當は維持可能である。

【設立】	大正六年四月	【業續】	利益率	配當率	利益率
【資本金】	公稱 11,000,000	十二年下	二八・六	〇・八〇	五・五三
【株數】	新(1,100,000)	十三年上	二九・九	〇・八〇	五・五三
【重役】	社長 岡崎 貞伍 取締役 別宮 貞俊 専務 小島 慎一 久米 勇 常務 清田 岩夫 監査 太田 茂雄 取締役 高倉 俊吉 三宅省三郎	【株價】(高値)	高値	安値	高値
		【株價】(低値)	低値	安値	高値
		【時價】	新(1,100,000)	【利息】	六分六厘

〔機械製作業〕

### 株式 宮田製作所

(本社) 京都市南區東六條二ノ一九 (電南田三三)

【業績順調】當社の昨下期業績は引續き好調であつた。利益金七十三萬三千圓は上期より九萬圓の増益となるし、利益率三割二分八厘も二分五厘の向上だ。斯様な業績好調は、仕事の分野を轉換せしめたことに基因する。即ち、従来の自轉車製造から航空機部品製作に主力を置く様になつたからだ。

【拂込徴收近し】蒲田本工場はこの轉換を眞先に行つた。而も受注旺盛で引續き擴張を行つて来たが、最早や擴張の餘地がなくなり、隣接地に三階建鐵筋コンクリート工場の新設を急いで居る。此の増設工場はこの四月一日から運轉開始の豫定で、これが資金約二百萬圓は當面借入金で賄つた模様だが、この秋には拂込を徴收して一部借金を返済する計だ。尙、早晚増資が問題化す状態にある。

【設立】	昭和九年一月	【業續】	利益率	配當率	利益率
【資本金】	公稱 11,000,000	十二年下	三三・三	一・〇〇	四・一〇
【株數】	新(1,100,000)	十三年上	三三・三	一・〇〇	四・一〇
【重役】	社長 宮田榮太郎 取締役 宮田 敏夫 取締役 宮田三郎 加藤 作郎 宮田彦之助 加藤 英 大場惣太郎 監査 宮田藤治郎 森本 美奇	【株價】(高値)	高値	安値	高値
		【株價】(低値)	低値	安値	高値
		【時價】	新(1,100,000)	【利息】	八分四厘

【機械製作業】

### 株式 石井鐵工所

(本社) 東京市豊町區有樂町一丁目日會館二階(電丸之内五五)

【事業順調】人造石油、製鐵、輕金屬等の事業が現在も將來も一層擴充を促進されつゝある折柄、それら製造装置のメーカーたる當社も亦多くの受注を擁し、事業繁忙である。最近化學機械メーカーの専門化が進歩され、當社は得意とする水性瓦斯發生装置を一手に引受けてゐる。蒲田工場の新張も進捗しつゝあり、又子會社の増資もあり、現在手許資金は一杯だ。何れ近いうちに拂込をとらねばなるまい。

【派配せん】事業の上から云つて業績に不安はないが、本年上期には三分程度減配しよう。同業各社が前期軒並に減配したので、當社としても現行配當を持続し難くなつたのである。即ち時局の壓力が齎した結果である。

【設立】	大正八年十一月
【資本金】	10,000
【株数】	10,000
【重役】	社長 石井 大吉 取締役 石井 悅朗 常務 高水 文吉 取締役 我孫子 勝吉 取締役 高橋 保 監査 大塚 榮吉 野長 忠男 取締役 石井 寛 坂井 定吉 取締役 森谷 治
【業績】	十二年下 売上 10,000 利益 1,000 十三年上 売上 10,000 利益 1,000 十三年下 売上 10,000 利益 1,000 十三年上 売上 10,000 利益 1,000 十三年下 売上 10,000 利益 1,000
【時價】	新 100 高 100 安 100
【利息】	八分四厘

### 株式 荏原製作所

(本社) 東京市蒲田區羽田三丁目一三四一(電高輪三三)

【前期成績好調】昨十一月締切の前期成績は、記者の豫想よりは大分好調だ。即ち、前期利益金八十五万二千圓、同利益率二割六分は、前々期に較べ利益金で二十万七千圓の増加、利益率でも六厘の向上に當る。かくて、一割二分配當の据置は勿論問題なかつた。

【膨張計畫活潑】當社經營は從來消極的であつたが、最近に於ける外延的膨張の兆は活潑だ。例へば、滿洲へ資本金五十万圓程度の化學機械製造會社を設立計畫中であるし、また昨秋から羽田工場に於て工作機械製作の進出を行つて居つたが、これを分離し川崎に約五万坪の土地を買収して許可會社を目論むべく準備である。兎に角、一時材料供給難から減配をも問題視された當社ではあるが、現在に至つては一割二分配當は當分安泰と見做してよい。

【設立】	大正九年五月
【資本金】	10,000
【株数】	10,000
【重役】	社長 島山 一清 取締役 安本 明治郎 常務 山岸 靖一 監査 島倉 吉次 取締役 遠藤 政直 小間 喜保治 坂井 信孝
【業績】	十二年下 売上 10,000 利益 1,000 十三年上 売上 10,000 利益 1,000 十三年下 売上 10,000 利益 1,000 十三年上 売上 10,000 利益 1,000 十三年下 売上 10,000 利益 1,000
【時價】	新 100 高 100 安 100
【利息】	七分五厘

### 株式 櫻田機械製造所

(本社) 東京市城東區北砂町六ノ五七(電本所六八)  
(營業社) 東京市京橋區銀座櫻田ビル(電京橋一〇九)

【滿洲へ進出】當社は化學諸機械、運搬諸機械の製作並びに支那事變後は軍需品への進出を行つたが何れも需要は旺盛だ。そこで砂町本工場の隣接地約四千坪を買収して擴張を進めて居るか同時に滿洲進出が決定し資金調整局の認可を得た。工場は當社分工場として奉天に建設され、此の資金約百萬圓が豫定されて居る模様だ。製作品は本社同様軍需品及び化學、運搬諸機械である。これに依つて當社は大陸進出の足場を作らんとする意圖だが、これが業績に寄與するまでには未だ相當の期間が必要とされる。

【配當豫測】昨下期決算は利益率三割を以て一割二分配當が据置かれた。此の成績から見ると問題は無いのだが、資本金の不充實と材料供給難とを考へれば、現行配當に手放の安心は禁物だ。

【設立】	明治二十六年
【資本金】	10,000
【株数】	10,000
【重役】	社長 櫻田 千午郎 取締役 馬 茂徳 常務 小島 亮平 監査 宮城 三郎 取締役 河野 哲夫 櫻井 米太郎 池田 重五郎
【業績】	十二年下 売上 10,000 利益 1,000 十三年上 売上 10,000 利益 1,000 十三年下 売上 10,000 利益 1,000 十三年上 売上 10,000 利益 1,000 十三年下 売上 10,000 利益 1,000
【時價】	新 100 高 100 安 100
【利息】	九分二厘

### 月島機械株式會社

(本社) 東京市京橋區月島通五ノ九(電京橋六〇一)

【前期成績順調】使用材料たる鐵鋼の配給統制から、一時當社は業績低下を憂へられたのであるが、昨十月締切の前期成績は案外好調であつた。即ち、利益金は二十四萬圓七千で、同利益率は三割五分に達した。前々期に較べ利益率四分の向上だ。勿論一割二分配當は据置かれたが依然餘給含みと云ふことが出来る。

【拂込徴収は近い】建設中の鶴見新工場は、諸用材及機械等の入手遅延から、豫定より大分遅れたが愈々来る五月頃から運轉の運びとなる。右新設工事費約百萬圓は手許資金と借入金で賄はれて来たが何れは拂込資本に振替へられるだらう。今期は未だ新工場からの寄與はないが、前期程度の収益は充分擧げ得る状態にある。來期からの業績に期待される。

【設立】	大正六年五月
【資本金】	10,000
【株数】	10,000
【重役】	常務 宮崎 好文 取締役 小川 只治 取締役 大倉 榮岡 監査 鈴木 六郎 大倉 發身 監査 今井 八郎 高橋 誠策 監査 岡田 金之助 木村 正玉 田川 太郎
【業績】	十二年下 売上 10,000 利益 1,000 十三年上 売上 10,000 利益 1,000 十三年下 売上 10,000 利益 1,000 十三年上 売上 10,000 利益 1,000 十三年下 売上 10,000 利益 1,000
【時價】	新 100 高 100 安 100
【利息】	一割三分

【機械製作業】

〔機械製作業〕

### 株式小松製作所

(本社) 石川県能登郡小松町字八日市  
(事務所) 東京市麹町區丸の内九ビル(電丸之内三六五)

【倍額増資】 資本金五百萬圓を倍額一千万圓に増資するが、増資新株第一回拂込一株十二圓半總額百二十五萬圓を三月二十日に徴收した。新資金は栗津新工場の建設と本社小松工場の擴張費に充當される。栗津工場は敷地四万八千坪を擁してをり、トラクター、工作機械、ポンプ、特殊コンベアー等の一齊増産をなし、小松工場はニッケルクロム鋼、シリコン鋼其他特殊鋼の増産設備を施す。

【満洲進出】 哈爾濱郊外に一万五千坪の敷地を有し、昨年末建坪八百坪の工場を完成した。當分修理工場に充てるが近く組立工場を設置し内地よりの製作品を此處で組立て販賣する仕組とする。然し之等は滿洲進出の第一歩を踏み出したといふ程度であるが、鑒て之を足場に一段の發展を劃することゝなる。現行配當は持續されよう。

【設立】	大正六年一月
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込済 10,000,000
【株数】	新(株) 100,000 舊(株) 100,000
【重役】	社長 中村 稅 取締役 矢野 政義 取締役 八十島五郎右衛門 各務 良幸 森本 高一 監査 今村 信吉 眞野 官一 白石 多士良
【業績】	十二年下 4,800,000 十三年上 6,600,000 十三年下 9,600,000
【株價】	(高値) 110 (安値) 70
【豫想配當】	十四年六月份 一割
【時價】	新三三
【利廻】	七分三厘

### 株式小原鐵工所

(本社) 大阪市西淀川區佃町五五一(電福島 天一七)  
(出張所) 東京市日本橋區吳服橋一三和ビル(電日本橋三〇七)

【業績向上】 昨年同期に比し利益を計上、利益率一割九分五厘に當る。その前期に比し利益金で三萬四千圓の増加、利益率で七厘の向上だ。當期は昨年六月末の最終拂込徴收で平均拂込資本は増嵩した。にも拘らず、右の様に利益率が向上を示したのだから、好成績を収めたものと云ひ得る。が、一割配當に餘り裕りのない點は、好成績に對して遺憾である。

【増資含み】 當社は昨年六月末を以て全額拂込済みとなつたが、軍需品部門擴張の資金調達の意味から、結局は増資とならう。金額は先づ倍額と見られる。今期は軍需品、酒精機械、工作機械等が好調を呈して居るから、業績は前期よりも向上しよう。延いて一割配當も據置の方針に出る見込である。

【設立】	昭和九年三月
【資本金】	公稱 1,500,000 拂込済 1,500,000
【株数】	新(株) 100,000 舊(株) 100,000
【重役】	社長 小原 敏一 取締役 九里 博武 取締役 徳倉 充治 松本 章 中根 一二 渡部 一 橋田 社治 監査 清水喜三郎
【業績】	十二年下 1,010,000 十三年上 1,010,000 十三年下 1,010,000
【株價】	(高値) 100 (安値) 70
【豫想配當】	十四年五月份 一割
【時價】	新三三
【利廻】	九分三厘

〔機械製作業〕

### 株式加藤製作所

(本社) 東京市品川區大井町三三三(電高輪八又)

【前期業績】 十一月期決算を一瞥すると、賣上高二百四十七萬圓から三十四萬圓の利益金を収めて居る。これを前期に較べると賣上高は九十二萬圓を増し、利益金も十四萬一千圓を増加したが、利益率は此の間四割から二割五分へ大巾低下を示した。それにしても一割配當の據置には勿論問題なかつた。右利益率の低下は、未働資本の加重に依るもので此の心配もなし。

【稲毛新工場活躍】 即ち、未働資本の原因たる新設千葉稲毛工場が去る一月中旬から全運轉する様になつた。かくて、内輪に押へても今期引渡高四百萬圓、同利益金四十萬圓は充分期待出来る。この利益率は二割七分で、前期より二分の向上だ。兎に角、稲毛工場の活躍に依つて來期から業績は著しく向上する筈だ。

【設立】	昭和十年一月
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込済 1,000,000
【株数】	新(株) 100,000 舊(株) 100,000
【重役】	社長 加藤秀三郎 監査 山下安太郎 常務 加藤辰次郎 山岸晴之助 取締役 加藤文造 工藤 兵衛 松浦 倫一 顧問 立石 谷太
【業績】	十二年下 1,500,000 十三年上 1,500,000 十三年下 1,500,000
【株價】	(高値) 150 (安値) 100
【豫想配當】	十四年五月份 一割
【時價】	新三三
【利廻】	七分五厘

### 株式各和製作所

(本社) 東京市板橋區志村町二一一(電大塚三三三)

【業績】 當社の昨九月份の利益金は二十二萬圓、同利益率二割六分で配當は九分を埋置いた。三月締切の今期業績は新設宇都宮工場の一部運轉に依つて業績は若干向上しようから、九分配當の據置には問題あるまい。宇都宮工場建設費には約百萬圓掛つたが全部借入金で賄はれた。右借入金は何れ拂込資本に振替へられるだらうが、然し當社の場合それは早急には實現しませぬ。

【株價安の原因】 當社は競争に直接必要な消耗品を製作して居り、作業は繁忙を極めて居る。また現在多くの機械會社の悩みの種たる材料制限の問題も懸念ない。かくて、當社は發展を約束され乍らも株價は何時も額面倒れの四十八、九圓に低迷して居るのは何うしたわけか。その原因の一つとして、當社の經營態度が挙げられる。

【設立】	昭和九年五月
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込済 1,000,000
【株数】	新(株) 100,000 舊(株) 100,000
【重役】	社長 各和 取締役 高橋 和人 取締役 和田喜三郎 監査 森山 邦雄 松井利三郎
【業績】	十二年下 1,000,000 十三年上 1,000,000 十三年下 1,000,000
【株價】	(高値) 100 (安値) 70
【豫想配當】	十四年三月份 九分
【時價】	新三三
【利廻】	八分五厘

### 高砂鐵工株式會社

(本社) 東京市京橋區銀座四ノ三(電報掛三六六〇)

【拂込徴収】 来る六月一日最終拂込一株十五圓、總額百二十萬圓を徴収する。新資金は志村工場擴張のための借入金返済と大崎工場の軍需品製作設備擴充費に充當する。然し積極的に乗出した軍需機器製作は今後一段と増産を遂行せねばならず、滿洲方面への進出も着漸計畫を具體化しつつあるから、原料獲得の見通しがつけば更に増資にまで進むものと思はれる。

【一割二分持續】 擴充を續け來つた志村工場は略々一段落となり、磨帶鋼は配給及び價格統制で事業に安定性を増した。鉄力工場の技術改善で生産コストは低下し、濾水機の賣行も良好である。此の分では今期七十萬圓掘みの利益を期待される。利益率三割六分強に當るから一割二分配當は十分据置ける。

【設立】	大正十二年十一月	【業績】	利益率	配當率	利益額
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	十二年下	三六	一〇	360,000
【株数】	新(株) 60,000	十三年上	三三	一〇	330,000
【重役】	會長 原 邦造 取締役 柳町政之助 事務 砂谷 智博 小林 壬 常務 關山 延 山内 定功 取締役 關山 延 望月 久吉 取締役 藤田 文雄 野井 久吉 喜多村 實二 原 三郎	【株價】(實物) 高値 安値 新株 安値 十三年 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 十四年 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 【豫想配當】 十四年五月份 一割二分 【時價】 新株 〇・〇〇 八分二厘 【利息】 六分三厘			

### 日本テイゼル工業株式會社

(本社) 東京市豊島區丸ノ内三ノ二(電報掛三三三三)

【昨年下半年六分据置】 昨年十一月からテイゼル機關の大量生産が可能となるのを見越して一分増配を喧傳されたが、物動計畫遂行に基く素材入手難を控へ、先行き見透難から下期は六分配當を据置いた。しかし、商品販賣益は百一十一萬八千圓に達し、營業費を差引いて、益金七十八萬四千圓、利益率一割五厘となつた。現行配當に不安がないのみならず、一分程度なら増配も可能であつた。

【重役陣の變化と金融安定】 舊設再び當社の重役陣が變つたが、左表に示す如く、金融畑から新任された重役が多い。かくて、勸銀等の有力銀行筋も愈々積極的に支援する段取となつたから、事業の遂行も餘程楽とならう。事業は將來ともに好望視されてをるが、何分にも多額の資金を要することとて、そこに困難があつたのだ。

【設立】	昭和十年十二月	【業績】	利益率	配當率	利益額
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	十二年下	〇・〇〇	〇・〇〇	0
【株数】	新(株) 100,000	十三年上	〇・〇〇	〇・〇〇	0
【重役】	社長 安達 聖造 取締役 太田 光熙 常務 白石 喜之 岸 茂 事務 水田 美彌 鈴木 茂兵衛 取締役 藤田 健爾 大賀 基作 取締役 西 彦太郎 増田 鶴三	【株價】(實物) 高値 安値 新株 安値 十三年 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 十四年 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 【豫想配當】 十四年五月份 六分 【時價】 〇・〇〇 八分八厘 【利息】 八分八厘			

### 鋼板工業株式會社

(本社) 神奈川県川崎市九子一三五(電田調布四六)

【拂込徴収と増資】 當社の最終拂込徴収が認可となつた。来る三月十五日に一株十二圓五十錢、總額五十萬圓の拂込が取られる。而して矢張り二倍増資を重役會で決議し目下資金調整局へ申請中である。顧みるに、當社は資本金僅かに三十萬圓の小會社でしかなかつたのに、それが時局の波に乗つて積極政策に轉換し、十二年春に百萬圓に増資したが、十三年春には資本金三百萬圓となつて、今回更に六百萬圓へ増資せんとする典型的な膨脹會社である。

【増配含み】 右の如き著しい資本膨脹にも拘らず業績は順調だ。今期利益金の如きも三十三、四萬圓は期待出来る。増加する拂込資本に對比せる利益率は二割四分見當となる。尙、來期は増設工場が働いて來るから更に増益する。一分増配が期待される所以だ。

【設立】	大正十五年三月	【業績】	利益率	配當率	利益額
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	十二年下	二〇	一〇	200,000
【株数】	新(株) 100,000	十三年上	二〇	一〇	200,000
【重役】	社長 長 義連 取締役 太田 肇吉 事務 日比野 太郎 監査 遠見 知久 取締役 高橋 愛三 三宅 久之助	【株價】(實物) 高値 安値 新株 安値 十三年 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 十四年 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 【豫想配當】 十四年五月份 九分 【時價】 新株 〇・〇〇 八分三厘 【利息】 八分五厘			

### 國光製鎖鋼業株式會社

(本社) 大阪市住吉區濱口町四四五(電住吉三三)

【拂込徴収】 當社は去る二月二十五日新株第二回の拂込を徴収したので未拂込はあと百萬圓だ。之も今年中には全部徴収決定で、總ては倍額増資に進む模様である。

【擴張計畫】 着工中の千五百型壓延設備は四月早々に完成する。未着手のものは八型電氣爐一基と特殊鋼部門の擴大である。電氣爐増設は既に當局に認可申請中であるが近く許可される見込みだ。

【業績良好】 昨年下半年は擴張分が稼行期に入つたので當社創立以來の好成績を挙げた。そこで一分増の配當を断行した。今後の見透しも原料關係に於て多少不安があるけれども、時局關係の製品が多いから強く心配することはなからう。全額拂込済の上倍額増資となつても一割配當は動かぬものとみられる。

【設立】	昭和九年五月	【業績】	利益率	配當率	利益額
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000	十二年下	一〇	一〇	100,000
【株数】	新(株) 100,000	十三年上	一〇	一〇	100,000
【重役】	社長 長谷川 爲藏 取締役 桑原 雅隆 事務 石原 鶴吉 取締役 菅野 米二 取締役 木村 敬二 監査 後藤 吾朗 取締役 近江 幸三郎 小柳 六四郎	【株價】(實物) 高値 安値 新株 安値 十三年 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 十四年 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 【豫想配當】 十四年五月份 一割 【時價】 新株 〇・〇〇 八分四厘 【利息】 八分一厘			

【機械製作業】

【機械製作業】



【機械製作業】

### 株式豊田自動織機製作所

(本社) 愛知縣羽島郡刈谷町大字柳子油木二(電刈谷三二)

【増資問題】既に九百萬圓拂込済となつたので早くも増資の暇が頼りだ。刈谷の本社工場内設備大擴張、新設名古屋工場の設備増大計畫等に相當の資金が要る。一部は親會社豊田紡から賄はれて居るが、親會社としてトヨタ自動車工業を一千三百萬圓から三千萬圓に増資決定の今日、この方の考慮も拂はねばならぬであらう。従つて資金を親會社にのみ頼ることは許されぬ。増資が問題化するのには當然だ。

【増資の形式】どう云ふ形式を採るか、會社當局者はその片鱗も示さぬが、軍需品製作専門の名古屋工場は未だ未だ擴張資金を要するし、トヨタ自動車の擴張増資に伴つて當社からの原材料供給も増大せねばならない。軍需品専門工場を切離して別會社を創立するか、或は倍額増資か興味ある問題だ。

【設立】 大正十五年十一月

【資本金】 公稱 九,000,000  
 拂込済 九,000,000

【株数】 100,000株

【重役】  
 社長 豊田利三郎 取締役 竹内 賢吉  
 常務 豊田喜一郎 菅 隆俊  
 同部若太郎 監査 西川 秋夫  
 取締役 鈴木 利藏 藤野平次郎  
 大島三郎 豊田 平吉

【大株主】 株主總數 九,999名  
 豊田紡織三三三 豊田紡織三三三  
 豊田喜一郎 豊田利三郎 豊田利三郎  
 豊田 佐助 豊田 桂三 豊田 桂三  
 兒玉 米子 鈴木 利藏 鈴木 利藏

【豫想配當】 十四年三月份 八分

### 帝國精密工業株式會社

(本社) 神戸市林田區大池町四ノ二(電須磨三三)

【完全立直る】整理完了後の當社は時局に恵れて完全に立直つた。即ち昨上期は六分の復配を断行し、下期には一分増の七分となし今年上期には更に一、二分の増配が期待されてゐる。

【擴張計畫】目下兵器工場の増設と工作機械工場の擴充を行つてゐる。本年五、六月頃には完成する見込みで、これに概算六、七十萬圓の資金を要する。

【増資期待】右の擴張資金は一時借入金で賄はれることになるだらうが、結局は拂込、増資に至るものと想像される。當社の未拂込額は七十五萬圓であるが、之を全額徴收しても運轉資金の増額を考慮すると足りない。倍額増資は必至とみてよからう。先行き成績向上が期待されるから總ては一割配當が實現するかも知れない。

【設立】 昭和九年三月

【資本金】 公稱 三,000,000  
 拂込 一,750,000

【株数】 30,000株

【重役】  
 社長 山田多計治  
 専務 本田菊太郎 取締役 岡崎 三郎  
 取締役 田所 義雄 高野 仁慈  
 坂井 新次 監査 廣瀬 恒一  
 川瀬 晴一 服部鉄三郎

【大株主】 株主總數 2,000名  
 新(三三三) 300,000株  
 新(三三三) 300,000株  
 新(三三三) 300,000株

【豫想配當】 十四年五月份 八分  
 【時價】 新六〇 六分九厘  
 【利通】 七分九厘

【機械製作業】

### 株式東京鍛工所

(本社) 東京市品川區東大崎一ノ五四六(電大崎三六)

【拂込相繼ぐ】當社は日本鍛工と並び立つ鍛造専門會社である。進新會社だが、内容、業績に於ては寧ろ前者を凌駕してゐる。毎期三割四、五分の利益率を挙げ、一割五分配當を維持してゐる點から見ても判る。當社の工場は大崎と川崎とにあるが、川崎工場は最近完成したばかりの新設工場で、自動車鍛造部品を製造する。まだ一部しか操業してゐないが、近くフル運轉となれば、既存工場の三、四倍に及ぶ生産が可能である。引續き航空機鍛造部品工場の建設計畫を進めてゐる。六月一日に百十二萬五千圓の拂込を徴することになつてゐるが、間もなく最終拂込も徴收されよう。

【減配が必要】資本負擔は加重するが業界繁忙で決算に心配はない。然し時節柄一割五分は高過ぎるから、三分程度の減配が必要だ。

【設立】 大正七年四月

【資本金】 公稱 10,000,000  
 拂込 10,000,000

【株数】 100,000株

【重役】  
 社長 難波又三郎 取締役 池貝 杉二  
 専務 池田 清藏 監査 山口 勝藏  
 池田 清藏 難波又三郎 住友生命 大六

【大株主】 株主總數 1,000名  
 池田 清藏 難波又三郎 住友生命 大六

【業績】 利益率 配當 利率  
 十二年下 六六・一 一・五 〇・〇五 五・九  
 十三年上 六六・一 一・五 〇・〇五 五・九  
 十三年下 六六・一 一・五 〇・〇五 五・九  
 十四年上 六六・一 一・五 〇・〇五 五・九

【時價】 新六〇 九分四厘  
 【利通】 九分四厘

### 日本鍛工株式會社

(本社) 東京市日本橋區室町二ノ四三和銀行ビル(電日本橋二四)

【川崎工場運轉】當社は大阪の舊恩加島鍛工所を母體に東京へ進出した會社である。そのため工場は大阪と東京(川崎)の二ヶ處にあるわけだが、昨年末までは主として大阪工場の利益だけでやつて来た。製品は自動車、戦車、艦船等の鍛工部品で、時局柄増産を遂げられるものだが、新設の川崎工場では此の外に更に航空機用鍛工部品の大量生産を行ふのである。川崎工場は既に昨秋一部操業を始めたが、近くフル運轉の曉には當社の生産能力は一躍倍加する。

【一割配當維持】當社の業績に於て昨年春頃極端な悲觀説が流布されたが、之も其後の成績が立證する通り、一割配當は依然堅持されてゐる。昨年六月の拂込について今回又拂込を徴することになつたが、今期からは川崎工場の収益が加はるので、現行配當に不安はない。

【設立】 昭和十二年八月

【資本金】 公稱 10,000,000  
 拂込 10,000,000

【株数】 100,000株

【重役】  
 社長 柴柳 新一 取締役 久保田 勝一  
 常務 角田 隆 森 泰  
 取締役 加藤 設 監査 今井 四郎

【大株主】 株主總數 1,000名  
 新(三三三) 300,000株  
 新(三三三) 300,000株  
 新(三三三) 300,000株

【業績】 利益率 配當 利率  
 十二年下 六六・一 一・五 〇・〇五 五・九  
 十三年上 六六・一 一・五 〇・〇五 五・九  
 十三年下 六六・一 一・五 〇・〇五 五・九  
 十四年上 六六・一 一・五 〇・〇五 五・九

【時價】 新六〇 七分九厘  
 【利通】 七分九厘

〔機械製作業〕

### 日本コンクリートポール株式会社

(本社) 東京市足立区千住關谷町三八(電足立三三三)  
(営業所) 東京市京橋區銀座西五共同建物ビル(電銀座四四八)

【業績】昨下期決算は思つたより良かった。即ち、利益金は九万五千圓で、同利益率は一割三分四厘となり、上期より金額で一萬五千圓利益率で四厘と僅か乍ら向上を示した。次に今期豫想利益金は十一萬圓が想像される。前期より一萬五千圓の増益に當るが、利益率は拂込金の増加から一分低下の一割二分二厘となる。若干窮乏乍ら八分配當は据置かれるものと思ふ。

【拂込徴収】當社は去る二月一日に一株十一圓五十錢、總額四十五萬圓の拂込を徴収した。拂込金の使途は、大阪工場と東京工場に約十萬圓宛並びに葛生工場に約五萬圓をそれぞれ工場の改・増設費に廻される。それにしても約二十萬圓程残るが、それは借金返済に振向けられる。従つて、漸次生産高は増加するだらう。

【設立】	昭和九年九月
【資本金】	公稱 10,000 拂込 1,400
【株数】	新(100) 14,000
【重役】	社長 吉澤 兵左 取締役 河西三九郎 副社長 大塚 見長 取締役 藤島 茂高 取締役 田中徳兵衛 監査 木本 卯吉 加賀山 學 大谷順之助 香田 五郎 松下 榮
【業績】	利金 配率 利益率 十一年上 1.75 0.05 0.05 十一年下 1.75 0.05 0.05 十三年上 1.75 0.05 0.05 十三年下 1.75 0.05 0.05
【株價】	(買物) 高値 10.4 安値 10.0 十三年 10.4 10.0 十四年 10.4 10.0 十一月 10.4 10.0
【豫想配當】	十四年五月初 八分
【時價】	新三〇〇
【利通】	一割六分

### 株式帝國鑄鋼所

(本社) 大阪市西淀川區島町一五六四(電島島五二一)

【當社の強味】當社は四基の電氣爐を持ち此の能力は十四週半となつてゐる。之は住友金屬、神戸製鋼を除けば關西に於いては最大の設備と云つてよい。事業の主體は電氣爐から出た鑄鋼を加工して軍需品、一般工場用機械を製作するにあるが、この他に鑄山用機械、鑄物機械の製造部門と輕合金部門とを持つてゐる。即ち一貫作業設備を有することは當社の強味である。

【拂込・増資】當社は積極的擴張を續行してゐる。神崎工場の鍛造部、佃工場の輕合金部、本社工場の機械部全般に亘つて行はれるのだ。この擴張には相當の資金が要るから、近々末拂込を全部徴収した上、倍額増資に至るものと期待される。一割二分配當は續行可能である。

【設立】	昭和十二年五月
【資本金】	公稱 10,000 拂込 1,000
【株数】	新(100) 10,000
【重役】	社長 竹中 治 常務 酒井良太郎 取締役 藤田三郎 取締役 浦原 利吉 事務 竹本市左衛門 監査 松崎 安
【業績】	利金 配率 利益率 十三年下 1.75 0.05 0.05 十三年上 1.75 0.05 0.05
【株價】	新(100) 10.000 各種鍛鋼品、特殊鋼、各種輕合金、各種鍛鋼品、其也
【大株主】	竹中 治 二八〇 竹中 イク 二六〇 津田 三郎 二〇〇 豊田利三郎 一〇〇 竹中 好子 一〇〇 竹中多鶴子 一〇〇
【豫想配當】	十四年五月初 一割二分
【時價】	新三〇〇
【利通】	一割四分

〔機械製作業〕

### 芳澤化機工業株式会社

(本社) 東京市江戸川區逆井一ノ五(電墨田八二)

【下期成績】昨年十二月末締切の前期は利益三十八萬四千六百圓で利益率は六割強を示した。それで豫想通り一割五分配當を据置いたが遂に餘裕種々である。之は原料入手難の折柄ながら各地に散在する支店と協力して其の手當に成功し、滿洲方面へは販路の新規開拓に邁進した結果である。

【前途】豫てより設立を急いでみた奉天製作所は、本年始め資本金四十八萬圓の日滿工業會社として小型ながらも滿洲中央部に進出することゝなつた。製作品は化學工業用機械である。東京逆井の本社工場にも機械工場が一棟新設される。發展力に富み未拂込は年内全部徴収さるべき筋合にあるが、配當は時局會社として高率であるから政策的にも二、三分方減配するかも知れぬ。

【設立】	大正六年十月
【資本金】	公稱 10,000 拂込 1,000
【株数】	新(100) 10,000
【重役】	社長 芳澤 龍太郎 取締役 杉村 信近 常務 柳 長三郎 監査 大田黒元雄 大久保 隆 三木 武市 取締役 山形 章
【業績】	利金 配率 利益率 十三年上 1.75 0.05 0.05 十三年下 1.75 0.05 0.05
【株價】	高値 10.4 安値 10.0 十三年 10.4 10.0 十四年 10.4 10.0 十一月 10.4 10.0
【豫想配當】	十四年五月初 一割二分
【時價】	新三〇〇
【利通】	九分三厘

### 日本精器株式会社

(本社) 東京市品川區大井敷洲町五〇  
(支社) 大阪市西區京橋上通二ノ一四

【蒲田工場完成】舊廠既に新設蒲田工場の一部は完成したが、更に三月末迄には機械の据置も大部分を終了する筋合にある。一部操業から全運轉も近く工具並にゲージ類の生産高は一段と増加する。

【再増資期接近】かくて、現在資本金は二百萬圓、内拂込百三十九萬圓だが、来る四月、九月の二回に分けて未拂込額を徴収し、更に年内には五百萬圓の資本金に膨脹する模様だ。言ふまでもなく、生産設備の擴張に資金を必要とするから、志村工場建設に着手する段取となつてゐる。

【配當安泰】右の資本負擔は増大しても、製品の生産、販賣高は急激に増大するから、時局的需要の續く限り、三割臺の利益率を維持することは可能だ。一割二分配當に不安はない。

【設立】	昭和二年十二月
【資本金】	公稱 10,000 拂込 1,000
【株数】	新(100) 10,000
【重役】	社長 德田 昂平 取締役 田口太一郎 副社長 青柳 欣一 取締役 今村 久義 取締役 小野 進三 監査 矢崎新之良 關島 茂富 小林 兵助
【業績】	利金 配率 利益率 十三年下 1.75 0.05 0.05 十三年上 1.75 0.05 0.05
【株價】	高値 10.4 安値 10.0 十三年 10.4 10.0 十四年 10.4 10.0 十一月 10.4 10.0
【豫想配當】	十四年四月初 一割二分
【時價】	新三〇〇
【利通】	一割三厘

【機械製作業】

### 遠州織機株式會社

(本社) 静岡濱名郡可美高坂四八八八(電話松二二四)

【配當措置】阪本式自動織機で今日の基礎を築いた當社は、事變の勃發で軍需品製作に轉換した。當社は不馴れなためと不完全な設備で作業利潤は若干低下した模様だったが、擴張設備完了と作業に熟練してからは順に能率は向上し、織機ワインダー類の不振を充分カバーしてなほ相當の採算がとれるところまで過ぎつた。最近累期七割近くの社内保留が出来るとこのためだ。同時に内容の充實は資金に含みを持たせたから目先一割五分配當は据置く模様だ。

【前途】軍需品製作は原料配給に困らぬが、利潤はあまり多くを望めない。利益の多い機械類は圓ブロック外への輸出を除いては原料の配給がないから作れない。従つて今後はこれ迄の如き上向率を示すかは問題である。

【設立】	大正九年二月	【業績】	利益率	配當率	利益倍率
【資本金】	公稱 1,000,000	十二年下	一三・〇	一〇〇	六・三
【株数】	拂込 〇・〇	十三年上	一五・〇	一〇〇	六・五
【重役】	社長 阪本久五郎 監査 宮島清次郎	下	一五・〇	一〇〇	六・五
取締役	南郷三郎 増井治郎作	【株價】	高値	安値	
角田正高		十三年	一〇〇	一〇〇	
		十四年	一〇〇	一〇〇	
		【豫想配當】	十四年五月期	一割五分	
		【時價】	六〇	【利通】	八分八厘

### 弘中商工株式會社

(本社) 朝鮮京城府漢江通三(電話山三三〇一)

【前期増益著し】當社は朝鮮に於ける嶺山機械の製作並に販賣會社であるが、昨十一月締切の前期成績は素晴らしい良かった。即ち、前期利益金十八万六千圓を前々期の利益金に比較すると十萬圓からの増増に當る。従つて、此の間拂込資本は五十萬圓から九十三萬圓へ増増を示したが、利益率は却つて三割三分から四割へ上昇した。一割二分配當の措置には餘裕綽々たるものがある。

【拂込徴収か】昨十一月十五日に一株十二圓半の拂込を徴収したが、これは朝鮮仁川市外の富平新工場建設費に振向けられた。然し富平工場は敷地約三万坪からある相當老なものだから、勿論右拂込金だけでは不足だ。不足額は借入金で賄はれて居るが、何れ再び拂込が徴収されよう。拂込徴収と雖も現行配當には不安がない。

【設立】	昭和五年十月	【業績】	利益率	配當率	利益倍率
【資本金】	公稱 1,000,000	十三年上	一八・〇	一〇〇	五・七
【株数】	拂込 〇・〇	下	一八・〇	一〇〇	五・七
【重役】	社長 弘中良一 取締役 竹内市郎	【株價】	高値	安値	
専務 江崎一雄 常務 丹羽外男		十四年	一〇〇	一〇〇	
取締役 岩本一義 常務 猪野清		【豫想配當】	十四年五月期	一割二分	
池邊竹次 監査 富房有次郎		【時價】	六〇	【利通】	五分八厘
福島又二 相談 池貝庄太郎					

【肥料事業】

### 日本窒素肥料株式會社

(本社) 大阪市北區宗是町一大ビル(電土佐堀 六五〇一四)  
(事務所) 東京市麹町區丸の内二ノ六八東洲ビル内(電丸ノ内 二二二)

【多角經營の強味】製肥界が強力な統制で妙味薄しと云はれたのは今更のことでは無いが、日窒の如きは今後と雖も従来の好調が期待出来る。それは、單に日窒コンツェルンの内包する事業が、電力、化學工業、鑛業、機械製作、纖維工業等々の諸部門に亘つて居る點で、部門の衰退を他部門に依つて補ふと云ふばかりでは無い。化學工業の中に於ける硫安の不振は、硝酸、醋酸、曹達火薬等々の活躍で充分補ひ得るのである。多角經營に依る妙味と強味だ。

【水俣工場の新増設】水俣工場は、硫安、硝酸、合成醋酸、石灰窒素、カーバイト等を製出して來た。事變以來、先づ硝酸の増産が行はれたが、最近着手されたものに、合成醋酸の増産とアクリル(靱性硝子)工場の新設がある。前者は當面、醋酸纖維素として高級塗料、不燃性セルロイドの原料に向けられる。醋酸人絹の製出も可能。

【擴張と拂込】尙ほ水俣工場ではアセチレン系統の高級燃料製出が日程に上つてゐるが、此の大規模生産は朝鮮本宮工場で行ふことにならう。之で二千萬圓程度の所要資金が新たに加へられたわけである。今後數年間、年々六千萬圓内外の資金を必要とすることは愈々明白になつた。三月一日、第三回社債總額七千萬圓中、一千二百萬圓發行するが、今夏を中心とする拂込徴収は必至だ。

【設立】	明治三十九年一月	【資本金】	公稱 1,000,000	【株数】	拂込 〇・〇
【決算期】	五月、十一月	【業績】	利益率	配當率	利益倍率
【事業】	硫安、合成醋酸、カーバイト	十二年上	一三・〇	一〇〇	六・三
【重役】	社長 野口 遼 取締役 白石宗城	下	一三・〇	一〇〇	六・三
専務 市川 誠次 監査 久保田 豊		【株價】	高値	安値	
専務 榎並直三郎 監査 堀 啓次郎		十三年	一〇〇	一〇〇	
常務 金田榮太郎 監査 生 傳		十四年	一〇〇	一〇〇	
【大株主】	野口 遼 三三・七	【豫想配當】	十四年五月期	一割二分	
野口 遼 三三・七		【時價】	六〇	【利通】	五分八厘
野口 遼 三三・七					

### 日産化学工業株式会社

(本社) 東京市芝区田村町一ノ二日産館(電報掛七、二六)

【前期中上】去る十二月決算の十三年下期は、益金八百五十八万二千圓、利益率二割二分一厘で、一割配當踏襲に餘裕を増した。當期は化学部(肥料、酸類、藥品)のやゝ不振に反し炭業部の好調を見たことが業績向上の主因である。肥料部は過燐酸が重要な収益源だけに、若しも傳へられる如く本年の燐礦石輸入が激減すれば今後打撃の程度は深まるだらう。この対策として炭業部の擴張行はれつつあり、本部門は相対的に重要性を増す筋合にある。

【炭業部門】前期の利益金もその六割を炭業部で擧げた。炭業部では今期だけでも約千三百萬圓の新資本を投下し、増産設備を充實する計畫だ。資材、勞力等の關係で豫定通り進捗するかどうか疑問なから、炭價が現在以下に下げられない限り、増産による収益増は確實である。尙炭業部事業の一つとして、帝國燃料と折半出資で愈々日産液體燃料(資本金一千万圓)なる新會社を設立し、若松市外に工場を設置し、石炭液化に進むことになつてゐる。

【拂込徴収・配當】四月一日徴収の新株第二回拂込十二圓半宛千五百五十萬圓は、全部短期借金の返済に當てられる。今期の配當員は増すが、前述の様な炭業部の寄與で、一割配當維持に懸念ない見込である。

【設立】	昭和九年七月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	石灰其他他礦物の採掘加工、肥料、藥品其他肥料、化学工業
【資本金】	公稱 20,000,000 拂込 17,000,000
【株主数】	新(三九) 1,100,000 旧(三九) 1,100,000
【重役】	社長 田中榮八郎 専務 石川一郎 保田宗治郎 常務 田中壽一 坂田隆三郎 奥格友彦 取締役 林政次 中尾謙次郎 山本平八 豊田喜重郎 古川政司 山田武夫 船橋清一郎 粘川義介 村上敏士 監査 小西喜兵衛 川崎清男 松岡清吉 山田敬亮 下河津建二 相澤 三郎 三浦 三郎
【大株主】	三井物産 1,000,000 三井物産 1,000,000 三井物産 1,000,000 三井物産 1,000,000 三井物産 1,000,000
【事業成績】	(化学部) 製造数量 13,300,000 販賣数量 10,000,000 化学部(肥料) 10,000,000 肥料部(肥料) 10,000,000 肥料部(肥料) 10,000,000 肥料部(肥料) 10,000,000 肥料部(肥料) 10,000,000
【投資會社】	大阪アルカリ、日東炭礦、三井物産、宇部炭礦、日本炭礦等
【資本異動】	十三年月相補償合併三萬圓増資、更に三萬圓増資、十三年二月六、七、八日千圓増資三萬圓拂込徴収
【資産負債】	十二、十三、十四年六月期 一割 六分三厘
【時價】	新(三九) 六十、六十、六十
【名義書換】	十 新券交付 三十

### 昭和肥料株式会社

(本社) 東京市京橋區寶町一ノ七株の舎ビル内(電報掛 六七一九)

【事業内容變化】肥料統制の強化に伴ひ、當社は硫安、石灰窒素以外の新分野への進出に努めてゐたが、之が次第に成績に現れる様になつて来た。本年上期はまだそれ程でもないが、下期からは可成り目立つこととならう。新分野とは石灰窒素、硝酸及鑄鐵の増産、合金鐵及カーボン生産等々で、石灰採掘は北海道の豊里炭礦に於て、其他は鹿瀬工場に於てそれゝ行はれてゐる。殊に合金鐵の如きはカーバイド電爐をその儘使用し得られ、殆ど固定費を要せぬ。

【上期成績】當期は去る十一月、倍額増資の新株に對し第一回拂込十二圓半―總額七百五十萬圓を徴収したのでその負擔がある。結論から言へば、一割配當維持は従来よりやゝ窮屈になるが、下期になると前述の事業で局面好轉を期待されるから、一時懸念せられた減配は行はれぬ模様だ。上期の計上利益は三百三、四十萬圓位と見られるが、此の内石灰益が約百萬圓、合金鐵、カーボン等の益金は六十萬圓位、残りが肥料益と見做される。

【合併】過般突如、電工と合併することとなり、名稱も昭和電氣工業と改稱される。一對一の對等合併で、期日は来る七月一日の豫定である。別稱日本電工の項で述べた如く、相互に益する所が多いから、この合併後も配當には變化ない筈だ。

【設立】	昭和三年十月
【決算期】	三月、九月
【事業】	肥料の製造販賣、鑄鐵並製鑄鐵
【資本金】	公稱 20,000,000 拂込 17,000,000
【株主数】	新(三九) 1,100,000 旧(三九) 1,100,000
【重役】	會長 鈴木忠治 社長 森田 専務 高橋保太郎 取締役 白野 長平 安田 豊太郎 河野 山田 佐野 一 中島 文雄 岡部 山田 佐野 清一 藤田 文雄 岡部 山田 佐野
【大株主】	三井物産 1,000,000 三井物産 1,000,000 三井物産 1,000,000 三井物産 1,000,000 三井物産 1,000,000
【事業成績】	(化学部) 製造数量 13,300,000 販賣数量 10,000,000 化学部(肥料) 10,000,000 肥料部(肥料) 10,000,000 肥料部(肥料) 10,000,000 肥料部(肥料) 10,000,000
【投資會社】	大阪アルカリ、日東炭礦、三井物産、宇部炭礦、日本炭礦等
【資本異動】	十三年月相補償合併三萬圓増資、更に三萬圓増資、十三年二月六、七、八日千圓増資三萬圓拂込徴収
【資産負債】	十二、十三、十四年六月期 一割 六分三厘
【時價】	新(三九) 六十、六十、六十
【名義書換】	十 新券交付 三十

【肥料事業】

### 東洋高圧工業株式會社

(本社) 東京市日本橋區室町二ノ三井ビル内(電日本橋三三七一〇)

【三月期】當社は合成工業合併後最初の決算である。合成工業は北九州彦島に工場を有し、メタノール、液安、尿素、高級アルコール等を製造する。當社は同社を昨年十月一日を以て吸収合併したのであるが、其の利益を加へた今三月期の計上利益は、四百萬圓を越へねば利益率は二割を割ることになる。どの程度計上するか、尙不明乍ら、一割配當は従来よりも窮乏となるを免れぬ。

【増資負擔】當社自體並びに舊合成工業の収益にはさしたる變りはないのだが、右は増資の負擔が加はつたからに外ならぬ。當社は昨秋倍額増資を行ひ、其の第一回拂込金七百五十萬圓を十月一日徴收した。これが當期から丸々負擔となる。もともとこの増資拂込は北海道に新設する硫安工場資金なのだが、土地を買つたついで、まだ建設着手に至らない。硫安増産及配給統制法に據る認可が下らないからである。物動計畫の關係で、この認可時期は依然見透し難い。

【対策と前途】斯様に擴張計畫が齟齬を來したので、増資後が問題を課だが、當社は舊合成工業の工場整備、自社大牟田工場に於ける硫安以外の新製品(例へばメタノール、ホルマリン)を製造し収益向上に努めてゐる。減配も考へられぬではないが、従来から内容の優秀を誇る會社だけに、目先一割配當を維持するだらう。

【設立】	昭和八年四月
【決算期】	三月、九月
【事業】	硫安製造
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】	新(11,000) 3,000,000
【重役】	社長 中井 四郎 常務 長澤 一夫 取締役 玉置 豊助 取締役 藤原 邦造 監査 榮田 勝太郎 高島 基江 中村 伍七 松田 範房 楠本 圭三郎 古崎 芳太郎 植村 澄三郎
【株主数】	十三年下 1,268 十三年上 1,268
【大株主】	三井 1,000,000 電氣化學 1,000,000 三井生命 1,000,000 第一生命 1,000,000 日本生命 1,000,000 第一生命 1,000,000 愛國生命 1,000,000 田口邦重 1,000,000
【事業規模】	工場所在地 福岡縣大牟田 生産能力 二七七千担
【事業成績】	十一年下 十一年上 十二年下 十二年上
【資本異動】	十二年二月三池壺工業を合併し二萬圓を増資(十一年三月) (最終) 十圓拂込徴收十月倍額増資(十二年二月) (最終) 五圓拂込徴收、同月合成工業合併

### 滿洲化學工業株式會社

(本社) 大連市郊外甘井子(電九九二)  
(營業所) 東京市麹町區丸ビル内(電丸ノ内云々)

【昨年九月期】當社の九月期の硫安生産高は約二萬担を増加した。従つて業績もそれにつれて良くなつた。計上利益は三百十萬圓に上り、同三月期の二百五十六萬一千圓に比較して五十三萬九千圓の増益だ。尤も拂込資本増加の關係で利益率は二割四分八厘となり、前期と比較すると幾分劣る。然し勿論八分配當は餘裕たつぶりだ。

【水不足に悩む】十月一日から始まる十四年三月期は増産能力の六万担がフルに運轉出來、合計二十四万担の能力で利益を稼ぐ筈であつたが、十月頃から雨量僅少のため大連市よりの水の供給が不圓滑となり、最近に到るも水の供給は充分でない。これでは操業は順調に行かざるを得ない。この水不足を補ふために井戸水を用ゐる方法も考へたが、何しろ鹽分が多くて使へない。結局、止むを得ず操業の短縮をしてゐる。従つて生産高は能力増加にも拘らず却つ減少を見るものと思はれる。此の期の生産高は大體九万担程度に落着から。尤も副産品は増加し、其の上採算關係は前期より好化したから、總利益は三百萬圓を割ることあるまい。配當は勿論据置かう。

【滿洲硫安會社】當社株式の内滿鐵所有分は近く滿洲國に譲渡され、滿洲國は更に之を滿洲硫安會社に譲渡し、當社は結局滿洲硫安會社の子會社となる筈だが、その爲に配當が變るやうな事はない。

【肥料事業】

【設立】	昭和八年五月
【決算期】	三月、九月
【事業】	硫安其他各種肥料及化學工業品の製造、賣買並輸出
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】	新(11,000) 3,000,000
【重役】	社長 高橋 是賢 取締役 武部 有吉 常務 深水 壽 取締役 田中 敬治 取締役 奥村 義雄 監査 中村 房次郎 田村 幸三 山本 信夫 總務 田村 幸三 山本 信夫
【株主数】	十三年下 1,268 十三年上 1,268
【大株主】	滿洲鐵道 1,000,000 全 購 1,000,000 東洋高圧工業 1,000,000 前田 利為 1,000,000 日本生命 1,000,000 三井物産 1,000,000 三井物産 1,000,000 三井物産 1,000,000
【事業規模】	工場所在地 大連市甘井子 生産能力 年 1,300,000 担 硫安(五〇%) 1,100,000 担 硫酸(六〇%) 5,000 担 硝酸(五〇%) 1,000 担 硝酸(五〇%) 1,000 担
【事業成績】	十三年下 十三年上 十一年下 十一年上
【投資會社】	滿洲硫安會社、滿洲化學工業株式會社
【資本異動】	十一年三月二圓拂込徴收、十三年四月三圓(最終)拂込徴收

【資産負債】	九十二年 九十二年 九十二年
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
積立金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【配當】	十三年下 十三年上 十一年下 十一年上
配當率	10% 10% 10% 10%
【時價】	100 100 100 100
【名義書換】	10 10 10 10

【肥料事業】

### 電氣化學工業株式會社

(本社) 東京市豊町區有樂町三丁目内(電報局隣)一〇

【製造主力轉換】化學肥料の統制強化に伴ひ、肥料會社の生産中心は追々置換へられつゝあるが、當社も亦その一に屬する。カーバイド石灰窒素硫酸の工程に於て、カーバイドを中心とする事業に轉換しつゝあるのである。その爲め變成硫酸の製造高は寧ろ減る傾向にある。新事業で注目すべきは金屬マグネの製造であつて、カーバイド石灰窒素マグネの工程による方針だ。遠からず年産能力千五百吨の金屬マグネ事業は基礎工作を終へるだらう。

【大淀川合併】それから傍系電力會社である大淀川水力(資本金二百萬圓)拂込八百七十五萬圓)を近々吸收合併する事に内定してゐる。當社は同社株の全部を保有するが、合併により同株式を固定資産に振替へる筈だ。この合併は事業設備上の措置である。

【今期据置】今期の豫想計上利益は二百七十萬圓で、利益率一杯に近い一割配當決算を行ふ方針の様だ。實際利益は三百五十萬圓位になるのだが、擴張に備へて内面保留を厚くするのである。

【金屬生産】今後は前記金屬マグネを始め、合金鐵、カーボラシム其他の金屬生産に身を入れる筈で、肥料の不味をこの方面で補填する。重役刷新により近藤氏獨裁の事業經營がどう發展するかは當社の今後の興味がある。

### 住友化學工業株式會社

(本社) 大阪市東區北濱五丁目二(電報局隣)一〇

【下期業績好調】去る十二月末を以て締切られた十三年下期業績は好調であつた。當期の計上利益は二百一十一萬一千圓、前期に比し二十五萬圓の増益に當る。對平均拂込資本利益率は一割四分六厘と約四厘ほどの低下を示したが、これは昨秋十月、五百萬圓の拂込を徵收したからだ。しかも當期も亦、二百萬圓近い内面償却をやつて居ることは略々確實なのだから、現行一割配當(二分の特配を含めて)は依然として余裕裡に据置いたわけである。

【多角經營の強味】硫安市況は完全な配給統制の下で一方向に牙えぬし過騰騰もこれまた業界は不振であつた。其の上、原料燐礦石の輸入は著しく減少してゐる。減益すべき筋合にあつたにも拘はらず、當期の業績がこの様な好調を示したのは、硝酸、液安、メタノールホルコリン、尿素等々の増産市價騰貴に恵まれたからである。製品多様化の強味と云ふ可きであらう。

【擴張を拂込】豫めて工事中のアンモニア、硝酸の擴張工事は昨年下半年末完成したが、續いて接觸硫酸工場、アルミナ工場の擴張を行つて居る。資金はまだまだ要るのだ。今年中に第三回拂込を徵收することにならう。今期の業績は更に向上する筋合にある。現行配當は當分動くまい。

【肥料事業】

【設立】	大正十四年六月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	硫酸、窒素、各種肥料及工業用藥品、燐酸用藥品、其他各種化學工業品製造販賣
【資本金】	公稱 20,000,000 第一新 10,000,000 第二新 10,000,000
【役員】	會長 小倉正恒 常務 大塚 治 取締役 三村 起一 常務 矢崎 進 取締役 中尾 新六 取締役 古田 俊之助 監査 村田 省藏 取締役 山本 信夫 國府 精一 總務 土井 下 土井 上 土井 下 【株主】 2,000名 資本金 20,000,000 【大株主】 住友本社 16,600,000 住友友友生命 1,000,000 住友信託 1,000,000 住友友友生命 1,000,000 住友元夫 1,000,000 住友友友生命 1,000,000 住友元夫 1,000,000 住友友友生命 1,000,000 住友元夫 1,000,000 住友友友生命 1,000,000 【事業規模】 工場所在地 愛媛縣新居町 年産能力 十三年六月現在 【設備】 硫酸 100,000 過燐酸肥料 100,000 化成肥料 100,000 配合肥料 100,000 各種硫酸 100,000 合成硝酸 100,000 【資本異動】 十三年六月 20,000,000 萬圓増資第 一回三圓五拂込徵收、十三年八月二圓五拂込 徵收

【資産負債】	廿二年 廿三年
株主資本	16,600,000 16,600,000
積立金	1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000
借入金	1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000
使用總資本	18,600,000 18,600,000
流動資産	10,000,000 10,000,000
投資資産	10,000,000 10,000,000
現金預金	10,000,000 10,000,000
【收支】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
收入	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
利益	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
【時價】	新六〇
【名義書換】	十 新六〇
【利息】	新六〇
【新券交付】	五十

【肥料事業】

### 電氣化學工業株式會社

(本社) 東京市豊町區有樂町三丁目内(電報局隣)一〇

【製造主力轉換】化學肥料の統制強化に伴ひ、肥料會社の生産中心は追々置換へられつゝあるが、當社も亦その一に屬する。カーバイド石灰窒素硫酸の工程に於て、カーバイドを中心とする事業に轉換しつゝあるのである。その爲め變成硫酸の製造高は寧ろ減る傾向にある。新事業で注目すべきは金屬マグネの製造であつて、カーバイド石灰窒素マグネの工程による方針だ。遠からず年産能力千五百吨の金屬マグネ事業は基礎工作を終へるだらう。

【大淀川合併】それから傍系電力會社である大淀川水力(資本金二百萬圓)拂込八百七十五萬圓)を近々吸收合併する事に内定してゐる。當社は同社株の全部を保有するが、合併により同株式を固定資産に振替へる筈だ。この合併は事業設備上の措置である。

【今期据置】今期の豫想計上利益は二百七十萬圓で、利益率一杯に近い一割配當決算を行ふ方針の様だ。實際利益は三百五十萬圓位になるのだが、擴張に備へて内面保留を厚くするのである。

【金屬生産】今後は前記金屬マグネを始め、合金鐵、カーボラシム其他の金屬生産に身を入れる筈で、肥料の不味をこの方面で補填する。重役刷新により近藤氏獨裁の事業經營がどう發展するかは當社の今後の興味がある。

【設立】	大正十四年五月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	硫酸、石灰窒素、各種工業用藥品、冶金工業、燐酸及電力電機供給
【資本金】	公稱 20,000,000 拂込 10,000,000 第一新 10,000,000 第二新 10,000,000
【役員】	會長 大橋新太郎 取締役 向井 忠晴 常務 近藤 誠次 監査 關島 左吉 常務 岡田 光治 取締役 植村 三郎 取締役 日比 勝治 取締役 黒川 三郎 取締役 伊東 二郎 取締役 藤原 誠太郎 取締役 羽村 協輔 相談 藤原 誠太郎 金子 武雄 牧田 翠 【株主】 2,000名 資本金 20,000,000 【大株主】 三井物産 10,000,000 藤原 誠太郎 10,000,000 富國 兵 10,000,000 武州 銀行 10,000,000 丸之内 商事 10,000,000 牧田 翠 10,000,000 山二 株式 10,000,000 大日本 酒 10,000,000 【年産能力】 (暫定) 硫酸 100,000 カーバイド 100,000 石灰窒素 100,000 【設備】 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下 【投資】 十三年上 十三年下 十三年上 十三年下 【株主異動】 十三年三月三圓五、五月二圓五 【最終】 拂込徵收十三年四月二十六萬圓 に増資八月第一回二圓五拂込徵收

【資産負債】	十三年 十三年
株主資本	10,000,000 10,000,000
積立金	1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000
借入金	1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000
使用總資本	12,000,000 12,000,000
流動資産	10,000,000 10,000,000
投資資産	10,000,000 10,000,000
現金預金	10,000,000 10,000,000
【收支】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
收入	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
利益	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
【時價】	新六〇
【名義書換】	五 新六〇
【利息】	新六〇
【新券交付】	二十

【肥料事業】

### 宇部窒素工業株式會社

(本社) 山口縣宇部市大字小串一九七八 (電字部六〇)

【業績順調】 昨年下期の業績は豫想通り極めて順調であつた。利益金二百五十一萬圓、對平均拂込資本利益率二割七分二厘、前期に比べて二十二萬圓の増益、割合で一分七厘の低下に當る。拂込資本の増加があつたからだ。然し、當期も償却に百五十萬圓を計上し、それは期末固定資産に對し約十ヶ年賦に當るし、内容は更に堅實さを加へつゝあるわけだ。

【石炭液化】 當社の石炭低温乾留設備は、其の規模に於て朝鮮石炭工業に次ぐし、既にベンゾール・ピッチ、ソルベントナフサ等の製品は市場に出で好評を博してゐる。進んで、石炭直接液化に乗り出す計畫もある。が、この方は原料炭の問題から先づ解決しなければならぬし、實際に着手する迄にはまだ相當の期間がある様だ。然し、揮發油への水素添加或ひはポリユマリーゼーション(瓦斯の重合)に依る航空機用の高級揮發油製出へ乗り出す計畫もある。或は此の方へ先に着手することになるかも知れぬ。

【原料炭問題】 この問題は、單に當社のみならず、一聯の宇部コンツェルン各社の問題である。この解決を政府援助の下に厚東沿岸の埋立に求めることに決定した模様である。今後の發展には相當の期待が持てる。

【設立】 昭和八年四月  
【決算期】 五月、十一月  
【事業】 硫酸、硝酸、硝酸、アンモニア、其他化學工業藥品  
【資本金】 公稱一〇〇,〇〇〇 拂込一〇〇,〇〇〇  
【株數】 第一新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇  
第二新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇  
第三新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇

【重役】 依田 明 取締役 村田 義夫  
常務 國吉 省三 監査 大山 期吉  
取替 高良 宗七 監査 西村 宇吉  
二 神 駿吉 監査 加藤 亮吉  
同 藤本 隆雄 監査 金野 亮吉  
藤本 隆雄 監査 宗像 英一

【株主數】 十三年下 七、二八八  
十三年上 七、二八八  
【大株主】 沖ノ山炭礦(株) 渡邊 昭二 二、九七〇  
日本生命(株) 鴻池 信託 七、七〇〇  
依田 明 七、〇〇〇 住友 生命 六、〇〇〇  
高良 宗七 五、〇〇〇 御手洗 岳夫 五、〇〇〇  
【事業規模】 年産能力(公噸) 硫酸(一〇〇,〇〇〇) 硝酸(一〇〇,〇〇〇) 揮發油(一〇〇,〇〇〇) 各種化學藥品(一〇〇,〇〇〇)  
【工場所在地】 山口縣宇部市  
【事業成績】 十三年下 十三年上 十三年下  
【資本金】 公稱一〇〇,〇〇〇 拂込一〇〇,〇〇〇  
【株數】 第一新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇  
第二新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇  
第三新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇

【資産負債】	十三年下	十三年上	十三年下	十三年上
株主資本	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
積立金	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
社債	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
流動負債	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
【收支勘定】	十三年下	十三年上	十三年下	十三年上
収入	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
支出	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
【利益】	十三年下	十三年上	十三年下	十三年上
利益	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
【時價】	新六〇	【利通】	七分四厘	七分四厘
【名義書換】	十級【新券交付】	五十級		

【肥料事業】

### 矢作工業株式會社

(本社) 名古屋市東區東片陣町二ノ二二 (電東六三)

【事業好調】 時局柄硝酸及び硫酸の賣行が良好で、總じて事業は繁忙に推移しつゝある。昨年下期の利益金は八十五萬三千六百圓で其の利益率一割七分五厘より見る限り、現行七分配當は一分程度の増配が可能であつた。然し乍ら當社の資産内容は決して優良とはいへない。固定資産に對する償却も三十年以上では十分ではない。増配を自重して内部の充實に備へたのは好感される。

【今後の問題】 硫酸の需要が差程旺盛でないのは主製品だけに輕視出来ないが、硝酸、硫酸の賣行は依然良好である。時節柄、硫酸接の盛行から硫酸の需要は最も激増しつゝある状態だ。尤も一面生産原價は増高するので無條件に樂觀は許されないが、現況の續く限り増配期待は可能である。

【設立】 昭和九年十一月  
【資本金】 公稱一〇〇,〇〇〇 拂込一〇〇,〇〇〇  
【株數】 第一新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇  
第二新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇  
第三新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇

【重役】 社長 細澤 勲吉 取締役 成瀬 正忠 高木 得三 久留島 通彦 小山 柳 一 石田 新一郎 岸 義男 廣 隆三郎 山崎 傳七 寺田 基吉 下 郷 寅吉 監査 増田 次郎 荒川 寅之丞 後藤 一家 妻 木 榮造

【業績】 十三年下 一、〇〇〇 十三年上 一、〇〇〇  
【時價】 新三〇 十三年四月期 八分  
【利通】 六分三厘

### 朝日化學肥料株式會社

(本社) 兵庫縣尼崎市東初島町二七

【減配せず】 當社は今年上期通りに二分程度の減配を行ふのではないかと思はれたが、當局者は當分減配せず一割二分配當を續行することを固めかしてゐる。

【好轉期待】 減配不安を與へてゐる未働資産が漸次収益期を迎へる筋合となつたので資本の壓迫も輕減され先行き業績好轉が期待されるようになったからだ。

【鑛山活躍】 當社は硫化鑛山を延岡と豊生に持つてゐるが、豊生は本年一月から月五百圓を出してをり、之は全部東洋レヨンに賣つてゐる。延岡は月五百圓位出せるが三千圓目標で擴張してゐるので來期ならぬと本格的収益は見込めない。燐鑛石も漸次増産されつつあるから今、來期にかけて利益は増加する筋合にある。

【設立】 昭和十年八月  
【資本金】 公稱一〇〇,〇〇〇 拂込一〇〇,〇〇〇  
【株數】 第一新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇  
第二新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇  
第三新(四〇〇) 一〇〇,〇〇〇

【重役】 社長 奥村 鹿太郎 取締役 三井 榮一 専務 佐古田 政太郎 監査 由良 金一 取替 波多野 林一 三浦 潤六 佐古田 義一 森岡 善照 藤見 孫四郎

【業績】 十三年下 一、〇〇〇 十三年上 一、〇〇〇  
【時價】 新六〇 十三年四月期 一割  
【利通】 八分二厘





### 徳山曹達株式会社

(本社) 山口縣徳山市徳前八、三五五(電話山一七五)  
(事務所) 大阪市東區瓦町二丁目瓦町ビル(電北福五七)

【業績安定化】 當社はアンモニア法による曹達會社であるが、最近副産物處理に積極的となり、既にセメントは年産三十六萬噸の能力を有する工場を完成し、更に食鹽の回收、石膏、炭酸マグネシウム、鹽化石灰等々の工場建設許可を得た。之等の工場は今年上期から下期にかけて全部完成する豫定だから、その暁には當社の収益力は一段と向上する譯だ。

【拂込徴収期待】 右の如く副産物處理に進出する爲めには相當額の資金が要る。一時借入金で賄はれるとしても早晚拂込金に振替へられるものと考へられる。

【前途】 本業の曹達は原料鹽制限で増産を断念しなければならぬが然し採算はよから曹達及曹達灰半期二百萬圓見當の利益が期待出来る。セメントは漸次増産されつゝあるから、之は二十萬圓位の利益と押へておけば大過なからう。其の他の副産物も相當の利益が見込めるが、之は今期は計算外に置く。すると今期は大體二百二十萬圓の利益となり利益率は二割三、五分となるから一割配當は不安なく擧げける。下期になればセメントの利益増が期待されるし、副産物の利益も加はるから手堅く押へても二百五、六十萬圓の利益は擧げ得る筈だ。現行配當は當分動くまゝ。

【設立】	大正七年二月
【決算期】	四月、十月
【事業】	苛性曹達、曹達灰
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主】	新 100名 100,000 舊 100名 100,000
【重役】	社長 岩井雄二 取締役 下田伊三郎 常務 磯田秋之助 取締役 磯田文彦 超智主一郎 監査 岩井 豊治 取締 平野亮平 監査 長島 勇雄 豊田利三郎 長島 勇雄
【株主数】	十三年上 十三年下 去年下
【大株主】	岩井商店 100,000 第一 徴兵 100,000 安田生命 100,000 愛國生命 100,000 日本生命 100,000 千代田生命 100,000 黒川商店 70,000 大同生命 100,000 第一生命 60,000 野村生命 60,000 【事業規模】 工場所在地 山口縣徳山 【生産高】 三年上 十三年下 去年上 苛性曹達 2,000,000 2,000,000 2,000,000 曹達灰 1,000,000 1,000,000 1,000,000 【資本異動】 九年八月一千万圓を増資、 第一回拂込金徴収、十三年八月第二 回三回拂込徴収
【資産負債】	十二年 十四年 十五年
株主資本	2,800,000 2,800,000 2,800,000
積立金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
社債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支動向】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
利益	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時價】	新 100.00 利 9分三厘
【名義書換】	十 新券交付 二十 新券交付

### 東洋曹達工業株式会社

(本社) 山口縣徳前郡高田町四五六〇(電高田三三)  
(営業所) 東京市京橋區銀座西二丁目(電京橋元天一セ)

【下期成績】 昨年十二月末締切りの下期決算は利益金百七十六萬三千圓を計上し、平均拂込資本に對する利益率は二割一分三厘だ。之を前期と比較すると利益金は三十八萬一千圓の増加であり、利益率は二分七厘の低下となる。前期より平均拂込資本が五百萬圓膨脹した結果である。然し當社は一割二分配當を据置いた。業績からみればそう無理な決算とは云はれない。

【千越完成】 豫てより曹達灰日産千越内苛性曹達日産五百越の設備擴張中の所、昨下期に完成し現在は順調に操業中である。この新能力に對して原料鹽割當が決定されることになつてゐるから、十四年度は十三年度の如き高度操短を免れるものと期待される。果してどれ位の増量が認められるか判らぬが、新鋭設備をフルに運轉して生産原価引下げを計るならば、成績挽回は必ずしも難事とは断定出来なうであらう。

【配當問題】 當社の一割二分配當は各方面から問題になつてゐるやうだ。株價をみても舊株は六十圓そこそこである。之は明かに二分減配を織込んだ相場とみてよい。今後の成績が絶體的に好轉する確信があるならば格別だが、當社將來の爲めには二分減配を斷行し、内容充實に努めることが賢明な方策であらう。

【設立】	昭和十年二月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	曹達灰、苛性曹達製造、其他
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主】	新 100名 100,000 舊 100名 100,000
【重役】	社長 岩瀬三郎 取締役 金井 寛人 常務 眞水 敏吉 監査 渡部 清 取締 國廣 幸彦 監査 豊重 善雄 片倉 武雄 東友 市
【株主数】	十三年上 十三年下
【大株主】	東洋曹達工業 100,000 東洋商會 100,000 岩瀬三郎 100,000 眞水敏吉 100,000 眞水敏吉 100,000 國廣幸彦 100,000 片倉武雄 100,000
【事業規模】	工場所在地 山口縣高田町
【生産高】	曹達灰 1,000,000 1,000,000 1,000,000 苛性曹達 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【資本異動】	三年四月廿〇萬圓増資、一月一 三回拂込徴収同月第二回曹達工業を 三、〇〇〇萬圓で創立、十一年一月當社に合併
【資産負債】	十二年 十四年 十五年
株主資本	2,800,000 2,800,000 2,800,000
積立金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
社債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支動向】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
利益	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時價】	新 100.00 利 九分三厘
【名義書換】	十 新券交付 二十 新券交付

### 九州曹達株式會社

(本社) 東京市麹町區大手町二ノ八(電丸之内三十一志)

【二分減配】當社は昨年度下期二分減配を断行した。十一月下期以来一割配當を續けて来たが、事變後の狀勢上遂に證券賣却益を加へて一割配當を續續することを止め、純然たる事業益に止めたからだ。然し當社はこれで漸く事業會社として一本立となつたと云へよう。

【今年成績】今年成績は前期より向上する見込である。曹達、洋灰等の平和産業部門は依然芳しくないにしても、炭業の收益が増加するからだ。即ち、石炭は今年十萬噸の出炭が豫定され、この趨當り利益を堅く四圓と見ても四十萬圓となる。曹達は今年生産豫定は二萬六千噸であるが、原料鹽が抑制されてる關係上豫定通りには行かない。前期実績から見て先づ二萬噸程度であらう。百斤當り利益を一圓五十錢と見れば三十萬圓である。セメントの内地出荷は思はずくないが滿洲輸出が見込まれるので三萬七、八千噸の出荷は可能である。越二圓半の利益と見ると九萬三千圓乃至十萬圓である。この外曹達關係事業として石炭酸から三萬圓、投資益が六萬圓見當ある。すると今年總益は八十九萬圓見當となる。利益率は一割七分八厘である。この豫想通りには行かないにしても八分配當は安泰だ。

【擴充計畫進捗】曹達灰で日産百噸、ベークライト日産十噸の増産が近く完成し、月産二百噸の苛性化設備も八月頃竣工する。

【設立】	昭和十年五月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	化學工業品、染料及び肥料の製造販賣物の採掘及精鍊、冶金、織造工業、洋炭工業
【資本金】	公稱10,000,000 拂込10,000,000
【株主数】	新(三)1,111 舊(一)1,111
【重役】	社長 中野 友雄 取締役 福島 正雄 取締役 増田 義一 監査 村瀬 末一 中恒 貞雄 渡邊 肇 山田 悦治 辰澤 茂乙 遠山 元一 相談 武 鶴太郎 石橋正二郎 相談 鈴木 正彦 小島各精太郎 鈴木 貞彦
【大株主】	日本曹達(三) 妙高企業(三) 林 莊治(一) 中野友雄(一) 鈴木要藏(一) 中山悦治(一) 金山武男(一) 坂梨 哲(一) 仁壽生命(一) 曹達(一) 曹達(一) 曹達(一)
【事業規模】	生産能力(單位一噸) 曹達灰 日産200 洋灰 年産6,000 石炭採掘能力.....100,000 工場所在地 福岡縣田川町、熊本縣天草
【關係會社】	日本曹達の子會社
【資本異動】	七年十月第九州曹達を合併 一〇〇萬圓増資

【資産負債】	十二年度	十三年度	十四年度
株主資本	10,000,000	10,000,000	10,000,000
積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
支拂手形	1,000,000	1,000,000	1,000,000
使用總資本	13,000,000	13,000,000	13,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	12,000,000	12,000,000	12,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
負債合計	2,000,000	2,000,000	2,000,000
純資産	11,000,000	11,000,000	11,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
負債合計	2,000,000	2,000,000	2,000,000
純資産	11,000,000	11,000,000	11,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
負債合計	2,000,000	2,000,000	2,000,000
純資産	11,000,000	11,000,000	11,000,000

### 旭電化工業株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内三ノ一〇(電丸之内三九十二志)

【増資接近】舊最終拂込七十五萬圓を徴收して資本金五百萬圓全額拂込済となつた當社は、愈々近々増資を行ふ見込だ。認可の關係で詳細は尙不明だが、程度は倍額、時期は大體六月と見られる。倍額とすれば舊株に一割一を以て割當てることにならう。

【資金用途】今回の増資は傍系關東電化工業の關係を持つ。同社は金屬マグネシウム生産を目的とし、目下群馬縣澁川に工場を建設中だ。當社が従来より副業的に製造してゐるのは別個に、其處でもつと大規模にやらうと言ふのである。原料は北鮮及滿洲方面に多量に埋藏される菱苦土礦を原料とし方法は電解による。當社は同社の株式三萬五千株を保有し、其の資本金四百萬圓(拂込百萬圓)の内四十三萬七千五百圓を拂込んでゐるが、同社の工事進捗に伴ひ第二期以下の拂込をなす必要に迫られてゐる譯だ。

【収益と配當】前期は利益率約三割九分だつた。今期は多少低下するかも知れぬが、前期に特配を普通配當に引直した直後だけに、依然一割二分を維持するだらう。問題は次期にある。關東電化が來春の操業期迄無配の上に右の増資負擔があるからだ。原料の昂騰と弱体化で製品に依つて不採算を免れぬが、然しマグネ、石鹼、バター、薬バルブ等は好調だ。先行き假に減配するとしても、一割なら安泰。

【設立】	大正六年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	苛性曹達、硝酸、合成硫酸、炭化油、石鹼、人造バター、グリセリン
【資本金】	公稱500,000 拂込500,000
【株主数】	新(三)1,111 舊(一)1,111
【重役】	會長 古河 從幹 取締役 近藤 眞一 専務 磯部 俊一郎 浦野 三朗 常務 藤堂 良雄 小池 一郎 取締役 山田 助太郎 柴田 南助之丞 山口 喜三郎 木村 利吉 櫻井 貞五郎 宮崎 四郎 櫻井 貞五郎 宮崎 四郎
【大株主】	古河合名會社 日本證券(三) 長谷川八重子(一) 帝國生命(一) 近藤 眞一(一) 恒信 社(一) 安田保險(一) 長富 隆(一) 安田保險(一) 工部局(一) 東京市荒川區尾久町
【事業規模】	工場 東京市荒川區尾久町
【生産高】	十一年上 十三年上 十一年下 十三年下
苛性曹達	1,000,000 1,000,000
硝酸	1,000,000 1,000,000
炭化油	1,000,000 1,000,000
石鹼	1,000,000 1,000,000
人造バター	1,000,000 1,000,000
グリセリン	1,000,000 1,000,000
【投資會社】	東海曹達、南洋貿易、高砂香料、日本農業、東亞ベイント
【資本異動】	十二年十二月及十三年六月 各一〇〇萬圓増資
【名義書換】	十號【新券交附】二十五號

【資産負債】	十二年度	十三年度	十四年度
株主資本	500,000	500,000	500,000
積立金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
借入金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
支拂手形	1,000,000	1,000,000	1,000,000
使用總資本	13,000,000	13,000,000	13,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	12,000,000	12,000,000	12,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
負債合計	2,000,000	2,000,000	2,000,000
純資産	11,000,000	11,000,000	11,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
負債合計	2,000,000	2,000,000	2,000,000
純資産	11,000,000	11,000,000	11,000,000
流動資産	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定資産	10,000,000	10,000,000	10,000,000
現金預金	1,000,000	1,000,000	1,000,000
流動負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
固定負債	1,000,000	1,000,000	1,000,000
負債合計	2,000,000	2,000,000	2,000,000
純資産	11,000,000	11,000,000	11,000,000

### 保土谷曹達株式會社

(本社) 東京市芝區今入町三(電報局番六〇一)

【新事業計畫】當社が十一年來積極的事業擴張に移り、十二年十月倍額半餘の増資を断行したことは周知の通りである。その後も引つづき擴充を繼續して来た。王子工場の軍需品設備の擴充は一段落したが、保土谷工場の火力發電設備は機械設備の入手難から八、九月頃完成、今期末運轉開始の豫定である。更に郡山工場においても化學軍需品の増産が計られる。この外、子會社として硫黃及び硫化鐵を増産中の鹿部鑛業、薬バルブを製造する名古屋バルブ、福島縣下の移川送電等をも買収乃至新設した。而も電氣化學工業關係で小會社ではあるが二社程目下買収談が進行中である。

【拂込か借入か】従つて三、四百萬圓の資金は今後必要な筋合にあるが、この資金を如何なる方法で賄ふか未だ決定は見えてゐない。會社當局者は一時借入金に據る意圖を洩してゐるから當分はそれで行つても變つて拂込が問題化さう。然しその時期は暫く後のことだ。

【今期成績】今期の成績は前期と大した變りはない。勿論前期より賣上額は向上する。利益も六十二、三萬圓にはならう。然し前期末十二圓半の拂込を徴収してゐるので、利益率としては寧ろ低下する。【配當は据置】然し現行一割配當は据置されるであらう。子會社からの収益はまだ程遠いが、擴充設備が漸次活動するからだ。

【設立】 大正五年十二月

【決算期】 四月、十月

【事業】 苛性曹達、硝酸、金屬曹達、過酸化曹達、鹽素酸曹達、鹽素酸加里、ナトリウム、各種鹽化物、香料、酸素及水素瓦斯、醫藥、染料及中間物。

【資本金】 公稱 2,000,000  
 拂込 1,300,000  
 株 數 新 100,000  
 舊 (50,000)

【重役】 社長 磯村 乙巳 取締役 福川 忠平  
 常務 近藤 晋 村松 茂七  
 取締役 青山 治郎 監査 伊藤 茂七  
 磯村 秀策 小田村 有芳  
 株主數 十一年上 十一年下  
 總數(名) 五、一、五三三

【大株主】 日本生命 五〇〇,〇〇〇 磯村 乙巳 三三三,〇〇〇  
 磯村 秀策 一〇〇,〇〇〇  
 磯村 忠平 一〇〇,〇〇〇 帝國生命 一〇〇,〇〇〇  
 小田村 有芳 三〇,〇〇〇 近藤 晋 三〇,〇〇〇  
 山田 俊一 三〇,〇〇〇 中川 友次郎 三〇,〇〇〇

【事業規模】 工場所在地 横濱市保土谷 東京市王子 郡山市谷島 大分縣川崎村  
 【事業成績】 十一年上 十一年下 十二年上 十二年下  
 販賣高(圓) 三、九七三 三、六〇〇 四、〇〇〇 三、九〇〇  
 持越高(圓) 七、七五三 七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇  
 【資本異動】 十一年五月二回五割拂込徴収、七月二回五割終拂込徴収、十月六回〇萬圓増資第一回三四割拂込徴収、十三年十月二回五割拂込徴収

【資産負債】

株主資本 十二月 十三月

積立金 六、二五三 六、〇〇〇  
 外部負債 一、八二二 一、八二二  
 社債 八、〇〇〇 八、〇〇〇  
 借入金、支分 〇 〇  
 使用總資本 一、〇〇〇 一、〇〇〇  
 固定資産 三、〇〇〇 三、〇〇〇  
 流動資産 一、〇〇〇 一、〇〇〇  
 現金預金 一、〇〇〇 一、〇〇〇

【收支動向】 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下  
 收入 三、三三三 三、三三三 三、三三三 三、三三三  
 支出 三、三三三 三、三三三 三、三三三 三、三三三  
 利益 〇 〇 〇 〇  
 固定資産 〇 〇 〇 〇  
 流動資産 〇 〇 〇 〇  
 前却年率 七、〇〇〇 八、〇〇〇

【業績】 十二年上 十二年下 十三年上 十三年下  
 高値 安値 高値 安値  
 十一年上 三、三三三 三、三三三 三、三三三 三、三三三  
 十一年下 三、三三三 三、三三三 三、三三三 三、三三三  
 十二年上 三、三三三 三、三三三 三、三三三 三、三三三  
 十二年下 三、三三三 三、三三三 三、三三三 三、三三三

【株價】(圓) 株 新 安値  
 十一年上 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇  
 十一年下 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇  
 十二年上 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇  
 十二年下 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇  
 十三年上 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇  
 十三年下 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇 〇・〇〇  
 【時價】 新×〇・〇〇 【利選】 八分二厘  
 【名義書換】 十 錢【新券交付】 三十錢

### 北海曹達株式會社

(本社) 東京市日本橋區室町二丁目三井ビル内(電日本橋三三三)

【原鹽難】遠海鹽が國際收上の均衡維持と言ふ觀點から至上命令的に削減され、剩へ、近海鹽が天候不順で不作だつたので、各社とも昨年九月以降十二月までの割當は三割六分減となつた。本年に入つて舊に復したが明年度は本年度より更に窮屈になる模様である。

【業況不牙え】従つて當社今期の業況は芳しくない。大體原鹽が一題異へば利益が百圓異ふと云ふ曹達事業に於ては當然過ぎる程當然のことだ。然し、一部軍需向に轉換してゐると青化曹達の如く鑛山用製品を出してゐる爲、今期利益は前期より若干の減少に止まらう。記者の見るところでは前期純益廿一萬四千圓に對し今期は廿萬圓前後に落ちつくであらう。

【配當据置】然し七分配當は充分据え置ける。來期も不安ない。

【設立】 大正七年四月

【資本金】 公稱 1,000,000

【株數】 新 100,000

【重役】 會長 中井 四郎  
 常務 坂本 敏彦 監査 原 安三郎  
 取締役 堀内 明三郎 岸本 謙  
 小泉 米藏 吉岡 美登

【業績】 利選 配當率 利益倍率

十一年上 一、三三三 〇・五二 〇・七〇  
 十一年下 一、三三三 〇・五二 〇・七〇  
 十二年上 一、三三三 〇・五二 〇・七〇  
 十二年下 一、三三三 〇・五二 〇・七〇

【株價】(圓) 株 新 安値  
 十一年上 一、三三三 一、三三三 一、三三三 一、三三三  
 十一年下 一、三三三 一、三三三 一、三三三 一、三三三  
 十二年上 一、三三三 一、三三三 一、三三三 一、三三三  
 十二年下 一、三三三 一、三三三 一、三三三 一、三三三

【時價】 新×〇・〇〇 【利選】 七分五厘  
 【時價】 新×〇・〇〇 【利選】 七分四厘

### 大阪曹達株式會社

(本社) 大阪市西區阿波堀通一ノ五三(電新町三三〇)

【配當据置】昨年下半年は引續き一割八分配當を据置きとした。成績をみると利益金は七十六萬九千圓で對平均拂込資本利益率は實に十割二分である。之では一割八分配當は何等問題ではあるまい。一割八分で半期配當金は精々十三、四萬圓に過ぎない。従つて利益保留は多く資産内容は益々充實される一方だ。

【前途】業績からみる限り現行配當は持續可能だが、時節柄政策的に減配するであらうか。過去の堅實經營によつて巨額の積立金を有し、之が好成績の原因をなしてゐるから、純軍需工業會社に於ける如き一律に政策的減配の舉に出るとも想像されぬ。然し時局は高配會社を問題にする。今期或は据置とならうが事變が續く場合或は自肅するかも知れぬ。此の點考慮して置く必要があらう。

【設立】 大正四年十月

【資本金】 公稱 1,000,000

【株數】 新 100,000

【重役】 社長 尼崎 伊三郎 取締役 大塚 和三郎  
 常務 矢野 寛 監査 山田 治郎  
 高野 寛 堀村 修三

【業績】 利選 配當率 利益倍率

十一年上 一、三三三 〇・五二 〇・七〇  
 十一年下 一、三三三 〇・五二 〇・七〇  
 十二年上 一、三三三 〇・五二 〇・七〇  
 十二年下 一、三三三 〇・五二 〇・七〇

【株價】(圓) 株 新 安値  
 十一年上 一、三三三 一、三三三 一、三三三 一、三三三  
 十一年下 一、三三三 一、三三三 一、三三三 一、三三三  
 十二年上 一、三三三 一、三三三 一、三三三 一、三三三  
 十二年下 一、三三三 一、三三三 一、三三三 一、三三三

【時價】 新×〇・〇〇 【利選】 六分四厘  
 【時價】 新×〇・〇〇 【利選】 五分三厘



### 大日本セロイド株式会社

(本社) 大阪府堺市七道西町二七七(電戎長六三) 出張所) 東京市向島區寺島四ノ三三七(電墨田二三七)

【拂込増資氣構】當社は現在二百五十萬圓の未拂込を繰り上げて居るだけだが、近くこれを徵收の上、倍額程度の増資氣運が強い。

【新增設計畫】第一は新井工場に於ける醋酸、ブタノール、アセトンの新工場を更に擴張すること、第二は網干及び新井工場に於ける硝化棉製造設備の擴張、第三は天津リッター工場の擴張、第四は新井工場でアセチレン系統の高級燃料製出工場の新設、大體計畫の内容は以上の如きものだ。

【資金調達】所要資金は少くとも一千二、三百萬圓に達しよう。從來當社は半期八十萬圓、年百五、六十萬圓内外の利益を内部に保留しそれで擴張資金の一部を賄つて来た。今後も亦それは續けられるであらうが、之だけでは到底足りない。去る十一月末現在、當社の借金は支拂手形二百五十萬圓を算するのみだから、一時借入金に仰ぐことも充分可能だ。然し、早晚、最終拂込に依りて増資は必至と押へて大過なからう。

【八分配當堅持】業界は代用品工業の活況に依つて、輸出の不振は充分補ひ得たし、最近では輸出も見直して来た。業界の繁忙は寧ろこれからだ。硝酸、ボロ等の原料手當もそんなに心配したこともない。業績は一段と向上しようが、八分配當は堅持されよう。

【設立】	大正八年九月	【設立】	大正五年六月
【決算期】	五月、十一月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	セロイド生地、同製品、ラクトロイド、セシル、セロファン	【事業】	ダイナマイト、硝安産、硝、硝火、硝火線、硝管類、硝、硝、硝
【株主数】	公稱125,000株(拂込175,000株)	【株主数】	公稱10,000株
【重役】	會長 森田茂吉、社長 西宗、常務 伊藤吉次郎、副社長 渡吉、取締役 平田善次郎、常務 井上松本五郎、梅田善次郎、松崎新一、安場保徳、監査 島谷彰、矢崎博治、岩井豊治	【重役】	社長 原安三郎、取締役 長崎英造、監査 岡野、飯森梅男、桑田、梅原
【株主】	住友銀行 50,000株、三井生命 50,000株、日本生命 50,000株	【株主】	山本武太郎、山本、長崎英造、飯森梅男、梅原、小倉、高野、清水、高野、久保島亮吉、安田生命、山口、山口、山口、山口、山口
【資産負債】	十二期 5,110,000、十三期 5,110,000	【資産負債】	十二期 5,110,000、十三期 5,110,000
【時價】	新券 9分五厘	【時價】	新券 9分五厘
【名義書換】	三十錢	【名義書換】	三十錢

### 日本火薬製造株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル(電丸ノ内三七一)

【下期業績好調】昨下期の業績は非常に良かった。利益金は一百八十七萬四千圓に上り、利益率は四割二分七厘であった。これを其の前期と比較すると四十一萬六千圓の増益であり、利益率は五分八厘の向上となる。礦山方面のダイナマイトの需要が著増した為だ。

【拂込徵收】當社は厚狭工場の擴張、グリセリン工場の建設、子會社朝鮮火藥の拂込徵收(三月三日許可)に對する資金の調達、濟南に於ける新中華火藥製造株式會社の拂込金(二月二十日拂込済)等々と、次々に新資金の調達の必要にせまられてゐる。其所で去る三月八日の重役會で、殘額百五萬圓の最終拂込を徵收することにしたのである。徵收期日は七月一日である。

【増資と配當】百五萬圓の資金だけでは勿論まだ百萬圓以上不足する。其所で増資が當然考へられるが、當局者はまだ具體案は持たぬと言ふ。然し遠からず實現するものと思はれる。倍額増資を行ふとすれば、それを機會に或は現行の普通一割特別一割合計二割と言ふ高率配當を三、五分引下げることもなるかも知れぬ。

【今期好調】今期の業績は前期同様極めて好調である。諸原材料は配給統制を受けてゐるから思ふやうに増産は出來ぬが、前期並みの利益は充分收められる。二割配當は据置きと見られる。

【設立】	大正五年六月	【設立】	大正五年六月
【決算期】	五月、十一月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	ダイナマイト、硝安産、硝、硝火、硝火線、硝管類、硝、硝、硝	【事業】	ダイナマイト、硝安産、硝、硝火、硝火線、硝管類、硝、硝、硝
【株主数】	公稱10,000株	【株主数】	公稱10,000株
【重役】	社長 原安三郎、取締役 長崎英造、監査 岡野、飯森梅男、桑田、梅原	【重役】	社長 原安三郎、取締役 長崎英造、監査 岡野、飯森梅男、桑田、梅原
【株主】	山本武太郎、山本、長崎英造、飯森梅男、梅原、小倉、高野、清水、高野、久保島亮吉、安田生命、山口、山口、山口、山口、山口	【株主】	山本武太郎、山本、長崎英造、飯森梅男、梅原、小倉、高野、清水、高野、久保島亮吉、安田生命、山口、山口、山口、山口、山口
【資産負債】	十二期 5,110,000、十三期 5,110,000	【資産負債】	十二期 5,110,000、十三期 5,110,000
【時價】	新券 9分五厘	【時價】	新券 9分五厘
【名義書換】	三十錢	【名義書換】	三十錢

### 日本理化工業株式會社

(本社) 東京市京橋區銀座三ノ三(電京橋六八一七)  
(支社) 大阪市東區今橋三ノ一五(電北濱五六一九)

【昨下期】當社の昨下期決算を見るに、利益金は六十七萬六千圓に上り、其の前期に比し十三萬五千圓の増益である。然し利益率は三割九分三厘から三割三分四厘に低下した。平均拂込資本が増加した爲である。時局のため酸素の需要は依然として旺盛であり、生産費は昂騰したが、賣値も騰つたので差益は寧ろ向上した。増益は當然の事と言へる。

【新計畫】當社は従來子會社日本アセチレン工業をしてアセチレン瓦斯の製造並びに販賣を行はしめてゐたが、此の瓦斯を應用する内燃機關の製作に乗り出した。溶解アセチレンはガソリンの代用となるので、時節柄注目し得る。

【拂込期待】此の計畫は二期に分れ、總額二百五十萬圓の資金を要する。此の資金調達のために昨年四月最終拂込を徴収し、更に六月一日に倍額増資して四分の一の拂込を徴収したが、尙ほ幾分不足するので近く増資後の第二回拂込が期待されてゐる。

【今期好調】ところで今期の業績だが、これは相變らず好調だ。酸素の關西乃至九州方面への賣行は非常に良い。七十萬圓近くの利益は充分期待出来ると思はれる。とすれば三割五分程度の利益率となるから、現行一割配當は勿論安泰だ。

【設立】	大正七年七月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	酸素、各種酸素瓦斯、酸化瓦斯、理科學機械、化學製品製造並販賣
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株數】	新 10,000 舊 10,000
【役員】	社長 高橋 是賢 取締役 島野 亨二 常務 山口 武彦 長谷川 辰兒 取締役 山下 太郎 藤崎 三郎助 濱田 勇三 河路 寅三
【株主數】	十一年上 十一年下 十三年上 十三年下
【大株主】	安田生命 10,000 高橋 是賢 9,750 岩崎小波太 10,000 日本銀行 10,000 山武商會 10,000 望月 乙彦 10,000 西脇合名 10,000 三菱信託 10,000
【事業規模】	生産能力 酸素年産能力 8,000 立方丈 酸素製造機 1 基
【工場所在地】	龜戶、蒲田、名古屋、郡山、大阪、廣島、小倉、釜石、
【事業成績】	十一年上 十一年下 十三年上 十三年下
【投資會社】	日本アセチレン工業、日本路路機
【資本異動】	昭和十一年六月社名を日本理化工業と變更再稱日本酸素株式會社(三回)最終拂込徴収六月倍額増資第一回一七圓五拂込徴収

【資産負債】	十二年 十三年 十一年
株主資本	3,800,000 3,800,000 3,800,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
借入金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支動向】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時價】	新 100 舊 100
【名義書換】	十 五 十

### 日本カーボン株式會社

(本社) 横濱市神奈川區神奈川通九丁目(電神奈川三三三)  
(事務所) 東京市麹町區丸之内有樂館内(電丸之内三三〇一三)

【前期向上】電極需要の旺盛に恵まれて前期の純益金は三十九萬八千圓に著増した。併し、増資拂込が期を通じて負擔となつたのと、更に十一月十五日、第二回拂込十二圓半を徴収したので、利益率は三割二厘を示した。それでも上期に比し五分七厘の向上で、一割二分配當に一段餘裕を加へた。

【擴張進捗】昨年以來全面的に各工場擴張、改良を實施中であるが、大體順調に進んでゐる。富山工場の一貫作業化も大分出來上つて來たが、全部の完成には今年一杯はかかる見込みだ。同工場の内に別に研磨材たる炭化珪素の工場を建設中だが、これは略々完成し、四月より操業しよう。横濱第二工場は電極工場は操業を開始したが、目下高級電刷子工場、ピッチコークス工場を鋭意建設に努めてゐる。東京小物工場は既に改良を終へた。以上に六百萬圓近い資金を要するので、次ぎ次ぎ拂込を徴収する筋合だ。

【子會社優秀】子會社昭和電極は昨下期、一割二分へ増配し、更に三百萬圓を増資した。昭和特殊製鋼も一割二分配當を堅持し、再増資の氣構へにある。當社に貢獻するところ大である。

【今期】湯水期に當るので或は生産高を充分増加出來ぬかも知れぬが既設部分のみで充分の利益を擧げ得よう。

【設立】	大正四年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	各種電極、炭素棒、電刷子、電話器用炭素製品、炭素電燈
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株數】	新 10,000 舊 10,000
【役員】	社長 近藤 賢一 取締役 大谷米太郎 常務 石川 等 監査 吉井 操 取締役 藤澤 義一 中村 房次郎 西郷 健雄 相談 井坂 孝
【株主數】	十一年上 十一年下 十三年上 十三年下
【大株主】	大谷米太郎 2,000 近藤 賢一 1,000 佐野 隆一 1,000 横濱 火災 1,000 石川 等 1,000 野間 恒 1,000 藤澤 義一 1,000 原 健 1,000 藤原 隆 1,000 藤原 隆 1,000 日本鋼管 1,000
【事業規模】	十三年上期現在 電極年産能力 1,000,000 工場所在地 横濱、東京、大阪、富山、山梨、横濱第二工場
【投資會社】	朝日石綿紡績、昭和電極
【資本異動】	昭和十一年七月五圓、九月七圓五拂込徴収、十二年九月一圓五圓五拂込徴収、十二月五圓増資金額拂込徴収、十三年二月五圓増資第一回二圓五圓五拂込徴収、十四年一月二圓五圓五拂込徴収

【資産負債】	十二年 十三年 十一年
株主資本	3,000,000 3,000,000 3,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000
借入金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支動向】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時價】	新 100 舊 100
【名義書換】	五 十 十

### 東海電極製造株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内海上ビル内(電九ノ内 天六一九)  
(出張所) 大阪市北區中ノ島三ノ三朝日ビル内

【拂込接近】名古屋の二工場並に田ノ浦工場の擴張資金と運轉資金で本年中には彼れ是れ二百萬圓は必要だ。前期末の手許資金は百萬圓程あつたがその後擴張も繼續して居るからこれでは到底賄ひきれない。従つて新株の拂込徴収は案外早く行はれよう。

【擴張繼續】昨年度の擴張計畫は本年三月の獨逸廠完成で一段落したが、引續いて本年度の擴張計畫を進めて居る。差當つての計畫は名古屋工場へ電極月産三百屯R式焙燒爐設置、エレマ工場第二次増産計畫、東極産業煉瓦工場移轉増産計畫等本年度も全面的に擴張だ。

【配當據置確實】矢張り早の拂込徴収と擴張にも拘らず未働資産の壓迫をあまり受けて居らぬ。即ち利益率を見れば下表の通り累期三割以上で社内保留はこれ亦六割餘と云ふ堅實振りだ。今期は拂込資本が百萬圓程増したが、既に利益金を前期並の百九萬圓としても利益率は二割一分で現行一割二分配當に懸念はない。しかも三月以降は擴張分も運轉して出荷も増すから収益は益々増大する。

【將來性豐富】濠洲、白耳義、和蘭等へ中細物電極を輸出して優秀低廉を誇る米國品と競争して地盤を置食して居る程だから、今後輸出方面にも希望が持てる。滿洲北支への出荷も漸次増加傾向を辿りつゝあり、機會さへあれば滿洲進出も具體化されよう。

【設立】	大正七年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	各種電極、炭素、エレマ製品、 電刷子類、炭素帶、炭素棒其他 イタカーボン、研粉材料、合金鐵
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 7,000,000
【株主】	新(113名) 3,000,000 舊(100名) 4,000,000
【重役】	社長 栗川 恒貞 常務 竹内 敬次 取締役 中島 爲喜 栗川 恒一郎 取締役 水井 雅夫 取締役 川崎 合恒 三 武田 正基 川崎 合三 監査 川崎 友之介 下出 義雄 森 孝三 村上 竹藏 小早川 常雄
【株主数】	三十二年下 十五年下 三十二年上 十五年上
【大株主】	東極産業 20,000 栗川 恒貞 9,000 熊本電氣 7,000 前田 利爲 5,000 栗川 恒一郎 4,000 大同製鋼 2,000 川崎共濟會 2,000 木村林太郎 2,000
【事業規模】	年産能力(十二年現在) 人造電極電極 4,800 電刷子 百萬圓 天然電極電極 600 炭素棒 300,000 炭素帶 200,000 合金鐵 200,000 炭素帶 200,000 其他 200,000 工場 東京大井、茅ヶ崎、名古屋堀江 及豊濱町、福岡若松、熊本田浦
【投資會社】	東極産業、東極煉瓦、東海電極地 資本金助 十三年六月二面股終拂込徴 收十二月三〇日萬圓増資第一回三〇萬圓拂込

【資産負債】	十二年 十二年 十二年
株主資本	1,200,000 1,200,000 1,200,000
積立金	1,200,000 1,200,000 1,200,000
外部負債	1,200,000 1,200,000 1,200,000
借入金	1,200,000 1,200,000 1,200,000
使用總資本	1,200,000 1,200,000 1,200,000
固定資産	1,200,000 1,200,000 1,200,000
流動資産	1,200,000 1,200,000 1,200,000
現金預金	1,200,000 1,200,000 1,200,000
【收支】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
收入	1,200,000 1,200,000 1,200,000 1,200,000
支出	1,200,000 1,200,000 1,200,000 1,200,000
【業績】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
利益	1,200,000 1,200,000 1,200,000 1,200,000
【時價】	新元八 五分二厘
【名義書換】	五 五分二厘

### 日本硫黄株式會社

(本社) 東京市芝區田村町一ノ一(電報掛 三六六)

【昨年同期】昨年同期は利益金三十四萬三千圓で、其の前期に比較すると僅に増益してはゐるが、増資に依る拂込資本の増加の爲利益率は三割四分二厘から二割六分一厘に大巾低下した。これと云ふのも此の期の市況が悪かつたからで、當社の主製品たる二硫化炭素は人相及人織が六月からバルブ不足の爲、大減産を余儀なくされたので三割五分の減産を實施せざるを得なかつた。其の上精製硫黄の方も殆ど言ふに足る増産が見られなかつた。業績の伸び悩みは當然だ。

【産金事業進出】當社は時局産業たる産金事業に着目し、北海道大榮金山、岩手縣黄金澤金山、栃木縣久富金山の三金山を買収し、既到大榮金山は今年初めから採掘に着手した。年産金七十四担、銀千九百六十担の計畫だ。鑛石は全部日本鑛業に賣却する。これは今期には少しは寄與することになる筈だ。

【今期業績】今のところ當社の業績を左右するものは何と云つても二硫化炭素と硫黄であるが、二硫化は依然として思はしくないと云ふのは今年一月以來、人相も人織も昨年同期に比較すると更に一割五、八分の大減産となるからだ。此の爲賣上は前期より減少する。硫黄の方は比較的よいが、金山の利益を加へても、今期は前期並みの利益が出るかどうか疑問だ。然しまだ減配の心配はない。

【設立】	明治四十年四月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	硫黄、二硫化炭素、精製硫黄、 炭素、炭素帶、炭素棒其他
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 7,000,000
【株主】	新(113名) 3,000,000 舊(100名) 4,000,000
【重役】	専務 山田 彰 取締役 田中 八郎 取締役 富川 七之助 石川 一 取締役 山田 彰 山田 彰 取締役 中村 房次郎 山田 彰 取締役 中村 房次郎 山田 彰 取締役 中村 房次郎
【株主数】	三十二年下 十五年下 三十二年上 十五年上
【大株主】	日本鑛業 20,000 西島 健治 9,000 石川 一 7,000 山田 彰 5,000 山田 彰 4,000 中村 房次郎 2,000 山田 彰 2,000 中村 房次郎 2,000
【事業規模】	工場別製品及月産能力(舊) 大榮金山 二硫化炭素 1,200,000 久富金山 二硫化炭素 1,200,000 黄金澤金山 二硫化炭素 1,200,000 同山工場 二硫化炭素 1,200,000 探査 硫黄 1,200,000 精製硫黄 1,200,000 炭素 1,200,000 炭素帶 1,200,000 炭素棒 1,200,000
【投資會社】	中ノ島電氣、研粉電機、日本鑛業、 資本金助 十二年三月三〇日、十三年 三月二〇日(最終)拂込徴収七月三〇日 増資八月第一回三〇萬圓拂込徴収、

【資産負債】	十二年 十二年 十二年
株主資本	1,200,000 1,200,000 1,200,000
積立金	1,200,000 1,200,000 1,200,000
外部負債	1,200,000 1,200,000 1,200,000
借入金	1,200,000 1,200,000 1,200,000
使用總資本	1,200,000 1,200,000 1,200,000
固定資産	1,200,000 1,200,000 1,200,000
流動資産	1,200,000 1,200,000 1,200,000
現金預金	1,200,000 1,200,000 1,200,000
【收支】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
收入	1,200,000 1,200,000 1,200,000 1,200,000
支出	1,200,000 1,200,000 1,200,000 1,200,000
【業績】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
利益	1,200,000 1,200,000 1,200,000 1,200,000
【時價】	新元八 五分二厘
【名義書換】	五 五分二厘

### 大日本鹽業株式會社

(本社) 東京市麹町區丸の内二ノ六(電九ノ内) 電話二〇

【前期一割配當據置】十二月末締切の昨年下半年決算は下表に示す如く好調裡に一割配當を据置いた。即ち收入七百三萬二千圓、支出六百四十三萬三千圓で、差引益金は六十萬圓だ。昨年三月の總額二百萬圓の拂込が期を通じて資本負擔増となつたに拘らず、利益率は二割に達した。前年同期に比し五厘の向上である。一割配當は益々餘裕あるものとなつた。言ふまでもなく、アルカリ工業の繁忙を映して、原料鹽の増産が順調に進捗しつゝあるからだ。

【拂込・増資期待】かくて、當社は現在大約一千萬圓近くの資金を必要とする。原料鹽増産の爲の鹽田擴張、南洋及北支等への資本的技術的進出などから、更に産鹽に際して生ずる苦汁の處理につき新事業への参加等々に資金を必要とするのである。現在の未拂込殘額は二百萬圓に過ぎない。十一年秋倍額増資して現在資本金八百萬圓に膨脹したに拘らず、體では倍額程度の増資に進む筋合にある。前項に述べた如く、前期決算が良好で、一割配當に餘裕を生じつゝある折柄、これ以上の高率配當に進むを得ないとすれば、案外早く増資の實現を見るのではないかと思ふ。

【前途】原料鹽の不足はまだまだ緩和されない。國策の線に沿つて増産に一路邁進すべく、一割配當は業況から見る限り安泰だ。

【設立】	明治三十六年九月	【決算期】	六月、十二月
【事業】	鹽田經營、臺灣並外埠輪移入	【資本金】	公稱一八〇〇〇〇〇 拂込一六〇〇〇〇〇
【株主】	新(株) 〇〇〇〇〇	【重役】	社長 一宮 銀生 取締役 住田 正一 常務 芝 喜代二 岡 雅枝 監査 岩井 俊藏 支那人 山下 博敏 監査 三輪 喜兵衛 取締役 北西位 佐久 室谷 藤七
【大株主】	二十一年十二月末現在(以後同) 正金東京支店 〇二九 臺灣銀行 〇〇六 大日本製糖一、〇四四 中村合名 〇〇〇 雙島(町) 鹽田總面積(町) 〇七、〇〇〇 雙島(町) 〇三、〇〇〇 普蘭店(町) 〇三、〇〇〇 雙子高(町) 〇二、九〇〇 五島(町) 〇一、〇〇〇 布袋(町) 〇一、七〇〇 米完成(町) 〇三、〇〇〇	【事業成績】	二十一年上 〇八、八八二 二十二年上 〇九、七五五 二十三年上 〇九、八八二 二十一年下 〇八、八八二 二十二年下 〇九、七五五 二十三年下 〇九、八八二
【投資】	鴨綠江建設、關東運輸、滿洲鹽業、山東鹽業、北洋鹽業、南洋大鹽業	【資本異動】	二十一年十月倍額増資 十一年第一回 二圓五割拂込 二十二年三月三圓五割拂込 後收
【資産負債】	二十一年上 七、〇〇〇 二十二年上 八、〇〇〇 二十三年上 八、〇〇〇	【株主資本】	二十一年上 七、〇〇〇 二十二年上 八、〇〇〇 二十三年上 八、〇〇〇
【流動資産】	二十一年上 〇、〇〇〇 二十二年上 〇、〇〇〇 二十三年上 〇、〇〇〇	【負債】	二十一年上 〇、〇〇〇 二十二年上 〇、〇〇〇 二十三年上 〇、〇〇〇
【時價】	新五五	【利息】	六分七厘
【名義書換】	十 錢	【新券交付】	十 錢

### 日本ペイント株式會社

(本社) 大阪市西淀川區浦江北四丁目(電福島五二一) 六 (營業所) 東京市品川區南品川四六〇〇(電高輪三三三)

【下期増配】當社は本年一ヶ月決算に於て一分増の九分配當を斷行した。成績をみると利益金は四十二萬一千圓で、拂込資本に對する利益率は二割二分だ。前期に比し利益金は七萬二千圓の増加となり、利益率は三分九厘の向上となつてゐる。一分増配は問題でなく、やれば二分増配も可能であつたのだ。

【業界の近況】一般に今尚ほ鉛、亞鉛の手當難が一番深刻だが、これに次いでブタノール、松脂、ペンゾール等も擧げられる。ペンゾールを除く他は何れも輸入品だが、ブタノールの製造は臺灣製糖で工業化に着手してゐるし、今年末頃には或は自給が出来るかも知れぬと云ふ期待がもてる。

【前途】原料難は屢述の通りであるが、當社の如く大會社となると比較的この打撃は軽減される。と云ふのは製品關係に於ては高級特殊塗料を多量に製造してゐるから普通品の生産減は之によつて補ふことが出来る。而して販賣關係では單關係の受注が依然として大量を占めてゐるし、一般の大口注文も當社のやうな有力な大會社に集中されて来る傾向が最近極めて顯著である。されば前途は原料難は早急に解決するとは思はれないが、業績は大體順調に推移するものと期待される。九分配當は問題なからう。

【設立】	明治三十一年一月	【決算期】	一月、七月
【事業】	亞鉛、光明丹、リトホン其 他顔料、人造樹脂、各種ペイント	【資本金】	公稱一、〇〇〇,〇〇〇 拂込一、〇〇〇,〇〇〇
【株主】	新(株) 〇〇〇〇〇	【重役】	社長 小畑源之助 取締役 田中 新七 常務 田村吉二郎 監査 藤井 善助 取締役 鈴木傳治郎 監査 藤井 善助 取締役 森 平兵衛 吉原定次郎
【大株主】	二十一年上 〇九、〇〇〇 二十二年上 〇九、〇〇〇 二十三年上 〇九、〇〇〇	【事業成績】	二十一年上 〇九、〇〇〇 二十二年上 〇九、〇〇〇 二十三年上 〇九、〇〇〇
【投資】	鴨綠江建設、關東運輸、滿洲鹽業、山東鹽業、北洋鹽業、南洋大鹽業	【資本異動】	二十一年十月倍額増資 十一年第一回 二圓五割拂込 二十二年三月三圓五割拂込 後收
【資産負債】	二十一年上 七、〇〇〇 二十二年上 八、〇〇〇 二十三年上 八、〇〇〇	【株主資本】	二十一年上 七、〇〇〇 二十二年上 八、〇〇〇 二十三年上 八、〇〇〇
【流動資産】	二十一年上 〇、〇〇〇 二十二年上 〇、〇〇〇 二十三年上 〇、〇〇〇	【負債】	二十一年上 〇、〇〇〇 二十二年上 〇、〇〇〇 二十三年上 〇、〇〇〇
【時價】	新五五	【利息】	六分七厘
【名義書換】	十 錢	【新券交付】	十 錢



### 關西ペイント株式會社

(本社)兵庫縣尼崎市神崎三六五(電話三〇三)

【強味】鉛、亞鉛の代替品としてサビナイト、リーホン、チタンの増産を計つてゐる。鉛、亞鉛關係製品の普通塗料に主力を置く中小會社の打撃は大きい。當社の如く普通品及び高級特殊塗料等數千種に上る綜合生産を行つてゐる所は一方が減つても他方で補ふと云ふ強味がある。

【配當安全】今後も大體二割三、四分の利益率は續けて行ける見込みだから八分配當は安全である。

【増資期待】子會社滿洲ペイント及び當社自體の擴張の爲め拂込、増資が期待される。未拂込は僅か五十萬圓しかないから之を全部徴收した所で大した仕事は出来ないから、どうしても増資の必要が生じて来る譯だ。

【設立】	大正七年五月
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株數】	新(100) 10,000 舊(100) 10,000
【重役】	社長 岩井雄二郎 専務 中山慶太郎 常務 酒見恒太郎 取締役 石川一郎
【業績】	十二年下 1,100,000 十三年上 1,200,000 十三年下 1,300,000 十三年上 1,400,000
【株價】	高値 100 安値 80
【豫想配當】	十四年四月份 八分
【時價】	新× 100
【利息】	八分八厘

### 帝國染料製造株式會社

(本社)東京市墨田區丸の内海上ビル(電丸ノ内三〇二)

【前期順調】昨年下半年決算は利益金二百七十萬八千圓で、利益率は四割七分であつた。同上半期の利益率五割三分に比較すれば幾分劣るが、先づ順調と言つてよい。従つて一割五分配當は据置きとした。當局者は、此の期に軍部の進退もあり一割五分程度の減配も考へてゐたのだが、十一條の發動を考慮して据置きとしたのである。

【今期も好調】昨年末には染料の賣行は一寸悪化した。二月頃から又盛り返して最近はかなり良くなつた。従つて大體前期並みの業績を収める事は出来そう。配當は恐らく一割五分を据置かう。

【擴張計畫】建設中の染料及中間物工場は資材の關係で完成までにはまだ相當の時間を要する。本年一杯はかかることにならう。これが完成すれば相當業績に寄與するから、今後も大體樂觀してよい。

【設立】	大正五年一月
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株數】	新(100) 10,000 舊(100) 10,000
【重役】	社長 原安三郎 専務 高橋三郎 常務 高橋三郎 取締役 高橋三郎 取締役 高橋三郎
【業績】	十二年下 1,100,000 十三年上 1,200,000 十三年下 1,300,000 十三年上 1,400,000
【株價】	高値 100 安値 80
【豫想配當】	十四年五月份 一割五分
【時價】	新× 100
【利息】	八分一厘

### 三共株式會社

(本社)東京市日本橋區京町二ノ二(電日本橋三三一〇)

【前期成績】昨年十一月締切の下期利益金は百十五萬四千餘圓で、對上期四萬五千圓の減益に當る。利益率に於ても八厘方低下したが八分配當は問題なく据置けた。

【子會社好調】投資會社日本ベークライトは代用品時代のこととて業績よく、其の子會社も大體順調に推移してゐる。下期末の投資勘定は七百九十五萬五千圓に達してゐるが、右の如く直接當社を援くるものが多く、懸念を要しない。

【八分配不動】事業の性質上平和的製品が多い。尤も戦時下に於ては戦地での藥品需要は旺盛だが、總じて事業に抑制を加へられる部門が生ずる譯だ。例へば原料の輸入が十分に行はれない如きだ。然し内容はよく二割程度の利益率は擧げ得るから配當は安泰だ。

【設立】	大正二年三月
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株數】	新(100) 10,000 舊(100) 10,000
【重役】	社長 鹽原又策 専務 鹽原又策 常務 鹽原又策 取締役 大橋新太郎 取締役 植村三郎
【業績】	十二年上 1,100,000 十三年上 1,200,000 十三年下 1,300,000 十三年上 1,400,000
【株價】	高値 100 安値 80
【豫想配當】	十四年五月份 八分
【時價】	新× 100
【利息】	六分

### 東硫化學工業株式會社

(本社)東京市東區大島町七ノ九五七(電本所三三〇一)

【昨年下半年】當社の經營には最近やうやく積極味があらわれて来た。利益も漸増しつゝある。昨年下半年の決算を見るに、利益金は三十三萬四千圓で、其の前期に比較すると二萬三千圓の増益である。尤も最終拂込徴收の結果利益率は二割五分七厘と其の前期に比し二分の低下となつた。

【今期業績】硫酸の需要は引續き旺盛であり、醫藥品の方も悪くない。前期は染料界の不況で中間物の賣行が思はしくなかつたが、最近には相當持直して来た。従つて業績は依然として好調を辿るものと思はれる。勿論現行八分配當には不安はない。

【經營】冒頭にも述べた如く近來當社の經營は積極味を加へて来たが、専務の死に依つて今後の發展には一抹の淋しさが感ぜられる。

【設立】	明治三十八年十月
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株數】	新(100) 10,000 舊(100) 10,000
【重役】	社長 石川一郎 専務 兵衛三郎 常務 石谷傳兵衛 取締役 柴田二郎 取締役 柴田二郎
【業績】	十二年上 1,100,000 十三年上 1,200,000 十三年下 1,300,000 十三年上 1,400,000
【株價】	高値 100 安値 80
【豫想配當】	十四年六月份 八分
【時價】	新× 100
【利息】	八分七厘

### 株式鐵興社

(本社) 東京市京橋區京橋三丁目四ノ八 (電報掛 1026)

【前期順調】 昨年十一月期の利益金は六十四万三千圓で、利益率は二割五分七厘と僅か乍ら向上した。この利益は依然満々、合金鐵のみで稼いだのである。期末の固定資産八百五十三万圓のうち實際運轉してゐるのは百九十六万圓に過ぎず、残りの六百五十四萬圓は酒田大濱工場、立谷澤發電所に投ぜられた増設分である。

【今期以後】 大濱工場も年末から一部操業したが、立谷澤が送電を開始すれば全面的に運轉される。電氣製鋼も四月から開始され、更に稻倉石鑛山の増掘設備も五月には第一期を完了する。以上の如く未働資産も逐次活動して来るが、今期の業績には餘り寄與しない。

三月一日一株十圓、總額百四十萬圓の拂込をとつたから、利益率は前期と同程度とならう。擴張の稼働する下期に期待される。

【設立】	昭和三年十月	【業績】	利益率	配率	利益額
【資本金】	公稱 1,000,000	十二年下	24.7%	1.00	247,000
【株数】	新(177) 1,000,000	十三年上	22.5%	1.00	225,000
【重役】	會長 藤橋實五郎	十三年下	22.5%	1.00	225,000
專務 佐野隆一	取締役 森重操	十四年上	20.0%	1.00	200,000
取締役 西脇清三郎	前島憲平	十四年下	16.0%	1.00	160,000
大塚寛治	山本勇	【時價】	新(177) 1,000,000	【利息】	八分六厘
佐野忠司	十樂寺義雄	【時價】	新(177) 1,000,000	【利息】	七分九厘

### 日本醋酸製造株式會社

(本社) 東京市本所區横川橋五ノ四 (電報掛 3353)

【前期凡調】 昨年十一月期の決算に於ては對上期七千圓の増益で、利益金は十九萬三千圓を計上した。併し、下期は拂込増加が期を通じて負擔となつたので、利益率は却つて二割八分六厘へ低下した。事業身體が時局に恵まれるといふものでなく、一體に平々凡々たる會社である。問題となつた配當制限に制されて現行配當を既得權となすべく、特配二分を普配に繰入れて一割二分配當となした所に變化がある位だ。

【現状維持】 今後とも今までと同じく現状維持で、伸びもせず、縮みもしない。経営は堅いが、事業にも面白味が少い。投資會社の日本化學工業は活潑であるが東洋高壓は碇安で停頓してゐる。併し、投資會社の拂込如何により當社の拂込も必要となるかも知れぬ。

【設立】	明治三十五年七月	【業績】	利益率	配率	利益額
【資本金】	公稱 1,000,000	十二年下	23.3%	1.00	233,000
【株数】	新(100) 1,000,000	十三年上	22.2%	1.00	222,000
【重役】	會長 植村澄三郎	十三年下	22.2%	1.00	222,000
專務 宮原敏	取締役 伊東小次郎	十四年上	20.0%	1.00	200,000
常務 森下虎吉	大倉榮馬	十四年下	18.0%	1.00	180,000
取締役 加藤左武郎	白石喜太郎	【時價】	新(100) 1,000,000	【利息】	九分五厘
	田中榮八郎	【時價】	新(100) 1,000,000	【利息】	九分五厘

### 日本製鍊株式會社

(本社) 東京市江戸區小松川一ノ一 (電報掛 1026)

【昨年下期】 當社の昨年下期決算は良かった。費上げが増加したからである。計上利益を見るに六十萬四千圓を數へ、其の前期に比較して、四萬三千圓の増益である。利益率は二割二分から二割四分に二分の向上を示した。一割配當は勿論据置いた。

【今期も好調】 重クロム酸加里、珪酸曹達は當社の獨占的生産品であり、過満俺酸加里、無水クロム、酸化クロム等は相變らず需要は旺盛だ。今期も相當賣上げ高は増加するものと思はれる。それに待望の郡山の亞鉛製鍊工場が今年初めから動き出したので、利益は一層増加する筋にある。恐らく六十五、七萬圓程度の利益は擧げ得ると思ふ。一割配當は充分維持出来る。郡山工場の建設費は一時借入金で賄つたが、早急拂込を徵つて返済する事とならう。

【設立】	大正四年九月	【業績】	利益率	配率	利益額
【資本金】	公稱 1,000,000	十二年下	24.7%	1.00	247,000
【株数】	新(177) 1,000,000	十三年上	22.5%	1.00	225,000
【重役】	社長 藤橋實五郎	十三年下	22.5%	1.00	225,000
常務 大塚寛治	支那人 山本 留次	十四年上	20.0%	1.00	200,000
取締役 中野芳太郎	山本 留次	十四年下	16.0%	1.00	160,000
取締役 橋本圭三郎	根津嘉一郎	【時價】	新(177) 1,000,000	【利息】	八分三厘
取締役 西脇清三郎	門野重九郎	【時價】	新(177) 1,000,000	【利息】	八分三厘
取締役 河西三九郎					

### 大多喜天然瓦斯株式會社

(本社) 東京市京橋區銀座西六ノ三 (電報掛 3353)

【事業好調】 主力事業たる天然瓦斯販賣は頗る好調を告げてゐる。近隣に散在する諸工場の股販に伴つて需要は激増しつゝあるが、ガソリン消費節約の折柄、自動車用壓縮瓦斯の利用が旺盛となつた。其のために用意して去る三月一日最終拂込總額五十萬圓を徴収したほどだ。投資會社天然瓦斯化學工業の發展も順調である。

【増資時期】 増資の時期を決定するのは新潟縣下に於ける石油採掘の成否である。豫てより試掘中のものは今秋其の成否が判明する筈だ。目下の所では相當に期待を持たれてゐるから、或は十月頃倍額増資の實現をみるかも知れぬ。尤も之を除外しても過般設立された富國纖維工業の事業開始があり、沃度生産設備の擴張も控へてゐるのだから増資は時期の問題と思はれる。

【設立】	大正六年五月	【業績】	利益率	配率	利益額
【資本金】	公稱 1,000,000	十二年下	23.3%	1.00	233,000
【株数】	新(100) 1,000,000	十三年上	22.2%	1.00	222,000
【重役】	社長 林邊賢一郎	十三年下	22.2%	1.00	222,000
專務 手島敏司	取締役 石川 龍藏	十四年上	20.0%	1.00	200,000
取締役 矢部又吉	同 秀賢	十四年下	18.0%	1.00	180,000
取締役 早川久右衛門	大河内正敏	【時價】	新(100) 1,000,000	【利息】	七分九厘
取締役 淺見 勇		【時價】	新(100) 1,000,000	【利息】	七分九厘

### オリエンタル寫眞工業株式會社

(本社) 東京市澁谷區西落合二ノ四三〇(電大塚三番一七)

【一分増配】去十一月決算では、近來にない好成绩(而も實際の利益は左掲數字より十萬圓程多かつた。)を収め、七分増配を八分に引上げた。當期の製品売上高は三百一十二萬圓で、前年同期より三割を増加した。印畫紙、乾板、フィルム、藥品其他、何れも好賣行に恵まれ、就中、乾板とフィルムの増加率は著しかった。

【好調續く】今期も賣行順調で、豫定の三百七十萬圓内外の賣上高を見るは難事でない。そして約五十三萬圓の利益を計上すること、なる筈だが、八分増配維持は易々たるものだ。寫眞材料の需要は一較、軍需、對滿及北支輸出ともに近來珍らしい程であり、而も原料の殆ど全部を國內で仰き得るに至つた。當社もこの所生産増加のため、全く追はれる状態にある。

【設立】	大正八年九月
【資本金】	公稱 10,000
【株数】	株 10,000
【重役】	社長 菊地 學治 取締役 藤 桂之助 常務 菊地 久吉 監査 淺沼 龍吉 取締役 中鉢 直綱 小島野 太郎 取締 荒井 建三
【業績】	十二年上 利益 1,500 配率 15%
【時價】	新天七
【利息】	九分一厘

### 富士寫眞フィルム株式會社

(本社) 神奈川縣足柄上郡南足柄村中沼二一〇(電本五二一)

【増配】當社は昨年下半年決算に於て一分増の八分増配を行つた。當期の成績は利益金九十萬九千圓を挙げ利益率は三割四分八厘となつてゐる。八分増配は余りにも余裕があり過ぎる。

【擴張進む】足柄工場の完成も近く、その隣には印畫紙四十一時幅百五十萬呎を倍増し得る外、年産六百萬本のロールフィルム並に映畫用フィルムも増産出来ることとなる。小田原工場の藥品工場完成し藥品自給の第一歩を踏み出した。更にフィルム生地の製作にも着手してゐる。

【設立】	昭和九年一月
【資本金】	公稱 10,000
【株数】	株 10,000
【重役】	社長 淺野 修一 取締役 森田 茂雄 常務 作間 政介 取締役 小林 龍太郎 取締 平田 次郎 監査 伊藤 吉太郎 取締 西原 茂二 監査 磯村 増雄 井上 通吉 相澤 森田 茂吉
【業績】	十二年下 利益 2,500 配率 25%
【時價】	新二五
【利息】	四分三厘

### 株式 神戸電機製作所

(本社) 神戸市東區相生町二ノ六〇番屋敷(電元町二三)

【増資断行】當社は資本金二百萬圓から三百五十萬圓に増資した。第一回拂込は一株十二圓半で總額三十七萬五千圓を三月一日に徴収した。増資拂込金は擴張費並に新規事業資金に充當されることになつてゐる。

【新事業】松浦電機及び石井鐵工を合併してモーター、ダイナモ、各種ポンプ、冷凍機等の製造に進出することになった。従來の主製品たる蓄電池、カウベライトも引續き増産に努めてゐる。

【前途】當社は昨年下半年に二分増の九分増配を断行した。利益率は一割九分であつたから手一杯の配當だ。之は増資を控へてゐたので多分に政策的意味があつたのだ。今期は賣上高の増加で利益率は二割二、三分を期待されるから九分増配は漸次餘裕を加へよう。

【設立】	大正六年五月
【資本金】	公稱 10,000
【株数】	株 10,000
【重役】	社長 石原新三郎 取締役 橋本 善 常務 直木 三郎 監査 乾 龍一 取締 澤野 定七 谷口 茂雄 田村 善三 福地 慶吉
【業績】	十二年上 利益 1,500 配率 15%
【時價】	新二〇
【利息】	九分

### 日本電池株式會社

(本社) 京都市上京區新町通今出川上ル(電西陣三番一)

【業績良好】蓄電池の重要原料たる鉛は事變以來益々入手困難となつてゐるが、當社は斯かる原料關係の不利を克服して頗る良好な成績を挙げた。昨年下半年は九十六萬三千圓の利益を収め利益率は三割一分だ。前期に比し三十五萬圓の増益であり、利益率に於ては七分六厘の向上を示してゐる。一割二分増配は著しい餘裕を持つてゐるから今後も餘程のことがない以上減配しないだらう。

【興味點】米國のエキサイド蓄電池會社と特許權問題で警争中の所同國巡回裁判所で當社の勝訴となつた。同社は直に控訴し目下審理中であるが、果して當社が再び勝訴となれば損害賠償として約三億圓を同社より受取る事となるから、之は仲々大事件である。興味點として注目に値する問題である。

【設立】	大正六年一月
【資本金】	公稱 10,000
【株数】	株 10,000
【重役】	社長 島津 源藏 取締役 玉木 誠次郎 常務 島津 三郎 監査 斎藤 孝四郎 取締 大倉 善七郎 監査 橋津 源吉 内實 清兵衛 松村 龍太郎 河村 巖 大倉 直介
【業績】	十二年下 利益 2,500 配率 25%
【時價】	新二〇
【利息】	一割二分

### 日本再生ゴム株式会社

(本社) 東京市日本橋區室町四丁目六(電日本橋三三)

【擴張設備完成】豫ねて施行中の増設工事は漸く完成した。日産能力十趣となつたのであるが實能力は十二趣が見込まれる。この設備竣工に依つて愈々完全操業の開始となり生ゴムの輸入制限強化の折柄業績には益々期待がかけられる。原料屑ゴムには大小十八社に依る大日本再生ゴム組合が結成され原料古ゴムの輸入乃至配給統制が行はれてゐる。このため毎月相當數量の輸入許可が行はれ操業に事欠くやうな不安はない。製品再生ゴムには公定價格が制定され相俟つて事業は安定的となつた。

【夏成績維持】十三年下期は五萬三千圓の利益を擧げ無配から一舉八分配當に復歸したが本年上期は能力増大に伴ふ増産に惠まれて業績はさらに進展するものと期待される。

【設立】 昭和九年九月

【資本金】 株式 100,000

【株数】 (100,000) 100,000

【重役】

社長	橋口 巴二	取締役	山本 敬
常務	坂田 善太郎	常務	冬木 庄一郎
三司	三司 誠	監査	佐竹 義一
取締役	井田 五郎		鈴木 文元

【業績】 利息率 配當率 利益率

十一年下	11.0	0.0	5.0
十二年上	11.0	0.0	5.0
十二年下	11.0	0.0	5.0
十三年上	11.0	0.0	5.0
十三年下	11.0	0.0	5.0

【株價】 (十三年上は十二月一四日の数字) 不明

【豫想配當】 十四年四月份 八分

【時價】 —

【利息】 —

### 理研護謨工業株式会社

(本社) 東京市豊島區有樂町一ノ二(電銀座六三三)

【前期の躍進】期待を裏切らず昨年十一月締切りの前期成績は躍進的向上となつた。計上利益十六萬七千圓で利益率一割六分七厘、これに豫定通りに二分増の八分配當とされた。当期は未だ擴張過渡期であつてゴムは日産七趣の能力ながら産額は五割近くの増産を示し、而も加工部門も大繁忙を呈したお蔭である。

【今期業績良好】この勢を以てすれば来る五月期の成績には一段の向上が見込まれる。豫ねて擴張中の日産十五趣設備は三月上旬には完成操業開始となる。前期に比し約三倍の増産とならう。總売上高は百五十萬圓内外、利益三十萬圓は間違ひなからう。この限り、去る二月一日一株五圓宛總額八十萬圓の拂込徴収を見たが利益率は尙ほ二割四分となるから期待の一分増配は樂である。

【設立】 昭和十二年六月

【資本金】 株式 100,000

【株数】 (100,000) 100,000

【重役】

社長	大河内 正敏	取締役	馬渡 俊雄
常務	西郷 佳夫		山内 貞
取締役	河野 敏	監査	嶋野 正方
	宮富 保雄		林 澄賢一郎
	横山 達一		大塚 萬文

【業績】 利息率 配當率 利益率

十二年下	11.0	0.0	5.0
十三年上	11.0	0.0	5.0
十三年下	11.0	0.0	5.0
十四年上	11.0	0.0	5.0
十四年下	11.0	0.0	5.0

【株價】 (實物) 高値 安値

【豫想配當】 十四年五月份 九分

【時價】 三・七

【利息】 七分三厘

### 王子製紙株式会社

(本社) 東京市王子區王子町 (電小石川二〇八)

【社長更迭】 昨年下期の定時株主總會を最後に藤原社長は第一線から退き取締役會長の閑職に就き、高島副社長が社長に就任した。後進に道を譲つたのであつて、此の爲に大王子製紙の前途は少しも動搖すると言ふやうなことはない。

【前期業績】 昨年十一月を以て終つた前期は利益金二千五百四十五萬六千圓で、利益率は二割二分六厘であつた。昨年上期に比較して利益率は六厘向上した。紙類の販賣總量は七億八千八百萬封度で、其の前期に比し五千二百萬封度を減少したが、他方バルブの販賣高は二億五千九百萬封度に達し、其の前期に比し四千四百萬封度を増加した。紙の方はバルブ不足の爲に買氣は旺盛となり、採算關係は相當良くなつた。九月初旬公定價格制が實施されたが、勿論利益は前期より多かつた。それにバルブの増産が加はつたのだから増益は當然と言はねばならぬ。

【今期業績】 新聞用紙の制限で紙の販賣數量は伸び悩みの状態にあるが、他方最近輸出がかなり好調であるやうだし、バルブの増産計畫が順調に進んでゐるから、業績は大した變化はあるまいと思はれる。二千五百萬圓程度の利益は充分期待出来るから、一割配當は勿論安泰である。

【製紙バルブ事業】

### 王子製紙株式会社

(本社) 東京市王子區王子町 (電小石川二〇八)

【社長更迭】 昨年下期の定時株主總會を最後に藤原社長は第一線から退き取締役會長の閑職に就き、高島副社長が社長に就任した。後進に道を譲つたのであつて、此の爲に大王子製紙の前途は少しも動搖すると言ふやうなことはない。

【前期業績】 昨年十一月を以て終つた前期は利益金二千五百四十五萬六千圓で、利益率は二割二分六厘であつた。昨年上期に比較して利益率は六厘向上した。紙類の販賣總量は七億八千八百萬封度で、其の前期に比し五千二百萬封度を減少したが、他方バルブの販賣高は二億五千九百萬封度に達し、其の前期に比し四千四百萬封度を増加した。紙の方はバルブ不足の爲に買氣は旺盛となり、採算關係は相當良くなつた。九月初旬公定價格制が實施されたが、勿論利益は前期より多かつた。それにバルブの増産が加はつたのだから増益は當然と言はねばならぬ。

【今期業績】 新聞用紙の制限で紙の販賣數量は伸び悩みの状態にあるが、他方最近輸出がかなり好調であるやうだし、バルブの増産計畫が順調に進んでゐるから、業績は大した變化はあるまいと思はれる。二千五百萬圓程度の利益は充分期待出来るから、一割配當は勿論安泰である。

【製紙バルブ事業】

### 王子製紙株式会社

(本社) 東京市王子區王子町 (電小石川二〇八)

【社長更迭】 昨年下期の定時株主總會を最後に藤原社長は第一線から退き取締役會長の閑職に就き、高島副社長が社長に就任した。後進に道を譲つたのであつて、此の爲に大王子製紙の前途は少しも動搖すると言ふやうなことはない。

【前期業績】 昨年十一月を以て終つた前期は利益金二千五百四十五萬六千圓で、利益率は二割二分六厘であつた。昨年上期に比較して利益率は六厘向上した。紙類の販賣總量は七億八千八百萬封度で、其の前期に比し五千二百萬封度を減少したが、他方バルブの販賣高は二億五千九百萬封度に達し、其の前期に比し四千四百萬封度を増加した。紙の方はバルブ不足の爲に買氣は旺盛となり、採算關係は相當良くなつた。九月初旬公定價格制が實施されたが、勿論利益は前期より多かつた。それにバルブの増産が加はつたのだから増益は當然と言はねばならぬ。

【今期業績】 新聞用紙の制限で紙の販賣數量は伸び悩みの状態にあるが、他方最近輸出がかなり好調であるやうだし、バルブの増産計畫が順調に進んでゐるから、業績は大した變化はあるまいと思はれる。二千五百萬圓程度の利益は充分期待出来るから、一割配當は勿論安泰である。

【製紙バルブ事業】

### 日曹人絹パルプ株式会社

(本社) 東京市麹町区大手町二ノ八 (電九ノ内製紙)

【前期成績】操業第一期である昨十三年十月締切の決算では、未だ全能力の發揮には至らなかつたにも拘らず營業利益は六十五萬九千圓を擧げ一割七分五厘の利益率を示した。配當も一般の豫想を裏切つて八分の處女配當を付けた。それでも社内保留は五割に及ぶから先づ無難な利益處分といつてよからう。

【企業本格化】建設中のパルプ工場(富山)は十三年六月下旬に竣工した。ス・フ工場(八代)は既に十二年末に操業開始の事として、爾來企業は本格化の域に達し、今後は品質の向上と運轉率の増進に主力が注がれる。社有林たる加奈陀所在の山林の原木も昨年七月の第一船を皮切りに年末までに既に五船分の着材を見た。企業の本格化と相俟つて次期を好望せしめる。

【本年四月期有望】當社は去る二月一日を期限として一株十二圓半宛總額七百五十萬圓の拂込徴收を行つた。これで借金過多の不均衡な資産内容も是正される。それにも増してフル操業による増産と製品の質的向上は好成績を約束するであらう。利益金は百二、三十萬圓と前期の二倍以上に達するかも知れぬ。拂込徴收で資本負擔は加重されるが、利益率は二割二、三分と更に躍進する。八分配當には愈々ユトリを加へ、先行増配の楽しみさへある。

【製紙パルプ事業】

【設立】昭和十二年三月

【決算期】四月、十月

【事業】纖維工業品及化學工業品、造林業及林産物

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000

【株数】(株) 100,000

【重役】社長 中野 友雄 取締役 金井 直直 常務 武 鶴太郎 取替 武 鶴太郎 伊藤 忠兵衛 山田 昌作 伊藤 忠兵衛 山田 昌作 伊藤 忠兵衛 山田 昌作 伊藤 忠兵衛 山田 昌作

【株主】(株主) 12,300 名

【大株主】日本曹達 2,500 株 高企業 2,000 株 日本海電 1,500 株 中山 1,000 株 友徳 1,000 株 石橋正二郎 1,000 株 馬場 正治 1,000 株

【事業規模】工場所在地及製品 富山工場 富山縣富山市(八代パルプ) 八代工場 熊本縣八代郡(ス・フ) 生産能力 パルプ年産 2 萬 2 千 噸 人絹日産 2 千 噸

【資本異動】十二年三月二八〇萬圓にて設立八月繰引納付、日本人絹合併三千万圓に増資、十四年二月三月五拂込徴收

【資産負債】十二 月 三 月 十三 月 株主資本 7,500,000 7,500,000 8,500,000 預立金 2,000,000 2,000,000 2,000,000 社外負債 3,000,000 3,000,000 3,000,000 支拂手形 1,000,000 1,000,000 1,000,000 借入金 1,000,000 1,000,000 1,000,000 使用總資本 11,500,000 11,500,000 11,500,000 固定資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000 投資助定 1,500,000 1,500,000 1,500,000 流動資産 1,500,000 1,500,000 1,500,000 預金現金 1,000,000 1,000,000 1,000,000

【收支】(支) 十二 月 三 月 十三 月 支 出 10,000,000 10,000,000 10,000,000 利 益 1,500,000 1,500,000 1,500,000

【株 價】(株) 高 値 安 値 十一年 35.00 11.00 十二年 30.00 10.00 十三年 25.00 9.00 十四年 20.00 8.00

【豫想配當】十四年四月期 八分

【時價】x元

【名義書換】十歳

【新券交付】二十歳

### 北鮮製紙化學工業株式会社

(本社) 成鏡北海道吉州郡 吉州區營基洞 (出張所) 東京市麹町区有樂町一丁目三番ビル (電報掛 二六六)

【昨年九月期】昨年初めより吉州工場は著しく能率を高め、極めて順調な操業を續けてゐたが、八月の水害で一時期休轉の止むなきに至つた。然しそれでも一百万六千圓の利益を計上し、一割配當は餘裕裡に措置することが出来た。

【擴張完成】擴張中であつた五千噸の新能力は昨年末完成し既に今春から試運轉を開始し、徐々に能率を高めてゐる。既存の能力二万二千噸と合すれば二万七千噸となり、人絹パルプ製造能力は王子製紙、日本人絹パルプに次いで實運轉能力は第三位を占める譯だ。

【今年三月期】三月期の業績は悪くない。原木入手も比較的順調に行つてゐるので、新能力の寄與に依り百十三、五万圓程度の利益は期待出来そうだ。勿論一割配當は安泰だ。

【設立】昭和十一年

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000

【株数】(株) 100,000

【重役】社長 藤原銀次郎 副社長 足立正 専務 藤原喜藏 横井半三郎 取締役 大橋新太郎 高島菊次郎 田中 治朗 井上憲一 林興植 監査 松本 弘造 韓相龍 淺野大三郎 村榮詩 田邊武次 下津謙藏 相模 多田榮吉

【業績】(利益) 高 値 安 値 十一年 8,000,000 1,000,000 十二年 10,000,000 1,000,000 十三年上 12,000,000 1,000,000 十三年下 10,000,000 1,000,000

【株 價】(株) 高 値 安 値 十三年 35.00 11.00 十四年 30.00 10.00

【豫想配當】十四年三月期 一割

【時價】五二・八

【利息】四分八厘

【製紙パルプ事業】

【資本金】十二 月 三 月 十三 月

株主資本 7,500,000 7,500,000 8,500,000

預立金 2,000,000 2,000,000 2,000,000

社外負債 3,000,000 3,000,000 3,000,000

支拂手形 1,000,000 1,000,000 1,000,000

借入金 1,000,000 1,000,000 1,000,000

使用總資本 11,500,000 11,500,000 11,500,000

固定資産 10,000,000 10,000,000 10,000,000

投資助定 1,500,000 1,500,000 1,500,000

流動資産 1,500,000 1,500,000 1,500,000

預金現金 1,000,000 1,000,000 1,000,000

支 出 10,000,000 10,000,000 10,000,000

利 益 1,500,000 1,500,000 1,500,000

株 價 (株) 高 値 安 値 十一年 35.00 11.00 十二年 30.00 10.00 十三年 25.00 9.00 十四年 20.00 8.00

豫想配當 十四年四月期 八分

時價 x元

名義書換 十歳

新券交付 二十歳

### 東邦パルプ工業株式会社

(本社) 東京市向島區隅田町二ノ一六二二 (電七五)

【初配當決定】當社の投資會社たる東滿洲人絹パルプは昨年下期に人絹パルプとして六千噸程内地に向けて出荷し、四十四萬八千圓の利益を擧げて七分配當を行つた。この七分配當を受け入れて當東邦パルプは六分の初配當を行ふことが出来た。即ち計上利益三十五萬七千圓、對拂込資本利益率九分五厘と言ふのだから、尙ほ幾分の増配力を持つ。

【今期業績】東滿パルプの業績は今期は更に良くなる。前期はソ滿國境事件とか、八月の豪雨等で操業が意の如くにならなかつたが今期はそれが無い。原木の拂下げは大した増加は見込めぬが、利益の増加は充分期待出来る。増配するかも知れぬ。

【設立】昭和十二年三月

【資本金】公稱 10,000,000 拂込 10,000,000

【株数】(株) 100,000

【重役】社長 津田 信吾 取締役 會知 四郎 専務 河村 浩逸 監査 佐々木義彦 取締役 赤司初太郎 中村 庸 後宮信太郎

【業績】(利益) 高 値 安 値 十一年 8,000,000 1,000,000 十二年 10,000,000 1,000,000 十三年上 12,000,000 1,000,000 十三年下 10,000,000 1,000,000

【株 價】(株) 高 値 安 値 十三年 35.00 11.00 十四年 30.00 10.00

【豫想配當】十四年五月期 六分

【時價】三二・二

【利息】三分二厘

【製紙パルプ事業】

### 満洲パルプ工業株式會社

(本社) 滿洲國牡丹江省牡丹江市柳林  
(支社) 東京市豊町區丸の内二ノ六八番地(電九ノ内五三三)

【昨年下半年】 當社の昨年下半年は利益金一萬三千圓で、利益率は僅に三分と言ふのだから、利益らしい利益は出なかつた譯だ。昨年七月から工場の運轉を開始したのだが、能力が經濟單位に達しない爲と、操業早々で諸事が意の如く運ばなかつた事や、豪雨に依る運轉休止等が祟つた爲である。

【今期初配か】 ところが今期は順調に行つてゐる。まだ晒設備が完成しないので、製造するパルプは未晒のまま賣らなければならぬ。大體今期は六千噸近くの生産が豫定されてゐる。噸四十圓の利益とすれば二十四萬圓の利益が擧がることになる。四百萬圓の平均拂込資本に對し一割二分の利益率だ。六分程度の初配當は充分可能である。恐らく六分の處女配當は決行されるものと思はれる。

【設立】	昭和九年五月
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	100,000株
【重役】	社長 寺田元之助 取締役 尾崎芳雄 高橋鐵造 二國三樹三 高橋鐵造 二國三樹三 木下 莊 信實英藏 取崎 山田馬次郎 監査 寺田 甚吉 赤松 龍一 山本 留次 南郷 三郎 相澤 大輔 岸本五兵衛 植村澄三郎
【業績】	十二年下 売上 1,000,000 利益 未配 十三年上 売上 1,100,000 利益 未配
【株價】	高値 10.00 安値 10.00
【豫想配當】	十四年三月期 五分
【時價】	元五
【利息】	三分四厘

### 高崎板紙株式會社

(本社) 群馬縣高崎市八島町一九二(電三三三)  
(出張所) 東京市神田區五軒町四六(電下三三三)

【業績向上期待】 昨年九月份は利益金四十一萬五千圓で、利益率は一割九分九厘を示し、一割五分配當措置は著しく窮乏なものであつた。然し今期からは業績は相當好化するものと思はれる。と言ふのは建設中の東京、日光の兩工場が完成し運轉を開始したからである。斯くて未働資産の壓迫に悩んだ當社も、やつと一息つくことが出来る譯だ。

【一割五分措置】 板紙中、黄ボール及び茶ボールは五割乃至二割の生産制限を行つてゐて、市況も著しく不味であるが、當社は特殊ボールの生産に轉換した。特殊ボールは最近相當多くの輸出を見てゐるし、採算も良い。クラフト紙の採算関係も良い。日光工場完成に依り原料自給が可能となり、現行一割五分配當は安泰である。

【設立】	大正三年三月
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	100,000株
【重役】	社長 井上三郎 取締役 高橋 隆 木下 莊 小野 朝光 常務 黒崎 隆 水千尋 専務 小野 朝光 常務 黒崎 隆 義平 取締役 井上三郎 常務 黒崎 隆 村重三郎 井上三郎 相澤吉平 常務 清水新一郎 監査 林山吉吉 井上米 三郎 若川辰次郎 伊藤常七 相澤 次 板寛 齋藤太兵衛
【業績】	十二年下 売上 1,000,000 利益 未配 十三年上 売上 1,100,000 利益 未配
【株價】	高値 10.00 安値 10.00
【豫想配當】	十四年三月期 一割五分
【時價】	元五
【利息】	八分六厘

### 日本紙業株式會社

(本社) 東京市四谷區元町五九(電四谷公四〇)

【前期増配】 昨年下半年は利益金二十九萬四千圓で、利益率は六分五厘であつた。同年上半年の利益金二十六萬五千圓、利益率五分九厘に比較してかなり良い成績であつた。従つて配當は一分増の五分に引上げられた。昨年上半年に四分に増配し、今又引續いて五分に増配した。内容整理の効果がよく表面に表れて來たのだ。

【今期措置】 洋紙の原料たるパルプの供給制限と、和紙の原料たるマニラ麻の輸入難とで、生産は必然減少せざるを得ないのである。尤も軍需が相當あるので、其の方は原料を供給されるし、マニラ麻は輸出入にリンク制が施かれたし、古い麻繩の利用で、著しい生産の減少とはならない。それに供給不足は必然市價を引締める。従つて生産は減つても利益は大して變化しない。五分配當措置は可能。

【設立】	大正二年八月
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	100,000株
【重役】	社長 大島 順路 取締役 高見幸次郎 加藤 正雄 山本 留次 中内 眞吉 監査 宇田代代滿 取崎 川崎 清芳 宮口 竹雄 河路 寅三
【業績】	十二年下 売上 1,000,000 利益 未配 十三年上 売上 1,100,000 利益 未配
【株價】	高値 10.00 安値 10.00
【豫想配當】	十四年六月期 五分
【時價】	元五
【利息】	六分

### 大日本セロファン株式會社

(本社) 名古屋市西區光音寺町一〇〇(電三三三)

【日曹經營を受託】 輸出激減を主因としてストック過剰を起し、セロファン界が危機に直面したのは昨上半期のことであつた。所が當社は不況打開の一策として昨年四月日本曹達に經營を委託して今日に至つたもので、其後昨年十一月に至つて政府の輸出振興助成策の具體化で漸く成績好轉の曙光が見えて來た。

【前途】 前期は若干の利益を擧げようやら赤字を免れ得た。其の頃新製品の研究も完成したので新工場建設認可を申請した。資金調整局の認可があれば直ちに着手する段取となつてゐるから之が完成すれば當社の業績に寄與する所は尠くあるまい。赤字にはなるまいが配當はまだ先のことだ。將來はいざ知らず、目先には尙ほ大きな期待は持てない。

【設立】	昭和六年六月
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 10,000,000
【株数】	100,000株
【重役】	社長 中野 友輔 取締役 青木留次郎 社長 下出 義雄 小島 新太郎 専務 菅原 通濟 監査 辰澤 茂乙 常務 高木 喜六 監査 金井 滋直 取崎 加藤 兵三 片山孝之助
【業績】	十二年下 売上 1,000,000 利益 未配 十三年上 売上 1,100,000 利益 未配
【株價】	高値 10.00 安値 10.00
【豫想配當】	十四年四月期 無配
【時價】	元五
【利息】	八分六厘

# 浅野セメント株式会社

(本社) 東京市麹町區丸ノ内海上ビル新館 (電九ノ内) 一五六一〇

**【限産緩和】** 洋灰界は事變下にあつて依然低調を續けてゐるが、季節的關係より三月以降五月に至る限産率は六割九分から六割六分に緩和された。然し前年は三月六割三分、四五兩月六割一分五厘だつたから、内地出荷はなほ思はしくない。尤も朝鮮露兵は建設景氣で出廻りよく、朝鮮では三割四分から二割一分に大中引下を見た。

**【對支進出】** 華北洋灰は株式引受け、首脳部人選、或は投資會社とするか事業會社とするか等々の問題で行動がつかぬ、あることは周知の通りだ。が、最近ではドウヤラ折れかけつき、急速に創立の運びとなる模様である。これに對して淺野社が指導的役割を果すことは云ふ迄もない。それに廣東の西村廠が淺野の經營に委ねられる模様である。從來消極的だつた當社も漸く積極化せざるを得なくなつた。

**【前期成績】** 當社の昨々下期成績は意外に良好だつた。内地出荷が減少したのは當然だが、對滿、對支輸出が増加したのと、スレート益が増加したからだ。従つて償却を十萬圓増し、配當を据置いた。

**【今期も不變】** 今期も前期同様の成績が期待される。當社自體の内地出荷は前期の五分減位だが、滿洲出荷は年度初から八月迄十萬七千瓩を豫定される。夫に日本社からの能力譲渡もあり、出荷は若干増加を見よう。然し今期は高値期の原料品を使ふから利益は増さぬ。

【セメント事業】

# 小野田セメント製造株式会社

(本社) 山口縣厚狹郡小野田町六二七六 (電小野田一一一)  
(出張所) 東京市京橋區銀座西三丁目建築會館内 (電京橋三九七)

**【願調】** 十三年下期は三百二十二萬六千圓の利益を計上、利益率一割九分六厘だ。昨年七月末、大分、太平兩者を合併した關係上、當期の収益状況を過去のそれと比較することは當を得ないが、唯だ右の利益率で一割配當を行つたのは、従前に比し稍や見劣りのする利益處分であつた。けれども今事變の諸影響は當期も依然續いて居たのだから、此の點を考慮すれば右の業績は寧ろ上乘であつたと云ひ得よう。

**【強味】** 一體、當社は朝鮮、關東州、及び滿洲に有力な工場を持つて居る。然るに朝鮮に於ては鐵道、電力、鑛業、化學工業等時局關係事業の活況でセメントの出荷は頗る増進を見て居り、滿洲では五ヶ年計畫の進捗と共に愈々旺盛な需要が喚起されつゝある。當社の別働隊—外地工場—がかうして好影響に恵まれれば、これが延びて親會社たる當社の収益増を齎すこととなるのである。この點は當社の最大の強味と云ひ得よう。

**【配當安泰】** かうした情勢は今後も持續されようから、今期も願調に推移するものと考へられる。靜くとも前期並の業績は充分期待してよい。従つて一割配當も引續き維持される見込だ。現行配當は當面不動と見てよからう。

【セメント事業】

設立	明治十四年五月
決算期	五月、十一月
事業	セメント製造販賣
資本	公稱一〇〇,〇〇〇 (拂込) 五五,〇〇〇
株数	新(〇〇〇) 六(〇〇〇) 〇(〇〇〇)

重役	社長 淺野一郎
専務	金子喜代太 取締役 藤井 廣藏
常務	淺野 茂郎 藤山 光藏
取締役	白石元治郎 監査 安田善五郎
	淺野 良三 尾高 豊作
	田中 芳郎 尾高 豊武之助
株主	總数 (〇) 一六,〇〇〇 (〇)
	大株主 (〇) 一六,〇〇〇 (〇)

事業	東京、西多摩、門司、北海、長崎、大分、香春、川崎、月産能力 〇〇〇,〇〇〇 (〇)
生産	高(〇) 〇(〇) 〇(〇) 〇(〇)
出荷	高(〇) 〇(〇) 〇(〇) 〇(〇)
契約	高(〇) 〇(〇) 〇(〇) 〇(〇)
内債	高(〇) 〇(〇) 〇(〇) 〇(〇)
外債	高(〇) 〇(〇) 〇(〇) 〇(〇)

資産負債	十二月	六月	三月
株主資本	五五,〇〇〇	五五,〇〇〇	五五,〇〇〇
積立金	〇	〇	〇
外部負債	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
社債	〇	〇	〇

用途	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
投資	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
流動	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
現金	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
支入	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
支出	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)

前年比	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
年率	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
利率	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
時價	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
名義書換	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)

設立	明治十四年五月
決算期	五月、十一月
事業	セメント製造販賣
資本	公稱一〇〇,〇〇〇 (拂込) 五五,〇〇〇
株数	新(〇〇〇) 六(〇〇〇) 〇(〇〇〇)

重役	社長 淺野一郎
専務	朝野 宗三 取締役 白根 善一
常務	河内 通新 監査 山根 鐵藏
取締役	田中 清太郎 江本 易太
	赤羽 克己 島津 平一
株主	總数 (〇) 一六,〇〇〇 (〇)
	大株主 (〇) 一六,〇〇〇 (〇)

事業	東京、西多摩、門司、北海、長崎、大分、香春、川崎、月産能力 〇〇〇,〇〇〇 (〇)
生産	高(〇) 〇(〇) 〇(〇) 〇(〇)
出荷	高(〇) 〇(〇) 〇(〇) 〇(〇)
契約	高(〇) 〇(〇) 〇(〇) 〇(〇)
内債	高(〇) 〇(〇) 〇(〇) 〇(〇)
外債	高(〇) 〇(〇) 〇(〇) 〇(〇)

資産負債	十二月	六月	三月
株主資本	五五,〇〇〇	五五,〇〇〇	五五,〇〇〇
積立金	〇	〇	〇
外部負債	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
社債	〇	〇	〇

用途	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
投資	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
流動	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
現金	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
支入	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
支出	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)

前年比	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
年率	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
利率	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
時價	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)
名義書換	高(〇) 〇(〇) 〇(〇)

【セメント事業】

### 磐城セメント株式会社

(本社) 東京市麹町区丸の内丸ビル内 (電丸ノ内三三〇一六)  
(出張所) 青森縣青森市古川町一七

【「製造セメント創立」】 當社の對支進出が極めて敏活に行はれたことは周知の通りだ。北支に於ては致致水産、中支に於ては中國水産の經營權を握つたのである。處が北支の致致は目下問題になつてゐる華北洋灰の傘下に吸収される模様だ。が、當社は蒙羅に於いて新會社を創立することゝなつた。資本金二百萬圓、蒙羅銀行と折半出資である。獨逸から新式機械を輸入する。が差し當つては年産五萬圓程度の生産でこと足りよう。

【「昨下期」】 昨下期成績は矢張り上期より低下した。總利益百七萬六千圓で、五萬一千圓の減少である。この原因が原價高と出荷減にあることは云ふ迄もない。出荷高は普通セメント十七萬一千圓、混合セメント一萬三千圓で、合計十八萬三千圓に過ぎなかつたからだ。前年同期より一割の減少だつた。

【「今期成績」】 今期は季節的關係から出荷減は否まれない。二月迄の三ヶ月間で四萬八千圓、三月以降九萬七千圓として、合計十四萬五千圓だ。尤もセメント會社の通例として下期と平均決算をするから、恐らく前期より若干の減益に止まらう。それに子會社富國セメントの初配が間近に迫つてゐる。五分とすれば半期六萬五千圓入つて来る。八分配當は繼續出來よう。

【設立】 明治四十年十一月

【決算期】 五月、十一月  
【事業】 セメント製造販賣、海産物、建築資材、カーバイド製造販賣  
【資本金】 公稱 2,000,000 拂込 2,250,000  
【株数】 新 100,000 旧 125,000

【重役】 社長 岩崎清七 常務 山田 肇 岩崎清一郎 取締役 根津嘉一郎 岡野利兵衛 吉水仁藏 安部政太郎 南條一長 瀧菊次郎 小室萬五郎 佐藤照治 木村清治 泉山岩太郎 平林三郎 相模 大塚新太郎  
【株主数】 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上  
【大株主】 磐城證券、心〇 日本鐵兵三三〇 岩崎清七商店、心〇 富國鐵兵一七〇 赤司初太郎〇〇〇 太平生命九〇〇 北村 民也六六〇 水野 秀雄六六〇

【事業規模】 工場所在地 四倉、海、東京 月産能力 交、〇〇〇 充、〇〇〇 出 荷 高 (〇) 二、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 新 契 約 (〇) 三、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 内 地 (〇) 三、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 契 約 内 地 (〇) 三、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 在 庫 高 (〇) 三、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇  
【投資會社】 七尾セメント、富山セメント、富山セメント、富山セメント、富山セメント  
【資本運動】 十一年九月一〇日 富國地賣決定第一四二三四五拂込徴收

【資産負債】 十一年 五十二年 十三年

株主資本 2,250,000 2,250,000 2,250,000  
積立金 〇 〇 〇  
外部負債 〇 〇 〇  
借入金 〇 〇 〇  
使用總資本 2,250,000 2,250,000 2,250,000  
固定資産 〇 〇 〇  
流動資産 〇 〇 〇  
現金預金 〇 〇 〇  
【收支勘定】 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上  
消却年率 10% 10% 10% 10%  
【業績】 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上  
利 潤 〇 〇 〇 〇  
配 當 〇 〇 〇 〇  
【時價】 新 五 五 五 五  
【名義書換】 十 十 十 十

【資産負債】 十一年 五十二年 十三年  
株主資本 2,250,000 2,250,000 2,250,000  
積立金 〇 〇 〇  
外部負債 〇 〇 〇  
借入金 〇 〇 〇  
使用總資本 2,250,000 2,250,000 2,250,000  
固定資産 〇 〇 〇  
流動資産 〇 〇 〇  
現金預金 〇 〇 〇  
【收支勘定】 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上  
消却年率 10% 10% 10% 10%  
【業績】 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上  
利 潤 〇 〇 〇 〇  
配 當 〇 〇 〇 〇  
【時價】 新 五 五 五 五  
【名義書換】 十 十 十 十

【セメント事業】

### 秩父セメント株式会社

(本社) 東京市麹町区丸の内日本工業俱樂部内 (電丸ノ内二二五二七)

【「回轉窯製鐵」】 不況期の洋灰業界救済のために官民一體となつて、回轉窯による製鐵法を考究中であつた。が、何分技術的困難が克服されず、まだ試験期を脱しない。然し、大體の見透しはつき五月頃から本格的に運轉する。そこで商工省は重要産業統制法に基き當社と淺野、瀧業の三社にこの企業化を許可した。企業化成功の暁にはこの三社は原料手當に於て優先權が得られるのと、後續會社から言はず傳授料と稱すべきものが得られるであらう。

【「前期成績」】 昨下期成績は上期と全く變らなかつた。然し從來半期五十萬圓づゝ行つた債却を三十萬圓に減少し、その代り二十五萬圓の研究積立金を行つた。主として回轉窯製鐵研究のためだ。この期に於ける當社の出荷高は普通セメント十二萬三千圓、混合セメント四萬四千圓、合計十六萬七千圓で、前年同期から見れば著減してゐる。然しスレート益が増加したこと、出荷地域が關東中心のため賣價がよかつたので、右の成績が得られたのだ。

【「今期も夏好」】 今期出荷高は前期より減少する。十六萬圓程度だらう。スレートも原料難で出荷は減る。が兩者共賣價は良い上、餘裕含みの當社だから恐らく前期程度の決算とならう。配當は据置だ。それに北海道の石綿山を試掘中で之も來々期邊りから寄與しよう。

【設立】 大正十二年一月

【決算期】 五月、十一月  
【事業】 セメント製造販賣  
【資本金】 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000  
【株数】 新 100,000 旧 100,000

【重役】 社長 恒平 取締役 小柳 六郎 大友 幸助 監査 鈴木 勝蔵 常務 諸井 實一 相模 得男 取 締 深谷辰太郎 相模 大塚新太郎 淺野總一郎 後續會社 三輪兵衛 三輪兵衛  
【株主数】 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下  
【大株主】 帝國生命三〇〇〇 諸井恒平二〇〇〇 第一生命二〇〇〇 秩父鐵道五〇〇〇 有恒興業一〇〇〇 三輪洋行九〇〇 日本興業一〇〇〇 大日本麥酒五〇〇 大友 幸助五〇〇 藤澤 同興五〇〇

【事業規模】 工場所在地 秩父町 月産能力(〇) 七、〇〇〇 七、〇〇〇 七、〇〇〇 出 荷 高 (〇) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 内 地 (〇) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 新 契 約 (〇) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 内 地 (〇) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 契 約 内 地 (〇) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 在 庫 高 (〇) 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇  
【投資會社】 秩父鐵道、大同セメント

【資産負債】 十一年 五十二年 十三年

株主資本 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
積立金 〇 〇 〇  
外部負債 〇 〇 〇  
借入金 〇 〇 〇  
使用總資本 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
固定資産 〇 〇 〇  
流動資産 〇 〇 〇  
現金預金 〇 〇 〇  
【收支勘定】 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上  
消却年率 10% 10% 10% 10%  
【業績】 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上  
利 潤 〇 〇 〇 〇  
配 當 〇 〇 〇 〇  
【時價】 新 五 五 五 五  
【名義書換】 十 十 十 十

【資産負債】 十一年 五十二年 十三年  
株主資本 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
積立金 〇 〇 〇  
外部負債 〇 〇 〇  
借入金 〇 〇 〇  
使用總資本 1,000,000 1,000,000 1,000,000  
固定資産 〇 〇 〇  
流動資産 〇 〇 〇  
現金預金 〇 〇 〇  
【收支勘定】 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上  
消却年率 10% 10% 10% 10%  
【業績】 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上  
利 潤 〇 〇 〇 〇  
配 當 〇 〇 〇 〇  
【時價】 新 五 五 五 五  
【名義書換】 十 十 十 十



### 大阪窯業セメント株式会社

(本社) 大阪市北区堂島濱通二丁目一四(電北二〇二二)  
(出張所) 東京市神田區神保町一丁目(電神田三三三三)

【製鉄に轉換】セメント休轉廠の製鉄轉用論が擡頭すると共に、當社は早速これを採用。製法はパッセー法で鐵鑪(當社は硫化鐵滓)石灰石及び還元灰を廻轉鑪で燒成して鐵鑪を得、その際副産物としてセメントが出来る方法だ。目下第一基運轉中で、之は日産百二十題の製鉄能力を備へてゐる。これで味を占めた當社は今回更に一基を轉用することゝなつた。製鉄能力は日産百五十題、三月末完成豫定だ。かうして製造された鉄鑪の採算は今のところ明確に算盤を打てぬが、引き合はぬ様なきは萬々ない。

【餘熱利用】ところで此の様に休轉廠を動かして製鉄を行ふことになると、その際生ずる廢瓦斯の餘熱の利用方法を考へねば不經濟だが、此の爲め當社は發電設備を増設する一方電氣爐を増してアルミナの増産を圖り、更に合金鐵の生産を行ふ意圖だ。擴張資金は、廻轉廠の改良費と共に約五十萬圓、これは手許資金で支辨される。

【今期が峠】此の様に當社は有望な新規事業に着手しつゝあるから將來に楽しみが持てる。然し今上期はまだ過渡期のこととしてこれからの収益は期待されぬ。一方セメント界も餘り良くないのだから業績の好轉は期し難い。然し今期を底として漸次向上が期待されるのだから、現配當は依然續行されよう。

【セメント事業】

### 日本セメント株式会社

(本社) 東京市神田區丸の内海上ビル新館(電丸の内二〇二四)

【配當据置】當社は昨年中一分づゝ二回の減配を行ひ現在五分配當に轉落した。工場所在地が八代、佐伯の如く九州地方にあるため事業の影響を二重に蒙つてゐるからだ。言ふ迄もなく出荷減と船賃高である。今期もこの環境裡にあつては五分の低配に甘んじなければならぬ。

【成績不牙】今期出荷高は期初豫想通り内地向九萬題、輸出向一萬二千題、合計十萬二千題に過ぎぬ見込みだ。尤もこの外渡野社への能力譲渡が二萬二千五百題ある。内地出荷を總當り三圓三十錢の利益と見、能力譲渡益を四圓と見れば、兩者で三十八萬七千圓だ。これにインゴット益四萬圓、雜收入を見込めば合計四十五萬七千圓となる。前期に比して四千圓の減益だ。然し、この外如何に利益は薄いと云つても輸出益が加はるから、大體前期程度の利益となる筈である。

【新事業進捗】當社の新事業は、電氣製鋼と、竹之追炭鑛の採掘だ。製鋼は、日産能力三百六十題だが、現在は二百五十題程度にしか働いてゐない。然し職工の熟練につれて漸次増産されよう。炭鑛はボーリングを續けてゐるが、來期末頃には採炭が開始される。埋藏量が少いので月産千題程度のものだが、兎に角一應の好材料だ。

【セメント事業】

【設立】	昭和元年十二月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	セメント製造
【資本金】	公稱 1,000,000 株 100,000
【株主数】	新(株) 1,000 株 100,000
【重役】	社長 渡田平藏 取締役 橋本太郎 専務 白井善三郎 監査 毛戸勝元 取締役 渡野小太郎 有田邦敏 水井清七 山口次郎
【株主名】	大株主(名) 三三三 二、二、二
【大株主】	大株主 渡田平藏 合資七、〇〇〇 渡野小太郎 六、〇〇〇 渡田 平藏 〇、〇〇〇 住友生命 五、〇〇〇 谷口 政勝 五、〇〇〇 小西 隆太 三、〇〇〇 吉水 孝一 三、〇〇〇 坂口 托平 三、〇〇〇 帝國生命 三、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 大阪府恩加島
【事業成績】	十二年下 十五年下 月産能力(題) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 生産高(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 出荷高(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 内地(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 新契約(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 内地(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 契約地(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 在岸高(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
【投資会社】	大東證券、土佐洋灰工業、大同セメント
【資本異動】	十二年七月三番拂込徴収

【設立】	明治二十一年一月
【決算期】	三月、九月
【事業】	セメント製造
【資本金】	公稱 1,000,000 株 100,000
【株主数】	新(株) 1,000 株 100,000
【重役】	社長 渡野總一郎 取締役 長崎 英造 専務 渡野良三 中川 博 金子喜代太 監査 田中榮八郎 常務 藤川 政雄
【株主名】	大株主(名) 三三三 二、二、二
【大株主】	大株主 渡野總一郎 合資七、〇〇〇 富國 渡野良三 六、〇〇〇 山口利一郎 〇、〇〇〇 太平生 〇、〇〇〇 渡野總一郎 〇、〇〇〇 横田 信助 〇、〇〇〇 原 事 〇、〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 八代、佐伯
【事業成績】	十二年下 十五年下 月産能力(題) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 生産高(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 出荷高(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 内地(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 新契約(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 内地(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 契約地(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇 在岸高(一) 三、〇〇〇 六、〇〇〇 六、〇〇〇
【投資会社】	渡野セメントの子会社
【投資会社】	東亞セメント、大同セメント

【資産負債】	十二年 十三年 十四年 十五年
株主資本	八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇 八、〇〇〇
外部負債	三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇 三、〇〇〇
使用總資本	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動資産	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
流動負債	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
現金預金	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
支出入	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
消却年率	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
利益	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇
株主名	渡野總一郎 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 渡野良三 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 金子喜代太 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 藤川 政雄 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇 〇、〇〇〇
【時價】	新三〇 五分七厘
【名義書換】	十錢【新券交付】三十錢

【セメント事業】

### 宇部セメント製造株式會社

(本社) 山口縣宇部市大字小串一九七八(電字部八〇)  
(出張所) 東京市麹町區丸之内三ノ二二二(電丸之内元五)

【凡例】昨年下期の計上利益は八十一萬一千圓、利益率一割五分四厘に當る。前年同期と比較するに、利益金で十二萬六千圓を減じ、利益率で二分四厘を低下した。業績の悪化したのは時局關係に基く出荷の不振、採算の不良に基くが、配當は前年同期に比し一分減の八分なのだから、利益處分は寧ろ樂であつた。  
【八分不配】今期も右の悪條件が必ずしも解消してゐないから、業績はさまで向上しない。利益は先づ前期を多く出まい。が、そうとすれば現行配當は充分維持出来る。當社の八分配當は當面不動と見て差支へあるまい。尙ほ當社の子會社朝鮮セメントは鮮内需要の増大に惠まれて向上を期待される。これは最近特殊鋼の製造にも手を染め出した模様だ。

【設立】	大正十二年九月
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株数】	舊(株) 100,000 新(株) 100,000
【重役】	社長 渡邊 剛二 取締役 依田 明 専務 藤本 善雄 中安 潤一 取締役 高良 宗七 監査 庄 晋太郎 岡 和 名和田 正 山川庸之助 名和田哲郎
【業績】	十二年下 利益 1,700,000 配當率 17.0% 利益金 287,000 十三年上 利益 1,800,000 配當率 18.0% 利益金 324,000 十三年下 利益 1,800,000 配當率 18.0% 利益金 324,000 十四年上 利益 1,800,000 配當率 18.0% 利益金 324,000 十四年下 利益 1,800,000 配當率 18.0% 利益金 324,000
【株價】	高値 100.00 安値 80.00
【時價】	新 100.00 舊 80.00
【利息】	六分四厘

### 豊國セメント株式會社

(本社) 東京市麹町丸之内海上ビル(電丸之内一五三)

【出荷夏好】當地の今期出荷状況は極めて順調である。期初以來一月までの三月間で内地五万一千噸、滿洲九千噸、輸出一萬三千噸で、合計七萬三千噸に達してゐる。前年同期の六萬四千噸に比して九千噸の増加である。この理由は昨年はなかつた滿洲輸出が復活したからである。内地出荷だけでは九千噸の減少である。従つて期末總出荷は恐らく十五萬噸近くならう。前年同期より増加する。  
【成績不變】右の如く總出荷は増加するが利益の薄い滿洲向及び輸出向の増加だから、利益は殆ど前期と變るまい。配當收入及び雑收入を加へて五十萬圓乃至五十一、二萬圓とならうか。  
【六分据置】従つて配當は現行六分を維持出来る。それに一千五百キロの發電設備の増設がこの四月に完成する。新事業計畫中。

【設立】	大正七年十二月
【資本金】	公稱 4,000,000 拂込 4,000,000
【株数】	舊(株) 100,000 新(株) 100,000
【重役】	社長 村岡 末一 取締役 下山 義雄 常務 岩崎清一郎 中野 友雄 取締役 木下 剛 大島小太郎 坂本 信義 山田 肇 清瀬規矩雄 福澤大四郎 三太郎 相談 岩崎 清七
【業績】	十二年下 利益 1,800,000 配當率 18.0% 利益金 324,000 十三年上 利益 1,800,000 配當率 18.0% 利益金 324,000 十三年下 利益 1,800,000 配當率 18.0% 利益金 324,000 十四年上 利益 1,800,000 配當率 18.0% 利益金 324,000 十四年下 利益 1,800,000 配當率 18.0% 利益金 324,000
【株價】	高値 100.00 安値 80.00
【時價】	新 100.00 舊 80.00
【利息】	六分七厘

### 土佐セメント株式會社

(本社) 高知縣高知市桑東町二五(電三〇一三)  
(出張所) 東京市目黒區二ノ二九九〇(電高輪五〇)

【前期減益】去る十一月締切の昨年下期は二十七萬圓の利益を計上した。利益率一割四分八厘だ。前年同期と比較して、二萬四千圓の減益、利益率で一分三厘の低下を示す。業績低下の理由は時局關係に基く出荷の停滞、採算の不良に依るものだ。然し、四分配當に事缺かぬことは云ふまでもない。  
【今期凡調か】今期も依然として凡調と云ふ他ない。前記の悪條件が餘り訂正されてゐないからだ。販賣高は精々八萬圓止りではないかと思ふ。然し、これだけの販賣高を見込めれば略ぼ前期並の成績を挙げ得るから、四分配當は充分維持される。これを引き下げる様なことは今後ともあるまい。當面業績は不牙ながら、横這ひの状況を續けるであらう。

【設立】	明治四十一年八月
【資本金】	公稱 4,000,000 拂込 4,000,000
【株数】	舊(株) 100,000 新(株) 100,000
【重役】	社長 浅野總一郎 取締役 金子喜代太 常務 下元虎之助 監査 井上直太郎 松村 正治 大西 正幹 取捨 辻 琢磨
【業績】	十二年下 利益 1,200,000 配當率 12.0% 利益金 144,000 十三年上 利益 1,200,000 配當率 12.0% 利益金 144,000 十三年下 利益 1,200,000 配當率 12.0% 利益金 144,000 十四年上 利益 1,200,000 配當率 12.0% 利益金 144,000 十四年下 利益 1,200,000 配當率 12.0% 利益金 144,000
【株價】	高値 100.00 安値 80.00
【時價】	新 100.00 舊 80.00
【利息】	六分五厘

### 七尾セメント株式會社

(本社) 東京市麹町丸之内九ビル(電丸之内元三二)  
(支社) 石川縣金澤市白銀町一四

【ニツケル事業へ進出】同轉業を使用してセメント各社は製鐵事業に乗り出すことゝなつたが、當社は同じく休轉業を利用してニツケル事業に進出する豫定だ。即ち森系の大江山ニツケル及び日本火工と提携して大江山の採掘した珪ニツケルを同轉業に入れて焙燒し、純分四一五%に高め、これを日本火工で精鍊しようとするのだ。この利益は相當大に上る。所要資金は約七十萬圓であるが、これは昭和鐵業乃至森氏個人から借り入れる筈。  
【成績順調】今期成績は前期と大差ない模様だ。即ち出荷高は滿洲向をも併せて六萬五千噸位だが、投資社の敦賀セメント、滿洲セメント等の増配で雑收入が増しそれに前期の保留益が加はるからだ。ニツケル事業は七月頃操業開始と云ふから總て増配が問題化さう。

【設立】	大正十五年十一月
【資本金】	公稱 4,000,000 拂込 4,000,000
【株数】	舊(株) 100,000 新(株) 100,000
【重役】	社長 岩崎 清七 監査 岡野利兵衛 取捨 藤山 元一 石黒 傳六 山田 肇 生明市太郎
【業績】	十二年下 利益 1,200,000 配當率 12.0% 利益金 144,000 十三年上 利益 1,200,000 配當率 12.0% 利益金 144,000 十三年下 利益 1,200,000 配當率 12.0% 利益金 144,000 十四年上 利益 1,200,000 配當率 12.0% 利益金 144,000 十四年下 利益 1,200,000 配當率 12.0% 利益金 144,000
【株價】	高値 100.00 安値 80.00
【時價】	新 100.00 舊 80.00
【利息】	八分一厘

【セメント事業】

【セメント事業】

### 東洋セメント工業株式会社

(本社) 大阪市北區堂島濱通一ノ五(電北三空五)  
(事務所) 東京市麹町區丸ノ内三番二一號館(電丸九九)

【業績低下】 昨下期の計上利益は三十萬四千圓、利益率は二割七厘に當る。前年同期に比すれば利益金に於て三萬五千圓を減じ、利益率は二分四厘を低下した。然し、右の通り利益率は二割餘を維持してゐるのだから、一割配當は依然樂に据置けたわけだ。

【配當安泰】 時局關係から、セメント界は依然として低調である。今期も此の影響を免れぬわけだが、前期尖に完成したスレート設備が期を通じて運轉するので、此の方面からの収益も若干見込める。従つて今期も大體前期並の業績を挙げ得ると思はれる。そうとすれば現行配當は引續き踏襲し得る筋合だ。尚ほ當社は北支方面に於けるスレートの需要増を見越して、天津にスレート工場を建設中だ。これは近々完成する筈で將來業績に寄與する所少くなくからう。

【設立】	昭和九年五月
【資本金】	公稱 五,000,000 拂込 二,925,000
【株数】	舊(五〇〇) 五,000 新(三三三) 五,000
【重役】	會長 上田 幸 社長 阿部美樹志 取締役 山口謙四郎 取締役 南喜三郎 監査 井上 周 津和 三郎 井田喜右衛門 川上 高帆 溝口軍太士
【業績】	十二年上 利益 三〇〇,〇〇〇 配當率 一・〇〇 十二年下 利益 二〇〇,〇〇〇 配當率 一・〇〇 十三年上 利益 二〇〇,〇〇〇 配當率 一・〇〇 十三年下 利益 二〇〇,〇〇〇 配當率 一・〇〇
【株價】	高値 安値 新株 安値 十三年 六五 三五 二二 二七 十四年 六五 三五 二二 二七
【豫想配當】	十四年六月份 一割 六分八厘
【時價】	新株 六分八厘
【利息】	七分八厘

### 三河セメント株式会社

(本社) 名古屋市中區廣小路通り二朝日ビル(電本局四三二)  
(事務所) 東京市麹町區丸ノ内三丁目(電丸ノ内三六五)

【前期成績低下】 前期の利益は十萬五千圓で大體前々期と變らないが、拂込資本が増加したので利益率は一割五分六厘と若干低下した。セメントの賣上高が約一割減だから、子會社の成績が寄與しなかつたら、減益となつたであらう。

【子會社好調】 子會社中、南海炭礦や南海汽船は依然好調だ。立山礦業は一割二分の處女配當を行つた。軍需景氣の波に乗つて南海炭礦や立山礦業は今期更に増益を期待され、出荷減で減配を懸念されて居る東海セメントも前期まで配當を据置いて居るのだから、子會社は何れも悪くない。今後新會社に寄與する所が大きからう。

【設立】	明治三十一年四月
【資本金】	公稱 二,000,000 拂込 一,450,000
【株数】	舊(五〇〇) 五,000 新(三三三) 五,000
【重役】	社長 山内 卓郎 取締役 今井清之助 取締役 山田 近 監査 矢留 文雄 後藤 大助 山中 政市
【業績】	十二年上 利益 一〇〇,〇〇〇 配當率 一・〇〇 十二年下 利益 一〇〇,〇〇〇 配當率 一・〇〇 十三年上 利益 一〇〇,〇〇〇 配當率 一・〇〇 十三年下 利益 一〇〇,〇〇〇 配當率 一・〇〇
【株價】	高値 安値 十三年 五〇 二五 二〇 二五 十四年 五〇 二五 二〇 二五
【豫想配當】	十四年五月份 八分
【時價】	新株 八分
【利息】	八分三厘

【セメント事業】

### 滿洲セメント株式會社

(本社) 滿洲國滿州市大和通り三〇

【一分増収】 昨年末決算に於て當社の増配は期待されてゐたが、一分か二分か疑問とされてゐた。が結局落ちついたのは一分増の六分配當だつた。昨年五月滿洲國法人に改組され、事業會社となつて最初の決算である。出荷高は八萬八千圓で思つたより少なかつたが、市價が無いもの高で好調だつたから四十萬四千圓の利益だつた。利益率は一割六分一厘で償却も、充分された。

【二倍増資か】 當社は目下の品不足に應ずる爲増産計畫中だ。前期末より主要機械の据付に着手してゐるから遅くもこの六月末には運轉開始の段取りである。月産能力一萬五千圓だが發注が早かつたから三百三十萬圓は必要である。滿洲興銀から三百五十萬圓借入れたから、増資は明年末であらう。

【設立】	昭和九年二月
【資本金】	公稱 三,000,000 拂込 三,000,000
【株数】	舊(五〇〇) 五,000 新(三三三) 五,000
【重役】	社長 岩崎 清七 取締役 林 鶴堂 取締役 水橋剛一郎 劉 海軒 取締役 金子真代大 史 裕泰 瓜生喜三郎 吳 裕泰 山田 肇 監査 石島七三郎 淺野 良三 伊藤 精七 方 愷 松 下 象 毅 張 成 箕 范 象 毅
【業績】	十二年上 利益 一,000,000 配當率 一・〇〇 十二年下 利益 一,000,000 配當率 一・〇〇 十三年上 利益 一,000,000 配當率 一・〇〇 十三年下 利益 一,000,000 配當率 一・〇〇
【株價】	高値 安値 十三年 一〇〇 五〇 四〇 五〇 十四年 一〇〇 五〇 四〇 五〇
【豫想配當】	十四年一月份 七分
【時價】	新株 八分
【利息】	八分

### 哈爾濱セメント株式會社

(本社) 滿洲國哈爾濱市道街二三號  
(出所) 東京市日本橋區本町三ノ七(電日本橋四六)

【一分増配】 昨下期の好調に乗じて當社は一分を増配し四分配當をつけた。決算期變更により一ヶ月短縮されたにも拘らず、賣値が良好だつたからだ。出荷高は當局者が明言を避けてゐるからハッキリしないが、昨年中六十七萬圓とし、この六割が下期に出た筈だ。

【今期は据置】 引續き今期も好調である。昨年十月五萬圓の擴張を行つて年産十五萬圓となつたが、一部機械の取換へが遅れてゐる爲十一二萬圓の生産に止まらう。従つてこの四割の四萬六、七千圓が本年上期出荷となる。越當り差益を三圓半と見れば今期總益は十六萬五千圓である。昨年十一月二十二日新株拂込總額百萬圓を徴収したから配當金は六萬圓だ。今期配當は据置の見込。

【設立】	昭和九年八月
【資本金】	公稱 二,000,000 拂込 二,000,000
【株数】	舊(五〇〇) 五,000 新(三三三) 五,000
【重役】	代表専務 玉置 次郎 専務 三 吾朗 取締役 上田 源三郎 常務 北林 惣吉 國吉 喜一 取締役 註 光 卜部 卓江 角田 正喬 監査 加藤 明 高橋 正彦 原 逸 郎
【業績】	十二年上 利益 一,000,000 配當率 一・〇〇 十二年下 利益 一,000,000 配當率 一・〇〇 十三年上 利益 一,000,000 配當率 一・〇〇 十三年下 利益 一,000,000 配當率 一・〇〇
【株價】	高値 安値 十三年 五〇 二五 二〇 二五 十四年 五〇 二五 二〇 二五
【豫想配當】	十四年六月份 五分
【時價】	新株 七分五厘
【利息】	七分五厘



〔煉瓦事業〕

### 品川白煉瓦株式會社

(本社) 東京市豊町區丸ノ内二丁目二番地 (電九ノ内三茶ノ)  
(支店) 大阪市北區中ノ島三丁目三番地

【岡山第三工場】豫て建設中であつた岡山第三工場は昨年末完成し、本年初から本運轉に入つた。年産能力は十三万題と言ふから、第一、第二兩工場の合計能力が十二万題なるに對比すれば、岡山工場は第三工場完成のため其の能力を倍増した譯である。尤も今期の生産高が此の能力増に比例して増加するとは出来な。何しろ一月からの運轉開始だから、充分な能力を發揮出来な。フルに動したとしても三ヶ月しか今期には寄與しない。

【三月期業績】三月末を以て締切られる當社の上期業績は勿論よい。それは、業界が引續き好況に恵まれてゐるからだ。其の上前述の如く岡山第三工場の運轉開始に依つて生産高は増加する。増益は必至だ。昨年九月初の賣上高は四百三十四万七千圓であつたが、今三月期は五百二十万圓程度には達しよう。利益割合を前期と同様と見ると六十七、八万圓位の利益は出よう。利益率は平均拂込金の増加の一割八、九分程度にしかならぬが一割配當措置は可能だ。

【來期以降見好】來期は利益金は一層増加する。岡山第三工場の増産が全期を通じて寄與するからだ。恐らく賣上高は七百五十万圓程度には達し、利益は九十七、八万圓に上るものと豫想される。北支進出も考慮中で、今後には興味が多。

### 大阪窯業株式會社

(本社) 大阪市北區堂島濱通二ノ一四 (電北二〇一)

【耐火で潤ふ】當社の主要生産部門は耐火煉瓦と赤煉瓦だが、生産金額から見れば前者の比重が大きい。耐火煉瓦は高熱の處理に不可欠のものだから、今日の様に軍需工業が活況を呈して居る時にはその需要が増大すること必然だ。當社はかうした耐火煉瓦の需要増に恵まれて好調を續けて居る。

【好成績】昨年下半年は三十二万九千圓の利益を計上した。その前期に比し七万一千圓の増益だ。尤も利益率は二割九分九厘と一割七分の急低下を演じたが、これは増資の結果、平均拂込資本が一舉に倍増した關係に基く。が、此の程度の利益率低下は始めから予定されてゐたところで、別に驚く必要を認めない。それが三割に垂んとするところを見れば寧ろ好成績であつたと云ひ得よう。一割二分配當は無論不安なく維持出来た道理である。

【向上期待】今上期も依然好調裡に推移する見込である。販賣高は少くとも二百万圓は突破しよう。利益割合は約二割と云はれるが、手堅く一割五分と押へると、販賣益は三十万圓、これに雑益の約五万圓を加へた三十五万圓位の總益は裕に擧げ得ると思ふ。とすれば利益率は三割餘となるから、現配當は裕々握え置ける。業績の上より見る限り、當社の一割二分配當は當面不動だ。

〔煉瓦事業〕

【設立】	明治三十六年十二月
【決算期】	三月、九月
【事業】	耐火煉瓦、裝飾煉瓦、タイル、各種煉瓦、耐火材料等の製造販賣
【資本金】	公稱一〇〇,〇〇〇 拂込一七五,〇〇〇
【株数】	新(三)株 100,000 舊(四)株 75,000
【重役】	社長 青木 均一 取締役 馬場 忠俊 専務 藤田新三郎 監査 洲川 愛造 取締役 西村 直 白石 喜太郎 高津伊兵衛 橋本寛三
【株主数】	十三年上 十三年下 總数(名) 一,〇〇〇 九八
【大株主】	高津伊兵衛 〇,〇〇〇 雙島興業 〇,〇〇〇 青木 均一 一八,〇〇〇 日華生命 七,〇〇〇 藤田新三郎 七,〇〇〇 高津伊兵衛 六,〇〇〇 安田信託 六,〇〇〇 甲 成 會 社 〇,〇〇〇 西村 直 〇,〇〇〇 橋本 寛三 〇,〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 岡山第一工場 岡山縣和氣郡伊部町 岡山第二工場 岡山縣和氣郡伊部町 岡山第三工場 岡山縣和氣郡伊部町 岡山第四工場 岡山縣和氣郡伊部町 岡山第五工場 岡山縣和氣郡伊部町 岡山第六工場 岡山縣和氣郡伊部町 岡山第七工場 岡山縣和氣郡伊部町 岡山第八工場 岡山縣和氣郡伊部町 岡山第九工場 岡山縣和氣郡伊部町 岡山第十工場 岡山縣和氣郡伊部町
【資本異動】	十年十一月至萬圓増資第一回一 三圓拂込徴収十三年五月、十三年七月各 三圓拂込徴収八月末千圓圓を増資第一 回三圓拂込徴収
【資産負債】	九十二年 九十二年 九十二年 株主資本 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 積立金 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 外部負債 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 借入金等 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 使用総資本 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 固定資産 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 流動資産 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 現金預金 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇
【収支】	十三年上 十三年下 十三年上 収入 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 支出 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 利益 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇
【時價】	新(三) 七分 舊(四) 五分四厘
【名義書換】	十 十 十 【新券交付】 三十 三十 三十

【設立】	明治十九年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	各種煉瓦、タイル、セラミック
【資本金】	公稱一〇〇,〇〇〇 拂込一〇〇,〇〇〇
【株数】	新(三)株 100,000 舊(四)株 75,000
【重役】	社長 浅田 平蔵 取締役 磯野小次郎 専務 高野新治郎 監査 毛戸 勝元 取締役 山田 三郎 有田 邦敏 白井 三郎 山口 大郎
【株主数】	十三年上 十三年下 總数(名) 一,〇〇〇 九八
【大株主】	磯野小次郎 〇,〇〇〇 雙島興業 〇,〇〇〇 浅田 平蔵 一八,〇〇〇 日華生命 七,〇〇〇 高野新治郎 七,〇〇〇 高津伊兵衛 六,〇〇〇 安田信託 六,〇〇〇 甲 成 會 社 〇,〇〇〇 西村 直 〇,〇〇〇 橋本 寛三 〇,〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 向日町、平坂、東京 輪廻園 四基 トネル 二基 特殊煉瓦 一七基 煉成 六基 化粧煉瓦 一七基 其他 三基 赤煉瓦 十三年上 十三年下 特殊煉瓦 一八,〇〇〇 一八,〇〇〇 化粧煉瓦 一八,〇〇〇 一八,〇〇〇 タイル 一八,〇〇〇 一八,〇〇〇
【資本異動】	十年十一月至萬圓増資第一回一 三圓拂込徴収十三年五月、十三年七月各 三圓拂込徴収八月末千圓圓を増資第一 回三圓拂込徴収
【資産負債】	九十二年 九十二年 九十二年 株主資本 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 積立金 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 外部負債 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 借入金等 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 使用総資本 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 固定資産 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 流動資産 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 現金預金 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇
【収支】	十三年上 十三年下 十三年上 収入 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 支出 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 利益 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇
【時價】	新(三) 七分 舊(四) 五分四厘
【名義書換】	十 十 十 【新券交付】 三十 三十 三十

### 川崎窯業株式会社

(本社) 神奈川県川崎市扇町六(電川崎二一三)

【昨年同期】 當社の昨年同期決算を見るに利益金は六十二萬二千圓を數へ、其の前期に比し六萬五千圓の増益に當る。然し利益率は平均拂込資本増加の結果、四割五厘から三割五分五厘に低下した。とは言へ一割二分配當措置は依然として樂だつた。利益の増加したのは川崎の特殊高級煉瓦工場が九月から生産を開始したからだ。

【増資期待】 建造中の第二トンネル工場は昨年末完成し、今年初から運轉してゐるが、當社は去る八月初から、滿洲國瓦房店附近傍に第二工場を建設中である。更に子會社日本耐火材料も、煉瓦工場建設中で、これ等の資金を賄ふ爲に最終拂込と増資が期待される。

【今期好調】 特殊高級煉瓦工場、第二トンネル工場の寄與で、四割近い利益率が期待され、一割二分配當は依然安泰。

【設立】	昭和五年六月	【業績】	利益率	配當率	利益倍率
【資本金】	公稱 1,000,000	十三年上	57.5	10.0	6.65
【株数】	株 10,000	十三年下	53.5	10.0	6.65
【重役】	新(株) 10,000	株 價(新) 株	安値		
社長	白石元治郎	取締役	高橋 安値		
専務	三浦 嘉一	取締役	高橋 安値		
常務	今泉 實治	取締役	高橋 安値		
取締役	松下 長久	監査	前田 利定		
取締役	間島 三夫	監査	香田 五郎		

### 名古屋製陶株式会社

(本社) 名古屋市東區東野町二ノ七八(電東二二五)

【無配繼續】 前期末決算では約六萬圓の損失を計上して無配を繼續して居る。何しろ對米輸出の多少が業績を左右するとも見られる當社にとつて、その不振は大きな打撃たるは言ふまでもない。今期に入つて米國の景氣も稍々見直してか、ポッポ新規注文も現れて来た様だが、業績に好影響を齎す程のものでもないから、今期も結局無配繼續の外はあるまい。

【鳴海工場に期待】 去る一月中央に鳴海工場のトンネル窯も火入式を行つて運轉を開始した。また隣接の耐火煉瓦工場も操業成績は好調である。輸出商の不活潑に拘らず耐火煉瓦の需要は旺盛だし、代用品製作の研究も着々實を結ぶ様だから、當面は兎に角、水い目でみれば決して悲觀すべきではない。

【設立】	大正六年八月	【業績】	利益率	配當率	利益倍率
【資本金】	公稱 1,000,000	十一年下	10.0	0.0	0.00
【株数】	株 10,000	十三年上	0.0	0.0	0.00
【重役】	新(株) 10,000	株 價(新) 株	安値		
社長	伊藤左衛門	監査	青木文治郎		
常務	上野野 孝	監査	鬼頭 幸七		
取締役	岡谷 惣助	監査			

### 東洋紡績株式会社

(本社) 大阪市北區堂島通二ノ八(電北二〇〇七)

【裕豐紡三倍増資】 當社の子會社裕豐は昨年十一月中旬一千万圓から三千萬圓に増資し直ちに第一回四分の一、五百萬圓の拂込を徴収去る一月末登記を了した。同社の業績は最近既に向上して昨年同期には二分増の一割配當をつけた。三倍増資をしても際立つた擴張をする譯もなく、又それは當面出来にくいのが、今のところ同社の全株式を所有してゐる當社の手許資金の活用の意味が強い。

【各方面へ進出】 この他、北支で東洋化学工業(資本金百萬圓)を設立して藥品製造を行ひ、滿洲で東洋タイヤ工業(資本金一千万圓、拂込五百萬圓)を設立してタイヤ製造に従事する等、いづれも手許資金活用の現れであるが東洋タイヤ工業と呼應して内地ではゴム工業會社の買収が相次ぎ、トヨタ自動車の増資に際して大々的な資本参加を行ふ等重工業方面への聯繫は漸次濃化してゐる。一方東洋染色を通して行はれてゐる綿布加工部門、特殊製品部門の擴充等も相當活潑だ。大阪機械製作との合併が噂されたが當面問題とはならぬ様だ。

【今期】 今期も現在のところ大體順調である。輸出品の利益は大して期待出来ぬが、たとへ相當の減益があつても配當は依然据置と見て差支ない。

【紡績事業】

【設立】	大正三年六月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	各種の織造工業及化学工業品の製造販賣	【資本金】	公稱 1,000,000
【株数】	株 10,000	【重役】	社長 庄司乙吉 専務 伊藤傳
【重役】	七 種田健藏 關桂三 取締役 谷口豊三	中山秀一 土屋喜太郎 作川謙太郎	深重保 川口正雄 監査 阿部彦太郎
【株主】	三井物産 1,000,000 日本生命 1,000,000	伊藤 博七 7,000 帝國生命 1,000,000	豊島 半七 3,000 瀨尾重兵衛 1,000,000
【事業】	事業規模 1,000,000 紡績機 1,000,000	【事業】	事業規模 1,000,000 紡績機 1,000,000
【生産高】	十三年上 1,000,000	【株主】	三井物産 1,000,000 日本生命 1,000,000
【平均番手】	1,000,000	【事業】	事業規模 1,000,000 紡績機 1,000,000
【株主】	三井物産 1,000,000 日本生命 1,000,000	【事業】	事業規模 1,000,000 紡績機 1,000,000
【投資會社】	裕豐紡績、東洋染色、大阪毛織	【投資會社】	裕豐紡績、東洋染色、大阪毛織
【資本異動】	十一年九月和泉紡績合併一億	【資本異動】	十一年九月和泉紡績合併一億
【負債】	十一年四月一五圓十月二五圓徴収	【負債】	十一年四月一五圓十月二五圓徴収

〔紡績事業〕

### 鐘淵紡績株式會社

〔本社〕 東京市向島區田町二ノ一六二一(電田田三三)  
〔營業所〕 神戸市林田區御崎町一丁目 (電兵庫 一三)

【昨下期】當社は去る十二月決算で一十二百八十六萬九千圓の利益金を計上した。同六下期に比し殆んど變化なしと言へるが、増資に基く拂込徴収によつて下期の平均拂込資本は六千四百五十二萬圓と約四百五十萬圓を増加したから、利益率は約三分四厘減の三割九分九厘となつた。固定資産償却には對上期五十萬圓増の四百五十萬圓を計上し、配當を五分減の二割とした。凡て定石通りだ。

【内地】内地工場關係では利益は相當あるが、何分生産高が全紡績部門の二五%内外だから大したことはない。輸出向も製品の信用から大きな赤字にはなるまいが、無論利益と名のつく程の利益は望まぬ方がよからう。結局大きな期待は生絲だ。生絲關係の投下資本は全纖維工業部門の一八%三で、紡績部門に次いで第二位だ。最近にない活況を呈してゐる生絲部門は恐らく今期の全利益の五〇%を占めるものと思はれる。

【外地】鐘淵創立によつて外地への發展は材料出盡しの状態だが、滿、鮮、支に亘る紡績設備は内地の夫れの四〇%に近く、その大部分が子會社上海製造絹絲の工場であると言へ大きな強味だ。平壤の人絹、ス・フ工場と共に相當好収益を収めよう。

【配當據置】特別な事情なき限り今期は二割據置の見込である。

【設立】 明治十九年十一月

【決算期】 六月、十二月

【事業】 紡績、絹紡、毛紡、生絲、更生絹絲、人絹、製織、加工、其他

【資本】 公稱 三〇,〇〇〇,〇〇〇 拂込 二〇,〇〇〇,〇〇〇

【株主】 〇名

【役員】 社長 津田信吾 常務 城戸季吉、三宅惣太、取崎 名取和作、中村康、丸山幸藏、平賀恒太郎、井上廣、賀集和三郎、野崎廣太、中上川三郎治、桑谷寛治

【大株主】 〇名

【事業規模】 綿織機 一六、〇〇〇 台、絹織機 一、〇〇〇 台、毛織機 一、〇〇〇 台、立機 一、〇〇〇 台、生絲(百斤) 一、〇〇〇 担、人絹(百斤) 一、〇〇〇 担

【投資會社】 上海製造絹絲、魯米那、和歌山、掃込徴収十三年十一月依額増資第一回 二圓五枚

【資産負債】

株主資本	三〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	三〇,〇〇〇,〇〇〇
積立金	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
社債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
借入金	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇

【時價】 新六八二 〔利息〕 六分七厘  
【名義書換】 十 〔新券交付〕 五十枚

〔紡績事業〕

### 大日本紡績株式會社

〔本社〕 兵庫縣尼崎市東本町一ノ五〇  
〔營業所〕 大阪市東區安土町二ノ三〇(電本町四〇一五)

【朝鮮工場完成近し】清津の人絹工場(日産二十萬)の完成は今期末か來期早々の豫定だ。内地の人絹會社が統制下に操業困難に陥つてゐるのに、統制から一應解放され、バルブ手當も大して困らぬ事情の下で運営される清津工場の強味は高く評價されてよい。これと共に京城の加工工場も前後して完成されるが、比較的統制の榮な朝鮮で人絹の一貫作業を行ふのは相當の強味だ。恐らく朝鮮のみで半期の利益は二百萬圓を下るまい。

【青島復興】内地休鍾を移轉して復興を急いだ青島工場も三月以降全運轉可能となつた。北支棉の割當で三割程度の操短は避けられなすが、上海で輸入した外棉を青島へ廻すことも不可能ではないからたいして困らぬ。政治情勢が悪化せぬ限り今期も亦可成りの利益を齎らして内地の減益を補ふし、直營工場の強味を發揮することとならう。天津の復興は中絶状態だが、上海、青島、朝鮮で、今後の配當金を賄ひ得るものと豫想して差支ない様だ。

【内地】内地工場關係の減益は相當だ。然し當社の強味は合理化が徹底してゐる點にある。三大紡の中でこの點最も優れてゐる。内容もよく配當も比較的高率でないから特別事情の起らない限り据置を續行して行くだらう。

【設立】 明治二十二年六月

【決算期】 五月、十一月

【事業】 補、毛、絹、人絹其他纖維類の紡績、製造、加工製、賣

【資本】 公稱 一〇,〇〇〇,〇〇〇 拂込 一〇,〇〇〇,〇〇〇

【株主】 〇名

【役員】 會長 菊池三三 社長 小寺源吉 常務 今村奇男、倉田敬三、田代重三、大島茂三、三村和義、取崎 松村壽成、本利功、助 黒田高三郎、松田元常、原田忠義、監査 伊藤篤助、岩田宗太郎、辰馬悦藏、竹村清太郎、寺田善吉

【大株主】 〇名

【事業規模】 帝國生命三、〇〇〇、〇〇〇、廣海三、〇〇〇、〇〇〇、田代重三三、〇〇〇、〇〇〇、日本生命六、〇〇〇、〇〇〇、堀池 三三、〇〇〇、〇〇〇

【投資會社】 上海製造絹絲、魯米那、和歌山、掃込徴収十三年十一月依額増資第一回 二圓五枚

【資産負債】

株主資本	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
積立金	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
社債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
借入金	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇	十二月	一〇,〇〇〇,〇〇〇

【時價】 新六八二 〔利息〕 六分七厘  
【名義書換】 十 〔新券交付〕 五十枚

【紡績事業】

### 富士瓦斯紡績株式會社

(本社) 東京市日本橋區本町二ノ一(電日本橋三三〇一)

【昨下期】 當社の昨下期決算は同上期に比し幾分の減益を示したが、大した變化はなかつた。利益率は一期七分二厘で、八分配當を擲置いた。固定資産償却には一百万圓を當てたが、償却率は二十五ヶ年である。償却はよくない。

【今期業績】 今期の生産は、大體輸出向純綿四万二千捆、膠着、特免オール・ス・フ糸合せて三万捆見當と想像される。其所で大難把に利益豫想をして見ると、軍需、特免、オール・ス・フで百八十万圓、輸出で三十万圓、兩者合計二百一十萬圓と言つたところだらう。當社には右の外に絹紡績がある。最近これは暴騰して十貫六、七百圓と言つた相場を出してゐる。原料も高いから其の割合に利益は多くない。然しそれでも半期二十万貫の生産として、六、七十萬圓の利益は期待出来る。以上の外に配當及利子収入が四十萬圓程度あるから、總利益は三百十萬圓には充分達するものと思はれる。利益率は一期六分程度になるのだから、八分配當は勿論安泰だ。

【今後の興味】 青島工場はいよいよ完成して目下試運転中だ。能力は精紡機三万七千七百錠、織機六百臺だ。今期には大して寄與しないが、來期からは半期五十萬圓程度の利益が此所から出る。子會社滿洲紡績が好調であるのも一つの好材料だ。

### 日清紡績株式會社

(本社) 東京市東區龜戸町二ノ七八(電東田三三二一九)  
(事務所) 東京市日本橋區浪花町二〇(電浪花二二一五二)

【下期成績】 當社の昨下期決算は、利益金四百六万四千圓、利益率二期八分六厘で、利益金から言へば近來のレコードであるが、拂込資本の増加により利益率は却つて低下してゐる。が此の綿業非常時に此の成績だから、まづ好調に推移したとみななければならぬ。

【強味】 當社の強味は、海外に強大な地盤を持ち輸出力が強靱であるところにある。桃印のドゥッテー、金巾は當社輸出品の主力をなすが、主として印度、蘭印に輸出されてゐる。從來支那方面への輸出が少なかつたことは支那市場への輸出が抑壓されてゐる今日としては有難い。

【今期業績】 今期の生産は、輸出二万七千捆、軍需、特免六千捆、全人織九千捆、合計四万二千捆見當と推算される。軍需品、特免品が好採算であること、更に人織糸が一層の好採算であることは、此所に言ふまでもない。織布益をこめて綿業部門から三百万圓程度の利益は充分期待出来るものと思はれる。以上の外に、昨年十一月から運轉を開始した青島工場の利益と、舊日清レイヨンから擧がる利益がある。青島の利益を六十萬圓、レイヨンの利益を五十萬圓と見ても、總利益は四百万圓を突破する。

【紡績事業】

【配當安泰】 従つて當社の一期二分配當は今後も安泰だ。

【設立】 明治二十九年三月

【決算期】 五月、十一月  
【事業】 綿紡績、絹紡績、加工  
【資本金】 公稱五〇〇,〇〇〇 拂込三〇〇,〇〇〇  
【株数】 新(五〇〇) 舊(五〇〇) 總計(一,〇〇〇)

【重役】 社長 目黒幸三郎  
専務 鹿村 美久 監査 橋本琢之助  
常務 木内 直 津田 五郎  
戸坂 隆吉 三宅川 保一  
取締役 川崎 榮助 相談 磯村豊太郎  
友田 久雄 各務 幸一郎  
阿河 孝平 顧問 持田 眞

【大株主】 明治生命三〇〇,〇〇〇 且倉左衛門三〇,〇〇〇  
森村同族三〇,〇〇〇 川崎 榮助二〇,〇〇〇  
岩崎 久彌二〇,〇〇〇 東横 橋本二〇,〇〇〇  
山崎 幸三二〇,〇〇〇 和田 文吾一〇,〇〇〇

【事業規模】 十三年下 十三年上 十三年下  
精紡機(〇) 九,〇〇〇 〇 〇 〇  
織機(〇) 二,〇〇〇 二,〇〇〇 二,〇〇〇  
生産高(噸) 三,〇〇〇 三,〇〇〇 三,〇〇〇  
平均番手 〇 〇 〇  
絹紡機(千錠) 〇 〇 〇  
絹織布(千疋) 〇 〇 〇  
絹織布(千疋) 〇 〇 〇

【役員】 社長 宮島清太郎 取締役 鈴木 誠一  
常務 鷺尾 勇平 監査 川崎友之介  
取締役 岡田社四郎 福澤 勲吉  
山本 信三 西村 傳八

【大株主】 明治生命三〇〇,〇〇〇 岡田社四郎二〇〇,〇〇〇  
平沼久三三〇〇,〇〇〇 中島清之助三〇〇,〇〇〇  
九木重雄三〇〇,〇〇〇 宮島清太郎二〇〇,〇〇〇  
岩崎 幸三二〇〇,〇〇〇 福澤 勲吉一〇〇,〇〇〇

【投資會社】 中部電力、日新染布、東京製  
麻、青島電氣  
【資本異動】 十三年五月二圓拂込徴收十三年  
五月〇四(八分)拂込徴收

【資産負債】

株主資本 十一月 五十三月  
積立金 二,〇〇〇 二,〇〇〇  
外部負債 三,〇〇〇 三,〇〇〇  
社債 〇 〇  
支拂手形 〇 〇  
使用總資本 〇 〇

【收支勘定】 十三年上 十三年下  
收入 〇 〇  
支出 〇 〇  
固定資産 〇 〇  
流動資産 〇 〇  
現金預金 〇 〇

【時價】 舊天、二  
【時價】 新天、二  
【名義書換】 十 錢 【新券交付】 五十錢

【資産負債】

株主資本 十一月 五十三月  
積立金 〇 〇  
外部負債 〇 〇  
支拂手形 〇 〇  
使用總資本 〇 〇

【收支勘定】 十三年上 十三年下  
收入 〇 〇  
支出 〇 〇  
固定資産 〇 〇  
流動資産 〇 〇  
現金預金 〇 〇

【時價】 舊天、二  
【時價】 新天、二  
【名義書換】 十 錢 【新券交付】 三十錢



### 錦華紡績株式會社

(本社) 金澤市大豆田新町一  
(営業所) 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル五階 (電北濱 三六三三)

【今期据置か】前期末の見透では今期は輸出では恐らく月平均七萬圓位の赤字を覚悟せねばならぬだらうと思はれたが、今春來の状態では心配の輸出もこの分では收支トントンと言ふところらしい。一月頃の実績から見ると、ス・フの生産高は月約八十六萬封度、人絹は四千九百函であつた。ス・フの自社消費は約六十二萬封度で、繰にすれば五千九百函となる。両當利益は四十手で二十圓位だから、全體で約十二萬圓の利益だ。人絹は國內用として月三千五百函の生産で兩當二十五萬圓の利益として合計八萬七千五百圓だ。ス・フの利益と合して月二十萬圓の利益は確實だらう。殊に當社が錦華人組合併に際し、同社は三百萬圓を減資したので、固定資産は相當割安である。自然コストは低く、右の二十萬圓は最低の利益と見てよい。半期百二十萬圓の利益となるから、これだけで一割配當は賅へよう。又、軍需特免關係は現在一箱五十圓以上の利益を擧げ得てゐるから、今期は輸出に利益なしとしても二百五十萬圓の總利益は見込んでよく、この限り利益率は二割五分で、一割配當は据置ける。

【前途】大陸進出計畫、錦華毛絲合併等も早晚實現するかもしれないが、何と言つても當社の工場當鐘數が十萬鐘以上で、合理化が相當よく行はれてゐる點は今後共大きな強味たるを失はぬ。

【設立】大正六年六月  
【決算期】五月、十一月  
【事業】綿紡績及綿織布  
【資本金】公稱二〇〇,〇〇〇 拂込三三三,〇〇〇  
【株數】新(三三三) 〇〇〇〇〇  
【重役】會長 兼月 澤田 一郎  
社長 加藤 正人 取締役 中島 理一  
取締役 倉知 謙吉 川畑 恒二  
酒井 宗吉 笠倉 高島 伊作  
杉 道助 増田 義一  
門田 秀 西野 幸作  
【株主數】十一年下 十一年上 十一年下  
十一年上 十一年下 十一年上  
【大株主】野瀨 清三郎 江崎 文吉 〇〇〇  
西野 幸作 〇〇〇 佐藤 進三郎 〇〇〇  
小澤 義一 〇〇〇 千代田生命 〇〇〇  
北川 同族 〇〇〇 帝國生命 〇〇〇  
【事業規模】十二年下 十一年上 十一年下  
綿紡績(總) 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
綿織布(總) 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
【事業成績】十二年下 十一年上 十一年下  
純利益 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
純利益平均番手 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
綿糸平均番手 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
綿布生産(總) 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
原棉消費(總) 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
原棉消費(平均) 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
【投資會社】錦華毛糸、  
【資本異動】十三年七月錦華人組合併で、  
〇〇〇千圓増資

【資産負債】十二年 十一年 十一年  
株主資本 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
積立金 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
外部負債 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
使用總資本 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
固定資産 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
流動資産 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
現金預金 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
【收支積立】十二年下 十一年上 十一年下  
支出入 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
固定資産 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
流動資産 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
【業績】十二年下 十一年上 十一年下  
利益率 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
【時價】新三三三 〇〇〇  
【名義書換】十 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

### 吳羽紡績株式會社

(本社) 大阪市東區安土町二丁目五二(電本町 六八一六)

【愛知織物合併】當社は愛知織物(資本金五百萬圓、拂込四百五十萬圓)を合併することにした。同社は大正六年五月の創立で、三ヶ工場に精紡機約二十三万六千鐘、機械九百二臺を持ち、現在八分配當を行つてゐる中型の優良會社だ。合併條件は當社の五十圓拂込済の株式十萬株を交付するに於ける模様だ。配當率から押へてこの條件は當社に不利とも考へられるが、同社の實體を検討すれば決して無理とは言へない。當社は今後恐らくより一層機業地との關係を深め、當社の商標で同社工場或は機業地の綿布を有利に輸出し得る等恵まれた地位に立つだらう。昭和入絹との合併比率は三對二に決定した。合併はいつれも今期中に實現することとせらう。

【大紡績の疊を擧す】右の他、大町紡績の合併も具體化するかもしれない。當社の投資會社は社數だけでも大したものだが、その精紡機のみを當社と合計すれば東洋紡に次いで百二十萬鐘を越える。極端な統制下にあつてびしびし陣容整備を行つてゐるのは小氣味よい。滿洲進出も許可されるかどうか不明だが、總生産を主とするだけに許されれば發展の可能性は大きい。

【今後】今期は恐らく減益乍ら一割二分を据置くこととせらう。來期以後も今のところ當社自體としては大した不安はない様だ。

【設立】昭和四年七月  
【決算期】五月、十一月  
【事業】綿紡績、綿織布、加工  
【資本金】公稱二〇〇,〇〇〇 拂込三〇〇,〇〇〇  
【株數】新(三〇〇) 〇〇〇〇〇  
【重役】社長 伊藤忠兵衛  
専務 井上 富三 取締役 伊藤吉左衛門  
取締役 泉 彌三 高橋 保  
豊島 久七 笠倉 伊藤竹之助  
山田 昌作 平尾 太郎  
松岡 潤吉 大林 義雄  
小島 逸平 田中 榮八郎  
【株主數】十二年下 十一年上 十一年下  
總數(〇) 二二二 〇〇〇 〇〇〇  
【大株主】伊藤忠商會社 〇〇〇 伊藤 茂八郎 〇〇〇  
松岡 潤吉 〇〇〇 住友 生命 〇〇〇  
小島 逸平 〇〇〇 豊島 久七 〇〇〇  
千代田生命 〇〇〇 高橋 商事 〇〇〇  
【事業規模】十二年下 十一年上 十一年下  
精紡機(總) 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
綿織機(總) 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
加工月産(總) 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
工場(吳羽、福野、井原、大門、入絹)  
【事業成績】十二年下 十一年上 十一年下  
純利益 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
平均番手 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
綿布生産(總) 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
【資本異動】十二年三月三〇日拂込徴収十  
月二圓五(最終)拂込徴収

【資産負債】十二年 十一年 十一年  
株主資本 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
積立金 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
外部負債 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
使用總資本 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
固定資産 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
流動資産 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
現金預金 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
【收支積立】十二年下 十一年上 十一年下  
支出入 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
固定資産 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
流動資産 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
【業績】十二年下 十一年上 十一年下  
利益率 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇  
【時價】新三三三 〇〇〇  
【名義書換】十 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇

〔紡績事業〕

### 倉敷紡績株式會社

(本社) 岡山縣倉敷市元町四ノ七ノ四 (電倉敷二〇一三)  
(出張所) 大阪市西區江戶堀北通一丁目 (電土佐堀六〇一三)

【昨年十二月期】 昨年下期の利益金は對前期約十八萬二千圓(約五%)増の三百七十二萬圓で、利益率も約一分を向上して二割七分を示した。上期同様百萬圓を固定資産の消却に振向け一割配當を据置いたのだが、紡毛機、毛織機、人織専門の紡績機等によつて内地向製品の生産で案外好収益をあげ得た譯である。

【今期】 内地ものの採算は依然よいだらうが、輸出ものは元來当社が得意でないだけに不安は去らない。當社は質織を勵行せざるを得ない立場にあるが、織質の増嵩は可成り痛い。最近の實績から見ると、内地ものでは綿關係で今後月平均軍需特免が二千六百圓、ス・フ絲が二千圓の割當とならう。ス・フ絲は四十手として相當八十圓、軍需特免ものは相當四十圓位の差益とすれば、月平均前者で十六萬圓、後者で十萬四千圓の利益はある。半期約百六十萬圓だ。これに羊毛關係の利益が加はる。當社は毎年下期に羊毛關係の利益の大部分をあげ、その一部を翌年上期に繰越すことにしてゐるが、前期から今期に繰越されたのは約六十萬圓だ。今期から動く梳毛絲の利益も加へると輸出を除外して大體二百四十萬圓程度の利益は出よう。若し輸出が少く赤字になれば一割配當は一杯々々と言ふところだ。日華紡の復配は困難かもしれぬが、兎も角今後の強味にはなる。

### 福島紡績株式會社

(本社) 大阪市北區玉江町二丁目 (電土佐堀 二二二三)

【今期】 今のところ前期末項に比し一應明るい。激動しつゞけた前期から見れば質織も大體安定して來たし、輸出方面も價格の續落が一先づ落着いて來たからだ。然し生産高は減少を免れない。一月頃の實績から見ると軍需特免が三千五、六百圓、輸出向も略々三千五百圓で、内地向の割合は可成り多い。この調子で行くとして内地もので相當五十五圓平均の差益があれば半期約百二十萬圓の利益が擧げ得る。輸出は差引利益なしとしても配當收入、雜益が約六十萬圓を下らないだらうから、蓄積を少々吐き出せば前期程度の利益を計上するのは困難ではない。資産内容の含みは巨額に達するから當面の配當維持は困難とならない。二割は据置と見てよからう。

【子會社】 四月から天津の雙喜紡織の工場が動きはじめ。精紡機三萬錘、織機七百臺で小規模なものだが實力は内地の比ではない。滿洲紡績は現に好成績を擧げてゐる。前期は月平均十二萬圓位の利益を三萬錘足らずの精紡機で擧げ得た位だ。前月から滿洲聯の統制下に入つたが依然今期も大きな強味だ。福島人絹、徳島紡績、いづれも設備としては大したものではないが、新銳安價な固定資産が強味だ。今後當社は斯うした子會社中の或るものを合併して行くこととならう。増された明正紡との合併は問題にならぬ様だ。

〔紡績事業〕

【設立】	明治二十一年三月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	綿紡績及綿織布
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主数】	新 1,000 舊 1,000
【役員】	社長 大原孫三郎 取締役 原 澄治 常務 神田 柳吉 林 桂二郎 監査 石井 晴夫
【大株主】	大原合資會社、三宅 孝文、三宅 三郎、三宅 治八、三宅 金作、三宅 會數、相模 七、久松 紳野商店、三宅 會數
【事業規模】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
【精製生産】	九〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇 〇,〇〇〇
【平均番手】	二七、二七、二七、二七
【原棉消費】	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【原棉消費】	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【人機生産】	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【投資會社】	倉敷紡績、三宅 會數
【資本異動】	十二年六月増資元圓拂込徴収、十月一四〇萬圓増資元圓拂込徴収

【資産負債】	十二年 十三年 十三年上 十三年下
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
積立金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
社債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
收入	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【業績】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
高値	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
安値	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時價】	新 1,000,000 舊 1,000,000
【名義書換】	十 1,000,000 新券交付 1,000,000

【設立】	明治二十五年八月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績及綿織布
【資本金】	公稱 1,000,000 拂込 1,000,000
【株主数】	新 1,000 舊 1,000
【役員】	社長 八代 武次 取締役 河野 武次郎 監査 山内 實 古市 宣三
【大株主】	八代 武次郎、河野 武次郎、山内 實、古市 宣三
【事業規模】	十三年上 十三年下 十三年上 十三年下
【精製生産】	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【平均番手】	二七、二七、二七、二七
【原棉消費】	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【原棉消費】	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【人機生産】	二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇 二、〇〇〇
【投資會社】	福島人絹、雙喜紡績、滿洲
【資本異動】	十二年五月八〇〇萬圓増資第一回、四月三〇〇萬圓増資徴収

【資産負債】	十二年 十三年 十三年上 十三年下
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
積立金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
社債	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
支拂手形	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
使用總資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
收入	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【業績】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
高値	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
安値	1,000,000 1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時價】	新 1,000,000 舊 1,000,000
【名義書換】	十 1,000,000 新券交付 1,000,000

### 岸和田紡績株式會社

(本社) 大阪府岸和田市北町九五三 (電報和田 三六六)  
(營業所) 大阪市東區北久太郎町寺田ビル内 (電報邊野 三三三)

【十二月期】 昨年十二月期の計上利益は百八十七萬三千圓、利益率約三割で、六月期に比し夫々三十六萬圓、六分の減少となつてゐる。可なりの減益であつた。一方手持勘定は六月期の約二百萬圓から十二月期には三百五十萬圓へと急膨脹してゐる。相當のレザープを吐出したと見られるが、當社の如く巨額の内部蓄積の多い會社は含みを多少出しても殆んど心配は要らない。唯斯うした事態が永續すれば勿論問題だ。從來當社の販賣方針が、泉州尾州方面に於て、實需を中心とする點に置かれてあつたため、實需の實施に當つて、かうした堅實方針が随分幸したと言ふ迄もなく、今後にも強味たるを失はぬだらう。

【前途】 まだ期初から幾何も経過してゐないので何とも言へないが、今のところは全體順調の様である。恐らく一割五分配當維持の政策は不變と見られるが、天津工場 completion がひたすら待たれる。規模は精紡機三萬錘、織機七百臺で小さいが、實力は内地の比ではない。完成は九月の豫定であつてもそれより或程度遅れると思はれる。結局來期末頃となるだらうが、原料の不足が稍々心配だ。上海に足場を持たぬから原料不足は直接に應へるが、三割程度の操短で済むかぎり依然相當の利益を期待してよ。

### 日出紡織株式會社

(本社) 和歌山縣日高郡御坊町大字西五八五ノ一 (電報御坊)  
(營業所) 大阪市東區南久太郎町二ノ二三 (電報邊野 二四一七)

【前期据置】 昨年十一月期は對上期約六萬三千圓増の百五十三萬五千圓の利益金を計上、利益率も殆んど變らず配八分特配二分合計一割配當を据置いた。決算面の變化として注目すべきは手持勘定の増加で、合計約四百十三萬二千圓と上期の四倍に近い。これは確かに不合理で、手持の過高評價が行はれたためではないかと思はれる。兎も角も可成り含みを吐き出した決算であつたことは事實の様だ。

【今期稍々良好】 今期は昨年十一月頃に比べて今のところ稍々良好である。織機がないから實績動行に變りはないが、赤字の程度が少くなつてゐる。ジンスの如き一般的を、競争多き綿布を止めて主として先染の綿綿布、テーブルクロス、敷布等の布帛製品に主力を注いでゐるから採算も割合によい。工費の繰り上げも最近では大體落着いて來た。

【配當】 二月の實績から見ると今期の生産高は月平均單需特免が約一千三百圓、ス・フ絲が千二百圓、輸出ものが四千五百圓見當である。確實に利益のある内地ものからは月十五萬圓程度の利益は充分見込めるし、ス・フは舞鶴工場の分が全部使つてまだたらぬ位だからマーシンは相當ある。今のところ多少レザープに手をつけて一割を据置くとみてよからう。和歌紡との合併の噂は立消えの形だ。

【設立】	明治二十五年十一月
【決算期】	六月、十二月
【事業】	綿紡績及綿織布
【資本金】	公稱 30,000,000 拂込 13,113,113
【株主数】	1,000 (株)
【重役】	社長 寺田 甚吉 専務 山田宗三郎 取締役 寺田元之助 常務 小田利三郎 監査 竹原友三郎 寺田 榮吉 金納源十郎 寺田 宗助
【大株主】	寺田合名 寺田 佐野 寺田 宗三郎 寺田 元三郎 寺田 金納源十郎 寺田 和泉銀行 寺田 久住 寺田 治郎 寺田 宗助
【事業規模】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
【工場所在地】	岸和田市二工場 大垣市 大阪府春木町 津市
【投資會社】	岸和田人前、岸和田人前、岸和田人前
【資本異動】	十一年五月三圓増資、十一年十一月一〇三萬圓増資、十一年六月一〇三萬圓増資、十一年六月一〇三萬圓増資

【資産負債】	十二年 十一年 十二年 十一年
株主資本	六二,一〇〇,〇〇〇 六二,一〇〇,〇〇〇
積立金	三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇
外部負債	三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇
使用總資本	六二,一〇〇,〇〇〇 六二,一〇〇,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定資産	五二,一〇〇,〇〇〇 五二,一〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【收支勘定】	十二年上 十二年下 十一年上 十一年下
収入	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
支出	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【時價】	新三六 四分六厘
【名義書換】	十 新券文附 三十錢

【設立】	明治四十五年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	綿紡績、人織
【資本金】	公稱 10,000,000 拂込 8,919,000
【株主数】	1,000 (株)
【重役】	社長 田中英八郎 常務 瀬戸 健三 専務 加名生良信 取締役 伊藤 三三 常務 石田 氏敏 大川 鐵雄 村野 貞明 監査 初井 宗良 木代 良太 越野 三郎
【大株主】	大川 正雄 三、〇〇〇,〇〇〇 田中英八郎 〇、〇〇〇,〇〇〇 初井合資 六、〇〇〇,〇〇〇 瀬戸 健三 六、〇〇〇,〇〇〇
【事業規模】	十一年上 十一年下 十一年上 十一年下
【工場所在地】	日高、姫路、大津、舞鶴
【投資會社】	日出紡績、日出紡績
【資本異動】	十一年一月一〇三萬圓増資、四月二日日出紡績(資本金一〇三萬圓)を設立、後これを合併増資

【資産負債】	十二年 十一年 十二年 十一年
株主資本	八,九一九,〇〇〇 八,九一九,〇〇〇
積立金	三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇
外部負債	三,〇〇〇,〇〇〇 三,〇〇〇,〇〇〇
使用總資本	八,九一九,〇〇〇 八,九一九,〇〇〇
流動資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
固定資産	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【收支勘定】	十二年上 十二年下 十一年上 十一年下
収入	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
支出	一〇,〇〇〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【時價】	新三六 四分六厘
【名義書換】	十 新券文附 三十錢

〔紡績事業〕

### 出雲製織株式會社

(本社) 島根縣松江市町一九〇〇  
(營業所) 大阪市東區備後町三ノ八綿業會館内(電本町三三一三)

〔下期一割据置〕 當社の昨年十一月期決算では、利益金百九十三萬圓、利益率約三割で一割据置となつた。上期に比し利益金で約十萬圓、率で六分の低下となつてゐるが、憂ふる程のものではない。内容が相當良いからだ。例へば下期末現在の株主資本は一千六百五十萬圓を超え、固定資産を賄つて餘りあるもので、一鎌當固定資産の評價も三十四圓と著しく低い。こゝに當社の利益源があるし、時局下の耐久力も可成りあると言へよう。

〔今期〕 然し今期も減益は止むを得まい。輸出向は不得意な上に前期は價格の低落で困難だつたが、今期も一應建直したとは言へ利益は殆んど期待出来ず、内地ものも減益を餘儀なくされるだらうからだ。貨織の方は最近約百二ヶ工場(織機合計約二千六百臺)と契約を結び月の出來高は三百萬平方碼以上に達してゐる模様で相當活潑だ。ス・フ、人絹の方は前者が月平均四十五萬封度、後者が同じく二千五百圓見當の生産になつてゐる。この方面の利益は可成り多いが、内地向の特色は軍需向棉製品が多いことだ。これは以前からの關係によるものだが、時節柄相當有利である。今期は或る程度の減益はしてもス・フ及び軍需關係の利益だけで配當金は大體賄へる見込で、少々輸出が悪くても一割は不動と思はれる。

【設立】	大正九年十一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	棉紡績、棉織布、人絹、人織
【資本金】	公稱 50,000 拂込 33,500
【株主数】	新(12) 舊(10) 100,000,000,000
【重役】	専務 安道 寛一
取締役	四方田 保 取替 多田 秀
	藤原武太郎 監査 飯田重之助
	佐藤 眞 山田金右衛門
	米益 清一 相談 櫻内 幸雄
【株主】	十一年上 十一年下
【大株主】	松江銀行 1,000,000
	出雲電氣 1,000,000
	廣瀬太次郎 400,000
	四方田保 300,000
	大高 盛敏 200,000
	日本生命 1,000,000
	帝國生命 1,000,000
【事業規模】	十一年上 十一年下
棉紡績(機)	1,600 1,700
人絹紡績(機)	1,000 1,000
工場所在地	今市、穴道、高津
【事業成績】	十一年上 十一年下
平均番手	30 30
棉布生産(千碼)	10,000 10,000
原棉消費(千担)	10,000 10,000
原棉消費(千圓)	10,000 10,000
【資本異動】	十一年四月、六月各三回 増資 十一年三月倍額増資、第一回三 回五割込後

【資産負債】	十二年 十二年 十二年
株主資本	1,600,000 1,600,000 1,600,000
積立金	100,000 100,000 100,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
社債	100,000 100,000 100,000
借入金等	100,000 100,000 100,000
使用總資本	1,800,000 1,800,000 1,800,000
固定資産	1,500,000 1,500,000 1,500,000
流動資産	300,000 300,000 300,000
X 現金預金	100,000 100,000 100,000
【收支勘定】	十二年上 十二年下
收入	1,000,000 1,000,000
支出	800,000 800,000
固定消却	100,000 100,000
消却率	10% 10%
【業績】	十二年上 十二年下
利益	100,000 100,000
【時價】	十一年五月期 一割 【時價】 新 八分六厘 【時價】 新 七分五厘
【名義書換】	五錢 新券交付 二十錢

〔紡績事業〕

### 内外綿株式會社

(本社) 大阪市北區堂島中二ノ二五(電北 100-120)  
(支社) 支那上海支店

〔順調〕 内外綿の昨今は依然順調の一語に盡きる様だ。新材料もないが危な氣もなく落着いたものである。上海工場は當社の主力工場で精紡機も織機も當社全體の五〇%以上は上海にある。支那棉の割當が不圓滑でも上海は爲替の關係上第三國棉の輸入が比較的樂で、八片の爲替で買つても引合ふから原料關係で困ることは先づない。その上、上海で輸入した外國棉を青島工場へ廻すことも不可能ではない。兎も角上海工場が細番生産に傾いてゐるだけでも支那棉への依存から順次遠ざかつてゐることが知られる。

【金州工場】 金州は愈々滿洲綿業聯合會の統制下に入つたが、原棉關係で多少困難となつても利益は相當見込める。綿布を綿絲に換算すると同工場の月平均生産高は約五千三百担位で、相當り四十圓の差益として月約二十萬圓、半期百二十萬圓の利益は擧がらう。

【一割二分据置】 上海で月四十萬圓、青島で月六萬圓、金州で月二十萬圓の利益とすれば今期四百萬圓近い利益は豫想してよい。利益率は三割二分で一割二分据置に問題ない。唯治安状態がノーマルでなくなれば、少くとも當社の操業は在華紡各社同様に圓滑ではなくなる。最近の綿製品需要は實需だと言はれるにしても手放しの樂觀は勿論許されぬ。然し充實した内容から見て配當力は充分ある。

【設立】	明治二十年九月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	棉紡績、棉織布加工
【資本金】	公稱 100,000 拂込 100,000
【株主数】	新(10) 舊(10) 100,000,000,000
【重役】	専務 佐々木 國藏
取締役	岡田源太郎 取替 石川 作太郎
	山口幸三郎 藤田 俊治
	阿部彦太郎 監査 牛田虎之助
	天木 繁二 中野 嘉三郎
	大西 喜一 荒川 太造
【株主】	十二年上 十二年下
【大株主】	中野合資 1,000,000 都利兵衛 1,000,000
	阿部彦太郎 1,000,000 藤田 俊治 1,000,000
	大庄商店 1,000,000 天木 繁二 1,000,000
	大坂商會 1,000,000 阿部 正彦 1,000,000
【事業規模】	十二年上 十二年下
精紡機(機)	1,000 1,000
織機(機)	1,000 1,000
工場所在地	上海、青島
【事業成績】	十二年上 十二年下
平均番手	30 30
棉布生産(千碼)	10,000 10,000
原棉消費(千担)	10,000 10,000
原棉消費(千圓)	10,000 10,000
【資本異動】	十二年上 十二年下
増資	100,000 100,000
【時價】	十二年上 十二年下
【名義書換】	五錢 新券交付 二十錢

【資産負債】	十二年 十二年 十二年
株主資本	1,000,000 1,000,000 1,000,000
積立金	100,000 100,000 100,000
外部負債	100,000 100,000 100,000
社債	100,000 100,000 100,000
借入金等	100,000 100,000 100,000
使用總資本	1,300,000 1,300,000 1,300,000
固定資産	1,000,000 1,000,000 1,000,000
流動資産	300,000 300,000 300,000
X 現金預金	100,000 100,000 100,000
【收支勘定】	十二年上 十二年下
收入	1,000,000 1,000,000
支出	800,000 800,000
固定消却	100,000 100,000
消却率	10% 10%
【業績】	十二年上 十二年下
利益	100,000 100,000
【時價】	十二年上 十二年下
【名義書換】	五錢 新券交付 二十錢

### 同興紡織株式會社

(本社) 支那上海揚州浦路第二〇八六  
(出張所) 大阪市北區宗是町一(電土佐堀七番七)

【業績順調】無配を一期に止めて昨年十月期早くも八分の復配を行つた當社は、其後引續き順調に操業してゐる。昨今傳へられる如き上海方面に續出する不祥事は一株の不安を與へずには置かないが、操業に大々の打撃を及ぼすことは先づない様だ。操業し得る限り相當の利益は充分期待出来る。今期の生産高は賣絲約一万捆、綿布約五十万反と前期並に落着く模様である。絲で一捆七十圓、布で反當り二圓内外の利益とすれば兩者で合計百七十萬圓の利益だ。前期に比し相當減るが、利益率は約二割三分で八分配當は榮だ。増配も可能だが恐らく据置としよう。既に殆んど完成した青島工場は今期の業績には大して寄與しないが、十月期には相當寄與して来る譯だ。第二次復興計畫がどうなるか、目下はつきりみない。

【原棉】北中支棉の割當によると青島工場は三、四割の操短を餘儀なくされるが、いくら復興してもはじめから操短では榮ではない。然し當社はこれを或程度緩和し得るやうだ。素々當社は米棉を主に使用してゐた會社である。従つて平均番手を高いが、支那棉の割當が窮乏化しても、上海では大體順調に外國棉を輸入出来るし、それを青島工場へ廻すことも出来るから大して心配はいらない。爲低替で輸入しても結構引合ふなら今後とも略々安泰と言へる。

### 朝鮮紡織株式會社

(本社) 朝鮮釜山府凡一町一、三三(電釜山四〇〇)  
(出張所) 東京市麩町區九ノ内海上ビル(電九ノ内一五六)

【五分増配】昨下期の業績は利益金一百七十四萬圓、利益率四割七分八厘で、同上期の百四十六萬四千圓、利益率四割六分八厘に比較すると利益率は一分の向上を示してゐる。然し配當率は大巾に引上げられた。昨上期は一割の普通配當の外に二分の特配を附け合計一割二分の配當を行つたが、下期には二分の特配を普通配當に直し更に其の上特配を五分に引上げた。合計一割七分の配當だ。業績自體はさして好化してゐないのに一舉に五分も配當率を引上げたのは何故であるか。言ふまでもなく總動員法第十一條の發動以前に高率配當の實績を作つて置く必要からだ。

【今期も順調】半島の棉業界は著しい好況に恵まれてゐる。操業率は八割八分に及び、内地とは比較にならぬ程よい。それに内地の如くリンク制が實施されてゐないから著しく有利だ。三割のス・フ混用を命ぜられてはゐるが、差益は非常に多く、而も操業率は著しく高い。これで儲けられない筈がない。前期一舉に五分の増配を行つたのも其の持続性に強い確信を持つたからに外ならぬ。操業益は大した増加は見込まれぬにしても、子會社營口紡の業績は依然として順調だから、前期並みの業績は充分收め得るものと見られる。

【今後】輸出を強制されない限り現行配當は維持出来る見込だ。

【設立】	大正九年五月
【決算期】	四月、十月
【事業】	紡績、綿織布
【資本金】	100,000,000
【株数】	(株) 1,000,000
【重役】	社長 飯尾 一二、取締役 平井 晴雄、副社長 立川 三三、監査 坂田 幹太、取締役 秋田 久、竹中 源助、鳥羽智加造、谷口豊三郎
【株主数】	十三年下 2,233、十三年上 2,295
【大株主】	谷口豊三郎 10,000、東洋紡績 8,000、竹中源助 5,000、立川三三 5,000、野瀬清一 5,000、谷口樞夫 5,000、小川三郎 5,000、日本生命 5,000、中村合名 5,000
【事業規模】	十三年上 1,000、十三年下 1,000
【上海支店工場】	精紡機 5,000、美 5,000、美 5,000
【青島工場】	精紡機 5,000、美 5,000、美 5,000
【事業成績】	十三年上 1,000、十三年下 1,000
【平均番手】	30、32、34、36、38、40
【資本異動】	十三年十月三十一日拂込徴収

【資産負債】	十二年 十二月
株主資本	100,000,000
積立金	10,000,000
外部負債	10,000,000
使用總資本	120,000,000
流動資産	10,000,000
現金預金	10,000,000
【收支勘定】	十二年上 1,000、十二年下 1,000
【株主資本】	十二年上 1,000、十二年下 1,000
【時價】	空〇、【利率】六分二厘
【名義券換】	二十錢【新券交付】五十錢

【設立】	大正六年十一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	紡績、綿織布加工、人絹織物
【資本金】	100,000,000
【株数】	(株) 1,000,000
【重役】	社長 阪安 三郎、取締役 佐藤 謙吉、常務 時間 昇平、常務 中村 村彦、取締役 小室 利吉、監査 野口 三郎、取締役 小野 利平、相模 相模 相模
【株主数】	十三年上 1,000、十三年下 1,000
【大株主】	中外産業 10,000、再製綿織 10,000、山本武太郎 10,000、昌榮合資 10,000、朝鮮信託 10,000、横山興市 10,000
【事業規模】	十三年上 1,000、十三年下 1,000
【工場所在地】	十三年上 1,000、十三年下 1,000
【事業成績】	十三年上 1,000、十三年下 1,000
【投資会社】	營口紡織株式會社
【資本異動】	十三年八月三十一日増資九月第一回、十三年七月三十一日増資徴収

【資産負債】	十二年 十二月
株主資本	100,000,000
積立金	10,000,000
外部負債	10,000,000
使用總資本	120,000,000
流動資産	10,000,000
現金預金	10,000,000
【收支勘定】	十二年上 1,000、十二年下 1,000
【株主資本】	十二年上 1,000、十二年下 1,000
【時價】	空〇、【利率】六分二厘
【名義券換】	二十錢【新券交付】三十錢

【紡績事業】

### 明正紡織株式會社

(本社) 大阪市東淀川區三津屋新町(電北五三二) 電話二五三二

【前期減益】 昨年十一月期の利益金は百八萬圓で對上期約三十萬圓の減益を餘儀なくされた。利益率も上期の三割六分五厘から二割八分八厘へと約七分七厘の減退となつてゐる。激動期に當面しては如何に努力しても當社の設備と傳統ではどうにも致し方がなかつた。今朝も多少減益は免れない。軍需特免ものの利益だけでは精々月十萬圓位だが、輸出品は一月が收支トントン、二、三月は多少赤字になる勘定だ。尤も輸出調整方法が決定したから多少よからう。

【一割据置か】 難役をも含めて七十五萬圓程度の利益が擧れば利益率は二割で現行配當は充分据置ける。たとへ右以下の利益でも、從來手堅く進んで来たのに内容は相當良いから、多少の含みを出して配當維持は行へると思はれる。然し何と言つても規模は小だから苦しい。ス・フ生産の子會社を持つてゐること、上海や滿洲に關係會社があることが強味だが相當思ひ切つた轉換策を講ずる必要があるのではなからうか。

【合併問題】 福紡との合併説は兩社の人的關係から生じた噂らしいが、當局者は全然否定してゐる。目下のところではむしろレイヨン合併の方が可能性が多い。同社は今期据置の見込だが、配當率は別として、合併氣運は確かに強い様だ。

【設立】	明治四十五年五月	【決算期】	五月、十一月
【事業】	紡績、織造、人絹紡績	【資本金】	公稱 10,000 拂込 7,000
【株数】	10,000株	【重役】	社長 堀本 文平
【大株主】	天六	取締役 石川 知足	取締役 津田 五郎
【事業規模】	二十一年上 三三、三三三 二十二年上 三三、三三三 二十三年上 三三、三三三	【設備】	大阪市東淀川區、西淀川區、川口町
【平均番手】	一〇、一〇、一〇	【投資】	二十一年六月五〇萬圓増資第一
【時價】	新五七	【利配】	八分三厘
【名義書換】	十	【新券交付】	五十

### 天満織物株式會社

(本社) 大阪市旭區毛馬町一〇三ノ一(電川五九三) (營業所) 大阪市北區中之島二丁目二五江商ビル(電北濱三六)

【大體調】 昨年十一月期は上期と殆ど同額の百五十九萬六千圓の利益金を計上、利益率は三割を超え悠々一割配當を据置いた。五十年に及ぶ陸軍との深い關係から、軍需品の注文が多く利益の大部分はこの方面から擧げ得たと言つても過言ではない。織機は僅かに六百臺だが十六手以下の太絲で作る織物だから生産高は非常に多い。今期も月平均二千五百個位の軍需特免物をこなすがこれだけでも利益は半期百萬圓を超えるだらう。今期の一割据置も間違ない様だ。

【前途】 輸出は不得意だが調整組合の設立で、或程度緩めるかも知れない。然しいづれにせよ或程度の赤字は覚悟した方がよいやうだ。錦華紡との合併の噂が傳へられてゐるが具體的には當面問題とはなつてゐないらしい。

【設立】	明治二十年三月	【業績】	利益金 配當率 利益配
【資本金】	10,000	十一年下 1,000	二六、二六
【株数】	10,000	十三年上 1,000	二六、二六
【重役】	社長 野田吉兵衛	取締役 野田吉兵衛	取締役 竹村清次郎
常務	中出安治郎	常務 松原三郎	
	江南要治郎	常務 竹内 利治	
	淺田 麟藏	監査 田附政太郎	
【時價】	新六〇	【利配】	八分三厘

### 國光紡績株式會社

(本社) 長崎縣長崎市市町一ノ一 (營業所) 大阪市東區横堀二ノ七〇都府ビル(電北濱三〇)

【外地工場】 逸早く青島の華新紡を買収して二万二千錠の精紡機と二百五十臺の織機の他に加工設備を獲得した當社は、内地工場の利益減を幸にしてカバーし得たが、其の後内地休産の移轉によつて、今年一月末には既に復興許容量の三万三千錠の運轉に成功した。第二次復興計畫の方はどうなるか判らぬが、今期は青島工場で渡ぐ他はない様だ。青島工場は北支棉の割當で三割以上の操短となる模様だが、上海に足場がないだけに多少の困難は免れない。

【配當】 四月期の配當は一割据置とならう。所要配當金は約四十五萬圓だから、それ位の利益は青島工場で稼げる。同工場は前期約六十萬圓の利益をあげたやうだが、今期はそれに及ばずとしても配當金位は出せるだらう。特配を普配に直した矢先減配でもあるまい。

【設立】	大正元年十二月	【業績】	利益金 配當率 利益配
【資本金】	10,000	十一年下 1,000	二六、二六
【株数】	10,000	十三年上 1,000	二六、二六
【重役】	社長 原 茂久雄	取締役 原 茂久雄	取締役 宮地 貞澄
常務	肥田慶之助	常務 岩田宗次郎	
	漢城 敬一	監査 肥田慶三郎	
【時價】	新五七	【利配】	八分五厘

### 豊田紡織株式会社

(本社) 名古屋市西區米田町一七一六(電話三三〇)

【在華紡機業開始】今次事變で手ヒドクやられた豊田紡織廠の上海及青島工場は破産成り、去る一月二十五日から兩工場共一部運轉を開始した。斯くて當社の苦難時代も短期間でおさまりさうだ。

【子會社順調】前期に二分増配を遠慮して八分増配を据置いた。豊田自動機械も別稿の通り順調である。庄内川染工所の七分増配、同レーヨンの八分増配、中央紡七分増配と子會社は何れも配當据置可能だからこれ等を統率して行く親會社豊田紡に悪い影響がある筈がない。これに前期から赤字になつたトヨタ自動車工業の成績が寄與するやうになるのも遠い將來のことでもあるまい。

【配當据置可能】今期は多少製品賣上高が減つても、資産に含みは多いし子會社からの収益もあるから八分増配据置に事缺かぬ。

【設立】 大正七年一月

【資本金】 公稱 1,200,000 拂込 1,200,000

【株数】 舊 20,000 新 11,000

【重役】 社長 豊田利三郎 取締役 鈴木 利藏 専務 豊田喜一郎 林 虎雄 常務 同本藤太郎 監査 豊田 平吉 取締役 松岡 健三 藤野野太郎 松岡 潤吉 寺田 甚吉 西川 秋次 石田 退三

【業績】 利益率 配當率 初當額

十二年下	八〇	一〇	〇・八〇
十三年上	九〇	一〇	〇・八〇
十二年上	八〇	一〇	〇・八〇
十三年下	八〇	一〇	〇・八〇

【事業成績】 十三年上 十三年下 十三年上

綿織出來高 2,777,777 3,111,111 3,111,111

平均番手 32.7 32.7 32.7

綿布出來高 1,234,567 1,234,567 1,234,567

原棉消費高 1,234,567 1,234,567 1,234,567

原棉消費高(割合) 100.0 100.0 100.0

原棉消費高(割合) 100.0 100.0 100.0

【豫想配當】 十四年三月份 八分

### 日華紡織株式会社

(本社) 上海常生路九八號 (出張所) 大阪市東區橋邊町三ノ八(電話會館内(電本町三三〇))

【相當立直る】事變で可成りな打撃をうけた當社も最近相當立直つて來た。昨年十一月期には近年にない好成绩で約三百二十二万圓の利益金を計上、利益率は七割三分を越えた位であつたが、利益金の全部を前期よりの繰越損の補填に振向け、八十九万五千圓の損失を今期に繰越してゐる。今期は前期並の利益は望めないが、赤字の克服は恐らく出來よう。然し配當復活は一寸無理だ。

【内容】當社の内容はあまりよくない。例へば昨年末の借入金と支拂手形は合計一千六百万圓に近く、株主資本を四百万圓近くも越えてゐる。それに固定資産の評價も一鎌當七十七圓と可成り高い。従つて業績自体はよくなつても内容の刷新はまだこれからと言ふ他はなく、會社への合併が噂されてゐるがこれも考へものだ。

【設立】 大正七年七月

【資本金】 公稱 1,200,000 拂込 1,200,000

【株数】 舊 20,000 新 10,000

【重役】 社長 田邊 輝雄 取締役 赤司初太郎 常務 友水藤三郎 持田 巽 森本 時虎 南郷 三郎 取締役 河崎助太郎 長谷川佳平 伊藤竹之助 監査 上野山重夫 北野 友吉 野口 龍敬

【業績】 利益率 配當率 初當額

十二年下	100	〇	無配
十三年上	100	〇	10.00
十二年上	100	〇	10.00
十三年下	100	〇	10.00

【株價】(實物) 高値 安値

十三年 50.00 25.00

十四年 50.00 25.00

【豫想配當】 十四年五月份 無配

【時價】 50.00 25.00

【利通】 無配

### 近江帆布株式会社

(本社) 滋賀縣蒲生郡八幡町大字宮内二〇九(電八幡町) (営業所) 大阪市東區淡路町三ノ二〇(電北濱四三)

【十一月期増益】軍需激増に惠まれ帆布の賣行が良好を極めた結果當社の昨年同期決算は素晴らしくよかつた。即ち利益金は二百二十五万圓と對上期七十万圓を突破する増益で、利益率も上期の四割一分八厘から六割三分五厘へと二割以上向上してゐる。綿業界不振の折柄當社の如きは全く異例であつて、一般に事變下に於ける紡織會社の列に加へるのは不適當とさへ云へる。

【今期】今期も悪くない様だ。帆布の需要増が年需のみとは限らないだけに心強いが、當社が帆布の原糸を自給してゐる點は他の帆布製造會社には見られぬ好條件だ。輸出方面では経験が乏しいだけに面白くない様だが、輸出向の赤字は内地向で充分賄はれると見てよい。今期の八分増配は据置に問題なく、前途も順調と思はれる。

【設立】 明治三十年四月

【資本金】 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000

【株数】 舊 100,000 新 100,000

【重役】 社長 森五郎兵衛 取締役 西川七右衛門 専務 森 謙治 小澤七兵衛 常務 戸川 四郎 小守利兵衛 取締役 西川 高重 監査 小西 梅三 阿部市太郎 中西五郎兵衛

【業績】 利益率 配當率 初當額

十二年下	70.00	10.00	〇・七〇
十三年上	70.00	10.00	〇・七〇
十二年上	70.00	10.00	〇・七〇
十三年下	70.00	10.00	〇・七〇

【株價】(實物) 高値 安値

十三年 40.00 20.00

十四年 40.00 20.00

【豫想配當】 十四年五月份 八分

【時價】 50.00 25.00

【利通】 七分

【紡織事業】

### 和歌山紡織株式会社

(本社) 和歌山市傳法橋南ノ丁一(電話三)

【十一月期据置】昨年十一月期には七十九萬七千圓の利益金を計上、利益率は二割四分で一割配當据置とした。上期に比し利益金で約八萬五千圓の減益を示し、利益率では約五分の減少となつてゐる。下期末現在の原料及仕掛物勘定は約七十八萬七千圓と上期の約二倍になつてゐるが、或程度を含みが吐き出されたものと思はれる。

【今期】前期はリンク制實施に伴ふ混亂で相當減益したが、今期は一應落着き、他面、軍需品生産が多いから、比較的業になつたやうだ。合計して、月平均内地物は千三百捆、輸出物は三千五百捆見當の生産になつてゐるが、輸出は相當不利なう内地物の大部分を占める軍需品で其他で月八萬圓半期五十萬圓の利益は大丈夫の様だ。内容的には不安なしとしないが、今期は据置けさうだ。

【設立】 明治二十六年二月

【資本金】 公稱 1,000,000 拂込 1,000,000

【株数】 舊 100,000 新 100,000

【重役】 社長 川口 義安 取締役 土生 信一 専務 南 俊一 吉村友之進 常務 大堀楠之丞 監査 本多楠之助 高橋彦兵衛 桑原虎太郎

【業績】 利益率 配當率 初當額

十二年下	20.00	〇	無配
十三年上	20.00	〇	無配
十二年上	20.00	〇	無配
十三年下	20.00	〇	無配

【株價】(實物) 高値 安値

十三年 20.00 10.00

十四年 20.00 10.00

【豫想配當】 十四年五月份 一割

【時價】 新 30.00 15.00

【利通】 七分六厘

〔紡績事業〕

### 足利紡績株式會社

(本社) 栃木縣足利郡山邊村八幡

〔内容刷新未し〕當社が吳羽紡に經營を委託して以來、同社の方針に基いて人的にも物的にも幾分か刷新が行はれたやうで、從來の放漫さも或程度引締められて来たらしいが、決算面に現れた限りでは決して芳しいものではない。即ち昨年十一月期の利益金は六萬四千圓と上期に比し三萬圓の減益で利益率も四分七厘に過ぎないのに無償却で四分配當を措置したのである。

〔今期〕多年の不良決算の仕末は早急にはなし得ないだらうが、前期末一錘當固定資産の評価七十圓はどう見ても高すぎる。當局者は今期も四分据置の方針と言ふが不可解と言ふ外はない。吳羽としても當面どうするか決定してゐない様だが、大々的な刷新が依然望ましく。

【設立】	大正八年十二月
【資本金】	公稱 五,000 拂込 三,支〇〇
【株数】	一〇〇,000
【重役】	社長 荻野萬太郎 取締役 藤尾 一郎 大橋新太郎 常監 鈴木 茂次郎 投資第一 監査 坂井 隆三 芳川 富三 井上 富三 伊藤忠兵衛
【業績】	十二年下 利益 一五、一三〇 十三年上 利益 〇、六〇〇 十三年下 利益 〇、〇〇〇 十四年上 利益 一〇、二〇〇 十四年下 利益 一〇、二〇〇
【株價】	高値 安値
【豫想配當】	十四年五月份 四分
【時價】	二・九
【利息】	六分一厘

### 旭紡織株式會社

(本社) 東京市日本橋區大傳馬町二一傳馬ビル(電話花五三〇)

〔前期減配〕當社は精紡機を六萬九千五百鍾しか持たない小紡績會社だ。リンク制はかう言つた小會社には著しく不利だ。製品の轉換は容易ではないし、原棉手當も意にまかせない。大紡績會社が昨年度には大して減産してゐないのに、當社は著しく減産した。利益率は一割二分三厘から、九分六厘に低下した。自然配當も七分から五分に二分の減配を行はざるを得なかつた。

〔今期は更に悪い〕ところが今期は更に悪い。リンク制の輸出は殆ど赤字に近く、僅に軍需特免品で息をつく譯だが、今期は恐らく十五萬圓(對平均拂込利益率七分)の利益もおぼつかないと思はれる。再減配は必至だ。今期一、二分の減配は覺悟して置かねばなるまい。結局大紡績の庇護の下に立つか、合併されることにならう。

【設立】	大正八年十一月
【資本金】	公稱 六,000 拂込 三,〇〇〇
【株数】	一〇〇,000
【重役】	社長 渡邊 周 取締役 後藤友五郎 常務 市川 濟一 監査 林 哲郎 取替 奥村 辰三
【業績】	十二年下 利益 一、一〇〇 十三年上 利益 一、一〇〇 十三年下 利益 〇、六〇〇 十四年上 利益 三、〇〇〇 十四年下 利益 三、〇〇〇
【株價】	高値 安値
【豫想配當】	十四年五月份 三分
【時價】	三・六
【利息】	四分九厘

〔人絹人絹事業〕

### 帝國人造絹絲株式會社

(本社) 大阪府北區中之島二ノ二五江商ビル内(電北濱三〇)  
(支社) 東京市日本橋區室町四ノ五近三ビル内(電日本橋二八五)

〔下期成績〕昨年度下期の成績は低下した。即ち計上利益金は五百五十七萬八千圓で利益率は三割四分五厘だ。上期に比較すると利益金は二十萬二千圓を減じ、利益率は一分三厘の低下に當る。配當は一割五分据置だから決算はそれだけ餘裕を少くした。

〔限産は打撃〕成績低下の根因は生産制限の強化によつて生産高が漸減傾向にあることだ。即ち減産の爲め製造原價は高まり、單位當り利益の減少を招來し、更に全體的に減益となつて來る。二重三重の痛手を蒙つてゐる譯だ。不況に對する抵抗力の大を誇る當社と雖も減産の打撃は避く可くもなかつたのだ。

〔統制對策〕當社は統制苦の對策としてス・フ紡績工場の獲得を計畫し先づ白羽の矢を近江絹絲紡績に立てた。同社は都是の子會社でもあり又當社も大株主の一人である。合併談は順調に進行しつゝあつた所、都是側は反對意見が出て目下行儀みの形である。結局は當社に合併となるものと想像される。之が手に入ればス・フ一貫作業が實現出来るから相當の偉力を加へるものと期待される。

〔配當は〕今期の人絹、ス・フの生産高は更に減産を免れぬ。繰越品を處分しても利益金は前期より減少しよう。實績主義の決算をやれば減配不可避だが、當局者は据置の方針に出よう。

【設立】	大正七年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ウイスコース人絹製造販賣
【資本金】	公稱 五,000 拂込 三,〇〇〇
【株数】	一〇〇,000
【重役】	社長 久村 清太 取締役 東川 善房 常務 水田 興 監査 宇田 成和 取替 吉岡 豊 横田 義夫 總務(名) 六三三 六八五 七六六
【大株主】	臺灣銀行 九,〇〇〇 大株代行 八,〇〇〇 帝國生命 三,〇〇〇 野村 清三郎 三,〇〇〇 日本生命 三,〇〇〇 日本生命 三,〇〇〇 田村合名 三,〇〇〇 安田野村銀行 二,〇〇〇
【事業規模】	工場所在地 紡績 廣島、岩國、三原、瀧里布 生産設備 人絹紡績機 交 〇〇〇鍾 スチール・ファイバー 交 〇〇〇鍾 (日産能力) 交 〇〇〇
【生産高】	十三年下 十三年上 十三年下 人絹 三〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 人絹 三〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇 一〇,〇〇〇
【投資會社】	第二帝國人絹 【資本異動】 九年十二月二面五拂込徴収、 五年七月二面五拂込徴収
【負債】	十二年 五月份 五月份 株主資本 八八八 積立金 八八八 外部負債 三三三 社債 三三三 使用總資本 一,〇〇〇 固定資産 一,〇〇〇 流動資産 一,〇〇〇 現金預金 一,〇〇〇
【救支勘定】	十二年下 十三年上 十三年下 收入 八八八 八八八 八八八 支出 三三三 三三三 三三三 固定清却 一,〇〇〇 一,〇〇〇 一,〇〇〇 消却年率 一〇〇 一〇〇 一〇〇
【業績】	十二年下 利益 一〇、〇〇〇 十三年上 利益 一〇、〇〇〇 十三年下 利益 一〇、〇〇〇
【株價】	高値 安値 新
【豫想配當】	十四年五月份 一分五分
【時價】	新 三・八
【利息】	五分九厘
【名義書換】	十 條 【新券交付】 三十 條



【人絹人機事業】

### 倉敷絹織株式会社

(本 社) 岡山縣倉敷市元町四九七ノ四  
(營業所) 大阪市東區今橋三愛信ビル(電北濱三〇三三)

#### 八四 倉敷絹織株式會社

【對策進む】當社は統制苦の對策として既にバルブ、藥品の自給並に爪哇に織布工場を設置し人絹絲の加工に着手する等、着々と實現に努めてゐるが、最近輸出入絹絲の増産を行ふことになつた。輸出入絹絲は綿絲でなくコーン捲である。即ち綿は百封度で六、七十圓の相場であるが、コーン捲ならば九十圓見當に賣れるのだ。當社はその設備を持つてをり、かなり前から輸出してをるのでマークはよく通つてゐる。輸出増加によつて見返りバルブは封度十四鏡見當で買へるから、輸出向けの採算は内地向けよりも却つて有利となる。輸出向けの増産は何等制限を受けないから、當社はこの生産増加を計つて圓ブロック向の減價を補ふ方針である。

【加工有望】人絹の格外品を加工した例の撥毛絲の採算は頗る有利で現在では月額八、九萬圓の利益を擧げてゐる。之は未だ生産高が少く軍需以外に供給出来ないが、近々増産に努める予定だから収益額も増加するものと期待される。

【配當措置】以上のやうな諸對策は着々と効を奏し、總ては業績に反映するものと思はれるから、生産制限の打撃は差程心配することはない。さすれば當社の現行一割配當は當分持續可能とみてよからう。

【人絹人機事業】

### 東洋レーヨン株式會社

(本 社) 東京市日本橋區室町三井物産内(電日本橋一五二)  
(事務所) 滋賀縣大津市石山北大路町(電大津一五〇一)  
(出張所) 大阪市北區中之島三(三井物産内)

【當社の強味】當社はス・フの將來に期待して、比較的早く此の部門の擴充に着手し、紡績並に紡織工場を新設してス・フ一貫作業を實現した。即ちス・フ日産能力は人絹休轉用分を合せて四十七萬であり、紡績機は五萬錠、織機七百臺となつてをり、之は昨上期末頃から全運轉を開始してゐる。之は何と云つても強味の一つとして誇るに足りる。

【子會社活躍】當社はス・フ一貫作業設備を有する東洋絹織を子會社に持つてゐる。資本金一千萬圓全額拂込済みで當社は其の中六百圓を投資してゐる。能力はス・フ日産三十五萬、精紡機五萬錠、織機五百臺を持ち、昨下期から本格的操業を行つてゐる。今年上期には六分程度の初配當が期待されてゐる。六分とすれば年三十六萬圓の配當収入が得られる。斯くて當社の未働投資々金は愈々今期から稼働期に入る譯である。

【配當措置】今期は人絹、ス・フ共に減産は免れない筋合だが、ストックが多少あるので販賣量は決して減らぬだらう。従て利益も昨上期程度のものが期待されるから一割二分配當は續行可能だ。來期になれば子會社の配當増加が期待されるから、減配の必要はないように想像される。

【設立】	大正十五年六月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	人造絹絲其他各種化學纖維並各種織物製造加工及販賣
【資本金】	公稱 20,000,000 拂込 20,000,000
【株 數】	新 200,000 舊 200,000
【重 役】	社長 大原孫三郎 取締役 柳吉 三村 得一 高橋 雄吉 監査 大原 五一 藤島 郁三 中村純一郎 吉井 仲助 大森 實
【大株主】	倉敷紡績一、三、五、大原合資(各六六) 住友本財天(八〇)住友銀業(三〇) 住友化學工業(三〇)第一鐵兵(二二) 中國銀行(二二)大株代(二二) 中國銀行(二二)大株代(二二)
【事業規模】	工場所在地 倉敷市、新居濱、西條、岡山 生産設備 人絹紡績機……… 西條 倉敷工場ス・フ 日産 〇〇〇 新設 岡田工場ス・フ 〇〇〇 増設 西條工場ス・フ 〇〇〇 増設
【生産高】	十三年下 五、二〇〇 十三年上 五、二〇〇 十三年下 五、二〇〇 十三年上 五、二〇〇
【資本異動】	十年十一月中國レーヨンを合併 二千萬圓増資

【設立】	大正十五年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ウイニコース人絹、高級マルチ人絹
【資本金】	公稱 20,000,000 拂込 20,000,000
【株 數】	新 200,000 舊 200,000
【重 役】	常務 井上 治一 取締役 田代 茂樹 小澤 武 高木 宇吉 石田 禮助 佐村 三郎 若林 卯三郎 監査 秋庭 義清 若林 卯三郎 千原 清
【大株主】	三井物産(五〇)帝國生命(三〇) 三井生命(二〇)東株代(八) 愛國生命(六)山二株式(六) 第一鐵兵(六)仁壽生命(五) 事業規模
【事業規模】	滋賀工場 大津市石山北大路町 日産能力 人絹 〇〇〇 織機 三、五〇〇 織機 五、〇〇〇 織機 一、五〇〇 織機 三、五〇〇 日産能力 人絹 〇〇〇 織機 三、五〇〇
【生産高】	十三年上 三、五〇〇 十三年下 三、五〇〇 十三年上 三、五〇〇 十三年下 三、五〇〇
【投資會社】	レーヨン曹達、東洋絹織、明新レーヨン
【資本異動】	十年三月二〇五拂込徴収 十二年九月三〇五拂込徴収

【資産負債】	十二年 五、二〇〇 十三年 五、二〇〇
株主資本	五、二〇〇
積立金	〇
外部負債	〇
使用總資本	五、二〇〇
流動資産	五、二〇〇
固定資産	〇
投資資産	〇
現金預金	五、二〇〇
【收支】	十二年 五、二〇〇 十三年 五、二〇〇
収入	五、二〇〇
支出	五、二〇〇
【時價】	新 八、二〇〇 利 七、二〇〇
【名義書換】	十 〇 新券交付 五十 〇

【資産負債】	十二年 五、二〇〇 十三年 五、二〇〇
株主資本	五、二〇〇
積立金	〇
外部負債	〇
使用總資本	五、二〇〇
流動資産	五、二〇〇
固定資産	〇
投資資産	〇
現金預金	五、二〇〇
【收支】	十二年 五、二〇〇 十三年 五、二〇〇
収入	五、二〇〇
支出	五、二〇〇
【時價】	新 八、二〇〇 利 七、二〇〇
【名義書換】	十 〇 新券交付 五十 〇

【人絹人機事業】

### 日本レイヨン株式会社

(本社) 京都府久世郡宇治町(電字治三三)  
(営業所) 大阪市東區今橋三丁目五共同信託ビル(電北濱五五一)

【日絹合併】 資本金四百五十萬圓(拂込三百八十萬圓)の日本絹織を吸収合併することになり、合併条件は當社一に對し日絹二の割合となつてゐる。日絹はス・フ紡績並に織布に就ては多年の経験を有し、その技術は既に定評がある。即ち當社はその技術の導入を欲したのだ。日絹合併によつて當社はス・フ一貫作業が實現出来るのみならず、人絹の織布工場まで持つこととなるので、少なからぬ偉力を加へる譯だ。

【弱點除去】 當社は經營上に於て特に優れてゐると云ふものは何一つ持つてゐなかつた。子會社新日本レイヨンをしてス・フ一貫作業を實現せしめる豫定であつたが、之は統制の爲め計畫の大半は放棄しなければならなかつた。然し日絹合併によつてス・フ一貫作業が實現したのみならず人絹の一部織布工場をも獲得することになつたので、當社の弱點は略々完全に除去された形ちである。

【配當觀】 然らば現行一割二分配當の持續性は強化されるかどうかと云ふとは一概に樂觀出來ないやうに思はれる。當社の一割二分配當は同率配當の第二番人、東洋レイヨン等に比べて著しく餘裕が少い。今期は現在の見透しては二百萬圓弱みの利益しか期待出來ないから、實績主義で行けば減配は免れない見込みだ。

### 旭ベンベルグ絹絲株式會社

(本社) 大阪市北區宗室町一(電土佐堀四三二)

【統制の影響】 當社はビスコース人絹の他にベンベルグ絹糸を製造してゐる。統制が強化されつゝあるのはビスコース糸でベンベルグ糸の方は比較的緩慢である。此の點當社はかなり恵れてゐると云つてよい。ベンベルグの生産高は月額四萬圓見當で、この三割ほど輸出に向けてゐる。輸出向けは高級品が多く採算は有利である。この輸出によつて受入れる金額は、ベンベルグ糸四萬圓製造に要する原料リントー代金の三倍に上るといふ。斯様な状態にあるので原料リントーの輸入は頗る簡単に許されてゐる。生産量の三割輸出は今後も堅持して行く方針だから、政府の態度が變らぬ限り原料制限から來るベンベルグ糸の減産はないだらう。

【業績見透】 ビスコスは人絹もス・フも輸出向けを増産しなければ今期は更に減産とならう。然しベンベルグ糸の生産は前期並が期待されるし、薬品類の生産も大して變りはないだらうと思はれるから、今期の成績は無論前期より劣るがそう心配した程のことはいないだらうと想像される。

【配當據置】 とすれば一割配當は據置とみてよい。當社は好況期に於ても政策的に一割配當を堅持して來たから、餘程のことがない限り現行配當が搖ぐようなことはないと思はれる。

【人絹人機事業】

【設立】	大正十五年三月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ビスコース人絹製造販賣
【資本金】	公稱 500,000 拂込 380,000
【株数】	新 (500) 200,000 舊 (500) 180,000
【重役】	社長 菊池 恭三 取締役 宇野賢一郎 常務 菊池 文吾 監査 伊藤 萬助 宮野源一郎 岩田宗太郎 取締役 松村 謙成 今村 奇男 小寺 源吾 田代 重三 森田 丁也 岡部 正義
【株主数】	十一年下 十一年上 十一年下 總數(名) 六〇五 六〇五 六〇三
【大株主】	大日本紡績(株) 菊池 文吾 六六六 仁壽 生命 三〇〇 上山勲太郎 二〇〇 伊藤 萬助 三〇〇 住友 生命 一〇〇 岩田宗太郎 八〇〇 大株 代 行 七〇〇
【事業規模】	工場並日産能力 宇治工場 人絹(天龍人機) 五五五(人絹専用) 同絹工場 人絹(天龍人機) 七五五(人絹専用)
【生産高】	十一年下 十一年上 十一年下 人絹(天龍) 二〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 人絹(天龍) 二〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇 人絹(天龍) 二〇〇,〇〇〇 三〇〇,〇〇〇
【投資會社】	新日本レイヨン 國策パルプ工業
【資本異動】	十一年四月五、〇〇〇千圓増資 新株第一回拂込三圓五枚徴收、十二年十一月三圓五枚徴收

【資産負債】	十二年 十三年
株主資本	2,100,000 2,100,000
積立金	1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000
社債	1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十二年下 十一年上 十一年下
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【業績】	十二年下 十一年上 十一年下
売上	1,000,000 1,000,000 1,000,000
費用	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時價】	新 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇
【名義書換】	十 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇

【設立】	大正十一年五月
【決算期】	四月、十月
【事業】	ビスコース人絹
【資本金】	公稱 500,000 拂込 300,000
【株数】	新 (500) 200,000 舊 (500) 100,000
【重役】	社長 野口達 常務 堀内近取 市川誠次 櫻井直三郎 上島五一郎 尾佐祐 飯島貞雄 立川正三、ベルナル 下・モア アクトラント、フーリン、監査 啓太郎 萩生傳、コントラート・ヘルマン
【株主数】	十一年下 十一年上 十一年下 總數(名) 一、三三三 一、三三三 一、三三三
【大株主】	日本窒素(株) 一〇七、三三三 野口達 一〇〇、〇〇〇、ウニエ合資(株) 二〇〇、〇〇〇 インダストリー會社 一〇〇、〇〇〇、フアルハン
【事業規模】	工場所在地 大津工場 滋賀縣大津市 延岡工場 宮崎縣延岡市
【生産能力】	ビスコース(日産) 一、〇〇〇 安(年産) 一、〇〇〇 破水アンモニア(年産) 一、〇〇〇 苛性曹達(日産) 一、〇〇〇 合成硝酸(日産) 一、〇〇〇 生産高(日産) 一、〇〇〇
【投資會社】	旭染工、旭絹織
【資本異動】	十年九月一二圓五枚徴收

【資産負債】	十二年 十三年
株主資本	2,100,000 2,100,000
積立金	1,000,000 1,000,000
外部負債	1,000,000 1,000,000
社債	1,000,000 1,000,000
流動負債	1,000,000 1,000,000
流動資産	1,000,000 1,000,000
現金預金	1,000,000 1,000,000
【收支勘定】	十二年下 十一年上 十一年下
収入	1,000,000 1,000,000 1,000,000
支出	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【業績】	十二年下 十一年上 十一年下
売上	1,000,000 1,000,000 1,000,000
費用	1,000,000 1,000,000 1,000,000
【時價】	新 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇
【名義書換】	十 〇.〇〇 〇.〇〇 〇.〇〇

### 東京人造絹糸株式会社

(本社) 東京市日本橋區大馬路二ノ一傳馬ビル内(電話花 一五一一)  
(出張所) 大阪市東區備後町二ノ五六第二野村ビル(電本町二〇二)

【前期配當措置】 昨年十一月末締切の下期は建設工場の一部稼行も寄與して、下表に示す如く、利益率も幾分上向き、八分配當を据置いた。即ち操短率の加重で生産高は若干減少し、リンク制實施の爲に業務輸出による犠牲も忍ばねばならなかつたが、國內向人絹糸の採算はよく、とにかく良好な実績を挙げた。

【沼津工場完成】 周知の如く、當社は事變前に人絹一本立の經營から積極的にス・フ生産に進出し、更に硫酸、二硫化炭素等の藥品の自給、自家發電設備と言ふ具合に多角經營に乗り出した。處が事變勃發によつてこれらの設備工事は順調に進まず、更に織布部門に進出すべく別會社設立を企圖したが當局の認可を得ず、とかく計費は絶斷して、事變以來業績は悪化した。しかるに、昨秋懸案の沼津工場も諸設備を完成したが、今期以降の強味は、何んと言つても、これら設備が期を通じて寄與して來ることだ。それに製品の質も漸次改善され、公定値も本年からはそれ／＼幾分格上げされた。

【配當持續か】 とすれば、今期は原料入手に支障をき限り、前期より好い成績とならう。期を通じて百六十萬圓見當の利益となるから、來る四月一日の新株拂込の資本負擔増に拘らず、利益率二割掲みて、八分配當は持續出來よう。問題は原料確保にある。

【設立】	大正十五年四月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	人造絹糸及絹織加工品の製造販賣
【資本金】	一〇,〇〇〇,〇〇〇
【株主数】	五〇〇
【重役】	
社長	町田徳之助
専務	下郷 定二
常務	小島 喜六
取締役	前川 道平、相模 市橋、伊藤竹之助、大川 鐵雄、市橋保治郎、小西善兵衛、今村 奇男
【株主】	
【大株主】	仁壽生命會社、三徳商會、三井物産、町田徳之助、小島喜六、三井物産、町田徳之助、林 莊治、町田徳之助、町田徳之助、町田 三郎、町田徳之助
【事業規模】	吉原工場(群馬縣吉原町) 敷地 八〇千坪 日産能力 (群馬縣吉原町) 日産 一〇〇千 沼津工場(静岡県沼津市) 敷地 一〇千坪 日産能力 (静岡県沼津市) 日産 一〇〇千
【生産高】	原工場 昭和十一年 七〇〇,〇〇〇 K 新工場 昭和十一年 七〇〇,〇〇〇 K 人絹(原) 昭和十一年 七〇〇,〇〇〇 K ス・フ 昭和十一年 七〇〇,〇〇〇 K
【資本負擔】	十一年十二月三十一日増資、 十三年三月三十一日、十五年三月三十一日及七月(最終) 各三〇萬圓増資、十四年四月三十一日(最終) 各三〇萬圓増資、十五年三月三十一日(最終) 各三〇萬圓増資、十五年三月三十一日(最終) 各三〇萬圓増資、十五年三月三十一日(最終) 各三〇萬圓増資
【資産負債】	十二 月 三十一 日
株主資本	二,〇〇〇,〇〇〇
積立金	三,〇〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇
社債	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動資産	七,〇〇〇,〇〇〇
流動負債	八,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	八,〇〇〇,〇〇〇
【収支】	
【支出】	十一年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十二年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十三年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十四年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十五年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【収入】	十一年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十二年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十三年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十四年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十五年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【利益】	十一年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十二年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十三年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十四年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十五年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【時價】	十四年五月初期 八分
【名義書換】	十 歳 【新券交付】 三十 歳

### 昭和人造絹株式会社

(本社) 東京市京橋區寶町味の本ビル(電話花 一〇〇)

【昨年下半年】 當社の昨年下半年業績は利益金百七十萬一千圓で、其の前期に比較して二十二萬圓の増益であるが、平均拂込資本の増加のため利益率は一割六分と其の前期に比較して二分三厘の低下を示した。然し勿論八分配當は据置きとした。

【吳羽紡に合併】 當社の資本金は二百二十四萬八千圓の全額拂込済みで、四十二萬四千九百六十株中、十四萬八千四百株を吳羽紡が所有してゐるのであるが、織維工業の一大轉換期に直面して、經營の合理化を目指して吳羽紡に吸収合併されることとなつた。去る三月十八日の合併株主總會に於て兩社はそれぞれ合併を議決した。

【合併條件】 此の合併條件は、吳羽紡の手持株たる十四萬八千四百株を切捨て減資し、一般株主に對しては五十圓拂込済みの昭和人造絹三株に對し、吳羽紡の五十圓拂込済二株を交付することになつた。吳羽紡は一割二分の配當をして居り、昭和人造絹は八分配當だから、合併比率は此の配當率を基準として決定された譯である。周知の如く吳羽紡は三大紡にも匹敵する優秀な内容を持つ紡績會社だ。昭和人造絹の株主としては決して割の悪い合併條件ではない。吳羽紡としても人絹乃至人絹の給源を確保し得て、經營が合理化されることは有難い。

【設立】	昭和九年八月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	ツイスコス人絹、ツイコシ性 青達硫酸、二硫化炭素、硝酸、硝酸 【資本金】 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【株主】	
【大株主】	伊藤忠兵衛、伊藤忠兵衛、伊藤忠兵衛、伊藤忠兵衛、伊藤忠兵衛、伊藤忠兵衛、伊藤忠兵衛、伊藤忠兵衛、伊藤忠兵衛、伊藤忠兵衛
【事業規模】	工場所在地 福島縣石川郡 茨城縣高萩町、三重縣安濃郡安東村 自家發電機 高萩 一,〇〇〇 キロ 人絹 織 二、〇〇〇 キロ 二硫化炭素 一〇、〇〇〇 キロ 硝酸 一〇、〇〇〇 キロ 【資本負擔】 十一年三月三十一日合併 十五年三月三十一日合併、十五年六月三十一日(最終) 拂込徴収
【資産負債】	十二 月 三十一 日
株主資本	三,〇〇〇,〇〇〇
積立金	一〇,〇〇〇,〇〇〇
外部負債	一〇,〇〇〇,〇〇〇
社債	一〇,〇〇〇,〇〇〇
流動資産	七,〇〇〇,〇〇〇
流動負債	八,〇〇〇,〇〇〇
現金預金	八,〇〇〇,〇〇〇
【収支】	
【支出】	十一年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十二年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十三年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十四年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十五年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【収入】	十一年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十二年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十三年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十四年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十五年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【利益】	十一年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十二年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十三年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十四年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇 十五年上 一〇,〇〇〇,〇〇〇
【時價】	十四年五月初期 八分
【名義書換】	十 歳 【新券交付】 五十 歳

【人絹人絹事業】

### 太陽レーヨン株式会社

(本社) 大阪市東區南久太郎町二ノ三阿部市ビル(電話場二七七一)

【運営不利】 當社は人絹設備が完成する早々から大操短を餘儀なくされ、之の不利を人絹轉換によつて補はんとし、既に日産七十八題と云ふ甚大な設備を有するも、この運営は極めてよくない。生産額當は大體四割に及ばぬらしい。而して人絹はス・フに轉換した爲め現在では僅かに日産十一題の能力である。即ち當社は人絹會社でなくス・フ會社とみた方が適當かも知れぬ。

【強味】 ス・フ紡績及織布工場を持つてゐる點はなんと云つても當社の最大の強味であらう。即ち精紡機は八萬錘で織機は五百四臺を有してゐる。之によつて採算のよいス・フ糸及び織物の生産に努力すれば人絹生産減少の打撃はかなりカバー出来ると思われるからだ。然し當社はなんと云つても借金澤山の會社で、この爲めに原價は一般標準より相當高いようだ。強味もあるがその反面にかゝる弱點のあることを見逃してはならない。

【配當は窮屈】 今期は人絹、ス・フ共に減産は免れぬようだ。人絹は二萬二千面見當でス・フは約六百萬封度と押へられる。この他にス・フ糸及ス・フ織物がある。ス・フ糸は月三十萬封度とみて半期百八十萬封度となり、織物はその半分と押へれば大過なからう。すると百十萬面見當の利益が見込めるが八分配當は窮屈を免れない。

【設立】	昭和九年一月
【決算期】	五月、十一月
【事業】	人絹人絹、人絹及織布製造
【資本金】	公稱10,000,000 拂込10,000,000
【株主数】	新(113名) 舊(113名) 226名
【重役】	社長 田村駒太郎 取締役 相澤平次郎 伊藤萬助 常任取締役 高田榮治郎 阿部市太郎 高田榮治郎 田村竹治郎 西岡宇兵衛 大前義一
【株主数】	十一年上 1,130名 十一年下 1,130名
【大株主】	田村商店 10,000 田村合名 10,000 田村駒太郎 10,000 平松徳三郎 10,000 田村駒太郎 10,000 河野市太郎 10,000 伊藤萬助 10,000 高田榮治郎 10,000 田村商店 10,000 田村寛治郎 10,000
【事業規模】	工場所在地 玉島工場 岡山縣玉島町乙島 工場敷地 10萬坪 生産能力(日産) 人絹 10萬坪 ス・フ 10萬坪 大坂工場 大坂市東區江町(敷地買得) 生産規模 織機 500臺 ス・フ 10萬坪 成興工場(目下建築進行中) 人絹 10萬坪 ス・フ 10萬坪
【資本異動】	十一年三月三回増資拂込徴収 六月三回増資徴収、八月三回増資徴収 資第一回二回五回増資徴収

【資産負債】	十二年 五月 十二月
株主資本	10,000,000 10,000,000 10,000,000
積立金	10,000,000 10,000,000 10,000,000
外部負債	10,000,000 10,000,000 10,000,000
使用總資本	10,000,000 10,000,000 10,000,000
流動資産	10,000,000 10,000,000 10,000,000
固定資産	10,000,000 10,000,000 10,000,000
現金預金	10,000,000 10,000,000 10,000,000
【收支勘定】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
収入	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
【時價】	新(113名) 舊(113名) 226名
【名義書換】	十 續【新券交付】三十續

【人絹人絹事業】

### 第二帝國人絹株式會社

(本社) 大阪市北區中之島二ノ五江商ビル内(電北濱三六八)

【基礎強固】 當社は現在の所人絹とス・フの二本立てで加工乃至紡績方面には全然手を染めてゐない。それでゐて収益力は親帯人より優れてゐる所に當社の底力が認められるのだ。操業翌期の十二年上期からずつと一割二分配當を恒例としてゐる。昨年同期も三割の利益率を確保し餘裕裡に一割二分を預置してゐる。

【特色】 基礎が強固であることは資本負擔が頗る軽いこと、技術が優れてゐること等がその原因となつてゐるからだ。當社の固定資産評價は帯人より更に低く人絹會社第一の低評價となつてゐる。技術の優秀性は當社製品が帯人三原工場製品と同格で格上となつてゐることだ。従つて輸出分も全然缺損と云ふことはない。此の點他社と大いに事情が異つてゐる。

【前途觀】 先づ今期であるが、他社と同様に人絹、ス・フ共に減産は免れないから、假りに輸出が相當出るとしても利益金は前期より減少を免れないだらう。果してどの位の減産に止まるか判らぬが、概算百三十萬圓位の利益は収めるものと期待される。とすると利益率は二割六分見當となり、一割二分配當は据置可能である。その先は生産制限が果して緩和されるかどうか判らぬから今から何んとも云はれぬが、先づ配當持續に變りないものと想像される。

【設立】	昭和九年九月
【決算期】	四月、十月
【事業】	ビスコース人絹、人絹及其他の化學製品
【資本金】	公稱10,000,000 拂込10,000,000
【株主数】	十二年上 1,130名 十二年下 1,130名
【大株主】	人絹三三三(三) 壽興 銀行元、元久 平田 佐野 山崎 山崎 銀行元、元久 日本生命 三三三 住友 銀行元、元久 山一 株式 三三三 野村 銀行元、元久
【事業規模】	工場所在地 廣島縣三原市一町 設備能力 紡績機數 10,000 欠〇種 人絹 400種 人絹 113種
【生産高】	十二年下 1,130,000 十三年上 1,130,000 人絹(圓) 1,130,000 1,130,000 人絹(圓) 1,130,000 1,130,000
【關係會社】	帝國人絹の子會社
【資本異動】	昭和十年十月第二回三回増資 拂込徴収

【資産負債】	十二年 四月 十月
株主資本	10,000,000 10,000,000 10,000,000
積立金	10,000,000 10,000,000 10,000,000
外部負債	10,000,000 10,000,000 10,000,000
使用總資本	10,000,000 10,000,000 10,000,000
流動資産	10,000,000 10,000,000 10,000,000
固定資産	10,000,000 10,000,000 10,000,000
現金預金	10,000,000 10,000,000 10,000,000
【收支勘定】	十二年上 十二年下 十三年上 十三年下
収入	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
支出	10,000,000 10,000,000 10,000,000 10,000,000
【時價】	新(113名) 舊(113名) 226名
【名義書換】	十 續【新券交付】三十續